

国営アルプスあづみの公園
埋蔵文化財発掘調査報告書 2

— 大町市内その1 —

やまのかみいせき
山の神遺跡

2003.3

国土交通省関東地方整備局
長野県埋蔵文化財センター

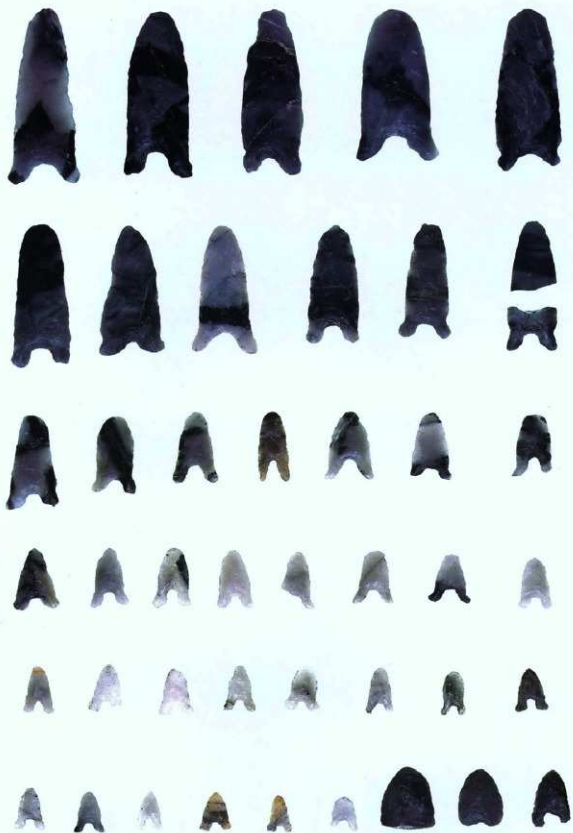
国営アルプスあづみの公園
埋蔵文化財発掘調査報告書 2

— 大町市内その1 —

やまのかみいせき
山の神遺跡

2003.3

国土交通省関東地方整備局
長野県埋蔵文化財センター



具形部分磨製石器



調査区全景



石列 SH28

序

本書は、平成9年から12年度に国営アルプスあづみの公園大町・松川地区の公園内施設建設に伴う山の神遺跡の発掘調査報告書であります。その成果をここに記録として保存し、広く市民に公開いたします。

日本海にそそぐ犀川支流高瀬川左岸の乳川扇状地上に大町市常盤地区の山の神遺跡は位置しています。また遺跡のすぐ横に乳川が流れ、北アルプスの皷鬼岳の登山口にもあたります。「山の神」という地字が示しますように、現在も山内安全を祈願いたします山の神をお祭りした祠が遺跡周辺には点在しています。

本遺跡ではおよそ8,000年前の縄文時代早期中葉の竪穴住居跡や土坑を中心とする集落が発掘されました。屋外で煮炊きする施設と考えられる集石炉、焼土の集中や多くの土器や石器が見つかったことは当時の人々の生活や歴史を復元する上で、多くのことを知ることができました。

さらに縄文時代早期としては最大級の東西11メートル、南北9メートルのコ字形をした石列と41点という国内最多出土の異形部分磨製石器は、人々の精神生活の一端をうかがうことができる資料として広く学界にも注目されています。

今後ともこうした発掘調査と報告書の刊行を通して、地域社会の歴史が明らかにされ、調査資料が歴史的な史料として活かされていくことが期待されます。

また、最後となりましたが、発掘調査から整理作業および報告書刊行に至るまで深いご理解とご協力をいただいた国土交通省関東整備局国営アルプスあづみの公園事務所、大町市・同教育委員会など関係機関、直接ご指導・ご助言いただいた長野県教育委員会文化財・生涯学習課、また発掘・整理作業に携わっていただいた多くの方々に敬意と感謝を表します。

平成15年2月23日

(財)長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター

所長 深瀬 弘夫

例 言

- 1 本書は国営アルプスあづみの公園大町松川地区建設にかかわる大町市所在山の神遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は国土交通省アルプスあづみの公園事務所（以下公園事務所）の委託を受けた長野県教育委員会が、財団法人長野県埋蔵文化財センター（当時、現在財団法人長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センター、以下県埋文センター）に委託して実施したものである。
- 3 整理作業は、県埋文センターで実施した。
- 4 本書で使用した地図は公園事務所作成の地形図（1/500、1/1,000）、大町市作成の都市計画地図（1/10,000）、大町市教育委員会作成遺跡分布地図（1/2,500,1/10,000ほか）、国土交通省国土地理院発行の地形図「信濃池田」（1/50,000）、「大町南部」（1/25,000）などをもとに作成、複写した。
- 5 委託関係では上記4以外の地形図の作成および航空写真を株式会社協同測量社、一部石器の実測と分析を株式会社アルカ、遺物撮影を長野フジカラー、石材の分析鑑定を糸魚川市立フォッサマグナミュージアム宮島宏館長補佐、黒曜石の産地同定を国立沼津高等工業専門学校望月昭彦教授、人骨の鑑定を京都大学霊長類研究所茂原信生教授に依頼した。
- 6 発掘調査および整理作業の分担などは本書第1章に一括掲載した。
- 7 本書の編集ならびに執筆は川崎保が廣瀬昭弘調査一課長の指導のもとに行った。
- 8 縄文土器について貫田明調査研究員、石器実測法については柳澤亮調査研究員および横浜ふるさと財団山田光洋調査研究員にとくにご教示、ご指導いただいた。
- 9 本書で報告した遺跡の記録および出土遺物は、大町市教育委員会に引き渡される予定である。

凡 例

1 本書に掲載した実測図の縮尺は原則として以下のとおりである。ただし、地形図、遺跡調査範囲、遺構配置図などは任意である。

1) 主な遺構実測図

竪穴住居跡、土坑 (1/60)、石列・集石、焼土集中および炉などの住居内施設 (1/30)

2) 主な遺物実測図

土器および拓影図 (1/3)、異形部分磨製石器、石鏃、尖頭器、削器、搔器、楔形石器、石錐、RF・UF類 (3/4)、磨製石斧、玉類、大形搔器、刃器 (1/2)、打製石斧、小形の砥石(1/3)、特殊磨石、磨石類、大形の砥石 (1/4)、台石 (1/6)

2 遺物写真の縮尺は以下のとおり

土器 (1/2)。石器は特殊磨石、磨石類 (1/2) とした以外は実測図の縮尺に準拠している。

3 遺構の番号は以下のとおり付けてある。

竪穴住居跡 (SB)、土坑 (SK)、石列・集石炉 (SH)、焼土集中 (SF)、溝 (SD) は01から始まっている。ただし、平成11年度以降あらたに検出された土坑についてはSK1001から始まっている。これは平成9年度および10年度の土坑の名称が著しく混乱していたので、連続した番号を付けることができなかったためである。なお平成9年度および10年度において一部重複した番号がついていた土坑が存在したが、その場合はそれぞれもとの番号を活かしてa,bといった記号を付加した。例) 重複した土坑「SK49」→SK49a, SK49b

4 遺構の重複

遺構上端の線のみを太実線で示し、新しい遺構の方が途切れることなく完結している。


5 実測図中のスクリーン・トーンや記号は以下の事象を示している。

1) 遺構図

焼土  炭  貼床・硬化面 

土器○ 石器△ 図がある土器● 図がある石器▲

2) 遺物図

土器 胎土に黒鉛様粒子を含む 

石器 磨面・ツルツルした面  とくに発達した(ツルツルした)磨面 

ザラザラした面  敲痕 

赤化 

異形部分磨製石器

著しい摩滅 

摩滅 

本文目次

巻頭図版	
序	i
例 言	ii
凡 例	iii
本文目次	iv
挿図目次	vi
挿表目次	ix
写真図版	ix
第1章 序 説	1
第1節 調査の経過	1
第2節 調査の方法	3
第2章 遺跡の環境	6
第1節 地形・地質的環境	6
第2節 歴史的環境	6
第3章 遺跡と調査の概要	13
第1節 遺跡の概要	13
第2節 調査の範囲と経過	13
第3節 基本層序	16
第4章 遺構と土器	18
第1節 竪穴住居跡	27
第2節 土 坑	50
第3節 集石・石列	87
第4節 焼土集中	115
第5節 溝・流路	125
第6節 遺物集中	129
第5章 遺構外の土器	131
第1節 押型文土器	131
第2節 押型文土器以外の早期中葉の土器	152
第3節 その他の土器	156
第6章 石器・石製品	157
第1節 異形部分磨製石器	157
第2節 石 鎌	157
第3節 尖 頭 器	168
第4節 石 錘	168
第5節 楔形石器・二次加工のある剥片・微細な剥離のある剥片	168
第6節 搔 器	173

第7節	削 器	173
第8節	刃 器	184
第9節	匏状石器・打製石斧ほか	184
第10節	磨製石斧・玉類	184
第11節	砥石類	196
第12節	特殊磨石	196
第13節	磨石類・台石	220
第7章	自然科学分析	227
第1節	山の神遺跡・昔ノ沢遺跡の花粉化石群集	227
第2節	山の神遺跡の炭化材の樹種同定	232
第3節	山の神遺跡の大型植物化石	238
第4節	放射性炭素年代測定	239
第5節	山の神遺跡の黒曜石製石器の産地推定	241
第6節	山の神遺跡の江戸時代人骨	247
第8章	付 表	253
第9章	考 察	293
第1節	山の神遺跡の押型文土器について	293
第2節	山の神遺跡の異形部分磨製石器について	300
第3節	山の神遺跡出土の石器について	306
第10章	成果と課題	314
第1節	はじめに	314
第2節	山の神遺跡の各時期の様相	314
第3節	山の神遺跡の性格	315
第4節	今後の課題	316
第11章	結 語	318

挿図目次

1	大々地区と調査範囲	38	竪穴住居跡SB12土器出土状況図
2	大地区と調査範囲	39	竪穴住居跡SB12石器出土状況図
3	中地区割付	40	竪穴住居跡SB13遺構図・遺物出土状況図
4	小地区割付	41	竪穴住居跡SB14遺構図・遺物出土状況図
5	大町市及び国営アルプスあづみの公園位置図	42	竪穴住居跡SB15遺構図
6	大町市周辺地質図	43	竪穴住居跡SB16遺構図
7	大町市常盤地区遺跡分布図	44	竪穴住居跡出土土器その1
8	本調査範囲及び試掘トレンチ位置図	45	竪穴住居跡出土土器その2
9	調査範囲及び大々地区・大地区グリッド配置図	46	竪穴住居跡出土土器その3
10	主要遺構配置図	47	竪穴住居跡出土土器その4
11	基本土層模式図	48	竪穴住居跡出土土器その5
12	土層観察用トレンチ配置図	49	竪穴住居跡出土土器その6
13	トレンチ5土層断面図	50	竪穴住居跡出土土器その7
14	トレンチ7土層断面図	51	土坑遺構図その1
15	トレンチ6土層断面図	52	土坑遺構図その2
16	トレンチ4土層断面図	53	土坑遺構図その3
17	東西ベルト土層断面図	54	土坑遺構図その4
18	Ⅲ層地形及び遺構配置図その1	55	土坑遺構図その5
19	Ⅲ層地形及び遺構配置図その2	56	土坑遺構図その6
20	Ⅳ層地形及び遺構配置図その1	57	土坑遺構図その7
21	Ⅳ層地形及び遺構配置図その2	58	土坑遺構図その8
22	Ⅳ層地形及び遺構配置図その3	59	土坑遺構図その9
23	Ⅳ層地形及び遺構配置図その4	60	土坑遺構図その10
24	竪穴住居跡SB01遺構図	61	土坑遺構図その11
25	竪穴住居跡SB02遺構図	62	土坑遺構図その12
26	竪穴住居跡SB02遺物出土状況図	63	土坑遺構図その13
27	竪穴住居跡SB02押型土器出土状況図	64	土坑出土土器その1
28	竪穴住居跡SB03遺構図	65	土坑出土土器その2
29	竪穴住居跡SB03土器出土状況図	66	土坑出土土器その3
30	竪穴住居跡SB03石器出土状況図	67	土坑出土土器その4
31	竪穴住居跡SB04遺構図	68	土坑出土土器その5
32	竪穴住居跡SB05遺構図	69	土坑出土土器その6
33	竪穴住居跡SB06遺構図	70	集石・石列出土土器その1
34	竪穴住居跡SB06遺物出土状況図	71	集石・石列出土土器その2
35	竪穴住居跡SB11遺構図・土器出土状況図	72	焼土集中・溝・流路出土土器
36	竪穴住居跡SB11石器出土状況図	73	集石・石列遺構図その1
37	竪穴住居跡SB12遺構図	74	集石・石列遺構図その2

- 75 集石・石列遺構図その3
76 集石・石列遺構図その4
77 集石・石列遺構図その5
78 集石・石列遺構図その6
79 集石・石列遺構図その7
80 集石・石列遺構図その8
81 集石・石列遺構図その9
82 集石・石列遺構図その10
83 集石・石列遺構図その11
84 集石・石列遺構図その12
85 集石・石列遺構図その13
86 集石・石列遺構図その14
87 集石・石列遺構図その15
88 集石・石列遺構図その16
89 集石・石列遺構図その17
90 集石・石列遺構図その18
91 集石・石列遺構図その19
92 集石・石列遺構図その20
93 焼土集中その1
94 焼土集中その2
95 焼土集中その3
96 焼土集中その4
97 焼土集中その5
98 焼土集中その6
99 溝・流路その1
100 溝・流路その2
101 遺物集中
102 楕円押型文その1
103 楕円押型文その2
104 楕円押型文その3
105 楕円押型文その4
106 楕円押型文その5
107 楕円押型文その6
108 楕円押型文その7
109 楕円押型文その8
110 山形押型文その1
111 山形押型文その2
112 山形押型文その3
113 山形押型文その4
114 山形押型文その5
115 格子目・矢羽状押型文
116 櫛状・その他の押型文
117 異種併用押型文その1
118 異種併用押型文その2
119 異種併用押型文その3
120 縄文その1
121 縄文・燃糸文
122 沈線文
123 条痕文・その他
124 異形部分磨製石器その1
125 異形部分磨製石器その2
126 異形部分磨製石器その3
127 異形部分磨製石器その4
128 異形部分磨製石器その5
129 異形部分磨製石器その6
130 石鏃その1
131 石鏃その2
132 石鏃その3
133 石鏃その4・尖頭器・石鏃その1
134 石鏃その2
135 楔形石器・二次加工のある剥片その1
136 二次加工のある剥片その2・微細な剥離のある剥片
137 搔器その1
138 搔器その2
139 搔器その3
140 搔器その4
141 搔器その5
142 搔器その6
143 搔器その7
144 搔器その8
145 削器その1
146 削器その2
147 刃器その1
148 刃器その2
149 刃器その3
150 刃器その4
151 刃器その5
152 刃器その6
153 刃器その7
154 刃器その8

- 155 甍状石器・打製石斧・器種不明
- 156 磨製石斧・玉類その1
- 157 磨製石斧・玉類その2
- 158 砥石類
- 159 特殊磨石その1
- 160 特殊磨石その2
- 161 特殊磨石その3
- 162 特殊磨石その4
- 163 特殊磨石その5
- 164 特殊磨石その6
- 165 特殊磨石その7
- 166 特殊磨石その8
- 167 特殊磨石その9
- 168 特殊磨石その10
- 169 特殊磨石その11
- 170 特殊磨石その12
- 171 特殊磨石その13
- 172 特殊磨石その14
- 173 特殊磨石その15
- 174 特殊磨石その16
- 175 特殊磨石その17
- 176 特殊磨石その18
- 177 特殊磨石その19
- 178 特殊磨石その20
- 179 磨石類その1
- 180 磨石類その2
- 181 台石類その1
- 182 台石類その2
- 183 台石類その3
- 184 台石類その4
- 185 山の神遺跡のプレバレート状況
- 186 菅ノ沢遺跡・10m地点の花粉化石分布図
- 187 菅ノ沢遺跡から産出した花粉化石
- 188 山の神遺跡出土炭化材樹種その1
- 189 山の神遺跡出土炭化材樹種その2
- 190 出土した大型植物化石
- 191 山の神遺跡出土黒曜石産地判別図その1
- 192 山の神遺跡出土黒曜石産地判別図その2
- 193 黒曜石産地位置図
- 194 山の神遺跡SK1003出土の江戸時代人骨
- 195 土坑SK1003共伴遺物
- 196 山の神遺跡出土押型文大別
- 197 主要押型文原体と模式拓影図
- 198 押型文の属性分析例
- 199 山の神遺跡石列SH28及び異形部分磨製石器出土分布
- 200 瀬田裏遺跡長方形配石遺構
- 201 山の神遺跡使用痕写真その1
- 202 山の神遺跡使用痕写真その2
- 203 山の神遺跡使用痕写真その3
- 204 山の神遺跡使用痕写真その4
- 205 山の神遺跡使用痕写真その5
- 206 山の神「奉剣」

挿表目次

1	花粉化石一覧表	228
2	山の神遺跡出土炭化材の樹種同定結果	233
3	山の神遺跡の遺構別の検出樹種比較	233
4	放射性炭素年代測定および暦年代較正の結果	240
5	山の神遺跡出土黒曜石製石器産地推定結果	241
6	産地原石判別群	244
7	山の神遺跡産地判別試料一覧	245
8	山の神遺跡（長野県大町市）出土の人骨の上顎歯の計測値	250
9	山の神遺跡（長野県大町市）出土の人骨の下顎歯の計測値	250
10	遺構出土土器観察表	254
11	遺構外出土土器観察表	263
12	石器観察表	273
13	アルカ実測石器一覧	284
14	押型文土器編年表	300

写真図版目次

巻頭図版1	異形部分磨製石器	写真図版18	土坑SK49b・SK1007出土土器
巻頭図版2	上：調査区全景 下：石列SH28	写真図版19	土坑SK1047～SK1072、 石列SH09～SH73出土土器
写真図版1	平成7～9年度調査風景	写真図版20	楕円押型文土器
写真図版2	平成10～12年度調査風景	写真図版21	楕円押型文土器
写真図版3	竪穴住居跡SB01～SB04	写真図版22	楕円押型文土器
写真図版4	竪穴住居跡SB05～SB13	写真図版23	楕円押型文土器
写真図版5	竪穴住居跡SB14～SB16、土坑SK02	写真図版24	楕円押型文土器
写真図版6	土坑SK06～SK1073、ロームマウンド	写真図版25	山形押型文土器
写真図版7	石列SH01～SH28	写真図版26	山形押型文土器
写真図版8	石列SH28～SH68・69	写真図版27	山形押型文土器
写真図版9	溝SD03、遺物集中SQ01・02、 現地説明会ほか	写真図版28	山形押型文土器
写真図版10	竪穴住居跡SB01～SB05出土土器	写真図版29	格子目押型文、その他の押型文、 異種併用押型文土器
写真図版11	竪穴住居跡SB02出土土器	写真図版30	異種併用押型文土器
写真図版12	竪穴住居跡SB03出土土器	写真図版31	異種併用押型文土器
写真図版13	竪穴住居跡SB06～SB16出土土器	写真図版32	押型文土器底部
写真図版14	竪穴住居跡SB11出土土器	写真図版33	縄文施文土器
写真図版15	竪穴住居跡SB12出土土器	写真図版34	撚糸文土器、沈線文土器
写真図版16	竪穴住居跡SB14出土土器	写真図版35	沈線文土器
写真図版17	土坑SK01～SK68・SK1067出土土器		

- | | | | |
|--------|-------------------------|--------|----------------|
| 写真図版36 | 異形部分磨製石器 | 写真図版55 | 刃器 |
| 写真図版37 | 異形部分磨製石器 | 写真図版56 | 刃器、筒状石器、打製石斧ほか |
| 写真図版38 | 異形部分磨製石器 | 写真図版57 | 磨製石斧、玉類 |
| 写真図版39 | 石鏃 | 写真図版58 | 特殊磨石 |
| 写真図版40 | 石鏃 | 写真図版59 | 特殊磨石 |
| 写真図版41 | 尖頭器、石錐 | 写真図版60 | 特殊磨石 |
| 写真図版42 | 楔形石器、二次加工剥片 | 写真図版61 | 特殊磨石 |
| 写真図版43 | 二次加工剥片、
微細剥離のある剥片、搔器 | 写真図版62 | 特殊磨石 |
| 写真図版44 | 搔器 | 写真図版63 | 特殊磨石 |
| 写真図版45 | 搔器 | 写真図版64 | 特殊磨石 |
| 写真図版46 | 搔器 | 写真図版65 | 特殊磨石 |
| 写真図版47 | 搔器 | 写真図版66 | 特殊磨石 |
| 写真図版48 | 搔器 | 写真図版67 | 特殊磨石 |
| 写真図版49 | 搔器、削器 | 写真図版68 | 特殊磨石 |
| 写真図版50 | 削器 | 写真図版69 | 特殊磨石 |
| 写真図版51 | 刃器 | 写真図版70 | 特殊磨石 |
| 写真図版52 | 刃器 | 写真図版71 | 砥石類 |
| 写真図版53 | 刃器 | 写真図版72 | 磨石類 |
| 写真図版54 | 刃器 | 写真図版73 | 磨石類・台石 |
| | | 写真図版74 | 台石 |

第1章 序 説

第1節 調査の経過

1 発掘調査委託契約

建設省（現国土交通省）国営アルプスあづみの公園事務所（以下公園事務所）は、同公園大町市および松川村地区において、公園内施設建設を計画した。建設予定地内に周知の遺跡として存在していた山の神遺跡は、現況は林地であったが、大町市教育委員会による詳細分布調査で、乳川に平行して走る林道（現在市道西山29号線）沿いに遺物が散布しているのが認められ、『大町市史第二巻原始・古代・中世資料編』（大町市史編纂委員会1985）および『大町の遺跡』（大町市教育委員会1988）に縄文時代早期から中期の土器や石器が出土していることが報告されている。

よって、平成6年6月に公園事務所、長野県教育委員会（以下県教委）、大町市教育委員会などアルプスあづみの公園関連市町村教育委員会が遺跡の保護について協議を重ねた。協議の結果、アルプスあづみの公園内の遺跡調査に関しては、遺跡を記録保存とし、発掘調査を行うことが確認された。しかし、市町村教育委員会では広域の遺跡調査には対応できないので、県教委に対応してほしいということになり、公園事務所、県教委は了承した。また同年11月に公園事務所、県教委、大町市教育委員会、穂高町教育委員会、長野県埋蔵文化財センター（現財団法人長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センター、以下県埋文センター）で協議を行い、県埋文センターが発掘調査を行い、そのために試掘調査を行うことが確認された。よって平成7年度から8年度にかけて遺跡の詳しい性格や規模を把握するために県埋文センターが試掘調査を行った。

以上試掘調査の結果、事業地内には縄文時代早期の遺構・遺物が存在することが判明した。その後公園事務所、県教委、県埋文センターなど関係機関が協議を重ね、平成9年度から試掘調査に引き続いて発掘調査を行うことになった。遺跡の発掘調査は平成9年度から12年度の4年間にわたり、報告書刊行に向けての整理作業については平成13年度から14年度に行った。

2 調査体制

(1) 調査組織

平成7年度および8年度の試掘調査、平成9年度から12年度の発掘調査、平成13年度および14年度の整理作業の体制は以下のとおり。なお平成10年4月に財団法人長野県埋蔵文化財センターは、財団法人長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センターに改組された。

試掘調査および発掘調査

	平成7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度
理事長	吉村午良	吉村午良	吉村午良	吉村午良	吉村午良	吉村午良（10月25日まで） 田中康夫（10月26日から）
事務局長	峯村忠司	青木 久	青木 久			
所 長				佐久間鉄四郎	佐久間鉄四郎	佐久間鉄四郎
総務部長	西尾紀雄	西尾紀雄	山崎悦男			

第1章 序 説

副所長兼管理部長		山崎悦男	山崎悦男	春日光雄
庶務課長	戸谷 功 戸谷 功 戸谷 功			
管理部長補佐		宮島孝明	宮島孝明	宮島孝明
調査部長	小林秀夫 小林秀夫 小林秀夫	小林秀夫	小林秀夫	小林秀夫
(平成9年度まで長野調査事務所長兼務)				
調査一課長	百瀬長秀 百瀬長秀 百瀬長秀	百瀬長秀	百瀬長秀	百瀬長秀
(平成9年度まで長野調査事務所調査課長)				
調査研究員	田中正治郎 藤森俊彦 石原州一	石原州一	川崎 保	川崎 保
	両角英敏	藤森俊彦	上田 真	上田 真
				櫻井秀雄

整理作業

	平成13年度	14年度
理事長	田中康夫	藤井世高
所 長	深瀬弘夫 (7月1日より)	深瀬弘夫
副所長兼管理部長	春日光雄	原 聖
管理部長補佐	田中秀幸	田中秀幸
調査部長	小林秀夫	小林秀夫
調査一課長	百瀬長秀	廣瀬昭弘
調査研究員	川崎 保	川崎 保
		西嶋 力

(2) 指導者・協力者

会田 進	赤羽貞幸	荒井今朝一	飯富英博	伊藤 豪	上原真昭	角張洋一	金子直行	上條信彦
神村 透	桐原 健	木崎康弘	後藤信幸	近藤尚義	小林達雄	佐藤美枝子	茂原信生	白沢勝彦
島田哲男	清水隆寿	篠崎健一郎	田中 彰	中島 宏	長岡史起	中田久壽隆	八賀哲夫	幅 具義
馬場裕之	原 明芳	樋口昇一	福岡佳久	穂積裕昌	宮崎朝雄	宮島 宏	村上 昇	望月昭彦
守屋豊人	矢野健一	山田 猛	山田光洋	吉田英敏	綿田弘実	渡辺利明	中島克彦	
大北地区小中学校社会科研究会 大町市議会 高瀬川右岸水利組合								
北アルプス広域シルバー人材センター 公園緑地管理財団								

(3) 発掘調査参加者および整理作業参加者

[発掘調査]安藤千代	扇田さなえ	小笠原睦子	岡田千波	北原浩美	国広俊衣	酒井正子	高橋克恵
竹村喜美子	平瀬桂子	平林真紀	有賀 悟	稲沢光子	岩野 潔	宇留賀忠則	宇留賀伯
春日 穹	北澤源弘	北沢安子	北沢芳子	北沢芳久	北原久滋	金原まさ子	久保田博士
合津恒雄	櫻井松子	佐藤悦春	清水和美	高橋寿春	高橋洋一	竹内誠治	竹内忠子
遠山吟子	中山幸子	西沢つね子	西山和子	服部力夫	原田 暁	古畑貴美子	降旗貞子
細田三子	堀尾徳子	松岡 寛	松沢雄幸	三原一之	宮沢茂子	宮下通子	山口君子
横川 栄	吉岡 明	吉岡都世	[整理作業]阿部高子	市川ちづ子	今井博子	白田知子	窪田 順
西沢たか子	三浦正美	山本和美	渡辺恵美子				

第2節 調査の方法

1 調査の方法

調査にあたっては、県埋文センター作成の「遺跡調査の方針と手順」(以下「方針と手順」)に準拠して、遺跡調査計画を作成し、発掘調査を実施した。

(1) 遺跡の名称と遺跡記号

遺跡名は長野県教育委員会作成の遺跡台帳に記載されている名称とした。また、発掘調査および整理作業の便宜上、アルファベット大文字3文字で遺跡を表記する遺跡記号を用いている。頭文字は長野県内を九つに分割した地区を示している。2番目・3番目の文字は遺跡名を省略したものである。各種台帳や遺物の注記記号にはこの記号を使用している。

遺跡名	読み方	遺跡記号
山の神遺跡	やまのかみいせき	EYM

なお、「方針と手順」によれば、EYMの頭文字Eは本来松本・南安曇地区の遺跡を示す記号であり、大町・北安曇地区の遺跡はFで始まることになっているが、「方針と手順」と食い違っていることが判明したのが、平成11年度であった。すでに、遺物の注記などがかなり進んでおり、訂正することが困難なため、大町市山の神遺跡にだけ特例的にEの文字を冠したものを認めることとした。

(2) 遺構の名称と遺構記号

遺跡記号同様に各種台帳や遺物の注記は便宜的に遺構記号を用いている。

記号	種類・性格
SB	竪穴住居跡、竪穴建物跡
SK	土坑、竪穴
SH	集石・石列
SD	溝、堀、水路
SF	焼土集中
SQ	遺物集中
SX	性格不明遺構、その他
LM	ローママウンド

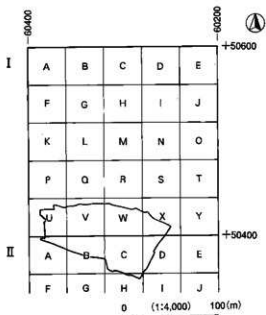
なお、性格不明の帯状の落ち込みに対してNRと冠したものがあるが、従来SDとしていたものと、峻別できるものではないが、便宜的に山の神遺跡の調査にだけ用いられている。

(3) 調査区の設定(第1～4図)

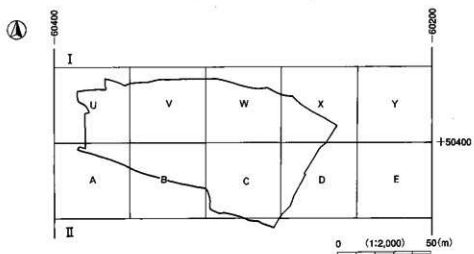
イ 県埋文センターの「方針と手順」によれば、調査区は国土交通省国土地理院の旧測量法による日本測地系・平面直角座標系第8系(X=0.0000, Y=0.0000)を基点に、200×200mの区画を設定し、大々地区とする。大々地区は調査範囲を覆う最小限度に留め、原則として北東から南西にⅠ・Ⅱ・Ⅲ・・・のローマ数字を用いる。本遺跡ではⅠ地区とⅡ地区が設定された。

法が改正され、現在の測量基準が世界測地系になっているが、山の神遺跡調査時は、日本測地系の成果を用いて測量したため、本報告書はすべて日本測地系を用いている。

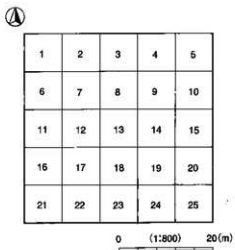
ロ 大々地区を40×40mの25区画に分割し、大地区とする。大地区は北西から南東へA～Yの順に計25個の大文字アルファベットを用いる。



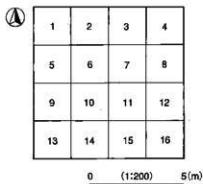
第1図 大々地区と調査範囲



第2図 大地区と調査範囲



第3図 中地区割付



第4図 小地区割付

ハ 大地区をさらに 8×8 mの25区画に分割し、中地区とする。中地区も北西から南東へ1～25のアラビア数字を付け、遺構測量、遺物取り上げの基準線とする。

ニ 40×40 mの大地区を2 mピッチで400分割（アルファベット小文字a～uとアラビア数字01～19を組み合わせて表示）する方法が「方針と手順」には示されているが、この方法だと測量の基準である中地区の呼称とは連結していないため、現場ではしばしば混乱が起こっていた。よって、本遺跡では平成10年の調査から、 8×8 mの中地区を16分割し、小地区とする。小地区も北西から南東へ1～16のアラビア数字を付け、遺物取り上げの基準として遺跡調査において遺物の出土状況などを勘案しながら、設定した。

よって山の神遺跡のグリッドの表示は 大々地区－大地区－中地区（－小地区）となる。例）I-V-25（-3）（小地区のないものもある）

測量の実際は、公共基準点などの測量基準線を利用し、ベンチマークを設定した。遺構測量は原則として中地区を割り付け線として、オートレベルを利用した簡易遺り方測量を基本的に用いている。

2 整理の方針と報告書の構成

整理は遺物台帳を作成し、洗浄、注記、遺物接合などの基礎整理作業を行った上で、遺物量を把握するための基本的な遺物台帳を作りながら、遺物を報告書に掲載する実測用遺物台帳（土器、石器）を作成した。これらの台帳類を本報告書に掲載することはできなかったが、本報告書の遺物観察表、遺構一覧表などはこれら整理段階の台帳類と対応できるようになっている。

3 土器・石器の硬度強化のための樹脂含浸作業について

山の神遺跡出土遺物のうち一部花崗岩製の石器が破熟や風化の結果著しく脆くなっていて、洗浄の段階でかなり破損してしまった。そのまま放置しておけば、実測や写真撮影にも支障が出ると予想されたので、アルコキシド溶液（株式会社田中地質コンサルタント製TOT土と石の強化保存剤、珪素を含有するゾル溶液）を劣化防止のため遺物に含浸させた。非常に含浸の速度が早く、樹脂などに見られるようなテカリなどが無い。ただし、対象遺物が大い場合、同溶液の含浸量は少なく、重量が多少増えることがわかった。よって、本報告書の石器類の重量はすべて、同溶液含浸以前の重量である。

第2章 遺跡の環境

第1節 地形・地質的環境

山の神遺跡は大町盆地の西縁、北アルプスの東麓に位置する。水系としては、犀川水系の高瀬川が南北に流れ、高瀬川の支流乳川（ちかわ）によって形成された乳川扇状地の中央に位置する。乳川はその扇状地のほぼ南端の西山の麓を現在は流れていて、山の神遺跡は、乳川の左岸にある（第5図）。

地質的には、山の神遺跡は、扇状地堆積物、更新世の上部洪積層に立地している（長野県地学会編1962）（日本の地質編集委員会編1988）。これらの扇状地堆積物は第三系花崗岩起源の砂礫や火山灰堆積物を主体としている（第6図）。

長野県地学会編1962『20万分の1長野県地質図および同説明書』内外地図株式会社

日本の地質編集委員会編1988『日本の地質中部地方I』共立出版株式会社

第2節 歴史的環境

山の神遺跡がある大町盆地は、長野県の北西部に位置する。西側に北アルプス飛騨山脈、東側にフォッサマグナの一部をなす低山山脈が連なる。東西の山地のほぼ中央に高瀬川が流れているので、大町市の遺跡は高瀬川の右岸と左岸に分けることができ、山の神遺跡は高瀬川右岸の遺跡ということになる。

また、西部の山脈から流れ出る高瀬川、竜川、鹿島川、乳川（ちかわ）によってそれぞれ扇状地が発達している。またこうした河川などによって形成された自然地形や歴史的な経過から大町市の旧町村を単位として、高瀬川扇状地及び氾濫原、乳川扇状地の常盤地区、高瀬川・鹿島川合流扇状地上にあり、東側が農具川流域の大町地区、西部分が高瀬・鹿島・竜川の合流扇状地、東部分が農具川流域で東部の低山山地、北部分に仁科三湖のある平地区、東部の低山山地に接している高瀬川左岸を中心とする社地区の四地区に区分することができる。この四区分でいけば山の神遺跡は常盤地区に属す。

また、さらに大町盆地の遺跡を島田哲男は地形的区分から①西部山岳地帯、②西部山脈山麓地帯、③中部平坦地帯、④東部山麓および段丘地帯、⑤東部低山地帯、⑥北部山間地帯に分類している。この区分によれば②の西部山脈山麓地帯に含まれる。

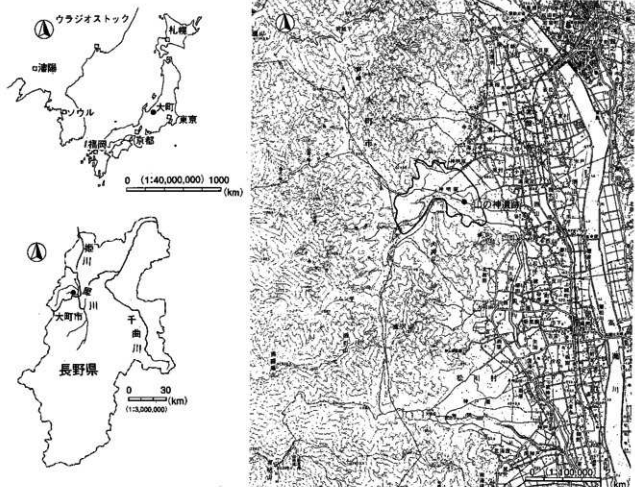
以下、この山の神遺跡が含まれる西部山脈山麓地帯を中心に歴史的環境について時代順に概観したい。（第7図）

なお、大町市教育委員会発行の報告書については発刊年のみを示した。また、とくに出典を明示していないもので、県史文センターの調査以外の知見は大町市教育委員会編『大町の遺跡』（1988）によっている。

1 旧石器時代から縄文時代

大町市内の旧石器の遺跡は現在確実なものはほとんど北部山間地帯（平地区）に集中している。仁科三湖があるこの地域のクマンバ遺跡からはナイフ形石器や槍先形尖頭器が出土しているほか、大町市教育委員会の発掘調査で南入日向遺跡から槍先形尖頭器が出土している（1992）。山の神遺跡周辺の乳川扇状地は、完新世に形成されたと考えられており、いまだ確実な旧石器時代の遺跡は発見されていない。

縄文時代草創期もほぼ同じような状況で、今のところ仁科三湖周辺の遺跡に集中しているとされ、乳川

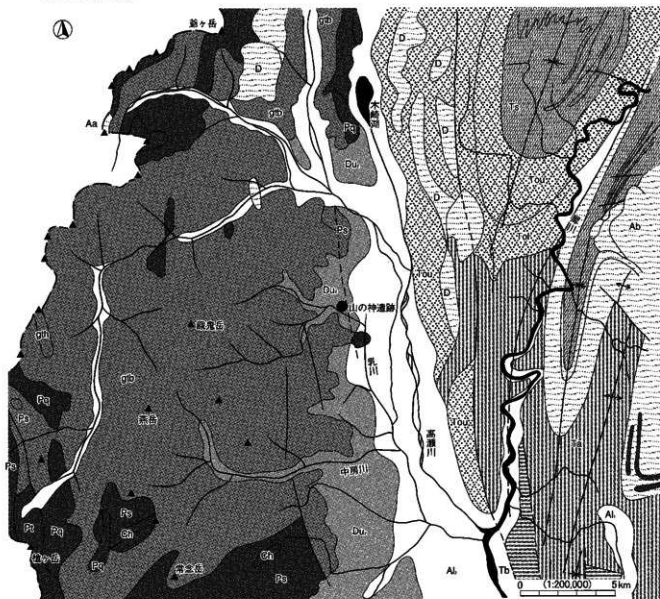


第5図 大町市及び国営アルプスあづみの公園位置図

扇状地一帯では確認されていない。

早期は、仁科三湖周辺では、クマンバ遺跡（横田1963）や大町市教育委員会の発掘調査による一律遺跡（1990）、南入日向遺跡（1992）で押型文土器や早期末の条痕文土器が出土している。乳川扇状地では、桐山遺跡（第7図4）（以下図番号省略、遺跡番号のみ記入）で押型文土器が表面採集されていることが知られていたが、さらに平成9年～12年の県埋文センターの発掘調査で山の神遺跡には押型文期の石列、集石炉を伴う集落が存在したことが確認された。まだ、詳細は不明だが平成14年の調査で扇平遺跡から集石炉が検出されているので、当該期の集落が存在する可能性がある。押型文期の住居跡は長野県内では、飯田市美女遺跡、塩尻市八壺遺跡、向陽台遺跡、更埴市鳥林遺跡、北安曇地方では小谷村林頭遺跡（小谷村教委1999）で検出されているが、集落の構造が把握できる遺跡例は珍しい。

前期は、地域的には平地区の麓川扇状地上になるが、西側に山岳地帯を望む上原（わっぱら）遺跡が有名である。上原遺跡では竪穴住居跡は検出されていないが、環状列石やピット群が検出されているので、付近に定住的な集落が存在した可能性が指摘されている（長野県教委1957）。藪沢1遺跡でも前期の遺物が大量に出土し、全国的に見ても最大級の大型の珠状耳飾が1対出土している（大町市教委1996）。大町市域でも発見された遺跡数が増加する傾向にあり、乳川扇状地では桐山遺跡（4）、まねき遺跡（6）、窪平遺跡（5）、菅ノ沢遺跡（3）、山の神遺跡（1）が大町市の詳細分布調査で前期の遺跡とされる。ま



凡例

新生界

- 沖積層Al・AL
- 上部洪積層Du
- 小川累層To
- 岡上部Tou
- 岡下部Tol
- 礫累層Ts
- 青木累層Ta
- 別所累層Tb

- その他の新生界
- 岡輝石安山岩Aa
- 複基性安山岩Ab
- 流紋岩・石英安山岩D
- 玢岩(中・近代末を含む)Pl

中生界

- 花崗岩gt
- 黒雲母花崗岩gtb
- 閃雲花崗岩gh

その他の中生界

- チャートCh
- 石英斑岩・流紋岩Pq
- 古生層Ps
- 断層-推定断層
- 背斜軸
- 向斜軸

第6図 大町市周辺地質図



- | | | | |
|---------|------------|--------------|-----------|
| 1 山の神遺跡 | 10 清水城遺跡 | 20 北村遺跡 | 30 松庵寺跡 |
| ● 調査地点 | 11 イボ岩遺跡 | 21 下一本木遺跡 | 31 西山遺跡 |
| 2 乳川石堤 | 12 清水氏居館跡 | 22 小海戸遺跡 | 32 硯岩遺跡 |
| 3 管ノ沢遺跡 | 13 清水郷倉跡 | 23 道海戸遺跡 | 33 西山城跡 |
| 4 桐山遺跡 | 14 大崎遺跡 | 24 須沼氏居館跡(Ⅱ) | 34 伝・経塚 |
| 5 窪平遺跡 | 15 長畑城跡 | 25 常光寺跡 | ▲ 山の神社 |
| 6 まねき遺跡 | 16 長畑遺跡 | 26 須沼氏居館跡(Ⅰ) | 35 若山の神 |
| 7 肩平遺跡 | 17 がにあらし遺跡 | 27 中屋遺跡 | 36 旧常盤山の神 |
| 8 寺海戸遺跡 | 18 西の原遺跡 | 28 五社神社跡 | 37 常盤山の神 |
| 9 神明原遺跡 | 19 奥清水遺跡 | 29 西山居館跡 | 38 唐子山の神 |

第7図 大町市常盤地区遺跡分布図

た、大町市教育委員会の調査で大崎遺跡(14)から前期初頭の遺物や遺構が検出されているので、乳川扇状地にも今後当該期の集落跡などが検出される可能性は高い。なお県埋文センターの調査で山の神遺跡からも前期のケツ状耳飾や土器が出土している。

中期の乳川扇状地およびその周辺では、前期から継続している遺跡(まねき遺跡6、大崎遺跡14、長畑遺跡16、山の神遺跡1など)のほか、屑平遺跡(7)、神明原遺跡(9)、イボ岩遺跡(11)、奥清水遺跡(19)、西の原遺跡(18)、がにあらし遺跡(17)、菅ノ沢遺跡(3)などが中期の遺跡とされ、大町市域の他の地区同様増加する傾向にある。

発掘調査によるものではないが、出水地帯で中期初頭の土器が出土している。また、まねき遺跡(6)は、古くから地元で表面採集されていて、縄文時代の遺跡であることが知られている。現在、資料はほとんど散逸しているが、中葉の勝坂式の鉢形土器が出土していることが知られる(『大町市史』)

菅ノ沢遺跡(3)では出土状況の詳細は不明だが、中期末(曾利V式並行)の唐草文系土器が2点出土している(大町市教委1989)。

県埋文センターの調査では山の神遺跡からは土器は出土していないが、打製石斧や定角式磨製石斧が出土していて、これらの資料は中期にまで下る可能性がある。この他平成12年の菅ノ沢遺跡(3)の調査で中期初頭の土器、平成14年度の調査で屑平遺跡(7)から後葉の土器が出土している。

後期から晩期は、仁科三湖周辺では大町市教育委員会が、一律遺跡を発掘調査し、晩期のヒスイ製品の製作遺跡であったことが判明している(1990)。大町市域では遺跡数自体は減少している。乳川扇状地およびその周辺でも遺跡数は減少している。菅ノ沢遺跡(3)、大崎遺跡(14)、長畑遺跡(16)、がにあらし遺跡(17)、北山平遺跡などが後期から晩期の遺跡とされる。

長畑遺跡(16)では、晩期末の水I式に伴う柱穴群や集石や土坑群が大町市教育委員会による発掘調査で、検出され集落跡と推定されている(1991)。

いずれも、発掘調査による事例ではないが、菅ノ沢遺跡(3)からは後期中葉加曾利B式の注口土器、大崎遺跡(14)では後期後半の異形台付土器、北山平遺跡では後期から晩期の注口土器、土偶が出土している(『大町市史』)。

2 弥生時代

大町市域の弥生時代前期並行の状況は、まだよく分からない。中期になると農具川流域に中条原遺跡、館の内居館遺跡などの遺跡が見られるようになる。東山の居谷里沢が形成した小扇状地上の来見原遺跡では、中期の土器や石器に伴って炭化米が出土している(大町市教委1988)。集落遺跡の形成とはほぼ同じくして水田経営もはじまった可能性が高く、稲作伝播ルート上注目される。後期も同じく農具川流域の古城遺跡で集落遺跡が調査されている(大町市教委1991)。平地区鹿島川扇状地上に借馬遺跡がある。社地区高瀬川左岸の河岸段丘上に位置する中城原遺跡からは弥生時代末から古墳時代前期の円形周溝墓群が検出されている。勾玉、管玉、ガラス小玉、鉄剣などが出土している(大町市教委1992)。

乳川扇状地では、当該期の遺跡は極めて少ない。同扇状地の末端にある硯岩遺跡(32)から中期初頭の土器が出土している。また時代を厳密に限定できないが、晩期末から弥生時代中期初頭とされる住居跡が小海戸遺跡で検出されている。初痕が残る土器が出土していて、当該期に乳川扇状地あるいはその周辺で稲作を行っていた可能性を示しており、注目される。なお、遺跡かどうか確認されていないが、常盤柿の木地帯からいわゆる有鬚土偶が出土したと伝えられる。

県埋文センターの調査では菅ノ沢遺跡(3)から後期の土器が出土している。

3 古墳時代

集落遺跡としては高瀬川左岸河岸段丘上に位置する社地区の中城原遺跡からは、古墳時代中期から後期にかけての堅穴住居跡、古墳、土坑墓などが発掘調査で検出された（大町市教委1992）。当該期の集落と墓域の関係をj知る上で貴重な遺跡である。農具川流域の平地区の借馬遺跡では古墳時代中期から後期にかけての集落遺跡が調査されている（大町市教委1979・1980・1981）。

古墳自体は中期から後期前半の古墳が東山山麓に作られ、後期中ごろから後半にかけて平地区の小熊山麓に作られている。小熊山麓古墳群は横穴式石室を導入した積石塚古墳が見られる。乳川扇状地周辺では明確な古墳は認識されていない。

4 古代

奈良時代大町市域は安曇郡に含まれ、大半は村上郷に属し、社地区の南端が前科郷、常盤地区の一部が矢原郷に属していたという。平安時代の後半に仁科神明宮を中心とした地域が伊勢皇太神宮御領である御野に寄進され、仁科御野と呼ばれた。おそらくこの頃には仁科氏を中心とする武士団が形成されたのではないかと考えられている。社地区の館ノ内居館跡は当該期の居館とされている。

集落遺跡は平地区の借馬遺跡（大町市教委1979・1980・1981・1985）、大町地区の来見原遺跡（大町市教委1977・1988）、社地区の前田遺跡（大町市教委1981）、五十畑遺跡（大町市教委1984）などが発掘調査されている。乳川扇状地周辺にも西山遺跡（31）、道海戸遺跡（23）、小海戸遺跡（22）、北村遺跡（20）、長畑遺跡（16）、がにあらし遺跡（17）などで古代の土師器や陶器などが採集されているが、古代遺跡の詳細な状況はよくわからない。

5 中近世

鎌倉時代にも勢力を伸張させていた仁科氏は、当初社地区の館ノ内居館を拠点とし、社地区に木舟城、森城を形成したとされる。中ごろ以降に大町地区の天正寺居館に館を構えたい。戦国時代、武田信玄によって滅ぼされた後は、信玄の子、盛信がその名跡を継いだ。盛信が高遠城に移った後は、小笠原氏松本藩の領城とされた。江戸時代大町市域には大町組、池田組、松川組が置かれたが、常盤地区は松川組に属した。

中近世の大町市域には糸魚川と松本を結ぶ千国街道が通り、海産物・塩などの物資が流通した。とくに江戸時代は松本藩が南塩を禁止したため北塩（糸魚川・大町経由の塩）の重要性はさらに高まった。また大町は安曇地方などの麻の集散地でもあったことから、商業的な中心地として発達していった。

中近世の集落遺跡は現在の集落とほぼ一致していると考えられている。乳川扇状地周辺では、仁科氏の被官であった須沼氏、清水氏、矢口氏関連とされる遺跡がある。須沼氏はその居館跡とされる須沼氏居館跡が二ヶ所（24・26）、清水氏も居館跡（12）や同氏の山城とされる長畑城跡（15）があり、西山居館跡（29）（昭和63年の試掘調査で堀跡が確認される）や西山城跡は矢口氏のものと考えられている。

乳川扇状地およびその周辺では、中世の小規模な館跡が検出された小海戸遺跡（22）（大町市教委1989）、清水氏居館跡（12）、須沼氏居館跡（24・26）といった堅穴建物跡などを伴う比較的大きな居館跡や掘立柱建物、土坑、火葬墓などが出た集落遺跡の長畑遺跡（16）、中世の柱穴列や溝状遺構が検出された西の原遺跡（18）などが大町市教育委員会により調査されている（大町市教委1991・1992・1993）。このほかまねき遺跡（6）には寺海戸清水寺の前身があったという伝承がある。

引用参考文献

- 大町市教育委員会1977「米見原」
大町市教育委員会1979「借馬遺跡Ⅰ」
大町市教育委員会1980「借馬遺跡Ⅱ」
大町市教育委員会1981「借馬遺跡Ⅲ 追分遺跡前田遺跡南原遺跡」
大町市教育委員会1984「五十畑」
大町市教育委員会1985「借馬遺跡Ⅳ 花見遺跡」
大町市教育委員会1988「長野県大町市詳細分布調査報告書大町の遺跡」
大町市教育委員会1988「米見原遺跡Ⅱ」
大町市教育委員会1989「小海戸」
大町市教育委員会1990「一律」
大町市教育委員会1991「長瀬・清水氏居館跡」
大町市教育委員会1991「古城」
大町市教育委員会1992「西の原」
大町市教育委員会1992「南入日向」
大町市教育委員会1992「中城原」
大町市教育委員会1993「須沼」
大町市史編纂委員会1985「大町市史第二巻 原始・古代・中世」大町市
大町市教育委員会1996「蕨沢Ⅰ」
小谷村教育委員会1999「林頭遺跡」
長野県教育委員会1957「上原」
横田義孝1963「青木湖底クマンボ遺跡第Ⅱ地点調査概報」『信濃』Ⅲ・15・8・9

第3章 遺跡と調査の概要

第1節 遺跡の概要

山の神遺跡は、大町市常盤字山の神7992ほかに所在する。発掘調査した範囲の標高はおおよそ730～737mを測る。地形的には乳川によって形成された乳川（神明原）扇状地のほぼ中央、乳川の左岸に位置している。さらに遺跡周辺を細かく見れば、今回の調査範囲北側は谷地形となり、遺跡の南側が乳川となっている。緩やかな尾根状の盛り上がりを見せた部分に遺跡が展開している。乳川扇状地にはこうした小さい尾根がいくつも手指状に発達している。

大町市教育委員会作成の遺跡詳細分布調査の成果「大町の遺跡」によるとこの乳川沿いに縄文時代を中心とした遺跡がいくつも発見されていて、山の神遺跡も一連のものと考えられる。

第2節 調査範囲と経過

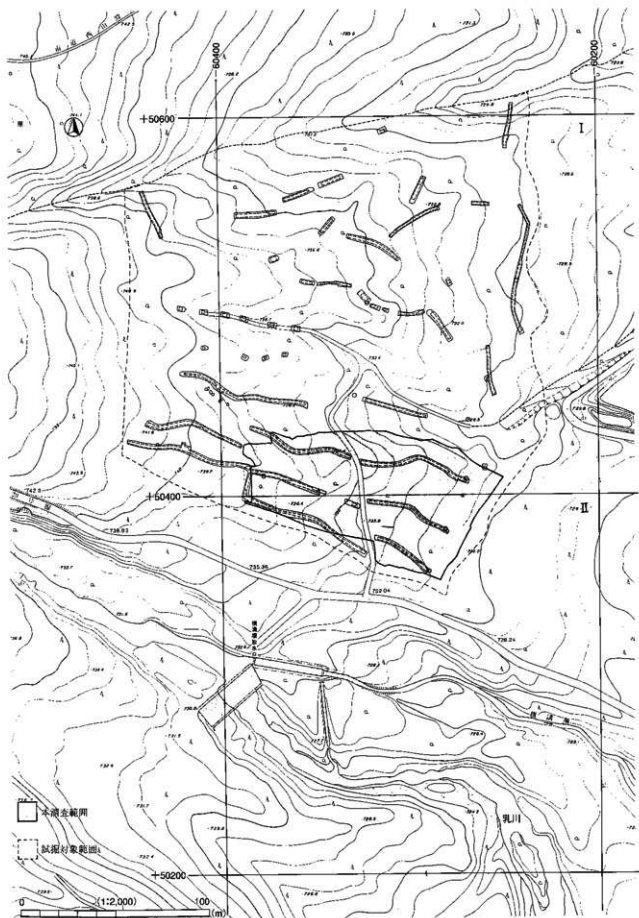
平成6年に行われた公園事務所、県教委、大町市教育委員会など関係機関の協議を経て、平成7年度から8年度にかけて、県埋文センターが面的な発掘調査を行うために試掘調査を行った。平成7年度は田中正治郎、岡角英敏調査研究員が10月19日から12月5日にかけて1983㎡、平成8年度は百瀬長秀調査課長および藤森俊彦調査研究員が10月29日から11月7日にかけて450㎡の試掘調査を行った。縄文時代早期の土器や石器が検出されている（第8図）。

こうした試掘調査の所見を考慮して、調査範囲が設定され、平成9年度から12年度の4年間にわたって表面積8,000㎡の発掘調査が行われた。

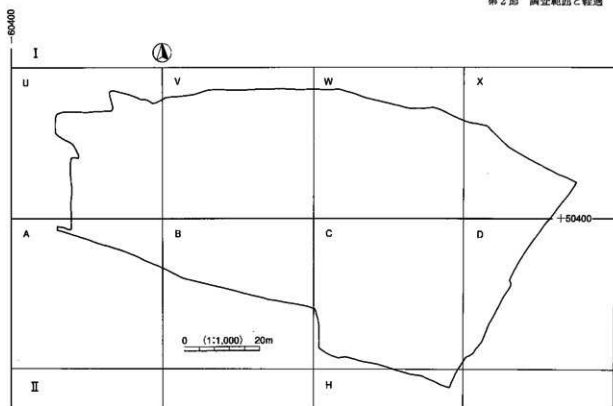
遺構・遺物の個別の説明が第4章以下で行うが、縄文時代早期の竪穴住居跡12軒、土坑174基、集石・石列遺構66基、焼土集中41基、溝・流路10本といった遺構が検出されている（第9・10図）。

調査経過の詳細は以下のとおり

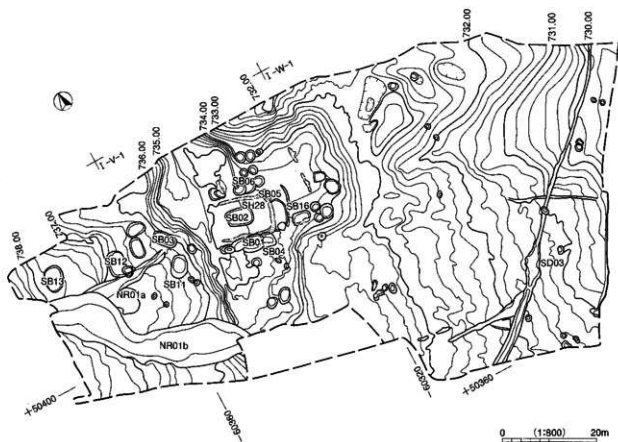
- 平成9年8月26日 建設重機による表土剥ぎ開始。
- 8月28日 開始式。作業員による遺構検出開始。
- 9月10日 集石SH01検出。
- 10月13日 県立歴史館近藤尚義氏見学。
- 10月14日 異形部分磨製石器2点出土。
- 10月17日 大町市議会見学。
- 12月12日 調査終了。
- 平成10年7月13日 開始式。遺構検出開始。
- 7月27日 大町市教育委員会島田哲男氏見学。
- 9月14日 飯田市教育委員会島場祐之氏見学。竪穴住居跡検出。
- 9月22日 異形部分磨製石器が集中して出土。
- 10月5日 航空測量、撮影。所内研修会（～6日）。
- 10月7日 大町市文化財審議委員梶川義氏ほか見学。
- 10月10日 現地説明会。



第8図 本調査範囲及び試掘トレンチ位置図



第9図 調査範囲及び大々地区・大地区グリッド配置図



第10図 主要遺構配置図

第3章 遺跡と調査の概要

- 10月26日 樋口昇一氏、沼津市文化財センター守屋豊人氏見学。
- 10月28日 航空測量、撮影。
- 11月6日 県立歴史館白沢勝彦氏。
- 11月18日 埼玉県教育委員会中島宏、宮崎朝雄、金子直行氏見学。
- 11月30日 航空撮影。
- 12月4日 作業終了。

平成11年8月9日 開始式。

- 8月25日 大町市教育委員会島田哲男氏および常盤地区住民見学。
- 9月1日 航空測量、撮影。
- 9月2日 大町市議会見学。
- 9月9日 篠崎健一郎大町市文化財審議委員ほか見学。
- 10月14日 県立歴史館緒田弘夫氏ほか見学。
- 10月17日 現地説明会。84名参加。
- 10月22日 岐阜県考古学会吉田英敏氏ほか2名見学。
- 11月8日 国学院大学小林達雄教授ほか2名見学。
- 11月16日 石列SH28付近航空測量、撮影。
- 11月19日 終了式。

平成12年4月25日 開始式。

- 5月18日 県立歴史館白沢勝彦氏による石列SH28保存についての指導。
- 6月21日 アルプスあづみの公園原調査設計係長、県文化財・生涯学習課廣瀬昭弘指導主事、県環境センター小林秀夫調査部長、百瀬長秀調査一課長などによる石列SH28の保存についての現地協議。
- 7月12日 信州大学赤羽貞幸教授による遺跡周辺の地質環境についての指導。
- 7月14日・24日 高所作業車から遺跡全景写真撮影。
- 7月28日 大北地区社会科学研究会見学。
- 7月30日 緑地管理財団主催の親子発掘体験会に協力。
- 8月8日 航空測量、撮影。
- 8月24日 作業員終了。
- 9月1日 航空測量、撮影。現場終了。

第3節 基本層序（第11図）

山の神遺跡は、現在は乳川の河床より一段高い北側の段丘上に位置している。遺跡の中央に小さな尾根状の高まりが見られるが、これは遺跡が形成されている縄文時代には、乳川の河床が今よりも高く、乳川が遺跡の西側で決壊し、土石流が押し出して形成されたものと考えられる。こうした土石流は完新世以前からあったらしく、これらの乳川起源の土石流によって、山の神遺跡の地点を含む神明原扇状地が形成されたものと考えられる。また、時代が下るにつれて、乳川が基盤を浸食し、河床の高さが下がっていたことから、扇状地の中での土石流の規模はだんだん小さくなっていったらしい。

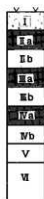
遺跡が形成されている尾根状の高まりだけでなく、以下詳述するが、遺物包含層の中にも、小規模な土石流起源の層序が存在していると考えられる。よって、山の神遺跡の基盤（無遺物層のV層以下）を形成したような土石流よりはるかに規模は小さいが、少なくとも3回程度の土石流で遺跡が覆われることがあ

たとえられている。

ただし、縄文時代早期の遺物を多く含む遺物包含層の最上層のⅡa層より上位では、土石流の痕跡は認められないので、縄文時代早期以降は乳川の河床が現在の状況のように遺跡よりかなり低くなってしまったので、遺跡を覆うような土石流は以後発生しなかったと考えられる。ただ、山の神遺跡だけでなく、同じ乳川流域の菅の沢遺跡や屑平遺跡で縄文時代の包含層を覆う形で黄色の細粒～粗粒の砂層が面的に検出されることがある。当初火山灰かとも考えたが、洪水による砂層のようである。よって、土石流はなくなったが、小規模な洪水は見られる。

また遺跡の基盤などに含まれる黄褐色～黒色シルト質粘土は、いずれも乳川によって花崗岩起源の砂礫などとともにもたらされたものだが、完新世以前の火山灰起源の土壌いわゆるローム層と考えられる。

基本土層



第11図 基本土層模式図

- | | |
|--------|---|
| I層 | 表土 黒褐色土。縄文時代から中近世の遺物を若干含む。 |
| II a層 | 遺物包含層 黒色、砂混じりシルト～粘土質シルト。縄文時代早期の遺物が多いが、わずかに縄文時代前期以降の遺物が含まれる。このII a層上面に薄く黄色い砂が残存していた。 |
| II b層 | 遺物包含層 黄褐色、シルト混じり砂～砂質シルト。土性。遺物は少ない。乳川起源の土石流によって主に形成された。 |
| III a層 | 遺物包含層 黒色土 縄文時代早期の遺物が主体。 |
| III b層 | 遺物包含層 黄褐色 |
| IV a層 | 遺物包含層 黒色土 縄文時代早期の遺物が主体。 |
| IV b層 | 遺物包含層 黄褐色 遺物は少ない。 |
| V層 | 無遺物層 黄褐色 砂礫層。 |
| VI層 | 無遺物層 黄褐色 礫層。 |

第4章 遺構と土器

山の神遺跡の遺構の大半は縄文時代早期中葉の押型文土器の時期である。押型文土器の細分や押型文や縄文原体などの土器の属性や石器の名称、分類などの詳細は第9章を参照されたい。

山の神遺跡は遺跡西側が遺物包含層の堆積が厚く、さらに数度の泥流によって覆われている。よって、基本土層は上部から表土をI層とし、以下Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ層と大きく分層される（以下ローマ数字の層位は基本土層を示す）。またⅢ層以下は土壌化が著しい部分と土壌化がほとんど進んでいない部分に分かれ、前者をa層、後者をb層とした。（例Ⅲa層：Ⅲ層の土壌化した部分、Ⅲb層：Ⅲ層の土壌化しない部分）また、遺構が集中する尾根状の部分を挟むように南北にそれぞれ帯状に窪む（小さい谷地形）が発達するが、この部分はさらに堆積が厚いので、それぞれSⅢa～f層、NⅢa～f層（N、Sはそれぞれ北、南の略）に分層されている。

以下の遺構も、所属層位はさまざまである。ただし、現場の発掘調査の過程で必ずしも確実に遺構が所属した層位を確認できたわけではない。

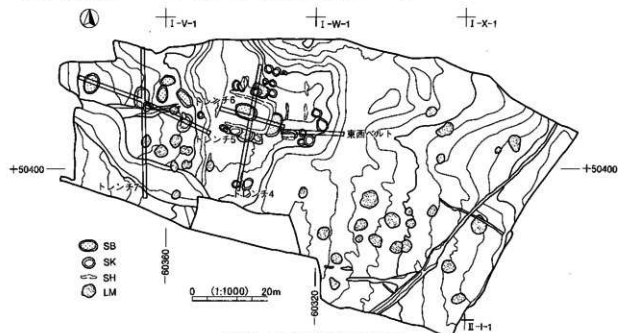
また、後述する集石・石列SHや焼土集中SFなどは、土壌化した層（Ⅱ、Ⅲa、Ⅳa層）で発見されやすく、堅穴住居跡SBや土坑SKは土壌化しなかった層（Ⅲb、Ⅳb、Ⅴ層）の上面検出されやすい傾向にある。本来の所属層位を確定するのは非常にむずかしい。

よって、以下本稿では、どの層位を検出している段階で、実際に遺構が検出されたかを段階で示した。

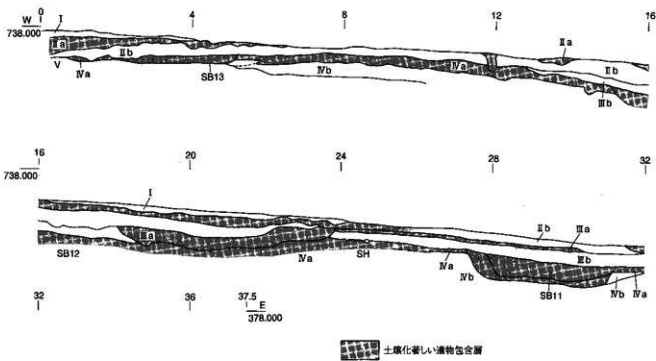
検出段階	覆土の起源となる層	検出面	航空撮影による地形測量時の名称
①	Ⅱa層	Ⅱb層	Ⅲ層
②-1	Ⅱb層	Ⅲa層	Ⅲ層
②-2	Ⅲa層	Ⅲb層	Ⅲ層
③-1	Ⅲb層	Ⅳa層	Ⅳ層
③-2	Ⅳa層	Ⅳb・Ⅴ層	Ⅳ層

また、遺構内の土層は担当者の認識を現場で統一できなかったため、あえて統一しなかった。

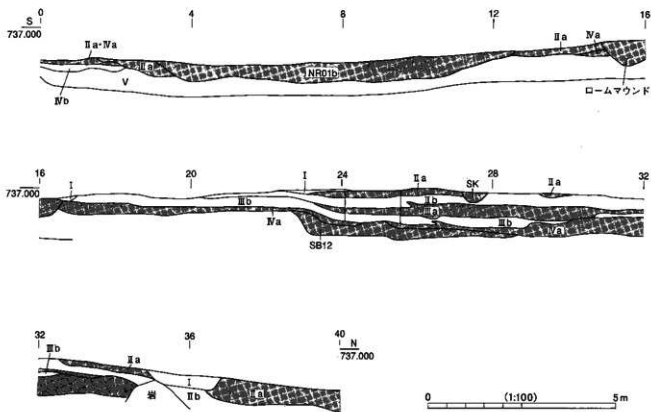
なお、基本土層については、詳細は第3章第3節を参照されたい。



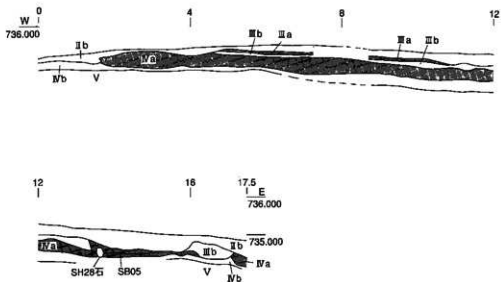
第12図 土層観察用トレンチ配置図



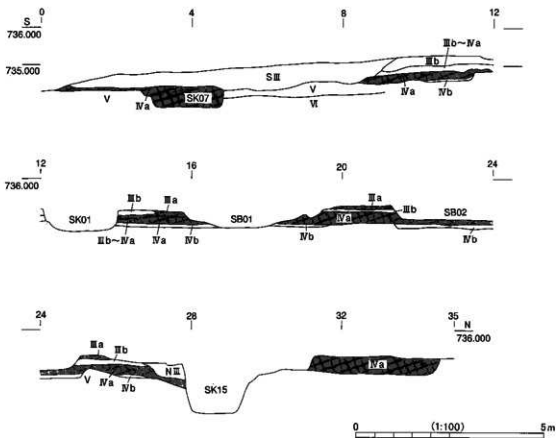
第13図 トレンチ5土層断面図



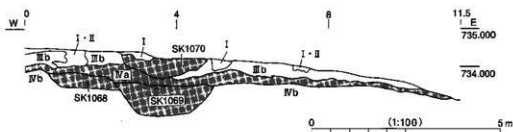
第14図 トレンチ7土層断面図



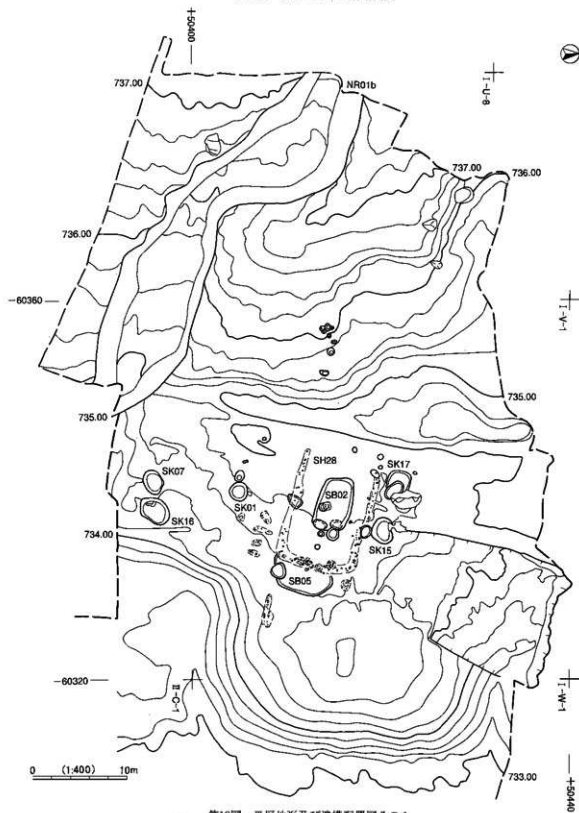
第15図 トレンチ6土層断面図



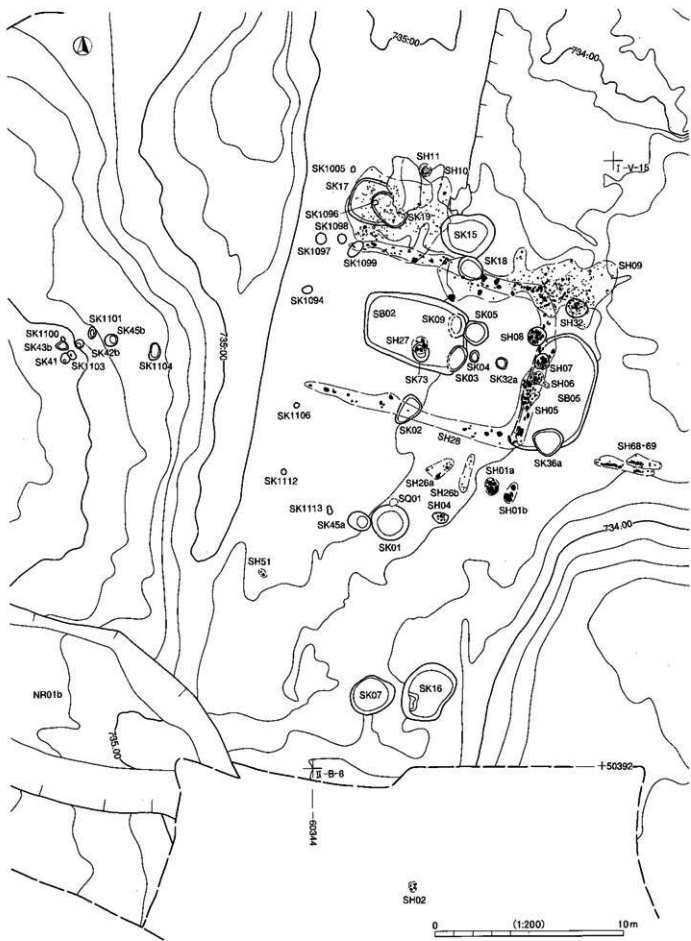
第16図 トレンチ4土層断面図



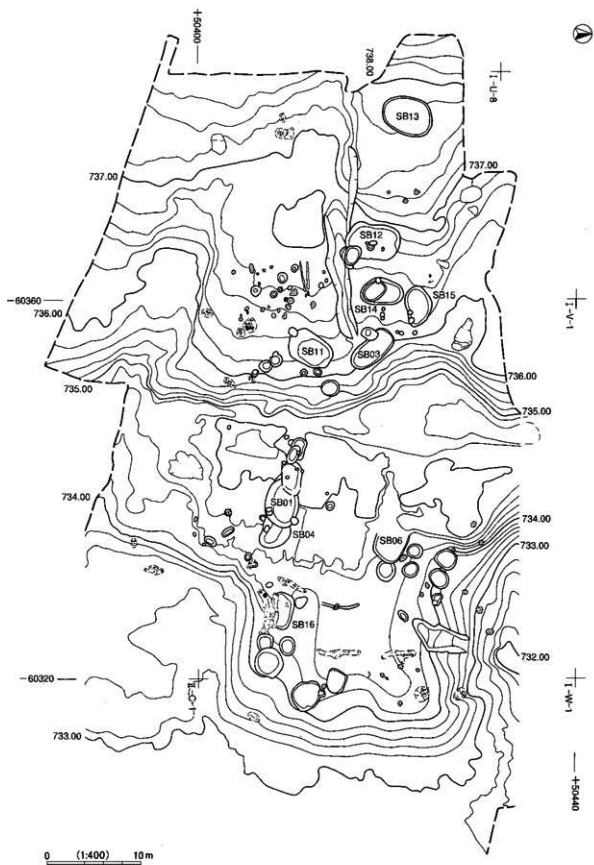
第17図 東西ベルト土層断面図



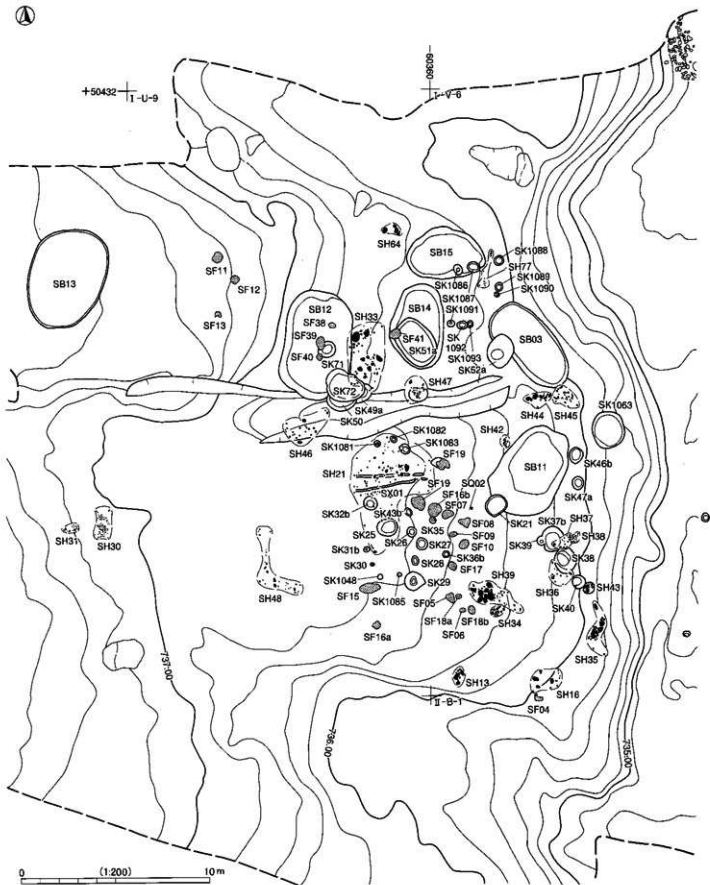
第18図 III層地形及び建構成置図その1



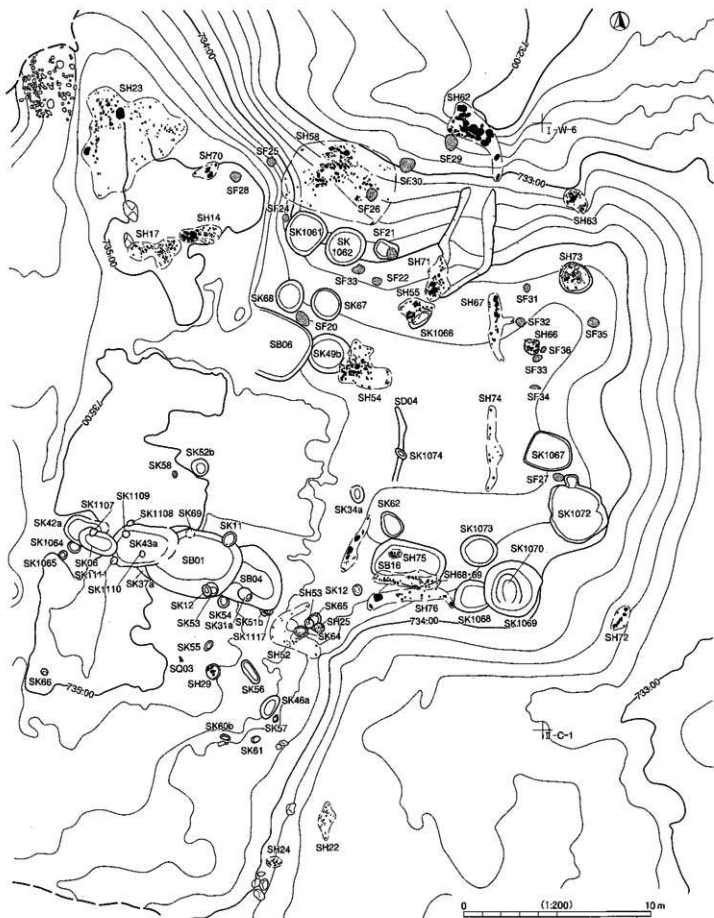
第19図 Ⅲ層地形及び遺構配置図その2



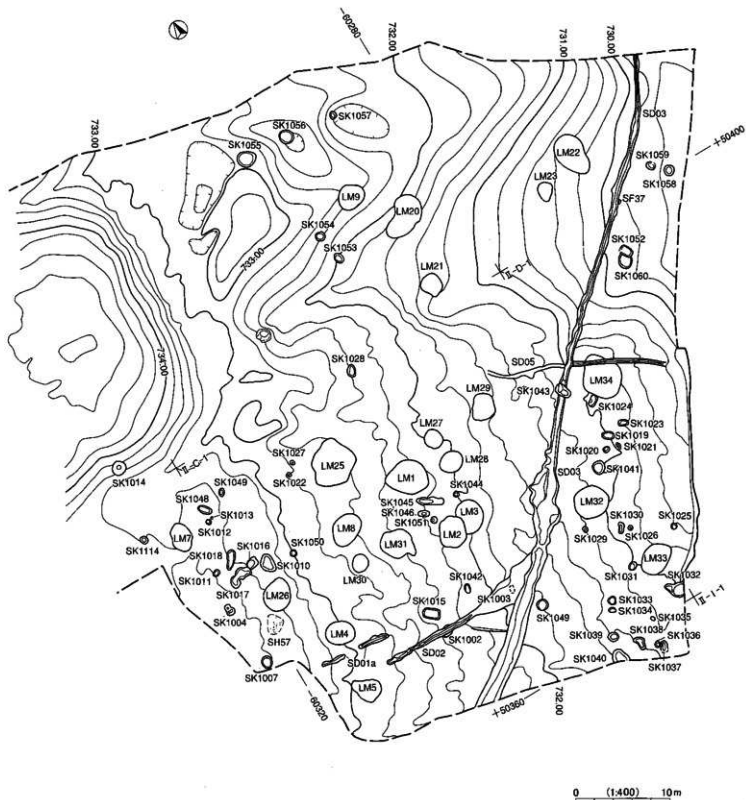
第20図 IV層地形及び遺構配置図その1



第21図 IV層地形及び遺構配置図その2



第22図 IV層地形及び遺構配置図その3



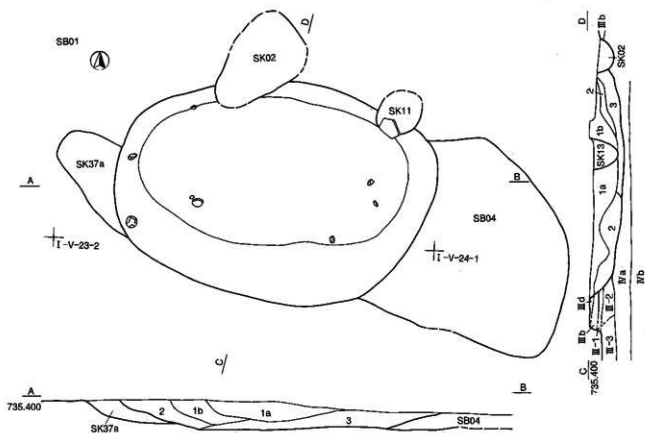
第23図 IV層地形及び遺構配置図その4

第1節 竪穴住居跡

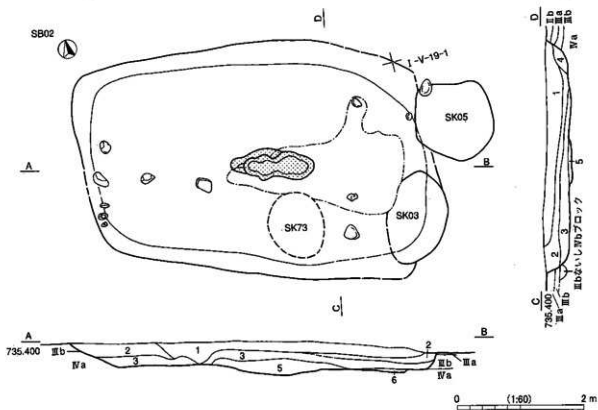
竪穴住居跡SB01 (遺構第24図、土器第44図) **位置**: I-V-18・23 **検出**: 土層観察用トレンチセクションで落ち込みが見られた。その後、面的に精査した段階で、平面形が認められた。検出段階は③-2。
構造: 5.0×3.5mのやや歪な長円形。立ち上がりは南と西は急であるが、北側はゆるやか。床面は中央部がややぼんでいる。柱穴や炉跡は検出されなかったが、規模や平坦面があるので、竪穴住居跡とした。
切り合い: SB04、SK37a、SK53を切り、SK02a、SK11、SK12、SK43aに切られる。**土層**: 1a. 暗色粘土質砂、やや土壌化する。土壌化が著しいシルトが含まれる。1b. 明色粘土質砂。2. Ⅲb層に近い明色砂層。ほとんど土壌化していない。3. Ⅳa層を多く含む暗色砂層。**遺物**: 土器1~7楕円押型文、3・4は刺突文が施される頸部。8~12山形押型文、13~15縄文施文土器。石器は頁岩製石鏃(第130図1)が出土。**時期**: 横位密接施文の押型文が主体で、頸部に刺突文が施されるものを含むことや、胴部上半の斜位施文山形押型文が見られることから、縄文時代早期中葉山的神遺跡第2段階。

竪穴住居跡SB02 (遺構第25~27図、土器第44・45図) **位置**: I-V-13・18・19 **検出**: Ⅱb層の遺構検出中、やや色の薄い褐色でロームが多い落ち込みが認められた。Ⅲa層さらにはⅢb層まで下げた段階で平面形をとらえられた。覆土土層の観察で上層にⅡb層、下層にⅢa層ないしⅢb層がはいるといふ。
 ②-2段階 **構造**: 5.8×3.6mの隅丸長方形を呈す。立ち上がりは比較的明瞭であった。炉: 住居跡中央に細長い落ち込みと焼土集積が認められた。この細長い落ち込みは小土坑が切り合いの結果形成されたものと調査担当者は推定する。**切り合い**: SK52b、SK58を切り、SK03、SK04、SK05、SK09、SK73、SH27に切られる。**土層**: 1. Ⅱb層そのものだが、若干土壌化している。2. Ⅲb層のブロック含みのⅡb層。土壌化はしていない。3. Ⅲa層とⅢb層が混じっている。4. 北側の立ち上がりが崩れたもの。土壌化したⅢa層か。5. Ⅲb層。中央が土壌化する。比較的硬かったようで、調査担当者は貼床と推定する。**遺物**: 土器1~5楕円押型文。6~9・12山形押型文。12口縁部と胴部~底部にそれぞれ山形押型文を横位回転押捺する。押型文回転押捺後に頸部の押型文が施文されなかった部分に斜位沈線が施される。底部と胴部の境界には成形時の回転擦痕が見られる。12は竪穴住居内床面から少し浮いた状態ではあるが、略完形の潰れた状態で出土している。10・11縄文施文土器。10縄文RL横位回転押捺。11縄文LR横位ないし斜位回転押捺。粘土紐接合痕跡(擬口縁か)が明瞭に認められる。石器は頁岩やチャート製石鏃(第130図2~6)チャート製二次加工剥片(第135図1・2)頁岩製搔器(第137図2)砂岩製溝砥石(第158図1)花崗岩製台石(第181図1)が出土。**時期**: 12の土器は山形押型文の横位密接施文で頸部に斜位沈線が施される。縄文時代早期中葉山的神遺跡第2段階。

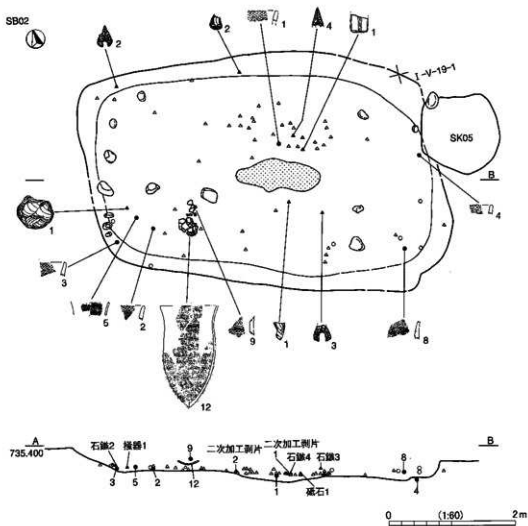
竪穴住居跡SB03 (遺構第28~30図、土器第46図) **位置**: I-V-11 **検出**: Ⅲb層遺構検出段階にⅢa層に対応しない落ち込みが認められたが、Ⅳb層上面まで検出面を下げた状態で平面形が確認された。覆土土層もⅣa層を起源としている。また基本土層トレンチ5の層位に対比するとSB11(③-2段階検出)とほぼ同レベルなので、検出段階は③-2とした。**構造**: 5.2×2.5mの長円形。図上の破線部分はⅢb層検出段階で認識された平面形。炉: 竪穴住居跡の中央よりやや南西よりに0.3~0.5mの不整形な焼土集積が見られる。**切り合い**: SK52aとNR01aに切られる。SK52aとの切り合い関係は、かなり面的に掘り下げた段階で判明したため、SK52aとSB03出土遺物を区分できなかったものがある。よって区分できなかったものが、以下の遺物の項目には含まれている。**土層**: 1. 黒褐色砂質シルトに暗褐色土がブロック状に混じ



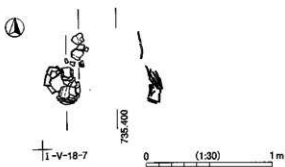
第24図 竪穴住居跡SB01遺構図



第25図 竪穴住居跡SB02遺構図



第26圖 竪穴住居跡SB02遺物出土狀況圖

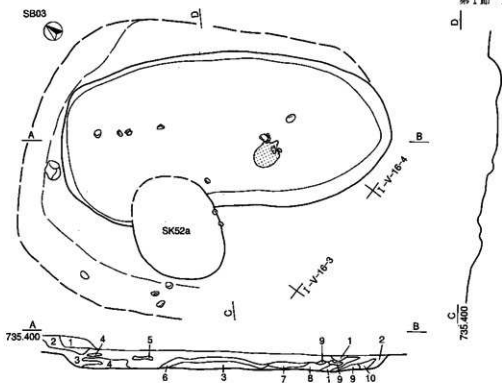


第27圖 竪穴住居跡SB02押型文土器出土狀況圖

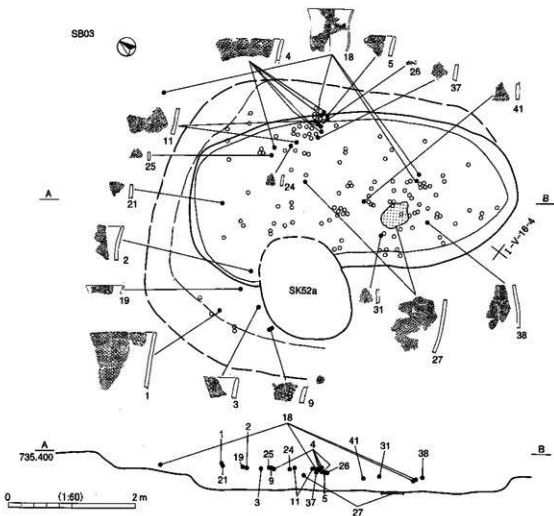
る。2. 暗褐色シルトに黒褐色シルトが少量混じる。3. 黒褐色シルトに暗褐色シルトが少量混じる。4. 褐色シルトに暗褐色シルトが少量混じる。5. 黒褐色砂質シルト。6. 黒褐色シルト中に黄褐色砂がブロック状に混じる。7. 黒褐色の中に暗褐色の小さいブロックが混じる。8. 黄褐色シルトに明黄褐色砂がブロック状に混じる。9. 明黄褐色砂。10. 粘性がある黒褐色シルト。遺物：土器1~17楕円押型文。1口縁部上から横位回転押捺。押型文原体は割付線並行2単位12段、軸長40mm、軸周15mm。2横位回転押捺の後、斜位回転押捺。3割付線並行。4割付線右巻。6割付線平行11段+ α 、軸長35mm+ α 。9・10頸部。9横位・斜位回転押捺し、先端山形工具を頸部に刺突。11~13胴部。13割付線左巻。14~17底部あるいは底部付近。縦位あるいは斜位回転押捺。18~27山形押型文。18口縁部と胴部~底部にそれぞれ山形押型文が横位回転押捺され、最後回転押捺されなかった部分を頸部とする。21~23先端が割れている工具で刺突している。24・25斜行平行細沈線を頸部に施す。21~25の資料だけでは特定できないが、こうした山形押型文の頸部の沈線文や刺突文の原体は回転押型文端部の可能性がある。26ミニチュア土器か。28~30本報告では格子目押型文に分類したが、いわゆるネガ楕円押型文に近いタイプ。31~37異種併用押型文。31~33細密な押型文。31・32複合鋸歯押型文。32複合鋸歯押型文原体は軸長33mm+ α 、軸周18mm。33入れ子状格子目押型文と割付線左巻の楕円押型文を併用したもの。34~36矢羽状押型文と山形押型文を併用したもの。36矢羽状押型文原体の軸長27mm。37楕円押型文と山形押型文を併用したもの。38~40縄文・燃糸文施文土器。38燃糸文。39縄文LR横位回転押捺。40縄文LR横位回転押捺。41粗い条痕文か。42瘤状隆帯貼付土器の口縁部。43細沈線文。石器は、頁岩製石鏃（第130図5・6）、頁岩製搔器（第137図2）、頁岩製削器（第145図2）花崗岩製特殊磨石（第159図1）、安山岩製特殊磨石（第159図2・3）、砂岩製有溝磨石（第158図3）が出土。時期：細密な押型文や異種併用押型文（31~36）が含まれているが、土器の大多数は単一原体の密接施文の押型文であり、18、21~25のように頸部があるものが一定量含まれているので、縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階とする。

竪穴住居跡SB04（遺構第31図、土器第44図）位置：I-V-18・19・23・24 検出：SB01の平面形を検出する際に、SB01の東側で検出された。Ⅲb層を掘り下げている段階で落ち込み自体は認められたが、SB01（③-2）に切られているので、③-2段階検出とする。構造：(3.6)×3.1mの不整形な楕円。SB01に切られているので、長さは不明。炉：竪穴住居跡のほぼ中央に0.5~0.7mの焼土集がある。切り合い：SK51b、SK54を切り、SB01、SK31a、SH01に切られる。土層：4a. 土壌化しない砂と土壌化したシルト質砂がブロック状に混じる。4b. 土壌化した暗色のシルト質砂。5a. 4bより明色の土壌化したシルト混砂。5b. 土壌化しない粗砂。6. 小土坑か。土壌化が進む。遺物：土器、1・2楕円押型文。1口縁部、斜位回転押捺。2横位、縦位密接回転押捺。3~5山形押型文。3口縁部、斜位回転押捺。6縄文施文土器。石器は頁岩製石鏃（第133図1）、黒曜石製搔器（第137図3）が出土。時期：頸部の無文部あるいは文様施文部分がない。異種併用押型文が見られない。口縁部はやや外反し、押型文斜位回転押捺。縄文時代早期中葉山の神遺跡第1段階。

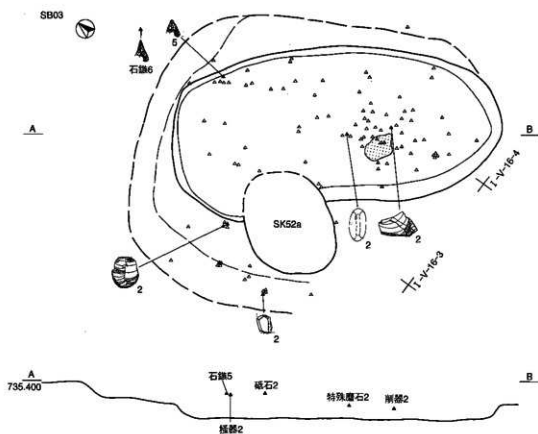
竪穴住居跡SB05（遺構第32図、土器第44図）位置：I-V-19 検出：Ⅱb層を掘り下げ、Ⅲa層中で平面形が検出された。検出段階は②-1。構造：6.6×3.6mの不整形な長円形。炉：竪穴住居跡北東端に径0.3mの焼土集がある。土層：1. Ⅱb層に酷似した土壌化しない砂。2. 少し土壌化した砂。3. 粗砂。遺物：土器、1~4楕円押型文。3槽状押型文を併用。5・6山形押型文。7細沈線文。石器は、黒曜石製石鏃（第130図7）、花崗岩製特殊磨石（第160図7）が出土。時期：資料が非常にすくないが3異種併用押型文があり、検出面も上の層位であるので、縄文時代早期山の神遺跡第3段階とする。



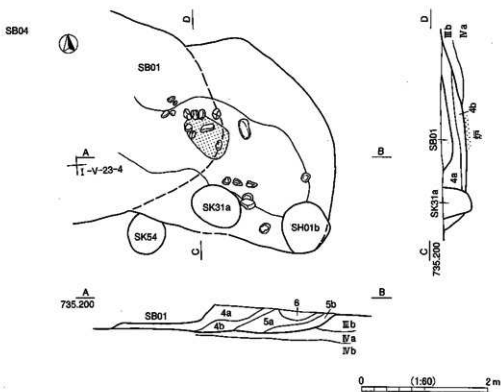
第28図 竪穴住居跡SB03遺構図



第29図 竪穴住居跡SB03土器出土状況図



第30図 竪穴住居跡SB03石器出土状況図



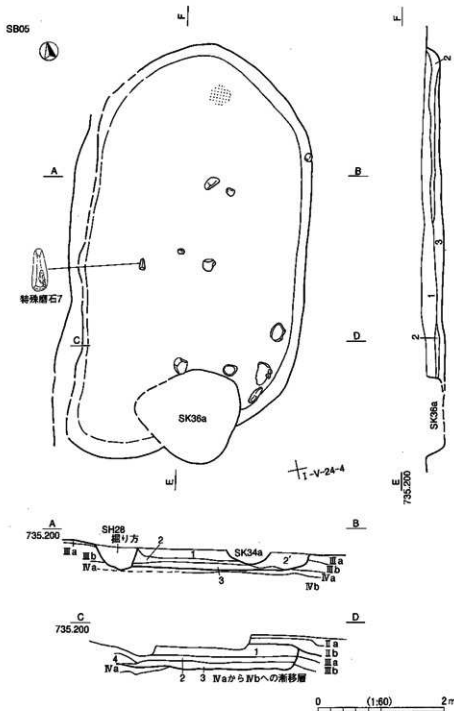
第31図 竪穴住居跡SB04遺構図

竪穴住居跡SB06 (遺構第33・34図、土器第47図) **位置**: I-V-14 **検出**: 遺跡北側に分布するNⅢb層掘り下げている段階で検出されたと思われる。検出段階③-1。 **構造**: (3.4) × 3.4mの隅丸長方形。西側が削平されているので、正確な長さは不明。 **炉**: 竪穴住居跡の中央および東端に0.4~0.6mの焼土や炭化物の集中が見られる。 **切り合い**: SK49bを切り、SK15に切られる。 **土層**: 覆土はNⅢ層(赤みの強い砂層)。Ⅱ~Ⅳ層より火山灰の含有量が多いとされ、軟弱。1. 有機物を含み拳大の礫が多い砂層。2. 有機物を大量に含む拳大の礫が多い砂層。中央ほど土壌化が進む。3. 有機物を少し含む砂層。南側の立ち上がりへの崩落か。 **遺物**: 土器、1~9楕円押型文、1・3口縁部斜位・横位回転押捺。2.2ヵ所に焼成後穿孔がある。筒形孔。4楕円押型文原体の割付線平行、11段、軸長31mm + α。外面に指頭圧痕のこる。6楕円押型文原体割付線右巻。8・9割付線平行。10~13山形押型文、11頸部に先端割れ工具で刺突。14矢羽状押型文、15~18縄文・燃糸文施文土器。15・16縄文R、17燃糸文、18燃糸文Lそれぞれ横位回転押捺。 **時期**: 資料が少ないが、11頸部に刺突文をもつ資料が見られるので、縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階とする。

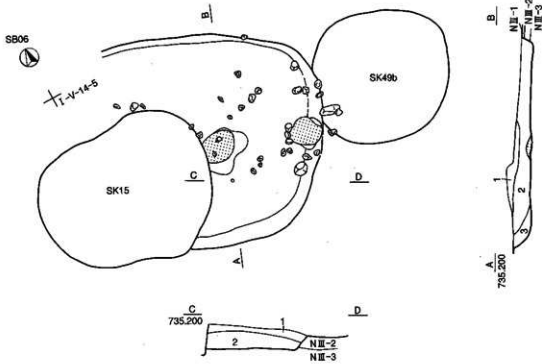
竪穴住居跡SB11 (遺構第35・36図、土器第48図) **位置**: I-V-16 **検出**: 土層観察用トレンチ5の断面で黒色土の落ち込みを認め、竪穴住居跡ではないかと想定した。トレンチ南側を面的下げたところ、Ⅳb層上面で平面形が確認された。検出段階③-2。 **構造**: 5.1 × 3.6mのやや不整形な長方形。立ち上がりははっきりしているが、平坦面ははっきりしない。遺物がやや浮いた状態で、面的に検出されているので、あるいは床面を多少掘り下げてしまった可能性がある。平面形や規模から竪穴住居跡と考えた。 **切り合い**: SK21に切られる。 **土層**: 1. 細礫を多く含む黒褐色砂がブロック状に混じる褐色粗砂。粘性弱い。2. 黒褐色砂が混じる黄褐色砂。粘性弱い。3. 灰褐色細砂。粘性なし。4. 濃い灰褐色細砂。粘性なし。植物根あるいはなんらかの生痕の後に土壌が入ったものかもしれない。 **遺物**: 土器、1~20楕円押型文、1先端山形工具による刺突文。楕円押型文原体の端部で刺突した可能性がある。3・8・9横位・斜位回転押捺。10斜位回転押捺。11・19・20原体の割付線平行。5緩い波状口縁。21~34山形押型文、22・25外面に指頭圧痕のこる。35・36格子目押型文、36やや形が丸みを帯びている「ネガ楕円押型文」に近いタイプ。37・38異種併用押型文、複合鋸歯押型文と楕円押型文を併用。39~51縄文・燃糸文施文土器、39・51無節縄文Rか、40・43~49単節縄文横位回転押捺。41・50燃糸文。石器は、頁岩製石鏃(第130図10)、チャート製石鏃(第130図11)、チャート製二次加工のある剥片(第135図3)、頁岩製搔器(第137図5・6)、チャート製削器(第145図3)、頁岩製削器(第145図4)、頁岩製刃器(第147図1)、花崗岩製特殊磨石(第160図8~11)、安山岩製特殊磨石(第160図12)、花崗岩製磨石(第179図1)、頁岩製磨石(あるいは原石か)(第179図2)が出土している。 **時期**: 異種併用押型文が見られるが、単一原体施文の押型文が圧倒的多数であり、頸部に刺突文をもつ楕円押型文(1)が出土。また検出面もⅣb層上面であるので、縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階とする。

竪穴住居跡SB12 (遺構第37~39図、土器第49図) **位置**: I-U-15-20 **検出**: 土層観察用トレンチ5および7の断面で黒褐色の落ち込みを認めた。規模から竪穴住居跡の可能性が高いと判断し、周辺を慎重に掘り下げたところⅣb層に掘り込まれた遺構であることを確認した。検出段階③-2。 **構造**: 5.7 × 3.8mのやや不整形な隅丸長方形。立ち上がりは西側が比較的明瞭であったようだが、南側はSK49a、SK50、NR01aとの切り合いによって分かりにくい。「床面」はあまり平坦ではないとされるが遺物が面的に平らに出土するので、とくに土壌化した部分を掘り下げすぎたのかもしれない。 **切り合い**: SK49a、SK50、SK71、SK72、SF38、SF39、SF40に切られる。焼土集中(SF38~40)はいずれも竪穴住居跡の範

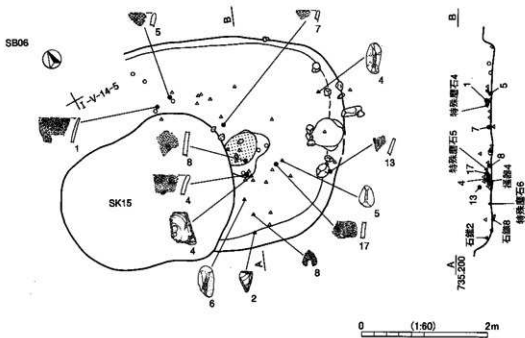
図内で検出されたが、「床面」から浮いていたということから竪穴住居跡廃絶後の活動の痕跡と調査担当者はみなす。土層：覆土はIVa層起源とされる。1. 黒灰色砂をブロック状に含む黒褐色シルト質砂。粘性あり。2. 灰色砂をブロック状に多く含む黒灰色シルト質砂。粘性弱いがしまりよい。3. 黄灰色砂混灰色シルト砂粘性弱い。4. 黄灰色ブロックを多く含む灰色砂質シルト。5. 黄灰色砂質シルトと黒灰色シルトの混じったもの。6. 細礫、灰色シルト質砂を多く含む黒褐色シルト質砂。粘性は弱いがしまりよい。遺物：土器、1～12楕円押型文、1. 頸部に斜行沈線文、横位回転押捺だが、底部付近は縦位。楕円押型文原体は割付線平行13段、軸長28mm。4. 波状か突起状の口縁。楕円押型文原体は割付線平行。8.



第32図 竪穴住居跡SB05遺構図



第33圖 竪穴住居跡SB06遺構圖

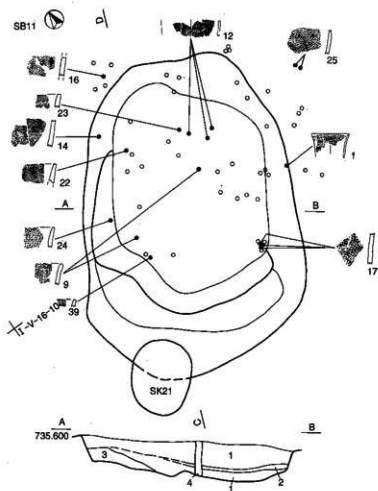


第34圖 竪穴住居跡SB06遺物出土状況圖

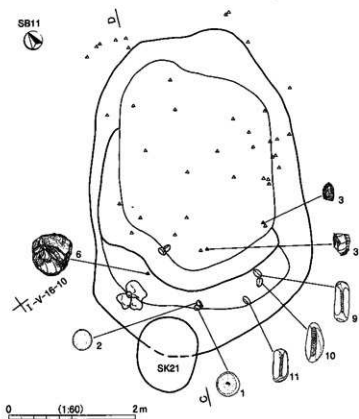
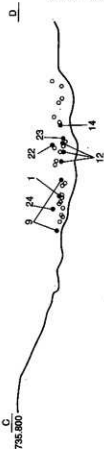
焼成後穿孔痕が二ヶ所みられる。一つは貫通しているが、もう一つは未貫通である。補修孔か。楕円押型文原体は割付線平行2単位8段、軸長34mm + α 、軸周15mm。9. 楕円押型文原体は割付線平行3単位。SB12出土として取り上げられたが、出土状況を検討した結果グリッドI-U-15出土とした。10横位後、斜位回転押捺。楕円押型文原体は割付線平行。11・12底部あるいは底部付近。縦位回転押捺。13~15山形押型文、13口唇部外面、沈線か。15底部。横位後、縦位回転押捺。回転捺痕が見られる。16格子目押型文の底部。17槽状押型文。18・19細密な押型文、18平行+山形押型文。19、3条の縦位平行割付線がある山形押型文。20~22異種併用押型文。20楕円押型文と複合鋸歯押型文の併用。21楕円押型文と斜行+右上・左上斜行押型文の併用。22山形押型文と楕円押型文の併用。出土状況の検討からSK72の出土と判明。23・24縄文、23縄文LR横位、24縄文R斜位回転押捺。25~27撚糸文R、斜位あるいは横位回転押捺。28条痕文か。石器、チャート製石鏃(第130図12・14)、頁岩製石鏃(第130図13・15)、頁岩製二次加工剥片(第135図4)チャート製二次加工剥片・石鏃未製品(第138図14当初、RFあるいは搔器とされた)黒曜石製二次加工剥片・石鏃未製品(第135図5)、頁岩製搔器(第137図7~12)、頁岩製削器(第145図5・6)、器種不明二次加工剥片(第155図1)、安山岩製特殊磨石(第161図13)、砂岩製砥石(第158図3)安山岩製凹石(第179図3)、花崗岩製台石(第181図3)。以上がSB12出土として取り上げられた石器であるが、出土状況の検討により、搔器11、13、14は住居内からの出土が確認されず、グリッドI-U-15出土とした。また玉髓製異形部分磨製石器(第128図29・30)が住居跡覆土かどうか微妙な位置で出土したという。これもグリッドI-U-15出土とする。時期:異種併用押型文が見られるが、遺構の切り合いが激しく、後の時期の遺物が混入した可能性がある。1の楕円押型文をみるように頸部に斜行沈線が見られることを勘案して、縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階。

竪穴住居跡SB13(遺構第40図、土器第47図) 位置: I-U-8・13 検出: 土層観察用トレンチ5で落ち込みが見られた。IVb層上面で平面形を把握することができた。検出段階③-2。構造: 5.9×4.2mの不整形な長円形。立ち上がりはわずかに検出された。床面は比較的平坦である。炉: 中央より北東側に0.3~0.5mの焼土集みがある。土層: 1. 白色砂をやや多く含む褐色シルト質砂。遺物: 土器、1. 異種併用押型文、楕円押型文を竊状に施さない部分を作りながら横位回転押捺後、細密な押型文(平行+斜行)を横位回転押捺する。楕円押型文原体は割付線左巻14段、軸長38mm。細密な押型文原体9段+8本、軸長30mm、軸周19mm。2~5楕円押型文。6山形押型文の頸部に先端割れ工具による刺突。7沈線文。石器は、頁岩製石鏃(第133図3)、頁岩製搔器(第138図15・16、第139図30)頁岩製刃器(第147図2)が出土。時期: 頸部に刺突文を施す山形押型文土器(6)が出土しているが、異種併用押型文土器の比較的良好な資料(1)がまとまっており、判断に迷うが検出段階もIVb層上面であることから、縄文時代早期中葉第2段階とする。

竪穴住居跡SB14(遺構第41図、土器第50図) 位置: I-U-15・V-11 検出: SB12を検出している段階とSB03のトレンチによりIVb層上面で平面形が認められた。構造: 4.4×2.2mの不整形な長円形。立ち上がりはなだらか。切り合い: SK51aに切られる。土層: IVa層起源の褐色砂混じりの灰褐色シルト質粗砂~黒褐色シルト。遺物: 土器、1~10楕円押型文、1・5割付線平行。2外面に指頭圧痕。6割付線左巻。10底部。内面上部にスス附着。内面ススの有無の位置と外面の楕円押型文回転押捺方向の変化する部分が一致している。煮沸時に尖底を埋設する位置と楕円押型文回転押捺方向の変化する部分が一致しているためと思われる。SB14内出土遺物とされたが、出土状況検討の結果SK51a出土と考えられる。11~14山形押型文、12・13頸部に刺突文。14斜位回転押捺。口縁部か。15~17格子目押型文、16・17いわ

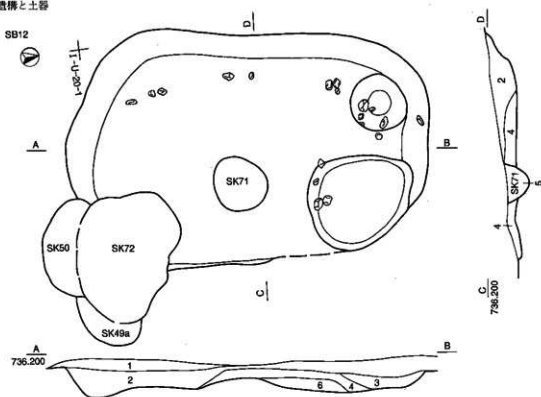


第35図 竪穴住居跡SB11遺構図・土器出土状況図

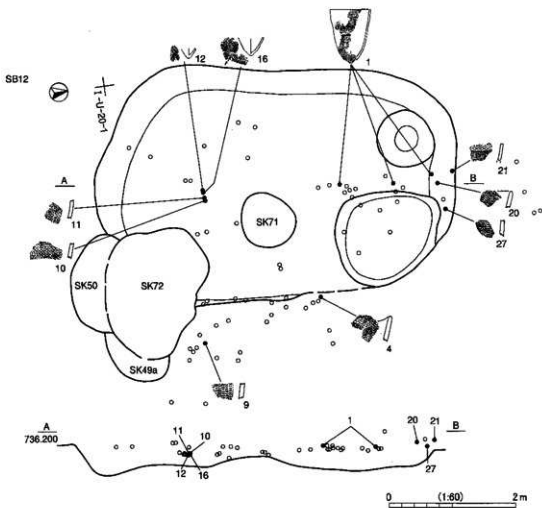


第36図 竪穴住居跡SB11石器出土状況図



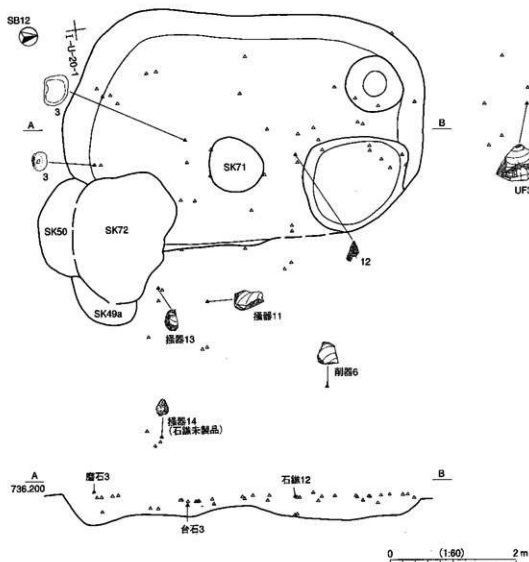


第37図 竪穴住居跡SB12遺構図



第38図 竪穴住居跡SB12土器出土状況図

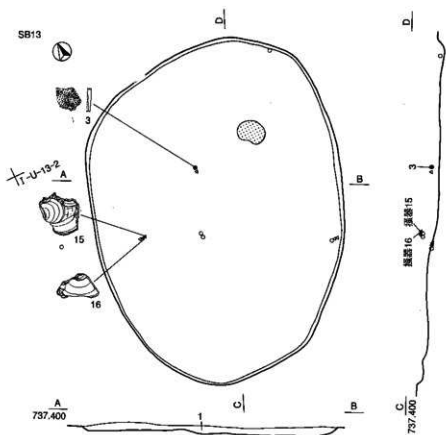
ゆるネガ槽押型文に近いタイプ。18~22異種併用押型文、18~20槽押型文と複合鋸歯押型文の併用。18槽押型文を間隔をあけて横位回転押捺した後、複合鋸歯押型文を横位回転押捺。槽押型文原体は割付線平行2単位9段、軸長31mm、軸周17mm。複合鋸歯押型文原体は1単位、軸長35mm、軸周18mm。19複合鋸歯押型文1単位、軸周15mm。21槽押型文と山形押型文の併用。22槽押型文と細密な押型文（軸周18mmの割付線のある山形押型文）の併用。23・24細密な押型文、軸周18mmの割付線のある山形押型文。22~24は同一個体か。25~35縄文、25・27~29・31・33・34LR、35RL、26・32R、30縄巻縄文（RLに左巻）。なお、29は当初SB14内出土で取り上げられたが、出土状況を検討した結果SK51a出土と判明。石器、チャート製スクレイパー1001、1007頁岩製礫器・石核1013・1018・1020・1105、頁岩製スクレイパー1107、頁岩製微細剥離のある剥片（第136図4）、花崗岩製台石（第181図2）。台石は当初SB14出土とされたが、出土状況をもとにグリッドI-U-15出土。時期：遺構検出はIVb層上面（③-2）であるが、土器の大半は異種併用押型文。出土遺物の大半はSK51aと区別がつかない。縄文時代早期中葉山の神遺跡第2~3段階。



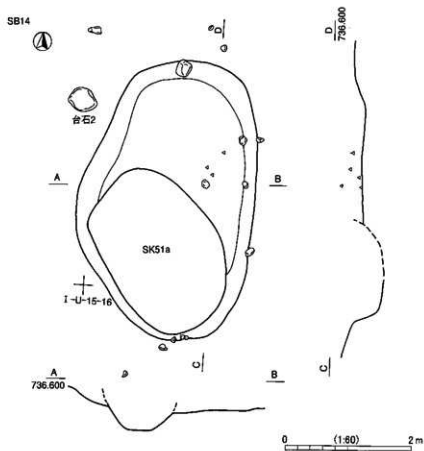
第39図 竪穴住居跡SB12石器出土状況図

竪穴住居跡SB15（遺構第42図、土器第47図） **位置**：I-U-10・15・V-6・11 **検出**：SB14検出時にIVb層上面で検出した。検出段階③-2。 **構造**：4.2×2.7m。不整形な長円形。立ち上がりは比較的是っきりしていた。平坦面が広がり床面と考えられる。東隅に小土坑が検出されたが、あるいは柱穴か。当初土坑SK44としていたが、平坦面が広がることや規模から竪穴住居跡と考えた。 **切り合い**：SK1086・SK1087に切られる。 **土層**：1. 細砂を含む黒褐色シルト。2. 黄褐色砂混褐色シルト質砂。3. 黄褐色砂を少し含む黒褐色シルト質砂。4. 褐色砂混じり黄褐色シルト質砂。 **遺物**：土器、1～7楕円押型文、1・5割付線平行。1横位後斜位回転押捺。内面に未貫通の焼成後穿孔あり。2割付線右巻。7底部、横位後縦位回転押捺。8山形押型文。9縄文RL横位回転押捺。10細沈線文。石器は、頁岩製二次加工のある剥片・石鏃未製品か（第135図6）、頁岩製微細彫刻のある剥片（第136図2）が出土。 **時期**：土器は異種併用押型文がなく、押型文の口縁部破片も基本的に横位回転押捺であり、遺構検出面がIVb層（③-2）ということをお案すると縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階。

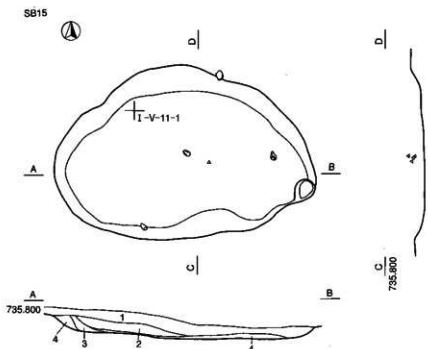
竪穴住居跡SB16（遺構第43図、土器第47図） **位置**：I-V-19・20・24・25 **検出**：土層観察用東西ベルトで落ち込みを認める。IVa層を除去後、IVb層上面で平面形を検出した。検出段階（③-2）。 **構造**：3.8×2.2mのやや不整形な隅丸方形あるいは長円形。東西の立ち上がりは比較的明瞭。当初土坑SK1071としたが平坦面が広がることや規模から竪穴住居跡とした。 **切り合い**：SH15に切られる。 **土層**：1. 黒褐色砂礫混粘土質シルト。しまりよくないが粘性あり。IVa層起源と思われる。 **遺物**：1～5楕円押型文、1～4押型文原体割付線平行、1は9段、軸長35mmか。2は14段、軸長36mmか。5底部。縦位回転押捺。6～8山形押型文9異種併用押型文、格子目押型文と山形あるいは矢羽状押型文を併用。10単節回転縄文。 **時期**：異種併用押型文土器が出土している。縄文時代早期中葉第2・3段階か。



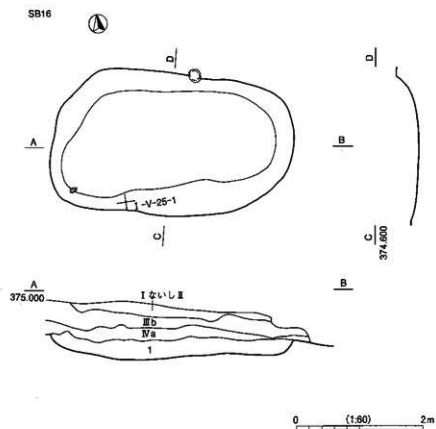
第40図 竪穴住居跡SB13遺構図・遺物出土状況図



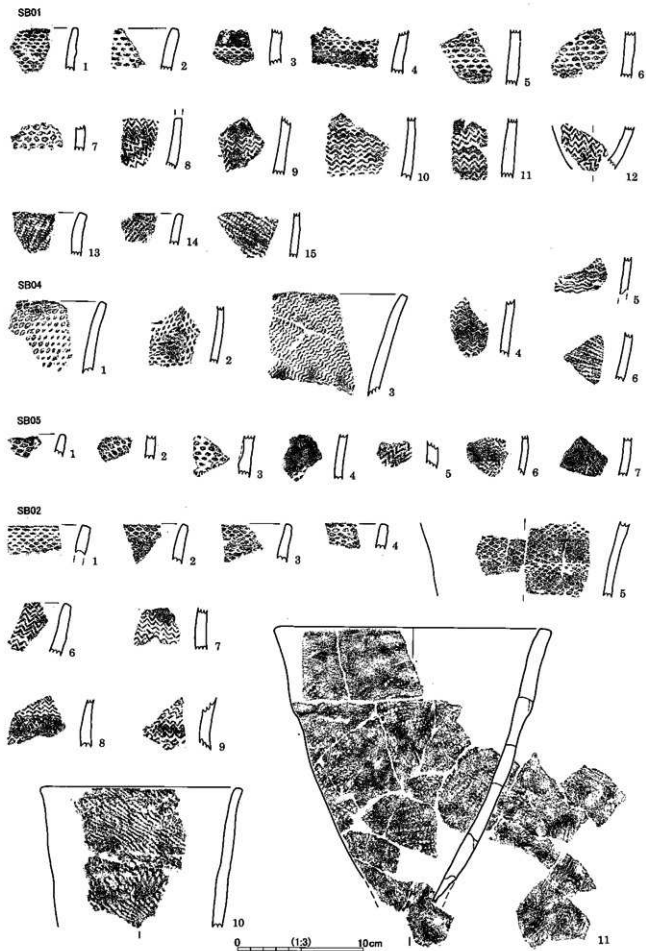
第41図 竪穴住居跡SB14遺構図・遺物出土状況図



第42図 竪穴住居跡SB15遺構図

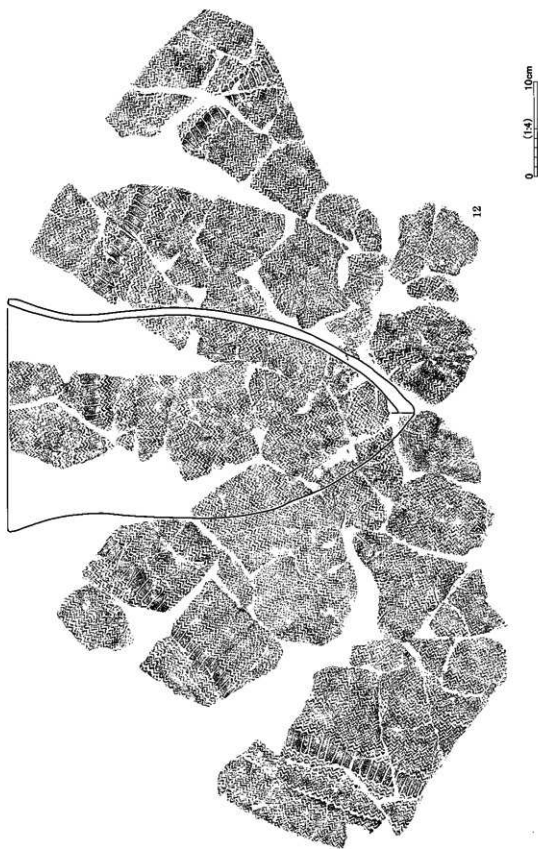


第43図 竪穴住居跡SB16遺構図



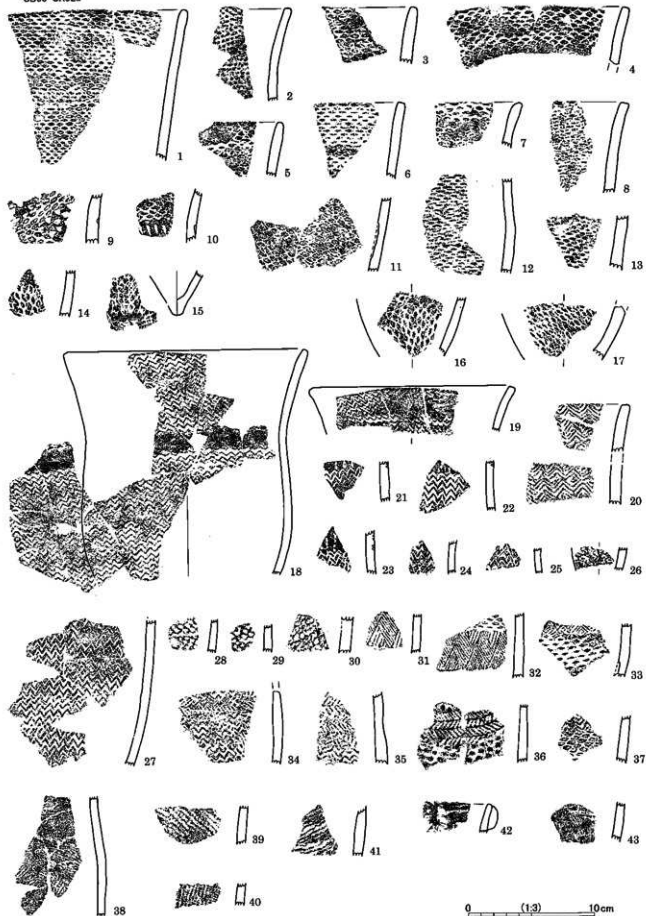
第44図 竪穴住居跡出土土器その1

S802



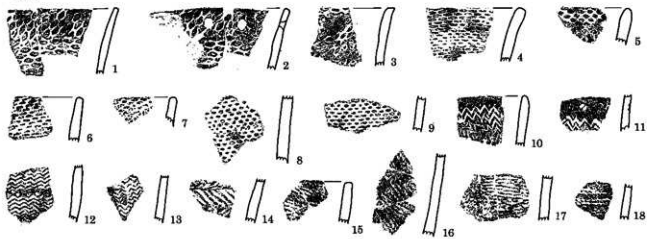
第45図 壑穴住居跡出土土器その2

SB03-SK52a

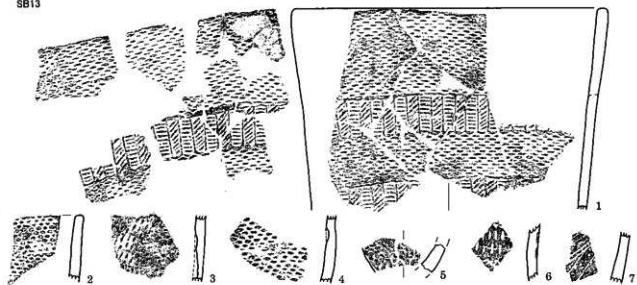


第46図 竪穴住居跡出土土器その3

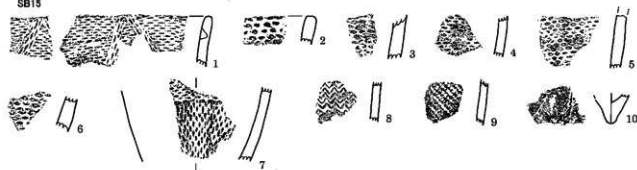
SB08



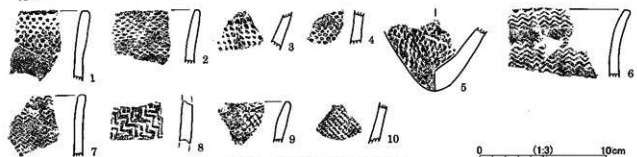
SB13



SB15

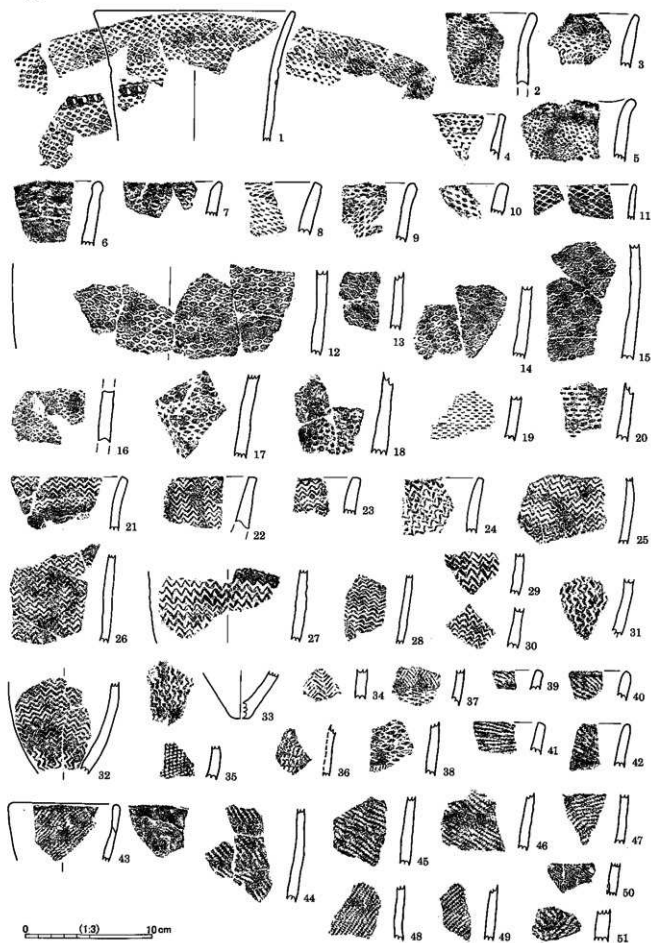


SB16

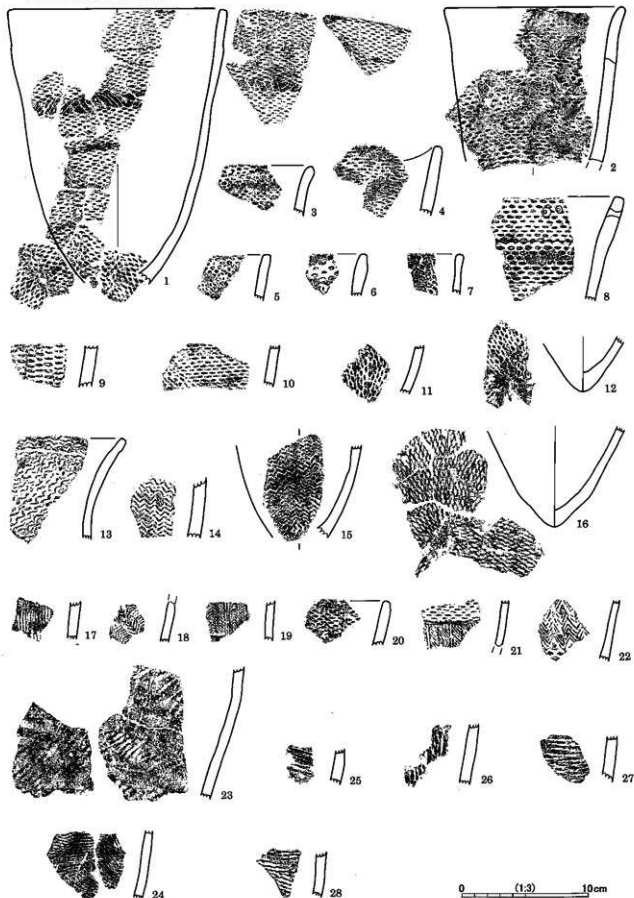


第47図 竪穴住居跡出土土器その4

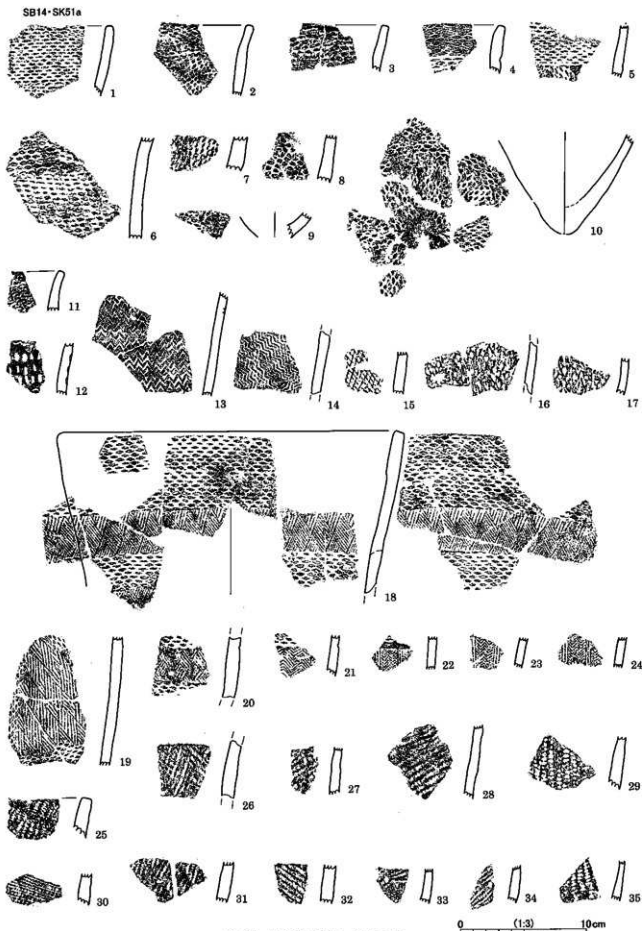
0 (1:3) 10cm



第48図 竪穴住居跡出土土器その5



第49図 竪穴住居跡出土土器その6



第50図 竪穴住居跡出土土器その7

第2節 土 坑

土坑SK01 (遺構第51図、土器第64図) **位置**: I-V-23 **検出**: 土層観察用トレンチ4でⅢb層を切っている落ち込みが見られた。Ⅲb層上面で検出か。検出段階②-2。 **構造**: 径1.9mの略円形。深さは0.6m。土坑底部の南西側に部分的に深くなるところがある。 **遺物**: 土器1~3 楕円押型文、1 口縁部から胴部下半まで横位回転押捺。底部付近は斜位・縦位回転押捺。原体は割付線右巻15段、軸長41mm。2 割付線平行。4 山形押型文。5 縄文LR横位回転押捺。6 沈線文、刺突文。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階。

土坑SK02 (遺構第51図、土器第64図) **位置**: I-V-18 **検出**: 土層観察用トレンチでⅢb層を切っている落ち込みが見られた。検出レベルから見てⅢb層上面で検出されたものと考えられる。検出段階②-2。 **構造**: 1.6×1.1m長円形、深さ0.2m。 **土層**: 1. 土壌化した砂。2. ほとんど土壌化しない赤みがあった砂。3. Ⅲa層のブロックか。若干粘性の強いシルト質砂。 **遺物**: 土器、1・2 楕円押型文。3 山形押型文。石器、チャート製異形部分磨製石器 (第124図1・2)、チャート製削器 (第145図8・9) が出土。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。

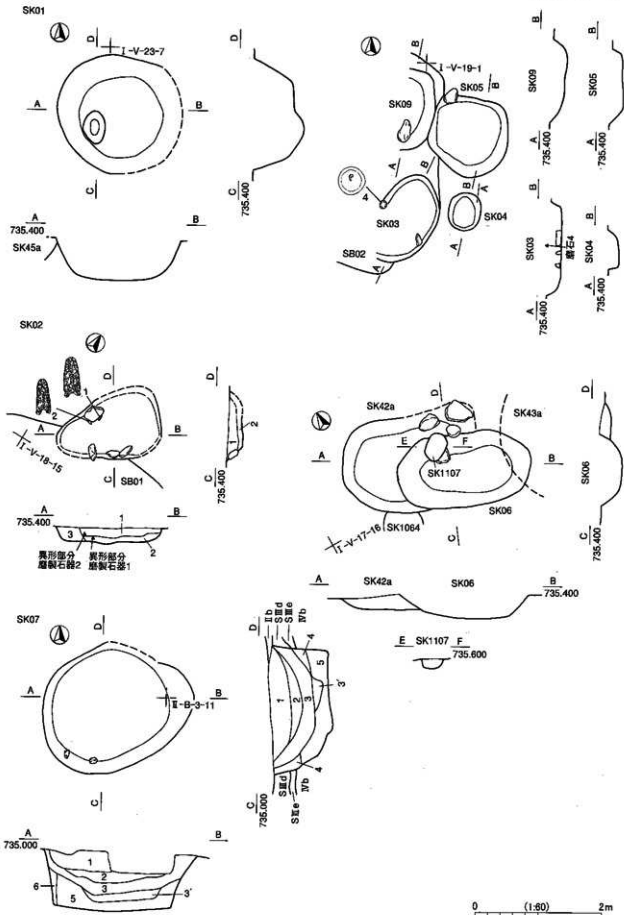
土坑SK03 (遺構第51図、土器第64図) **位置**: I-V-18・19 **検出**: 土層観察用トレンチ4に照合するとⅢa層上位が検出レベルである。SK03が切っている堅穴住居跡SB02が②-2段階で、覆土がSK32a (Ⅱb層覆土、②-1段階) と酷似するとされるので、Ⅲa層上面で検出されたと考えた。検出段階②-1。 **構造**: 1.5×0.9mの楕円形、深さ0.2m。 **切り合い**: SB02を切る。 **土層**: Ⅱb層起源の土と思われる。礫を多く含む。 **遺物**: 土器、1 山形押型文。石器、安山岩製磨石 (第179図4) 出土。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。

土坑SK04 (遺構第51図) **位置**: I-V-19 **検出**: SK03と同様に検出されているので、検出段階②-1。 **構造**: 0.6×0.5mの楕円形、深さ0.2m。 **土層**: Ⅱb層起源の土か。 **遺物**: 石器、頁岩製削器 (第145図10) 出土。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。

土坑SK05 (遺構第51図、土器第64図) **位置**: I-V-19 **検出**: SK03と同様に検出されているので、検出段階②-1。 **構造**: 1.3×1.3m不整形な方形、深さ0.2m。 **土層**: Ⅱb層起源の土か。 **遺物**: 土器、1. 楕円押型文。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。

土坑SK06 (遺構第51図、土器第64図) **位置**: I-V-17・18 **検出**: SK42a、SK1107とともに検出された。SK42aの覆土がⅢb層起源であり、Ⅲa層を除去した段階で検出されたので、検出段階は③-1。 **構造**: 2.2×1.2mの楕円形、深さ0.4m。 **切り合い**: SK1107に切られ、SK43a、SK42aを切る。 **土層**: Ⅲb層起源のあまり土壌化しない砂。 **遺物**: 土器、1・2 楕円押型文。3 山形押型文。4 縄文LR横位回転押捺。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

土坑SK07 (遺構第51図、土器第64図) **位置**: II-B-3 **検出**: 覆土にSⅢa層起源の土壌を含むことから、検出段階②-2。 **構造**: 2.4×2.1mの不整形な長円形。深さ1.0m。底部が平坦で、断面バケツ形を



第51図 土坑遺構図その1

呈す。土層：1. SⅢa層と近似する砂。礫が多いのが特徴的。若干土壌化している。2. 1がさらに土壌化した層。3. 1と近似する。3'・3よりさらに土壌化しない赤味の強い明色の砂層。4. 粘土質砂。土壌化が著しい。5. 細砂。かなり土壌化する。有機物のブロックを含む。6. 有機物を含まない土壌化した細砂。遺物：1. 楕円押型文。2. 複合鋸歯押型文。3. 沈線文。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。

土坑SK09 (遺構第51図) 位置：I-V-18・19 検出：SK03、SK04、SK05と同様に検出されているので、検出段階②-1。構造：1.3×(0.5)mの長円形、深さ0.2m。切り合い：SB02を切る。

土層：Ⅱb層起源の土か。遺物：頁岩製二次加工のある剥片(第135図7)。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。

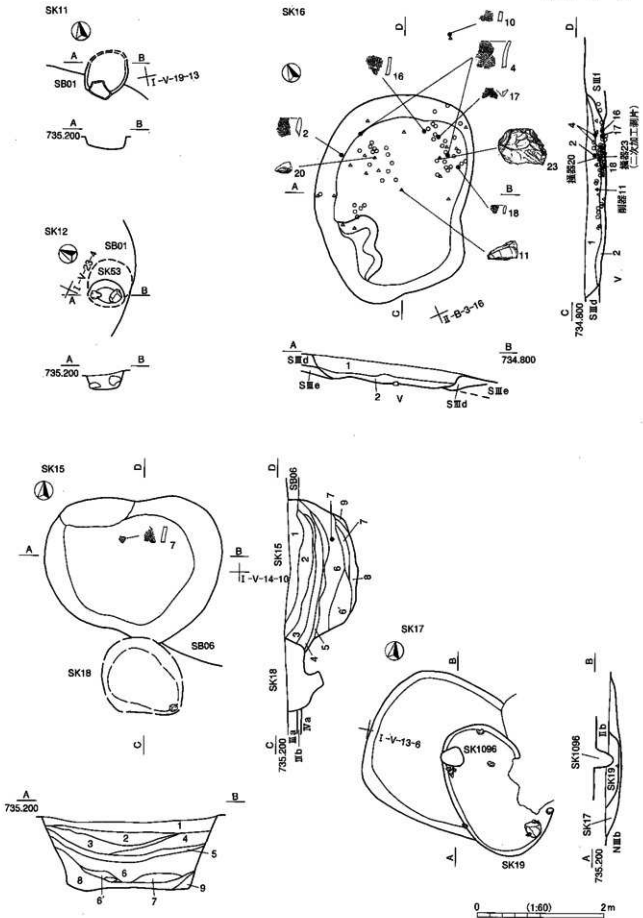
土坑SK11 (遺構第52図) 位置：I-V-18 検出：Ⅲb層掘り下げたところおそらくⅣa層上面で落ち込みを検出。検出段階③-1。構造：0.8×0.7m不整形な長円形。深さ0.2m 切り合い：SB01を切る。土層：1. 赤みの強い砂。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

土坑SK12 (遺構第52図) 位置：I-V-23 検出：SK11同様に検出されるので、検出段階③-1。構造：0.6×(0.4)mの長円形か。深さ0.3m。切り合い：SK53を切り、SK12に切られる。土層：Ⅲb層起源であるが多少土壌化する。木の根がはいりわかりにくい。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階。

土坑SK13 位置：I-V-18 土層断面がSB01断面図にあるが、平面図や検出面など詳細不明。

土坑SK14 (遺物第64図) 位置：I-V-13 遺構図なし。遺物：土器、1～5楕円押型文横位回転押捺。3押型文原体割付線左巻、楕円の刻みが回転軸に斜交する。4・5割付線平行、6・8～10異種併用押型文。6楕円押型文と櫛状押型文の併用。楕円押型文原体の割付線右巻、8+α段、軸長32mm+α。櫛状押型文割付線平行6単位、軸周16mm。8楕円押型文と格子目押型文の併用。9・10楕円押型文と複合鋸歯押型文の併用。11然糸文L横位回転押捺か。12網目状然糸文L。石器、頁岩製搔器(第138図21・22) 時期：遺物の時期は縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階。

土坑SK15 (遺構第52図、土器第64図) 位置：I-V-13・14 検出：SK15がSB06(③-1)を切っており、さらに覆土が土壌化されていたこと、また土層観察用トレンチ4でNⅢb層を切っているため、Ⅲa層覆土、NⅢb層上面で検出されたものと判断した。よって検出段階②-2。構造：2.8×2.4mの不整形な長円形、深さ1.2m。底部が平坦で、断面はバケツ形を呈す。切り合い：SB06を切り、SK18に切られる。土層：1. Ⅱb層を起源とするやや土壌化した粘土混砂。ブロック状に黒色土を含む。2. Ⅱb層および黒色土をブロック状に含むシルト質砂。3. 白味がかかったシルト質砂。明瞭なレンズ状堆積。4. 2と同質だが、ブロックを含まない暗色シルト質砂。6. 黄色砂をブロックに含む黒色シルト。6'・6と似る黒色砂質シルト。6"・6と同質、有機物がより多い。7. 砂。8. 土壌化した砂に黄色砂がブロック状に混じる。9. 基盤の砂。東北側立ち上りの崩壊土か。遺物：土器、1～5楕円押型文、3割付線平行2単位か、14段+α、軸長30mm+α。5横位後、縦位回転押捺。6・7山形押型文。8異種併用押型文、楕円押型文と山形押型文を併用。9～12回転縄文。13網目状然糸文。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第



第52図 土坑遺構図その2

3段階。

土坑SK16 (遺構第52図、土器第65図) **位置**: II-B-3 **検出**: SIII層を掘り下げる過程で検出か。検出段階②-2とする。**構造**: 3.3×2.4mの不整形な隅丸長方形、深さ0.4m。**土層**: 1. 黒色土をブロック状に含む砂。2. 黒色土が全体的に多い砂。2層の立ち上がりは明瞭だったが、1層は不鮮明。覆土はIVa層に似ていたという注記もある。**遺物**: 1～3 楕円押型文。4～9 山形押型文。10格子目押型文。11～14異種併用押型文。11口唇宛工具による連続刻みあるいは櫛状押型文と楕円押型文の併用。12楕円押型文横位回転押捺後、山形押型文斜位回転押捺。13楕円押型文と複合鋸歯押型文の併用。14楕円押型文と山形押型文の併用。山形押型文原体は端部が平坦。15・17回転縄文。16撚糸文。17底部。18指頭瓦痕が外面に残るミニチュア土器。石器、頁岩製搔器(第138図20)、頁岩製二次加工剥片あるいは搔器(第138図23)、頁岩製削器(第145図11)。**時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階。

土坑SK17 (遺構第52図、土器第65図) **位置**: I-V-13 **検出**: IIb層除去後、落ち込みが認められた。NIII層中を掘り下げた段階で平面形が判明。検出段階②-1。**構造**: (2.5)×2.4mの隅丸長方形か、深さ0.25m。**切り合い**: SK19に切られる。**土層**: 黒色土を多く含むNIII層起源のシルト質砂。**遺物**: 土器、1～3 楕円押型文。4 山形押型文。5 矢羽状押型文。6 細条線か。**時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階。

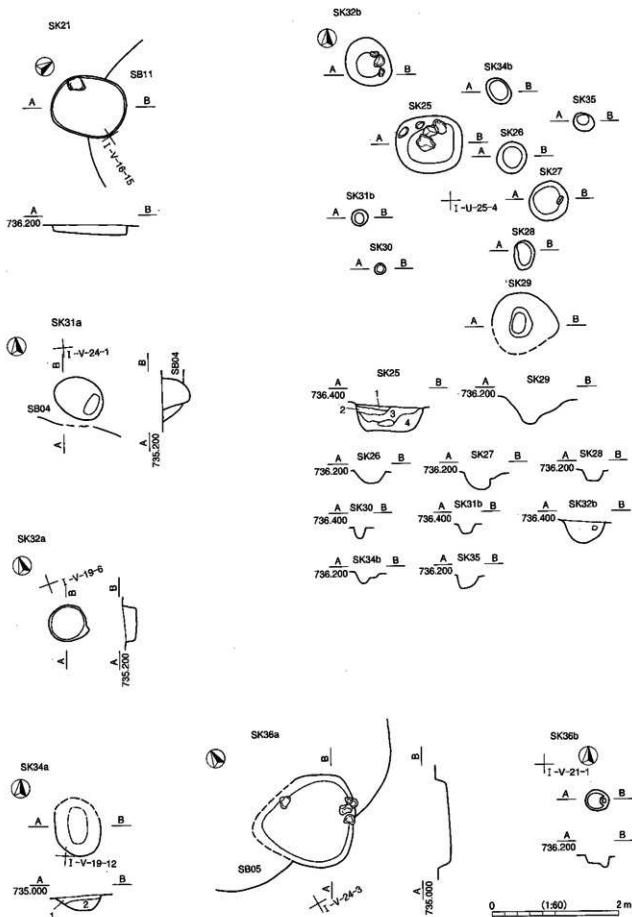
土坑SK18 (遺構第52図、土器第65図) **位置**: I-V-14 **検出**: IIb層を覆土に含むということから、IIIa層上面で検出か。検出段階②-1。**構造**: 1.5×1.2mの卵形、深さ0.6m。**切り合い**: SK15を切る。**土層**: IIb層がブロック状に含む赤みがかった土壌化した砂。**遺物**: 1・2・4・5 楕円押型文。3 無文土器の底部。**時期**: 層位から縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階。

土坑SK19 (遺構第52図、土器第65図) **位置**: I-V-13 **検出**: IIb層除去後、落ち込みが認められた。NIII層中を掘り下げた段階で平面形が判明。検出段階②-1。**構造**: 2.2×1.3mの楕円形、深さ0.2m。**切り合い**: SK17を切り、SK1096、SH10に切られる。**土層**: 黒色土を多く含む赤みの強いNIII層を起源とする砂。**遺物**: 土器、1～4 楕円押型文、3 刺突文も施される。頸部か。5 山形押型文。6・7 格子目押型文。**時期**: 検出段階からみて縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。

土坑SK21 (遺構第53図) **位置**: I-V-16 **検出**: IVb層上面で検出されたSB11とほぼ同時に検出されているので、検出段階は③-2。**構造**: 1.2×0.9mの隅丸方形、深さ0.2m。**切り合い**: SB11を切る。**土層**: IVa層起源の土壌化した砂質シルトか。**時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

土坑SK25 (遺構第53図、土器第65図) **位置**: I-U-20 **検出**: 覆土はかなり土壌化している。検出面のレベルを土層観察用トレンチの断面と対比するとIVb層に対応する。よって、IVb層上面で検出されたと考えられる。検出段階③-2。**構造**: 1.1×0.9mの隅丸方形、深さ0.5m。**土層**: 1. 暗褐色土。2. 黒褐色土。3. 灰黄褐色土。4. 褐色砂混じりシルト。**遺物**: 1～3 楕円押型文。2 上部に焼成後穿孔の下端あり。3 横位縦位回転押捺。4・5 平行沈線文。**時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階。

土坑SK26 (遺構第53図) **位置**: I-U-20 **検出**: SK25と同じ、検出段階③-2。**構造**: 径0.5m



第53図 土坑遺構図その3

の円形、深さ0.2m。土層：IVa層起源の土か。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

土坑SK27（遺構第53図）位置：I-U-20・25 検出：SK25と同じ、検出段階③-2。構造：径0.6mの円形、深さ0.2m。土層：粗砂を含む灰色シルト。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

土坑SK28（遺構第53図）位置：I-U-20 検出：SK25と同じ、検出段階③-2。構造：0.5×0.3mの長円形、深さ0.2m。土層：IVa層起源の土か。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

土坑SK29（遺構第53図）位置：I-U-25 検出：SK25と同じ、検出段階③-2。構造：1.1×1.0mの不整形な円形、深さ0.4m。土層：IVa層起源の土か。遺物：1・2楕円押型文。3黒鉛を含む山形押型文（沢式）。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第1・2段階。

土坑SK30（遺構第53図）位置：I-U-25 検出：SK25と同じ、検出段階③-2。構造：径0.2mの円形、深さ0.2m。土層：IVa層起源の土か。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

土坑SK31a（遺構第53図）位置：I-V-23・24 検出：SB04（③-2）検出時に落ち込みを認めた。小礫が集中するので、土坑と判断した。検出段階③-2。構造：0.8×0.6mの長円形、深さ0.5m。切り合い：SB04を切る。土層：黒色土をブロック状に含むシルト質砂。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

土坑SK31b（遺構第53図）位置：I-U-25 検出：SK25と同じ、検出段階③-2。構造：径0.3mの円形、深さ0.15m。土層：IVa層起源の土か。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

土坑SK32a（遺構第53図）位置：I-V-19 検出：Ⅲa層上面で検出。検出段階②-1。構造：径0.6mの円形、深さ0.2m。土層：Ⅱb層起源の土。SK3などに酷似する。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階。

土坑SK32b（遺構第53図、土器第65図）位置：I-U-20 検出：SK25と同じ、検出段階③-2。構造：0.8×0.7mの卵形、深さ0.4m。切り合い：SH21に切られる。土層：褐色砂を少し含む灰色粗砂。遺物：1・2楕円押型文、1横位回転捺捺割付線右巻。2縦位回転捺捺底部。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階。

土坑SK34a（遺構第53図）位置：I-V-19 検出：覆土土層がIVa層起源により、検出段階③-2。構造：0.9×0.7mの長円形、深さ0.2m。切り合い：SB05に切られる。土層：1. 黒色土をブロック状に混じるシルト質砂。2. 黒色土を多く含むシルト質砂。IVa層起源の土。遺物：土器、1. 楕円押型文。2. 山形押型文。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

土坑SK34b（遺構第53図）位置：I-U-20 検出：SK25と同じ、検出段階③-2。構造：0.4×0.3mの長円形、深さ0.2m。切り合い：SH21が上位に位置する。土層：IVa層起源の土か。

時 期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

土坑SK35 (遺構第53図) 位 置：I-V-16 検 出：SK25と同じ、検出段階③-2。構 造：径0.3mの不整形な円形、深さ0.2m。土 層：IVa層起源の土か。時 期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

土坑SK36a (遺構第53図、土器第65図) 位 置：I-V-19 検 出：SB05と同じ検出面、よって検出段階②-1。構 造：1.7×1.5mの卵形、深さ0.2m。切り合い：SB05を切る。土 層：黒色土をブロック状に含む明色の砂。遺 物：土器1、山形押型文。時 期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。

土坑SK36b (遺構第53図) 位 置：I-V-21 検 出：検出面のレベル土層観察用トレンチ5のIVa層下位に対応。検出段階③-2。構 造：0.4×0.3mの長円形、深さ0.2m。土 層：IVa層起源の土か。時 期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

土坑SK37a (遺構第54図、土器第65図) 位 置：I-V-18 検 出：SB01 (③-2) に切られているので、検出段階③-2。構 造：1.7×1.1mの不整形な長円形。切り合い：SK43aを切り、SB01に切られる。土 層：SB01の覆土に酷似するシルト質砂。遺 物：土器、1～3楕円押型文、1・2横位および斜位回転捺捺。4異種併用押型文、山形押型文と楕円押型文の併用。時 期：異種併用押型文土器があるが、山の神遺跡第3段階特徴的な資料ではない。層位から縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階と推定。

土坑SK37b (遺構第54図) 位 置：I-V-16・21 検 出：覆土がIVa層起源ということから検出段階③-2。構 造：径1.2mの不整形な円形、深さ0.3m。切り合い：SK39と切り合うが先後関係不明。SH37が上位に位置する。土 層：IVa層起源の土。時 期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

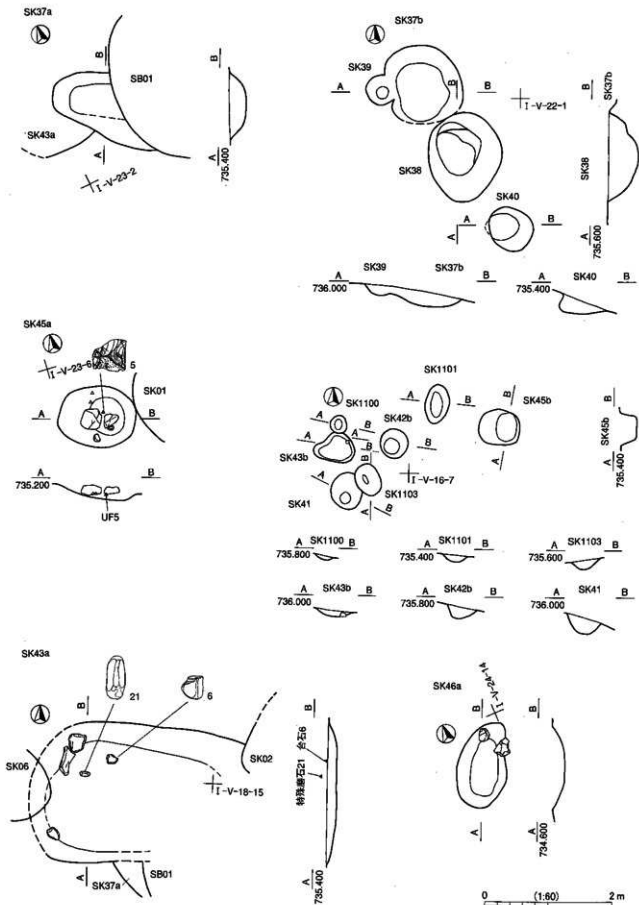
土坑SK38 (遺構第54図、土器第65図) 位 置：I-V-21 検 出：SK37bと同じ検出段階③-2。構 造：1.4×1.2mの長円形、深さ0.5m。土 層：IVa層起源の土。遺 物：土器、1～3楕円押型文、2・3外面に指頭圧痕残る。3底部。縦位後、横位回転捺捺。4山形押型文。石器、花崗岩製特殊磨石(第162図20)出土。時 期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階。

土坑SK39 (遺構第54図) 位 置：I-V-16 検 出：SK37bと同じ検出段階③-2。構 造：径0.5mの円形、深さ0.2m。切り合い：SK37bと切り合うが先後関係不明。土 層：IVa層起源の土。時 期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階。

土坑SK40 (遺構第54図) 位 置：I-V-21・22 検 出：SK37bと同じ検出段階③-2。構 造：径0.7mの不整形な円形、深さ0.3m。土 層：IVa層起源の土。時 期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階。

土坑SK41 (遺構第54図) 位 置：I-V-16 検 出：南北土層観察用ベルトに断面がかかった。SⅢ層f(最下位)の落ち込み。よって検出段階②-2。構 造：0.6×0.5mの長円形、深さ0.6m。切り合い：SK1103に切れ、SK1102を切る。土 層：花崗岩粒、褐色砂粒を含む黒色粗砂。遺 物：

第4章 遺構と土器



第54図 土坑遺構図その4

土器、1～3 楕円押型文、1 割付線平行。4・5 異種併用押型文、楕円押型文と複合鋸齒押型文の併用。5 楕円押型文と格子目押型文の併用。時 期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階。

土坑SK42a (遺構第51図) 位 置：I-V-17・18 検 出：SK06、SK1107とともにIVa層上面で検出された。検出段階は③-1。構 造：2.2×1.6m長円形か、深さ0.2m。切り合い：SK1107、SK06に切られ、SK1064を切る。覆 土：Ⅲb層起源。周囲より土壌化が少ない明白色砂。大きな礫が混入する。時 期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階。

土坑SK42b (遺構第54図) 位 置：I-V-16 検 出：SK41と同じ検出段階②-2。構 造：径0.5mの円形、深さ0.2m。土 層：褐色砂混じりの黒褐色シルト質粗砂。時 期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。

土坑SK43a (遺構第54図、土器第66図) 位 置：I-V-18 検 出：IVa層上面で検出。検出段階③-1。構 造：(3.3)×2.2mの長円形か。深さ0.2m。切り合い：SK37a、SB01を切り、SK06a、SK02に切られる。土 層：Ⅲb層起源で黒色土を少し含む。遺 物：土器、1～3 楕円押型文、1・2 横位回転押捺。1 楕円押型文原体割付線右巻7段、軸長34mm。2 割付線平行。3 斜位あるいは縦位回転押捺。4 格子目押型文。5 回転縄文LR。石器は安山岩製特殊磨石(第162図21)、安山岩製台石(第181図6)出土。時 期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

土坑SK43b (遺構第54図) 位 置：I-V-16 検 出：SK41と同じ検出段階②-2。構 造：0.6×0.5mの不整形、深さ0.1m 切り合い：SK1100に切られる。土 層：褐色砂混じりの黒褐色シルト質砂。時 期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。

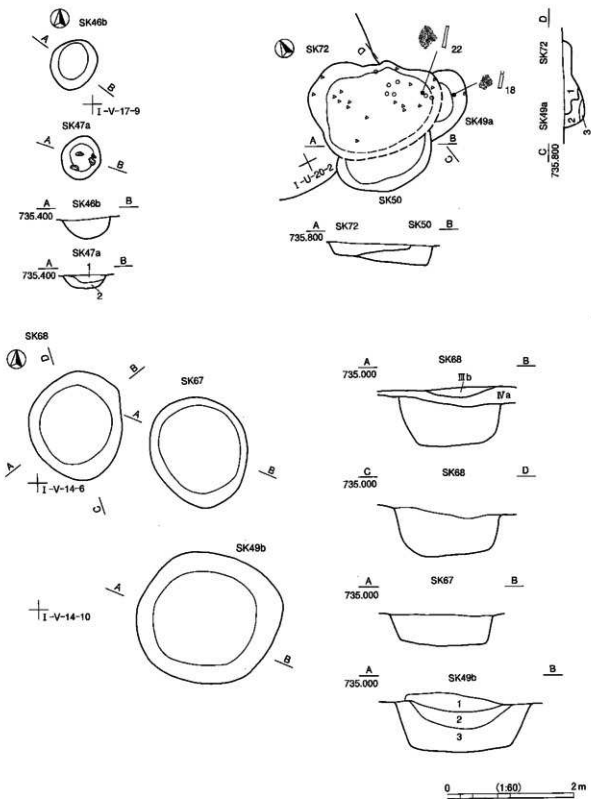
土坑SK44a 壁穴住居跡SB15に変更。

土坑SK45a (遺構第54図、土器第66図) 位 置：I-V-23 検 出：土層観察用トレンチ4に対比するとⅢb～IVa層の漸移層に対応する。検出段階②-2か。構 造：1.2×1.0mの長円形、深さ0.3m。切り合い：SK01に切られる。土 層：Ⅲb層起源の土か。遺 物：土器、1 縄文LR斜位回転押捺。石器は、頁岩製微細剥離のある剥片(第136図5)出土。時 期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。

土坑SK45b (遺構第54図) 位 置：I-V-16 検 出：SK41と同じ検出段階②-2。構 造：0.6×0.5mの長円形。土 層：SⅢ層起源の土。時 期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。

土坑SK46a (遺構第54図) 位 置：I-V-24 検 出：土層観察用トレンチ4に対比するとIVa層上面に対応。検出段階③-1。構 造：1.4×0.8mの長円形、深さ0.2m。土 層：人頭大の花崗岩礫が入るⅢb層起源の土。時 期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

土坑SK46b (遺構第55図) 位 置：I-V-16・17 検 出：土層観察用トレンチ5に対比するとIVb層上面に対応。検出段階③-2。構 造：0.8×0.7mの長円形、深さ0.2m。土 層：IVa層起源の土。遺 物：1～3 楕円押型文。時 期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。



第55図 土坑遺構図その5

土坑SK47a (遺構第55図、土器第66図) **位置**: I-V-17 **検出**: SK46bと同じ検出段階③-2。

構造: 0.7×0.6mの長円形、深さ0.3m。 **土層**: 1. 灰褐色シルト質砂。2. 黄褐色砂、細礫を含む黒褐色シルト質砂。 **遺物**: 1・2 楕円押型文、1 瘤状突起貼付。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

土坑SK49a (遺構第55図、土器第66図) **位置**: I-U-15・20 **検出**: SB12 (③-2) を切っけはいるが、SK50、SK72などの区別が難しかったこと、検出レベルがほとんど同じことから検出段階③-2とする。 **構造**: 1.0×(0.8)mの長円形か。深さ0.3m。 **切り合い**: SK50、SK72に切られる。

土層: 2. 黒褐色砂質シルト。3. 褐色シルトのブロックが混じる暗褐色砂質シルト。 **遺物**: 楕円押型文1～5、3押型文原体割付線右巻7段、軸長25mm。4・5 底部付近、4 斜位後横位回転押捺。5 斜位回転押捺。6 山形押型文。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階。

土坑SK49b (遺構第55図、土器第66図) **位置**: I-V-14 **検出**: 土層観察用トレンチ4と対比するとIVb層上面に検出面が対応。検出段階③-2。当初規模や底部の平坦面の存在から堅穴住居跡SB07として調査した。 **構造**: 2.4×2.1mの長円形、深さ0.4m。SK07のような底部が平坦な断面バケツ形。

切り合い: SB06・SH54に切られる。 **土層**: 1. IIIb層。2. IVa層相当の黒褐色砂礫混粘土質シルト。3. SK49b覆土。黄褐色砂質シルト～礫混シルト質砂がブロック状に含まれる褐色礫混砂質シルト。 **遺物**: 1～6 楕円押型文、11口唇部横位、口縁部縦位回転押捺。2 瘤状突起貼付後、斜位回転押捺。内面に指頭圧痕残る。5・6 原体割付線並行。7・8 山形押型文、7口唇部横位後、口縁部斜位回転押捺。山形押型文施文後、頸部の押型文無文部にヘラ状工具による縦位沈線施文。9 格子目押型文。10 異種併用押型文、楕円押型文と格子目押型文を併用。楕円押型文原体、割付線右巻10段、軸長28mm。11 矢羽状押型文。12・13・15 単節縄文の横位回転押捺。14 網目状燃糸文L。石器は、頁岩製石鏃 (第130図21)、チャート製石鏃 (第133図5)、頁岩製礫器・石核 (第147図6～8) が出土。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階。

土坑SK50 (遺構第55図、土器第66図) **位置**: I-U-20 **検出**: SK49aと同じ検出段階③-2。

構造: 1.6×(0.4)mの長円形か。深さ0.3m。 **切り合い**: SB12、SK49aを切り、SK72に切られる。

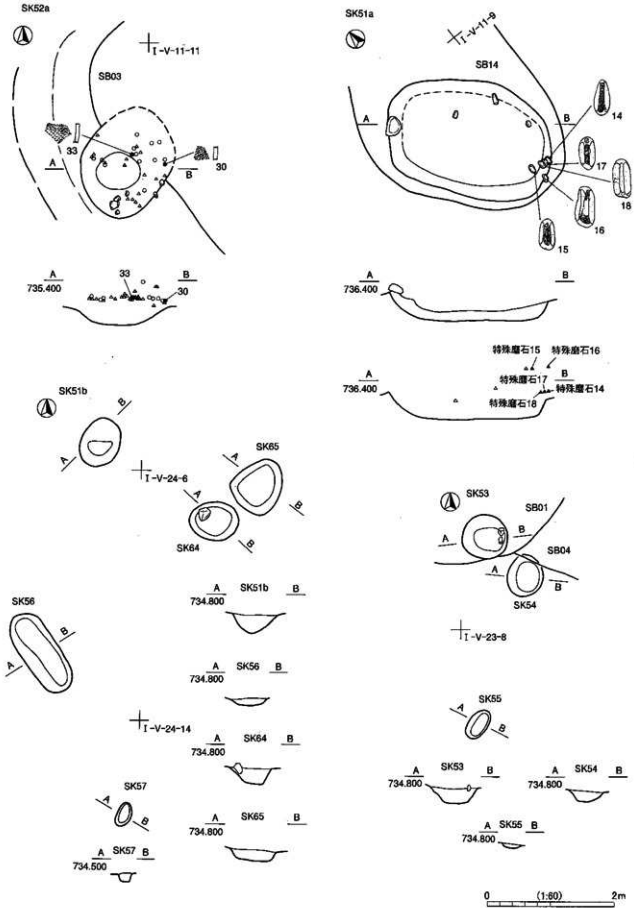
土層: IVa層起源の土か。 **遺物**: 土器、1 原体割付線平行の楕円押型文。2 山形押型文。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

土坑SK51a (遺構第56図、土器第66図) **位置**: I-U-12・V-11 **検出**: IVb層上面で検出。検出段階③-2。 **構造**: 2.6×1.8mの長円形、深さ0.5m。 **切り合い**: SB14を切り、SF41に切られる。

土層: 小礫と黄褐色シルトがブロック状に混じる褐色砂質シルト。 **遺物**: 土器、1・2 山形押型文。石器は花崗岩製特殊磨石 (第161図14～19)、花崗岩製台石 (第181図4) が出土。このほかSB14として取り上げられた遺物の中にSK51a出土遺物が含まれるが、識別できなかった。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

土坑SK51b (遺構第56図) **位置**: I-V-24 **検出**: IVb層上面検出。検出段階③-2。 **構造**: 0.8×0.6mの楕円形、深さ0.4m。 **切り合い**: SB04に切られる。 **土層**: 黄褐色シルトを小ブロック状に含む灰褐色シルト質粗砂。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

第4章 遺構と土器



第56図 土坑遺構図その6

土坑SK52a (遺構第56図) **位置**: I-V-11 **検出**: IIIb層上面ですでにSB03などの落ち込みが認められたが、平面形はIVa層を除去した段階でSB03とともに把握できた。よって検出段階③-2。

構造: 1.8×1.3mの不正形な長円形、深さ0.3m。 **切り合い**: SB03を切る。 **土層**: IVa層起源の土か。 **遺物**: SK52a出土遺物はすべて、SB03として現場では取り上げているので、SB03出土遺物の中に混在している(土器は第46図参照)。その中で、出土状況を検討した結果、第46図33だけはSK52a出土と限定できた。土器、33異種併用押型文、入れ子状格子目押型文と割付線左巻捲円押型文の併用。 **時期**: SK52aの調査所見ではIVb層上面で検出されているが、SB03(③-2)を切っていることや土器が山の神遺跡第3段階であるので、1点だけと極めて限定された資料なので、調査所見を優先したが、時期的に下る可能性はある。縄文時代早期中葉山の神遺跡第2・3段階。

土坑SK52b (遺構第57図) **位置**: I-V-18 **検出**: IVb層上面で検出。検出段階③-2。 **構造**: 1.0×0.8mの長円形、深さ0.4m。 **土層**: 1. 黄褐色砂を少量含む灰褐色シルト質砂。2. 小礫を少し含む黒褐色シルト質砂。 **遺物**: チャート製石鏃(第130図22)出土。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

土坑SK53 (遺構第56図) **位置**: I-V-23 **検出**: SB01完掘後、IVa層を掘り下げたところ検出された。よって検出段階は③-2。 **構造**: 径0.7mの円形、深さ0.2m。 **切り合い**: SB01に切られる。 **土層**: 黄褐色シルトを少し含む褐色シルト質砂。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

土坑SK54 (遺構第56図) **位置**: I-V-23 **検出**: SK53と同じ段階で検出。検出段階③-2。 **構造**: 0.7×0.6mの長円形、深さ0.2m。 **切り合い**: SB04に切られる。 **土層**: 黒褐色シルト質粗砂。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

土坑SK55 (遺構第56図) **位置**: I-V-23 **検出**: SK53と同じ段階で検出。検出段階③-2。 **構造**: 0.5×0.3mの長円形、深さ0.1m。 **土層**: 黒褐色シルト質砂。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

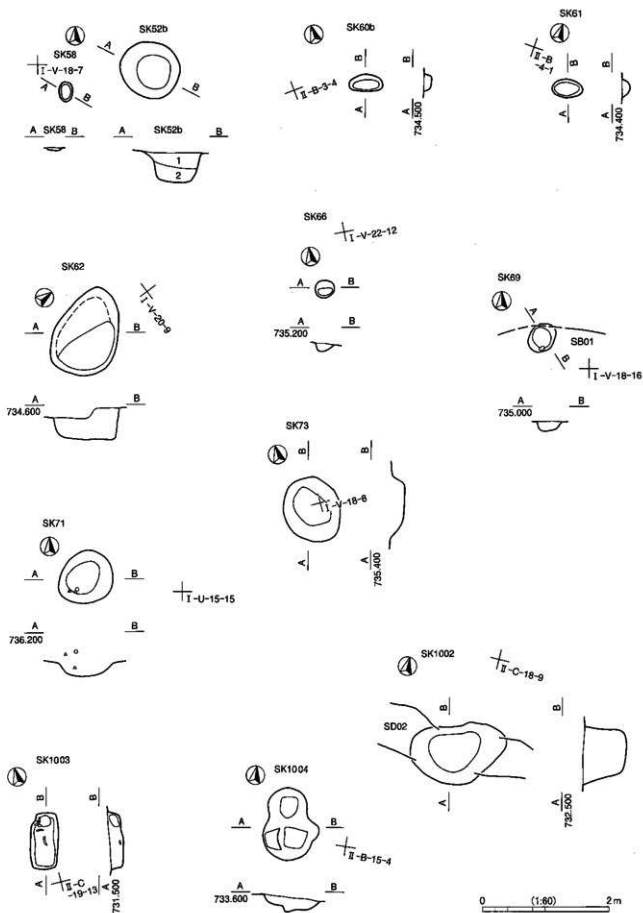
土坑SK56 (遺構第56図) **位置**: I-V-24 **検出**: IVb層上面検出。検出段階③-2。 **構造**: 1.4×0.8mの長円形、深さ0.1m。 **土層**: 小礫を少し含む灰褐色シルト質粗砂。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

土坑SK57 (遺構第56図) **位置**: I-V-24 **検出**: IVb層上面検出。検出段階③-2。 **構造**: 0.4×0.2mの長円形、深さ0.2m。 **土層**: 小礫を少し含む灰褐色シルト質粗砂。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

土坑SK58 (遺構第57図) **位置**: I-V-18 **検出**: IVb層上面検出。検出段階③-2。 **構造**: 0.3×0.2mの長円形、深さ0.1m。 **土層**: 灰褐色シルト質砂。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

土坑SK80b (遺構第57図) **位置**: II-B-3 **検出**: IVb層上面検出。検出段階③-2。 **構造**: 0.5×0.3mの長円形、深さ0.1m。 **土層**: 黄褐色砂を多く含む褐色シルト質砂。 **時期**: 縄文時代早期中葉

第4章 遺構と土器



第57図 土坑遺構図その7

山の神遺跡第2段階か。

土坑SK61 (遺構第57図) **位置**: II-B-4 **検出**: IVb層上面で検出。検出段階③-2。 **構造**: 0.5×0.3mの長円形、深さ0.2m。 **土層**: 黄褐色砂を多く含む褐色シルト質砂。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

土坑SK62 (遺構第57図、土器第66図) **位置**: I-V-19・20 **検出**: IVb層上面で検出。検出段階③-2。 **構造**: 1.4×1.0mの不整形な卵形。深さ0.6m。 **土層**: 細礫を含む黒褐色シルト質砂。 **遺物**: 土器、1山形押型文横位回転押捺。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

土坑SK64 (遺構第56図) **位置**: I-V-24 **検出**: IVb層上面検出。検出段階③-2。 **構造**: 0.8×0.6mの長円形、深さ0.2m。 **土層**: 細礫を少し含む灰褐色シルト質砂。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

土坑SK65 (遺構第56図) **位置**: I-V-24 **検出**: IVb層上面検出。検出段階③-2。 **構造**: 0.9×0.7mの卵形、深さ0.2m。 **切り合い**: 上位にSH25、SH53が位置する。 **土層**: 細礫を多く含む褐色シルト質砂。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

土坑SK66 (遺構第57図) **位置**: I-V-22 **検出**: IVb層上面検出。検出段階③-2。 **構造**: 径0.3mの円形、深さ0.1m。 **土層**: 褐色砂質粘土。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

土坑SK67 (遺構第55図、土器第66図) **位置**: I-V-14 **検出**: IVb層上面検出。検出段階③-2。 **構造**: 1.8×1.5m長円形、深さ0.3m。SK07のような底部が平坦な断面バケツ形。 **土層**: 褐色砂混じり粘土質シルト。しまりよく粘性あり。 **遺物**: 土器、1山形押型文。焼成後穿孔あり。2格子目押型文。3矢羽状押型文。石器はチャート製石鏃(第130図23)出土。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

土坑SK68 (遺構第55図、土器第66図) **位置**: I-V-14 **検出**: IVb層上面検出。検出段階③-2。 **構造**: 1.7×1.5mの長円形、深さ0.8m。SK07のような底部が平坦な断面バケツ形。 **土層**: IVa層起源。にぶい黄褐色粘土混じり砂質シルト。 **遺物**: 土器、1・2楕円押型文。3山形押型文、頸部に先端割れ工具による刺突文あり。4矢羽状押型文、軸長20mm。5網目状捺糸文。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階。

土坑SK69 (遺構第57図) **位置**: I-V-18 **検出**: 土層観察用トレンチ4に対比するとIVb層上面に対応。検出段階③-2。 **構造**: 0.5×0.4mの長円形、深さ0.2m。 **切り合い**: SB01に切られる。 **土層**: 暗褐色砂礫混粘土質シルト。不均質。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

土坑SK71 (遺構第57図) **位置**: I-U-15 **検出**: 検出面のレベルを土層観察用トレンチ7に対比すると、IVa層に対応する。検出段階③-1か。 **構造**: 0.9×0.8mの卵形、深さ0.2m。 **切り合い**: SB12を切り、SF39、SF40に切られる。 **土層**: IIIb層起源の土か。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2

段階か。

土坑SK72(遺構第55図) **位置**: I-U-20 **検出**: SK49aと同じ検出段階③-2。 **構造**: 2.1×1.6m 不整形な長円形。深さ0.2m。 **切り合い**: SB12、SK49aを切り、NR01aに切られる。 **土層**: 1. ブロック状に褐色シルトが混じる暗褐色砂質シルト。 **遺物**: SB12の遺物とかなり混じりあっていて峻別が難しいが、第49図22の異種併用押型文はこの土坑から出土したものと推測されている。 **時期**: 層位的には縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階であるが、遺構の切り合いや遺物からは第3段階の可能性もある。

土坑SK73(遺構第57図) **位置**: I-V-18 **検出**: SB02 (②-2)を切り、覆土が土壌化していない。Ⅲa層上面で検出されたものと考えられる。検出段階②-1。 **構造**: 1.1×0.9mの卵形、深さ0.3m。 **切り合い**: SB02を切り、SH27に切られる。 **土層**: SB02覆土より明るい黄白色砂。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。

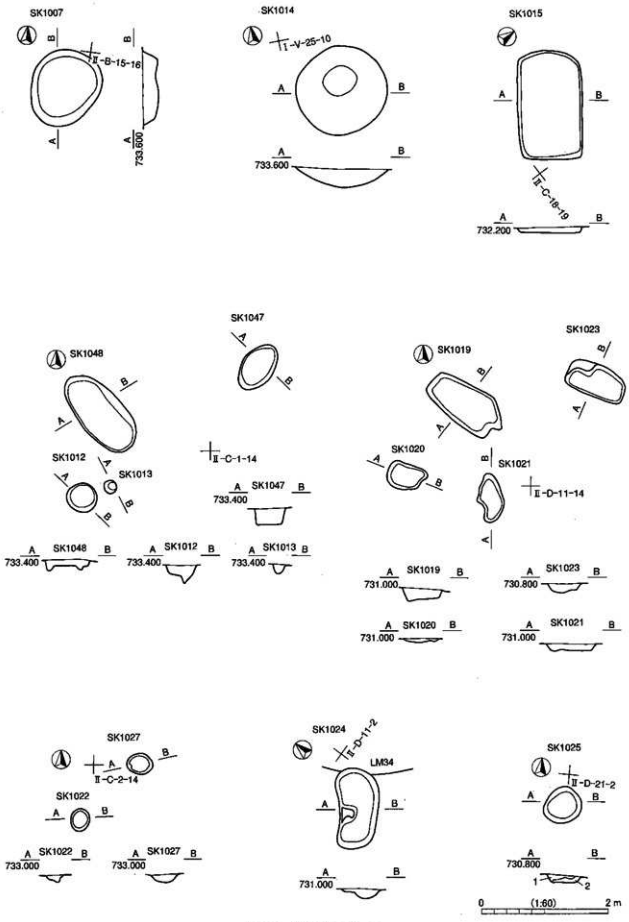
以下1000番代のは平成11年度に新たに調査開始した土坑SKである。平成9・10年度に調査を始めていた尾根状の高まりでは、遺物包含層が複数あったので、検出面を区分したが、平成11年度以降に調査を開始した主にI-W・X、II-C・Dの尾根状の高まりから下がった平坦部分にあった遺構部分には遺物包含層は一つであったので、土層の検出段階の区分はない。また、遺物の伴出がないものなどは、時期決定の決め手がなく、不明としたが、近世などの遺構の土とは峻別が可能で、不明とした多くの遺構が縄文時代に属する可能性が高い。なお、個別遺構図がないものは、遺跡全体の遺構配置図参照。

土坑SK1002(遺構第57図) **位置**: II-C-17・18 **構造**: 1.5×0.9mの不整形な楕円形。深さ0.7m。 **切り合い**: SD02に切られる。 **土層**: 褐色砂礫混粘土質シルト。 **時期**: 縄文時代早期中葉か。

土坑SK1003(遺構第57図、遺物第195図) **位置**: II-C-18・19 **構造**: 0.9×0.4mの長方形、深さ0.2m。 **土層**: グライ化した灰褐色シルト質砂。粘性少なく、脆い。 **遺物**: 1～3銅銭28枚。銅銭は錆着していて、14枚、13枚、1枚と分かれて出土した(うち銭名が判明しているもの寛永通宝4枚、政和通宝1枚)錆着していた銅銭(1・2)には緋(さし)の紐がかすかに残っていた。4キセルは銅製で、吸口と火皿各1。竹の軸(羅字・らう)が少し残っていた。人骨も出土したが、詳細は第7章6節を参照されたい。 **時期**: 近世江戸時代土葬墓。

土坑SK1004(遺構第57図、土器第66図) **位置**: II-B-11・15 **構造**: 1.2×0.8mの不整形。深さ0.3m。 **土層**: 黄褐色シルト砂をブロック状に含む灰褐色砂礫混粘土質シルト。 **遺物**: 1割付線平行楕円押型文。2縄文RL縦位回転押捺。頁岩製刃器(第148図9)。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階。

土坑SK1007(遺構第58図、土器第67図) **位置**: II-B-15 **構造**: 1.2×1.0mの卵形、深さ0.3m。 **土層**: 黒褐色～暗褐色砂礫混粘土質シルト。 **遺物**: 土器、1～7楕円押型文、1・6・7原体割付線並行。3横位後斜位回転押捺。5原体割付線右巻。8～10異種併用押型文、7縦文に横位に楕円押型文回転後、無文部に複合鋸歯押型文を横位回転押捺。楕円押型文原体割付線平行。複合鋸歯押型文原体1単位、軸長30mm、軸周15mm。9・10山形押型文と楕円押型文の併用。11刺突文が施された沈線文土器。石器は頁岩



第58図 土坑遺構図その8

製刃器（第148図9）が出土。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階。

土坑SK1010（遺構第59図、土器第66図）位置：Ⅱ-C-6 構造：2.3×1.5mの不整形な長円形、深さ0.2m。土層：褐色礫混粘土質シルト。遺物：土器、1楕円押型文斜位回転押捺。2山形押型文。時期：縄文時代早期中葉。

土坑SK1011（遺構第59図、土器第66図）位置：Ⅱ-B-10・C-6 構造：0.7×0.6mの長円形、深さ0.1m。土層：にぶい褐色礫混砂質シルト。遺物：土器、1楕円押型文横位回転押捺。時期：縄文時代早期中葉。

土坑SK1012（遺構第58図）位置：Ⅱ-B-5 構造：径0.5mの円形、深さ0.3m。土層：炭含む褐色砂礫混シルト。

土坑SK1013（遺構第58図）位置：Ⅱ-B-5 構造：径0.2mの円形、深さ0.2m。土層：褐色砂混シルト。

土坑SK1014（遺構第58図、土器第66図）位置：Ⅰ-V-25 構造：1.4×1.3mの円形、深さ0.3m。土層：黒色礫混粘土質シルト。遺物：土器、1楕円押型文。割付線右巻12段、軸長35mm。時期：縄文時代早期中葉。

土坑SK1015（遺構第58図）位置：Ⅱ-C-18 構造：1.7×1.0mの長方形、深さ0.1m。土層：褐色砂礫混粘土質シルト。SK1003覆土に似る。時期：近世か。

土坑SK1016（遺構第59図、土器第66図）位置：Ⅱ-C-6 構造：1.2×0.9mの不整形な長方形、深さ0.3m。切り合い：SK1017に切られる。土層：暗褐色礫混粘土質シルト。遺物：土器、1・2楕円押型文、1原体割付線右巻12段、軸長35mm。3縄文RL縦位後、横位回転押捺。時期：縄文時代早期中葉。

土坑SK1017（遺構第59図）位置：Ⅱ-C-6・B-10 構造：2.6×1.1mの不整形、深さ0.2m。切り合い：SK1016を切る。土層：暗褐色礫混粘土質シルト。

土坑SK1018（遺構第59図）位置：Ⅱ-C-6・B-10 構造：2.2×0.8mの不整形な卵形、深さ0.3m。土層：暗褐色粘土質シルト。軟らかく、粘性あり。

土坑SK1019（遺構第58図）位置：Ⅱ-D-11 構造：1.3×0.6m不整形な長方形、深さ0.2m。土層：黒～黄褐色砂を含む褐色シルト質砂。

土坑SK1020（遺構第58図）位置：Ⅱ-C-15・D-11 構造：0.6×0.4m不整形、深さ0.1m。土層：黒褐色シルト質砂。

土坑SK1021 (遺構第58図) 位置: II-D-11 構造: 0.8×0.4m不整形、深さ0.1m。土層: 黒褐色砂混灰褐色シルト質砂。

土坑SK1022 (遺構第58図) 位置: II-C-2 構造: 0.4×0.3mの円形、深さ0.1m 土層: 褐色砂礫混シルト。遺物: 石器は頁岩製削器 (第145図13) が出土。時期: 縄文時代早期中葉か。

土坑SK1023 (遺構第58図) 位置: II-D-11 構造: 1.0×0.5mの長方形、深さ0.1m。土層: 灰褐色シルト質粗砂。

土坑SK1024 (遺構第58図) 位置: II-D-11 構造: 1.3×0.6mの不整形な楕円形、深さ0.2m。土層: 灰褐色シルト質粗砂。

土坑SK1025 (遺構第58図) 位置: II-D-21 構造: 径0.6mの円形、深さ0.1m。土層: シルト質砂1. 黒褐色。2. 灰褐色。

土坑SK1026 (遺構第59図) 位置: II-C-20 構造: 0.5×0.4mの長方形、深さ0.2m。土層: 黄褐色砂混じり黒褐色シルト質砂。

土坑SK1027 (遺構第58図) 位置: II-C-2 構造: 径0.4mの円形、深さ0.1m。土層: にぶい褐色砂礫混シルト。

土坑SK1028 (遺構第59図) 位置: II-C-3 構造: 1.2×0.8mの卵形、深さ0.3m。土層: 褐色砂礫混シルト。

土坑SK1029 (遺構第59図) 位置: II-C-20 構造: 径0.4mの円形、深さ0.2m。土層: 褐色砂混粘土質シルト。

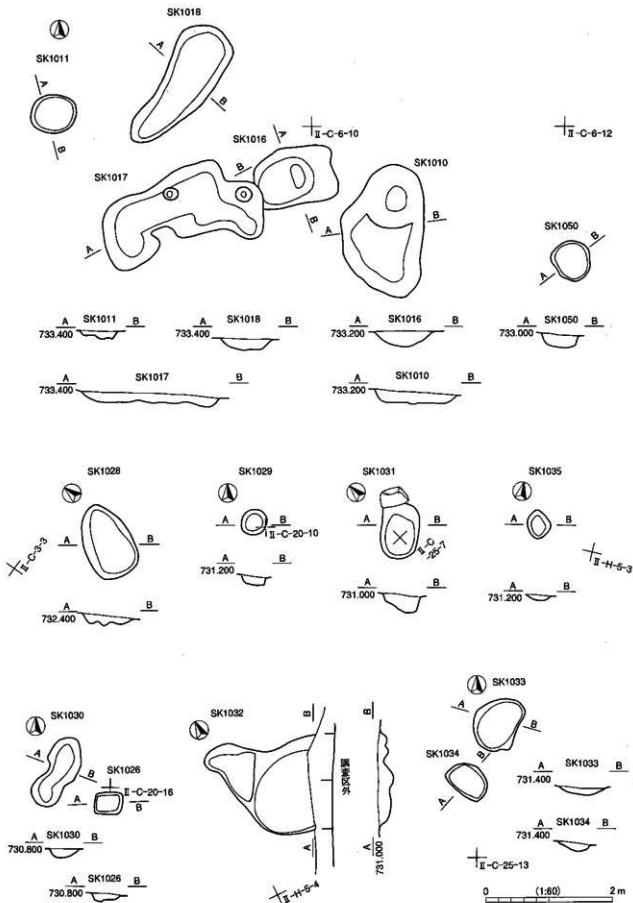
土坑SK1030 (遺構第59図) 位置: II-C-20 構造: 1.2×0.5mの不整形な長円形、深さ0.1m。土層: 暗褐色粘土質シルト。

土坑SK1031 (遺構第59図) 位置: II-C-25 構造: 0.9×0.6mの長方形、深さ0.3m。土層: 黒褐色砂混粘土質シルト。遺物: 図化できなかったが頁岩製剥片出土。時期: 縄文時代早期中葉か。

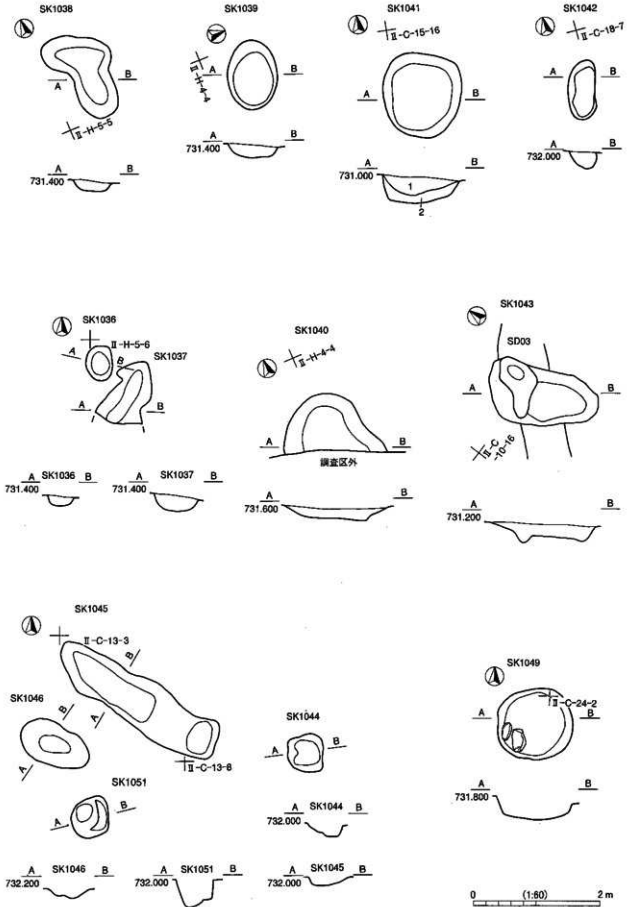
土坑SK1032 (遺構第59図、土器第66図) 位置: II-C-25 構造: (1.8)×1.5mの不整形、深さ0.3m。遺物: 土器、1条痕文。時期: 縄文時代早期中葉か。

土坑SK1033 (遺構第59図) 位置: II-C-24・25 構造: 0.9×0.8mの不整形な長円形。土層: 黒褐色砂混粘土質シルト。

土坑SK1034 (遺構第59図) 位置: II-C-24・25 構造: 0.7×0.5mの不整形な長方形。土層:



第59図 土坑遺構図その9



第60図 土坑遺構図その10

黒褐色砂礫混粘土質シルト。

土坑SK1035 (遺構第59図) 位置: II-C-25 構造: 0.4×0.4mの不整形な長円形、深さ0.1m。
土層: 黒褐色砂混粘土質シルト。

土坑SK1036 (遺構第60図) 位置: II-H-5 構造: 0.6×0.4mの長円形、深さ0.2m。土層: 暗褐色砂混粘土質シルト。

土坑SK1037 (遺構第60図) 位置: II-H-5 構造: (1.1)×0.7mの不整形、深さ0.3m。土層: 黒褐色粘土質シルト。

土坑SK1038 (遺構第60図) 位置: II-H-5 構造: 1.5×1.1mの不整形、深さ0.2m。土層: 褐色砂混粘土質シルト。

土坑SK1039 (遺構第60図) 位置: II-C-24 構造: 1.1×0.8mの不整形、深さ0.2m。土層: 黒褐色砂礫混粘土質シルト。

土坑SK1040 (遺構第60図) 位置: II-H-4 構造: (1.6)×0.9mの不整形、深さ0.3m。土層: 黒褐色粘土質シルト。

土坑SK1041 (遺構第60図) 位置: II-C-15 構造: 1.3×1.2mの不整形、深さ0.5m。土層: 1. 黒色粘土質シルト。2. 黒褐色粘土混砂質シルト。

土坑SK1042 (遺構第60図) 位置: II-C-18 構造: 0.9×0.4mの不整形な長円形。土層: 褐色シルト。

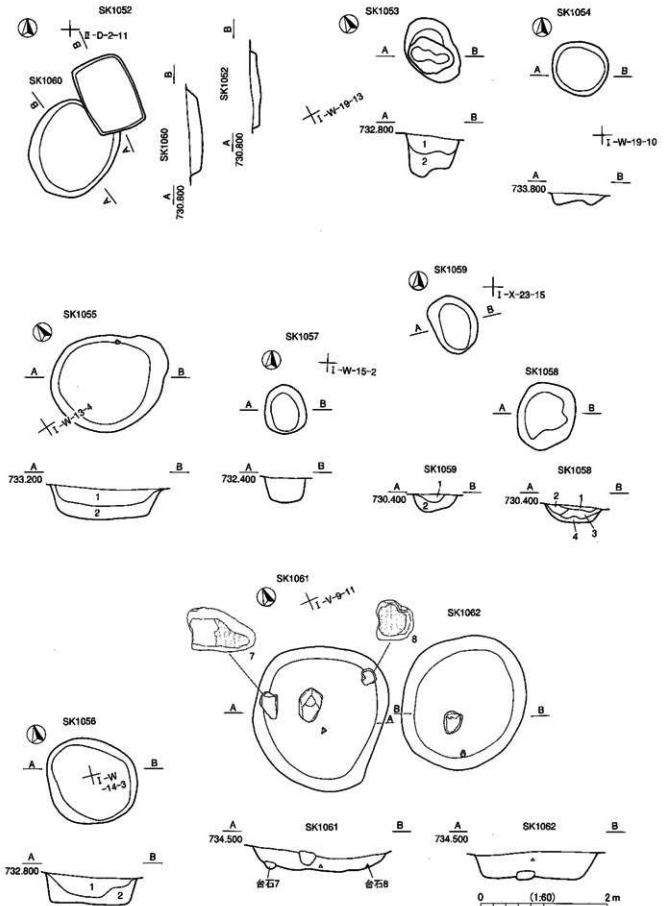
土坑SK1046 (遺構第60図) 位置: II-C-13 構造: 1.2×0.6mの長円形、深さ0.2m。

土坑SK1047 (遺構第58図、土器第67図) 位置: II-C-1 構造: 0.8×0.4mの長円形、深さ0.3m。
遺物: 土器、1 楕円押型文口唇部横位後、口縁部縦位回転押捺。時期: 縄文時代早期中葉。

土坑SK1048 (遺構第58図、土器第67図) 位置: II-B-5・C-1 構造: 1.5×0.7mの長円形、深さ0.2m。遺物: 土器、1 沈線文。石器は安山岩製磨石 (第179図7) 出土。時期: 縄文時代早期中葉。

土坑SK1049 (遺構第60図、土器第67図) 位置: II-C-24 構造: 1.2×1.2mの円形、深さ0.4m。
遺物: 土器、1. 楕円押型文、2. 沈線文。時期: 縄文時代早期中葉。

土坑SK1050 (遺構第59図) 位置: II-C-6 構造: 径0.6mの円形、深さ0.2m。遺物: 図化できなかったが楕円押型文や頁岩製剥片が出土。時期: 縄文時代早期中葉。



第61図 土坑遺構図その11

土坑SK1051 (遺構第60図) 位置: II-C-13 構造: 0.6×0.6mの略方形、深さ0.5m。

土坑SK1052 (遺構第61図) 位置: II-C-10 構造: 1.2×0.8mの長方形、深さ0.2m。切り合い: SK1060を切る。土層: におい黄褐色砂質シルト。

土坑SK1053 (遺構第61図) 位置: I-W-19 構造: 0.9×0.8mの長円形、深さ0.2m。土層: 1. 暗褐色砂質シルト。2. 明黄褐色砂質シルト。

土坑SK1054 (遺構第61図) 位置: I-W-19 構造: 1.1×0.8mの長円形、深さ0.7m。土層: 暗褐色砂質シルト。

土坑SK1055 (遺構第61図、土器第67図) 位置: I-W-13・14 構造: 1.8×1.6mの不整形な長円形、深さ0.6m。底部が平坦な断面はタライ形。土層: 1. 黒褐色砂質シルト。2. におい黄褐色砂質シルト。遺物: 土器、1 楕円押型文。原体割付線右巻15段、軸長36mm+α。時期: 縄文時代早期中葉。

土坑SK1056 (遺構第61図、土器第67図) 位置: I-W-14 構造: 1.5×1.3mの卵形、深さ0.5m。底部が平坦な断面はタライ形。土層: 1. 黒褐色砂質シルト。2. におい黄褐色砂質シルト。遺物: 土器、1 格子目押型文。時期: 縄文時代早期中葉。

土坑SK1057 (遺構第61図) 位置: I-W-15 構造: 0.8×0.6mの長円形、深さ0.4m。土層: 黒色砂質シルト。

土坑SK1058 (遺構第61図) 位置: I-X-23・II-D-3 構造: 0.9×0.7mの長円形、深さ0.3m。土層: 1. 明黄褐色粘土質シルト。2. におい黄褐色砂質シルト。3. 黒褐色砂質シルト。4. 暗褐色砂質シルト。

土坑SK1059 (遺構第61図) 位置: I-X-23 構造: 0.9×0.7mの長円形、深さ0.3m。土層: 1. におい黄褐色粘土質シルト。2. におい黄褐色砂質シルト。

土坑SK1060 (遺構第61図) 位置: II-C-10 構造: 1.5×1.3mの長円形、深さ0.3m。切り合い: SK1052に切られる。土層: 黒色土をブロック状に含むにおい黄褐色砂質シルト。

土坑SK1061 (遺構第61図) 位置: I-V-9 検出: SF24検出段階 (IVa層上面) でこれに切られる落ち込みを認めて当初SK70として検出した。その後精査したところ落ち込みの下に土坑が存在することが確認され、SK70は抹消し、この下位の土坑をSK1061とした。検出段階③-2。構造: 2.3×2.2mの不整形な円形、深さ0.3m。底部が平坦なタライ形の断面。切り合い: SF24に切られる。土層: 明褐色砂質シルト。遺物: 石器は、安山岩製台石 (第182図7)、花崗岩製台石 (第182図8) が出土。時期: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

土坑SK1062 (遺構第61図) 位置: I-V-9 検出: SK1061と同じ検出。検出段階③-2。

構 造: 2.2×2.0mの長円形、深さ0.5m。底部は平坦なタライ形の断面。**土 層:** 明褐色砂質シルト。

土 器: 1. 割付線平行の楕円押型文。**時 期:** 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階。

土坑SK1063 (遺構第62図) **位 置:** I-V-17 **検 出:** IVa層を除去後、IVb層上面で検出。検出段階③-2。**構 造:** 1.9×1.7mの長円形、深さ0.5m。**土 層:** 1. 明黄褐色砂質シルト。2. 黒褐色砂質シルト。3. におい黄褐色砂質シルト。**遺 物:** 楕円押型文。**時 期:** 縄文時代早期中葉。

土坑SK1064 (遺構第62図) **位 置:** I-V-17 **検 出:** IVa層を除去後、IVb層上面で検出。検出段階③-2。**構 造:** 径0.6mの円形、深さ0.15m。**切り合い:** 平面図上はSK42a (③-1) に切られるが、IVa層が厚く、実際は切られてはいない。**土 層:** 明黄褐色砂質シルト。**時 期:** 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

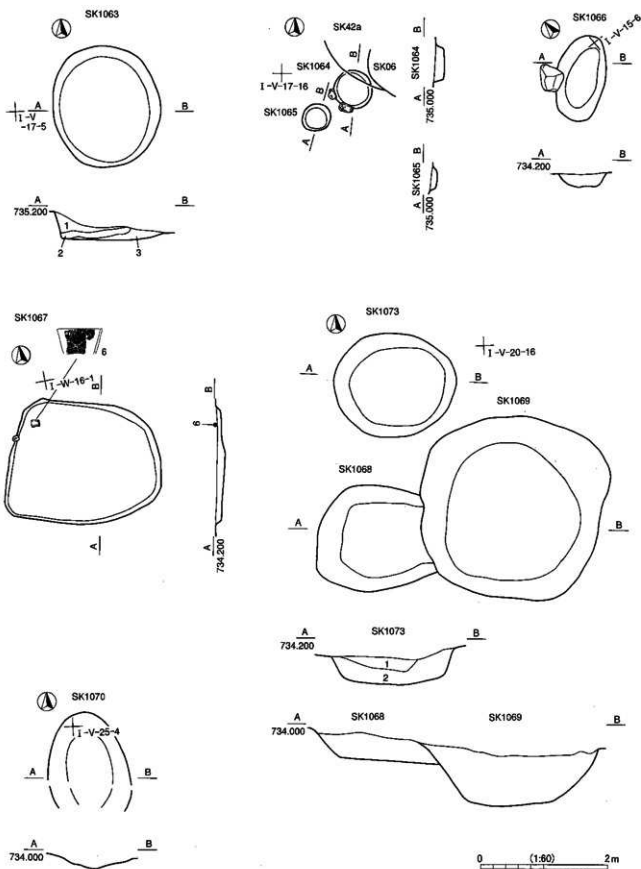
土坑SK1065 (遺構第62図) **位 置:** I-V-17 **検 出:** SK1064と同じ検出、検出段階③-2。**構 造:** 径0.4mの円形、深さ0.1m。**土 層:** 明黄褐色砂質シルト。**時 期:** 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

土坑SK1066 (遺構第62図、土器第67図) **位 置:** I-V-15 **検 出:** IVa層除去後、IVb層上面で検出。検出段階③-2。**構 造:** 1.4×0.8mの長円形、深さ0.3m。**土 層:** 黒色土、黄褐色土をブロック状に含むにおい黄褐色シルト。**遺 物:** 1楕円押型文。**時 期:** 縄文時代早期中葉。

土坑SK1067 (遺構第62図、土器第67図) **位 置:** I-V-20・W-16 **検 出:** IVa層除去後、IVb層上面で検出したものか。検出段階③-2か。**構 造:** 2.4×1.9mの不整形、深さ0.2m。**土 層:** 黒色粘土混シルト。**遺 物:** 土器、1楕円押型文。2格子目押型文。3縄文RL横位回転押捺。焼成後穿孔。4～6沈線文。5横位区画後、斜行沈線文を施す。6斜行沈線文間に貝殻腹縁の刺突文。石器、頁岩製刃器 (第148図11) 出土。**時 期:** 縄文時代早期中葉。

土坑SK1068 (遺構第62図、土器第68図) **位 置:** I-V-25 **検 出:** IVb層上面検出。検出段階③-2か。**構 造:** 1.8×1.8mの不整形、深さ0.5m。底部が平坦なタライ形の断面。**切り合い:** SK1069に切られる。**土 層:** 明黄褐色砂質シルト。**遺 物:** 1～3楕円押型文、1斜位回転押捺。4～7山形押型文。8異種併用押型文、楕円押型文と複合鋸歯押型文の併用。9矢羽状押型文。石器は安山岩製磨石 (第179図5) 出土。**時 期:** 縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。

土坑SK1069 (遺構第62図、土器第68図) **位 置:** I-V-20・25 **検 出:** IVb層上面で検出。検出段階③-2。**構 造:** 3.2×3.1mの不整形な円形、底部が平坦なバケツ形の断面。**切り合い:** SK1068を切る。**土 層:** 黒褐色砂質シルト。**遺 物:** 1～6楕円押型文、3原体割付線平行。7～10山形押型文、8斜位・横位回転押捺。10原体端面平垣、1単位、軸周15mm。二種類の山形押型文を併用しているか。11異種併用押型文、楕円押型文回転押捺後、格子目押型文横位回転押捺。石器は頁岩製石鏃 (第130図24)、頁岩製搔器 (第139図26)、安山岩製特殊磨石 (第162図22)、花崗岩製台石 (第181図5) 出土。**時 期:** 縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。



第62図 土坑遺構図その12

土坑SK1070 (遺構第62図、土器第68図) 位置: I-V-25 検出: IVa層上面で検出。検出段階③-1)。構造: (1.3)×1.0mの長円形、深さ0.4m。土層: 明黄褐色砂質シルト～黒褐色砂質シルト。遺物: 土器1・2楕円押型文、1横位後斜位回転押捺。3格子目押型文。4縄文LR横位回転押捺。時期: 縄文時代早期中葉。

土坑SK1072 (遺構第63図、遺物第68図) 位置: I-W-16 検出: IVb層上面検出。検出段階③-2)。構造: 3.4×3.0mの不整形、深さ0.9m。土層: 1. 黒色砂礫混粘土質シルト(ほとんどIVa層に同じ)。2. 黄褐色砂質シルト、黒褐色砂礫混シルト。3. 黒褐色砂礫混シルト。4. にぶい褐色シルト混砂礫。5. 黒褐色粘土質シルト。6. 暗褐色砂礫混シルト。7. 暗褐色砂礫混シルト。遺物: 1～5楕円押型文、1・2・5原体割付線平行。5横位後、縦位回転押捺。6～14山形押型文、14頸部に無文部を残す。15・16回転縄文LR。17網目状煞糸文L縦位回転押捺。石器はチャート製石鏃(第130図25)、石器花崗岩製特殊磨石(第162図23・24)、安山岩製磨石(第179図6)出土。時期: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階。

土坑SK1073 (遺構第62図、遺物第68図) 位置: I-V-20 検出: IVb層上面検出。検出段階③-2)。構造: 2.0×1.6mの長円形、深さ0.6m。土層: 1. 砂礫混粘土質シルト。2. にぶい褐色礫混砂質シルト。遺物: 1・2楕円押型文、1斜位回転押捺。原体割付線左巻。2割付線平行。3山形押型文。4異種併用押型文、楕円押型文後、複合鋸歯押型文回転押捺。複合鋸歯押型文原体1単位、軸長34mm+α、軸周18mm。時期: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階。

土坑SK1074 (遺構第63図) 位置: I-V-20 検出: IVb層上面検出。検出段階③-2)。構造: 0.7×0.3mの長円形、深さ0.1m。SH28やSH75と向きやプランが一致するあるいは集石を抜いた痕跡か。切り合い: SD04を切る。時期: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階。

土坑SK1081～1083 (遺構第63図) 位置: I-U-20 検出: ③-2 切り合い: 上位にSH21。

土坑SK1084・1085 位置: I-U-25 検出: ③-2

土坑SK1086・1087 (遺構第63図) 位置: I-V-11 検出: ③-1 切り合い: SB15を切る。SK1086は個別遺構図はない。

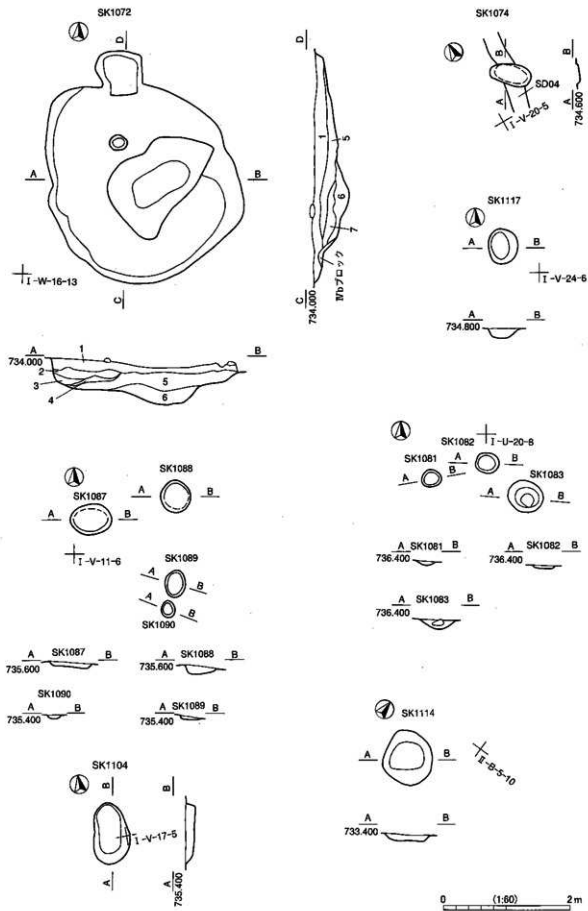
土坑SK1088～1090 (遺構第63図) 位置: I-V-11 検出: ③。

土坑SK1091～1093 位置: I-V-11 検出: ③。

土坑SK1094 位置: I-V-12 検出: ②-2。

土坑1095・1097～1099 位置: I-V-13 検出: ②。

土坑SK1096 (遺構第52図) 位置: I-V-13 検出: IIb層除去後に検出されたSK17・SK19より検



第63図 土坑遺構図その13

出面が20cm程度高い。よってⅡb層上面で検出されたものと考えられる。検出段階①。構造：0.3×0.2mの卵形、深さ0.3m。切り合い：SK19を切る。土層：Ⅱa層あるいはⅠ層起源の土。黄褐色砂を少量含む黒褐色砂。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階以降。

土坑SK1100（遺構第54図）位置：I-V-16 検出：SK41と同じ検出段階②-2。構造：径0.3mの円形、深さ0.1m。切り合い：SK43bを切る。土層：細礫を含む灰褐色シルト質粗砂。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。

土坑SK1101（遺構第54図）位置：I-V-16 検出：SK41と同じ検出段階②-2。構造：0.6×0.4m長円形、深さ0.1m。土層：細礫を少量含む黒褐色シルト質砂。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。

土坑SK1103（遺構第54図）位置：I-V-16 検出：SK41と同じ検出段階②-2。構造：0.5×0.4m長円形、深さ0.2m。切り合い：SK41を切る。土層：細礫を少量含む灰褐色シルト質砂。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。

土坑SK1104（遺構第63図）位置：I-V-16 検出：②-2。構造：1.0×0.6mの長円形、深さ0.3m。土層：灰褐色粗砂。

土坑SK1107（遺構第51図）位置：I-V-17・18 検出：SK06、SK42aとともにⅣa層上面で検出された。検出段階は③-1。構造：0.5×0.3mの長円形。深さ0.15m。切り合い：SK06、SK42aを切る。土層：黒褐色砂が少量混じる黄褐色砂。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階。

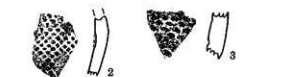
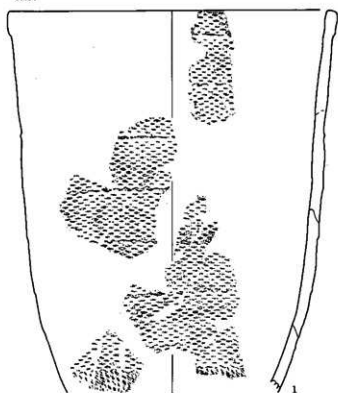
土坑SK1108～1111 位置：I-V-18 検出：③-1か。

土坑SK1112・1113 位置：I-V-22・23 検出：②-2。

土坑SK1114（遺構第63図）位置：Ⅱ-B-5 土層：黒色シルト質砂。

土坑SK1117（遺構第63図）位置：I-V-24 検出：③-1。構造：0.6×0.5mの長方形、深さ0.2m。切り合い：SK51bを切る。土層：明褐色粗砂。

SK01



SK02



SK03



SK05



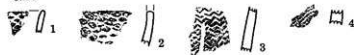
SK10



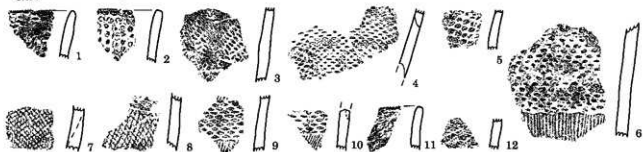
SK07



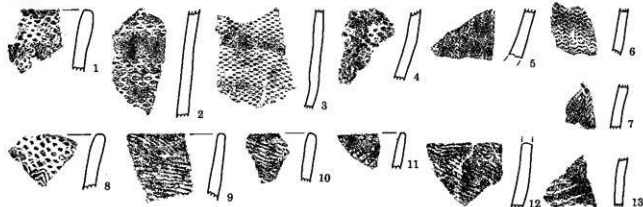
SK06



SK14



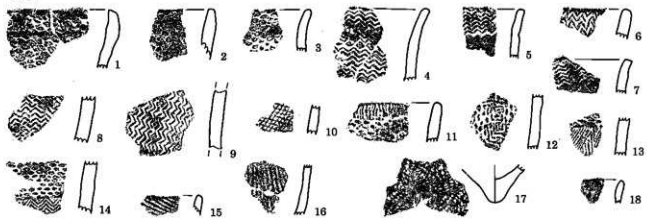
SK15



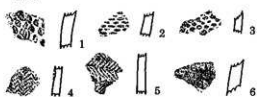
0 (1,3) 10cm

第64図 土坑出土土器その1

SK16



SK17



SK18



SK19



SK25



SK29



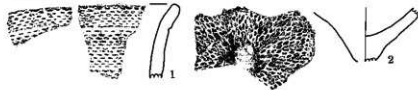
SK34a



SK36a



SK32b



SK37a



SK38

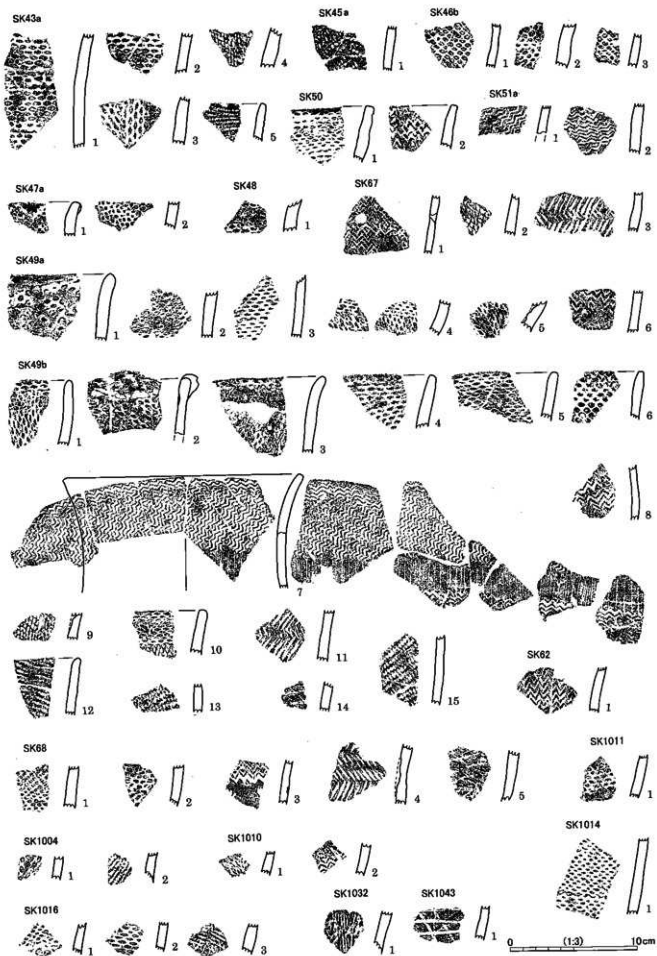


SK41



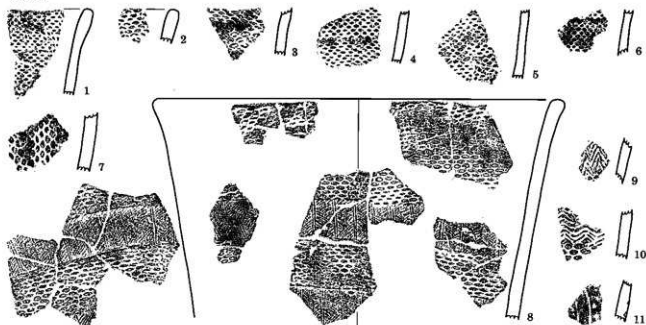
0 (1:3) 10cm

第65図 土坑出土土器その2



第66図 土坑出土土器その3

SK1007



SK1045



SK1047



SK1048



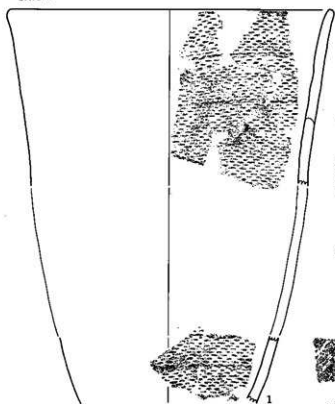
SK1049



SK1056



SK1055



SK1061



SK1063



SK1068



SK1062



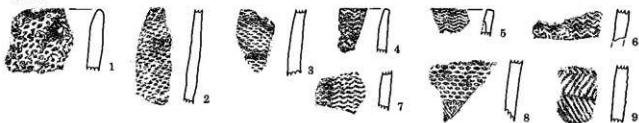
SK1067



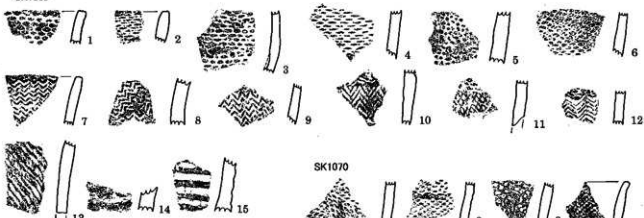
0 (1-3) 10cm

第67図 土坑出土土器その4

SK1068



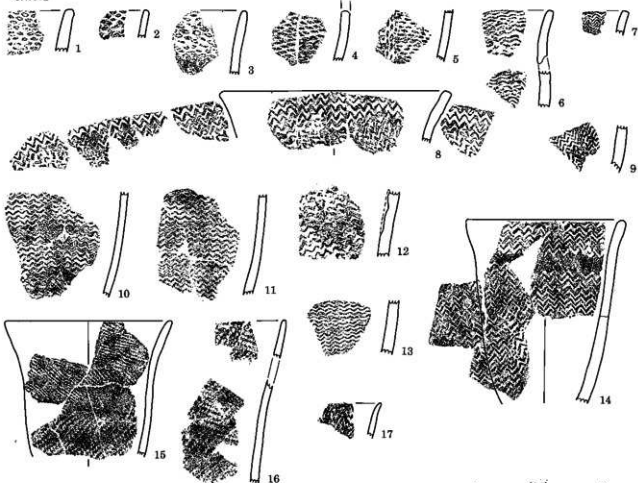
SK1069



SK1070



SK1072



0 (1:3) 10cm

第68図 土坑出土土器その5

SK1073

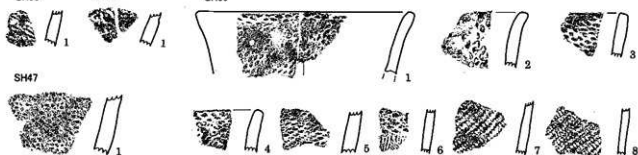


第69図 土坑出土土器その6

SH06

SH07

SH09



SH47

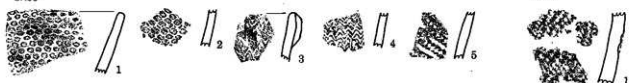


SH28



SH36

SH39



SH38

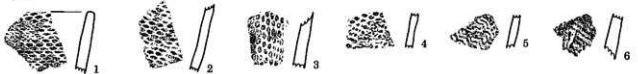
SH40



SH54



SH58

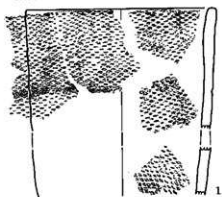


0 (1-3) 10cm

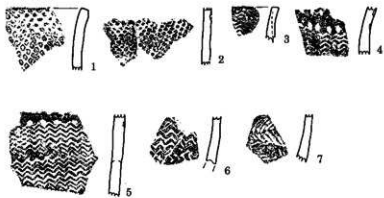
第70図 集石・石列出土土器その1

第4章 遺構と土器

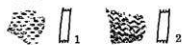
SH61



SH68-69



SH72



SH76



SH73



0 (1:3) 10cm

第71図 集石・石列出土土器その2

SF20



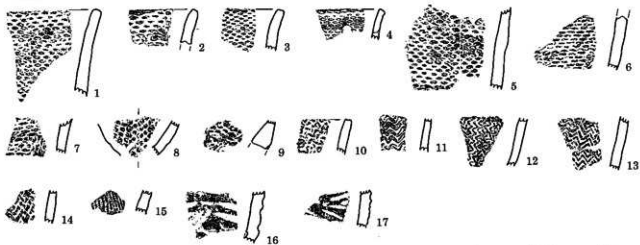
SD02



SD03



NR01b



0 (1:3) 10cm

第72図 焼土集中・深・流路出土土器

第3節 集石・石列

図化できなかったが、ほとんどの集石・石列には磨石類、特殊磨石、台石が転用されている。図化できたものはその中のごく一部である。また、以下「掘り込み」とあるのは集石を取り除いた部分の集石下位の(集石に伴う)堅穴状遺構を示す。また礫の大きさの比喩として拳大とあるのはおおむね5～10cm程度、人頭大とあるのは20cm前後の大きさを示している。

集石・石列SH01a (遺構第73図) **位置**: I-V-24 **検出**: 検出レベルを土層観察用トレンチに対比するとⅢb層上面に対応する。集石下位の掘り込みの覆土がⅡb層起源ということから、検出段階②-1。 **構造**: 集石は0.9×0.7mの長円形。花卉状に人頭大の平たい石を堅穴に敷き詰め、拳大の礫がその上に詰まっていた。掘り込みは径、0.8mの円形、深さ0.5m。形状からみると屋外集石炉か。 **切り合い**: SB04を切る。 **土層**: 1. 黒色砂混シルト。2. 黒色土混のⅡb層粗砂。 **遺物**: 石器、花崗岩製特殊磨石(第163図25)、花崗岩製台石(第182図9)出土。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。

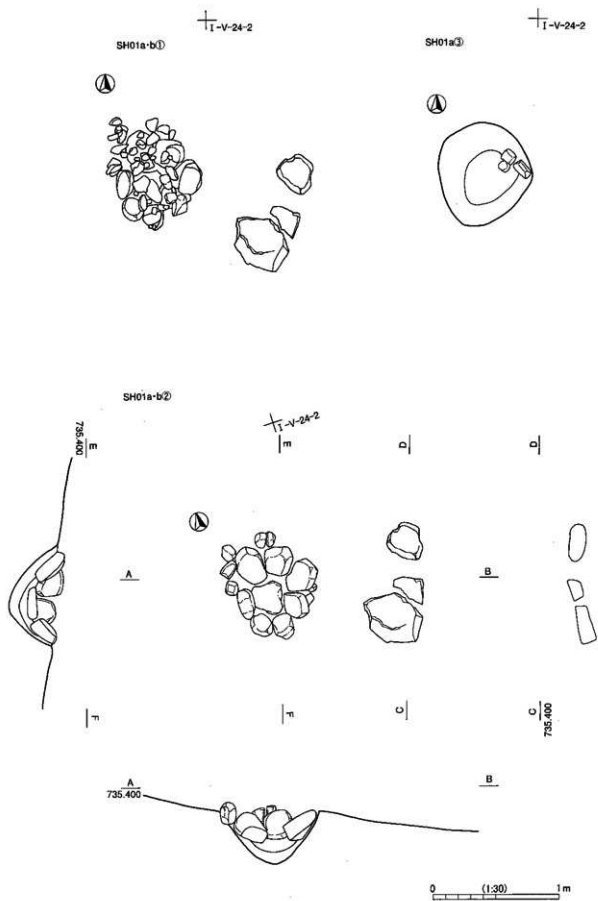
集石・石列SH01b (遺構第73図) **位置**: I-V-24 **検出**: SH01aと同じ、検出段階②-1。 **構造**: 1.0×0.5m。人頭大かやや大きい礫が3個配列する。 **切り合い**: SB04を切る。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。

集石・石列SH02 (遺構第74図) **位置**: II-B-8 **検出**: 所見はないが、SH01と同じ検出面か。検出段階②-1か。 **構造**: 集石は0.7×0.4mの長円形。掘り込みは0.5×0.4mの長円形、深さ0.3m。20cm程度の石が集中。集石の数は少ないが、規模・形態から屋外集石炉の廃棄されたものか。 **土層**: 1. 暗褐色砂質シルト。2. 黒褐色砂質シルト。 **遺物**: 図化しなかったが、花崗岩製台石や磨石が出土。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。

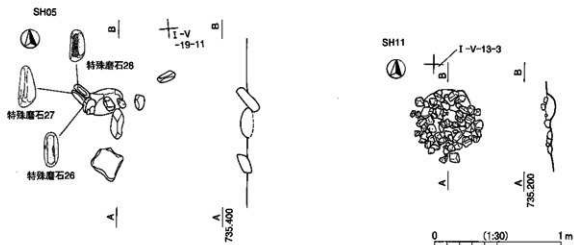
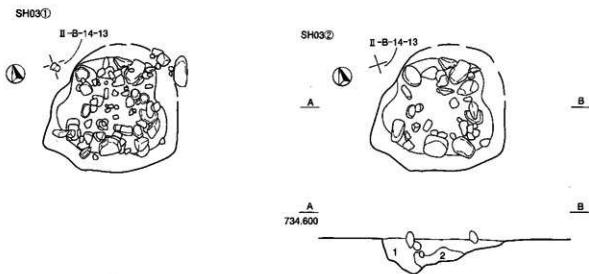
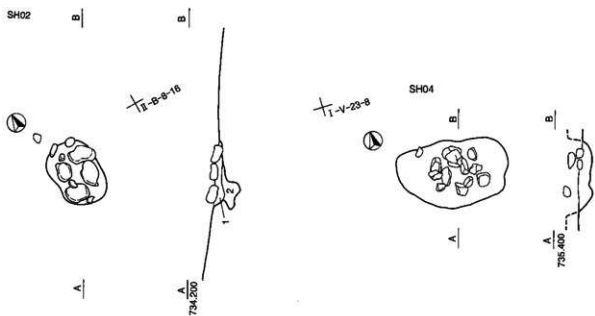
集石・石列SH03 (遺構第74図) **位置**: II-B-14 **検出**: Ⅱb層中で検出、検出段階②-1。 **構造**: 集石は1.2×1.1mの不整形な方形。掘り込みは1.1×1.0mの不整形、深さ0.3m。拳大の集石の間などに炭化物が見られる。屋外集石炉。 **土層**: 1. 灰黄褐色砂質シルト。2. 黒褐色砂質シルト。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。

集石・石列SH04 (遺構第74図) **位置**: I-V-23 **検出**: Ⅱb層中で検出、検出段階②-1。 **構造**: 集石は0.6×0.5mの不整形な円形か。掘り込みは0.9×0.5mの不整形な長円形、深さ0.1m。拳大の石は赤化し、脆くなっている。集石自体は少ないので、屋外集石炉が廃棄されたものと考えられる。 **土層**: 1. 暗褐色砂質シルト。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。

集石・石列SH05 (遺構第74図) **位置**: I-V-19 **検出**: Ⅱb層中で検出、検出段階②-1。 **構造**: 1.0×0.7mの範囲に拳大から人頭大の礫が散在する。集石炉ではなく、遺物集中に近いものかと担当者は指摘する。 **切り合い**: SH28を切ることになるが、あるいはSH28の一部を別遺構として取り上げた可能性もある。 **遺物**: 石器、安山岩製特殊磨石(第163図26)、石材不明(花崗岩か)特殊磨石(第163図27)、花崗岩製特殊磨石(第163図28)出土。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。



第73図 集石・石列遺構図その1



第74図 集石・石列遺構図その2

集石・石列SH06 (遺構第75図、土器第70図) **位置**: I-V-19 **検出**: II層上面で検出。検出段階①あるいは②-1。 **構造**: 集石は径0.6mの円形、掘り込みもほぼ同形、深さ0.1m。遺構をウレタンで固めて取り上げ、保存したため掘り込みの正確な大きさは不明。周囲に15~25cm大の礫を配置し、中に5~15cm大の礫を中央が僅かにくぼむように敷き詰めている。集石には被熱による赤化やひび割れ見られないとのことだが、形状や規模からは屋外集石炉の可能性が高いと考えられる。 **切り合い**: SH28を切る。 **土層**: 1. 褐色シルト質粗砂。2. 黒褐色シルト質砂。 **遺物**: 土器、1回転縄文RLないしR。石器、花崗岩特殊磨石 (第164図31)。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。

集石・石列SH07 (遺構第75図、土器第70図) **位置**: I-V-19 **検出**: II層上面で検出。検出段階①あるいは②-1。 **構造**: 集石は0.8×0.6mの長方形、掘り込みは径0.8mの略円形、深さ0.2m。掘り込みの中に5~15cm程度の礫が詰まっていた。中央がややくぼむ。形態・規模から屋外集石炉か。 **切り合い**: SH28を切る。 **土層**: 1. 黒褐色シルト質砂。2. 灰褐色シルト質砂。 **遺物**: 土器、1回転縄文R。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。

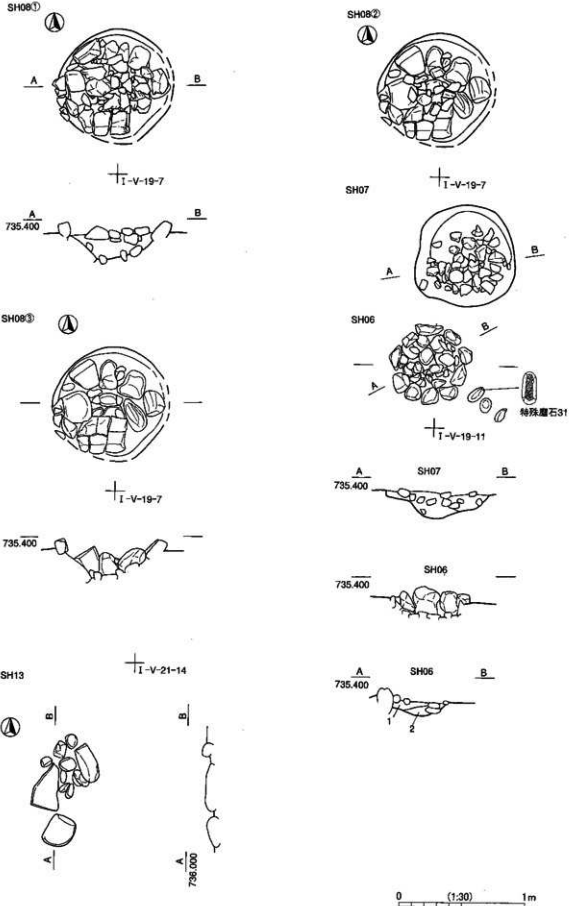
集石・石列SH08 (遺構第75図) **位置**: I-V-19 **検出**: II層上面で検出。検出段階①あるいは②-1。 **構造**: 集石は0.9×0.8mの略円形、掘り込みもほぼ同形、深さ0.3m。ひび割れている礫がある。屋外集石炉か。掘り込みに沿った形で人頭大の平たい石を花卉状に敷き詰めて、その中に拳大の礫を充填している。 **切り合い**: SH28を切る。 **土層**: 5~20cmの礫が詰まり、礫の間に黒褐色砂が入る。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。

集石・石列SH09 (遺構第76図、土器第70図) **位置**: I-V-14 **検出**: II層中で落ち込みが認められた。検出段階①。 **構造**: 集石は8.6×4.0mの範囲に拳大から人頭大の礫が散在。掘り込みは3.1×1.5mの長円形、深さ0.4m。掘り込みの覆土が集石炉の覆土と酷似、また集石に磨石類の石器が多いことから、集石炉を壊して内容物を廃棄した場所と調査担当者は推測する。 **切り合い**: SH32を切る。 **土層**: 1. 黒色シルト質砂。掘り込み覆土。2. やや赤みがある砂、II層に対応。3. 黒色土混暗色砂。4. 黄色シルト混砂。N IIIb層に対応か。 **遺物**: 土器 1~5 楕円押型文、1口縁直下外面横位、その下位縦位回転押捺。2縦位回転押捺。6異種併用押型文、楕円押型文と複合鋸歯押型文の併用。7・8回転縄文LR。石器は、花崗岩製特殊磨石 (第163図29・30) 出土。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階。

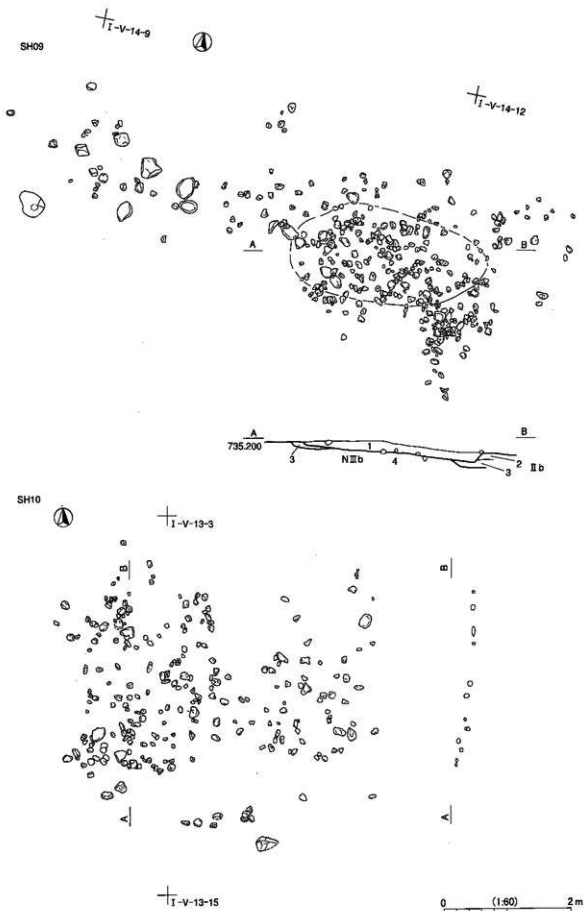
集石・石列SH10 (遺構第76図) **位置**: I-V-13 **検出**: 土層観察用トレンチ4に対比すると検出レベルはIIa層中に対応する。検出段階①か。 **構造**: 集石は5.2×4.9mの範囲に拳大の礫が散在。 **切り合い**: SK19を切る。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。

集石・石列SH11 (遺構第74図) **位置**: I-V-13 **検出**: 土層観察用トレンチ4に対比すると検出レベルはIIa層中に対応する。検出段階①か。 **構造**: 集石は径0.6mの円形、掘り込みは径0.5mの円形、深さ0.1m。礫は拳大が多い。 **土層**: 黒褐色粗砂。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階。

集石・石列SH13 (遺構第75図) **位置**: I-V-21 **検出**: IVb層上面で検出。検出段階③-2。 **構造**: 0.9×0.3m。集石周辺には炭化物が散在する。集石は人頭大の礫に拳大の小礫が伴う。20×35cmの平たい石も含まれる。集石炉の残骸か。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。



第75図 集石・石列遺構図その3



第76図 集石・石列遺構図その4

集石・石列SH14 (遺構第77図) **位置**: I-V-8 **検出**: IVb層上面で検出。検出段階③-2。

構造: 2.0×0.9m。西半分は人頭大の礫が集中し、東半分は拳大の礫が集中する。礫の形態から見て人頭大の礫は屋外炉を構成していたもので、拳大の礫はその中に充填されていたものと考えられる。**時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

集石・石列SH15 (遺構第77図) **位置**: I-V-20・25 **検出**: IIIb層中で検出。検出段階②-2。

構造: 1.8×0.7m。10~20cmの礫が東西方向、直線的に配置される石列。真東より10度ほど南。**切り合い**: SB16を切る。**時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。

集石・石列SH16 (遺構第77図) **位置**: I-V-21 **検出**: IVb層上面で検出。検出段階③-2。

構造: 1.4×1.2mの範囲に人頭大と拳大の礫が散在。集石の南東部に焼土が散在し、礫の中には赤化したものがある。屋外集石炉の残骸か。**時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

集石・石列SH17 (遺構第77図) **位置**: I-V-8 **検出**: IVb層上面で検出。検出段階③-2。

構造: 1.5×1.3mの範囲に人頭大と拳大の礫が散在。焼土や炭化物は検出されていないが、礫の構成から考えて屋外集石炉の残骸の可能性はある。調査段階で設定されたSH18~20も、連続したものとSH17に統合した。**時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

集石・石列SH21 (遺構第78図) **位置**: I-U-20・25 **検出**: IVa層中から検出。検出段階③-1。

構造: 6.3×4.2mの範囲に礫大の礫が散在。**切り合い**: SX01、SK25~27、32b、34b、1081~1083の上位にある。**遺物**: 安山岩特殊磨石 (第164図32)、花崗岩製特殊磨石 (第164図33・34)、石材不明 (安山岩か) 特殊磨石 (第164図35)、**時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

集石・石列SH22 (遺構第79図) **位置**: II-B-4 **検出**: IVb層上面で検出。検出段階③-2。

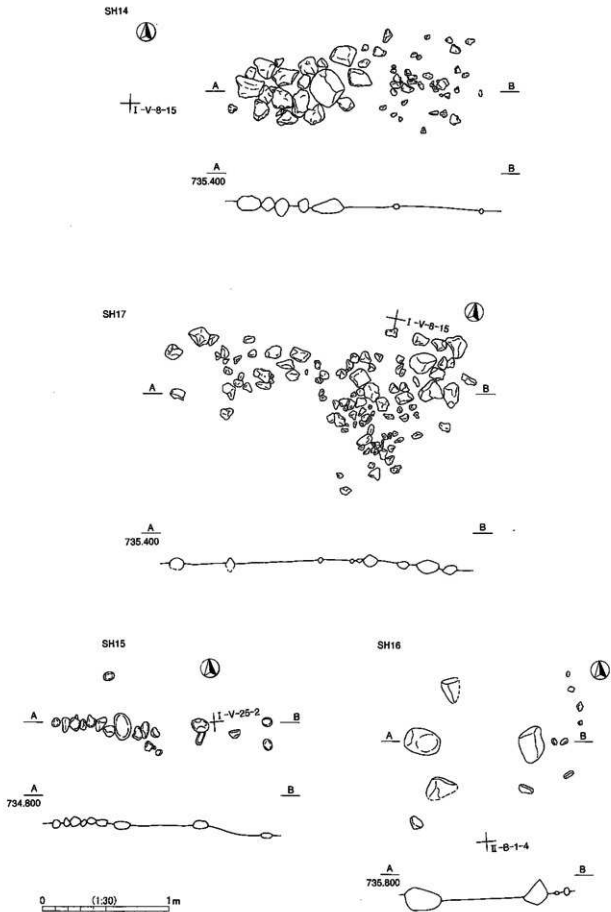
構造: 1.2×0.7mの範囲に礫が散在。拳大の礫のほか10cmを越えるような礫もあり、屋外集石炉が廃棄されたものの可能性もあろう。**時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

集石・石列SH23 (遺構第78図) **位置**: I-V-3・8 **検出**: 近くのSH17と検出面のレベルが同じなので、IVb層上面検出と考えた。検出段階③-2か。**構造**: 5.8×5.6mの範囲に礫が散在。西端に南北、直線的な部分があり、あるいは本来は石列だったのかもしれない。拳大の礫が中心だが、人頭大の礫もある。**時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

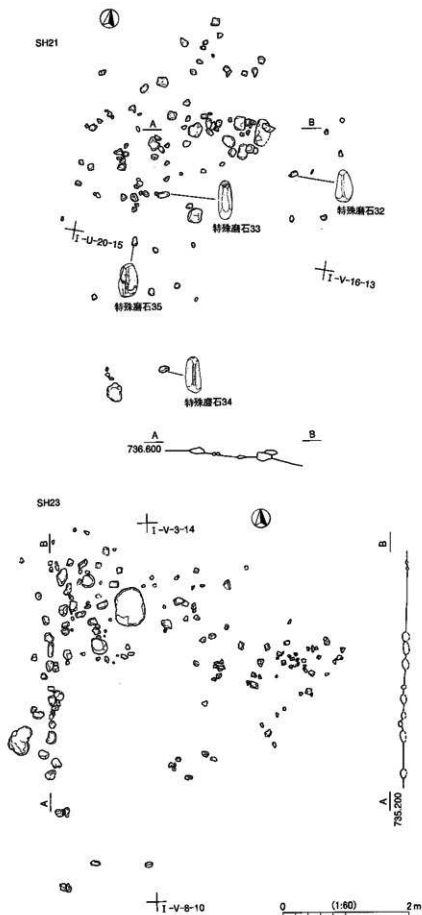
集石・石列SH24 (遺構第79図) **位置**: II-B-4 **検出**: IVb層上面で検出。検出段階③-2。**構造**: 0.7×0.4の長円形。拳大より若干小さい礫が多い。赤化した礫や脆い礫が多いことから、屋外集石炉の廃棄されたものと考えられる。**時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

集石・石列SH25 (遺構第79図) **位置**: I-V-24 **検出**: IVb層上面で検出。検出段階③-2。

構造: 集石は径0.5mの円形、掘り込みもほぼ同形、深さ0.2m。周辺に人頭大の礫が配置され、中央に拳大の礫が充填される。中央がややくぼむ。赤化や脆く風化した礫が多い。屋外集石炉か。**切り合い**: SK65を切る。**土層**: IVa層起源の土。**時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。



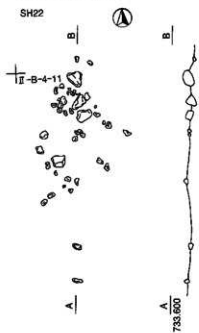
第77図 集石・石列遺構図その5



第78図 集石・石列遺構図その6

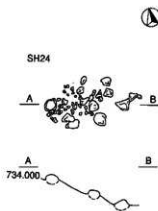
第4章 遺構と土器

SH22

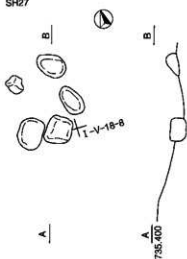


II-B-4-14

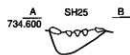
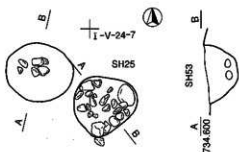
SH24



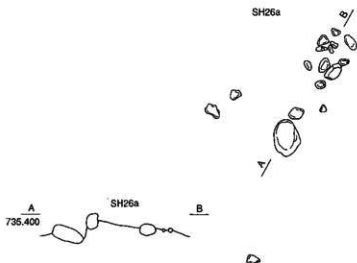
SH27



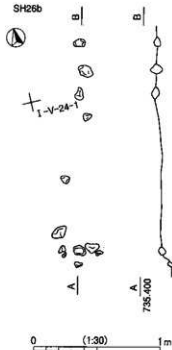
SH53



SH26a



SH26b



0 (1:30) 1m

第79図 集石・石列遺構図その7

集石・石列SH26a (遺構第79図) **位置**: I-V-18・23 **検出**: IIIb層中で検出。検出段階②-2。
構造: 1.5×0.3mの北東-南西方向、直線的に配置される拳大礫の石列。赤化した礫を含むが、形状からみて屋外集石炉とは考えにくい。**時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。

集石・石列SH26b (遺構第79図) **位置**: I-V-19・24 **検出**: IIIb層中で検出。検出段階②-2。
構造: 1.8×0.4mの10度程度東に傾く南北方向、直線的に配置される拳大礫の石列か。赤化した礫を含むが、形状からみて屋外集石炉とは考えにくい。**時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。

集石・石列SH27 (遺構第79図) **位置**: I-V-18 **検出**: SB02 (②-2)の覆土中、床面から浮いた状態で検出。IIb層中で検出されたものらしい。検出段階①か。**構造**: 0.8×0.7mの円形。人頭大の礫が5個配置される。図化されていないが、周辺に拳大の礫が数個散在していたことから屋外集石炉の残骸の可能性もある。**切り合い**: SK73を切る。**時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。

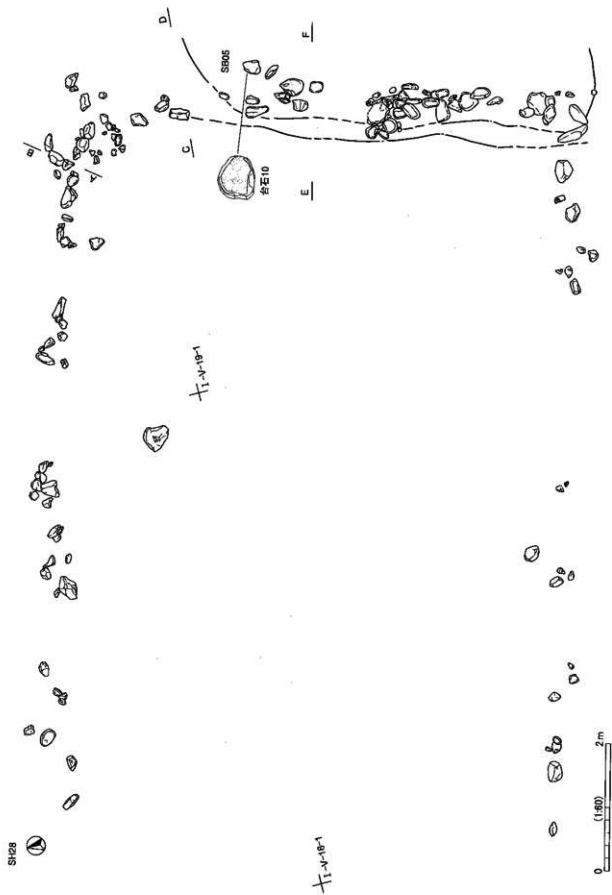
集石・石列SH28 (遺構第80・81図、土器第70図) **位置**: I-V-13~19 **検出**: SH28を切る屋外集石炉SH06などが検出段階②-1あるいは①、SH28に切られるSB05が検出段階②-1である。さらにSH28周辺の土壌は土壌化がすすんでいない。よってIIb層は切っているが、①段階ではなく、IIb層中の検出段階②-1と考えられる。**構造**: 10~80cm程度の礫によるコ字状を呈する直線的な配置の石列。東西11.4×南北9.2mで南北方向は若干東に傾き、東西方向は若干北に傾く。部分的に深さ0.4m程度の掘り方が検出されている。遺跡現地に遺構保存処置がとられているため、下部の構造は詳細不明だが、部分的に意図的に石を建てて組んでいる部分が認められる。**切り合い**: SB05、SK02を切り、SH06~10、SK18、1099に切られる。**遺物**: 土器、1~3楕円押型文、3原体割付線平行。4~6山形押型文。石器は、花崗岩製台石(第182図10)出土。**時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。

集石・石列SH29 (遺構第82図) **位置**: I-V-23 **検出**: 検出レベルを土層観察用トレンチ4に対比するとIIIb~IVa層の漸移層に対応する。検出段階③-1。**構造**: 集石径0.5m、掘り込み0.8×0.7mの長円形、深さ0.2m。人頭大の礫4個配置される。**土層**: 明黄褐色~にぶい黄褐色シルト質砂。**時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

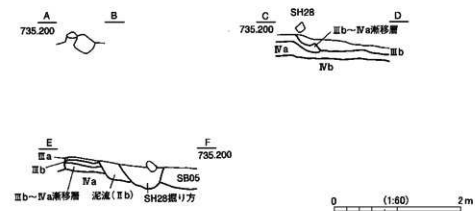
集石・石列SH30 (遺構第82図) **位置**: I-U-18 **検出**: 検出レベルを土層観察用トレンチ5に対比すると、IVb層上面に対応する。検出段階③-2。赤化破損し、風化が著しい拳大の礫を含むので、集石炉内の石が廃棄されたものの可能性がある。**構造**: 1.4×0.8mの範囲に集中。**時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

集石・石列SH31 (遺構第82図) **位置**: I-U-18 **検出**: IVb層上面で検出。検出段階③-2。
構造: 0.8×0.4mの範囲に拳大の礫が散在。**時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

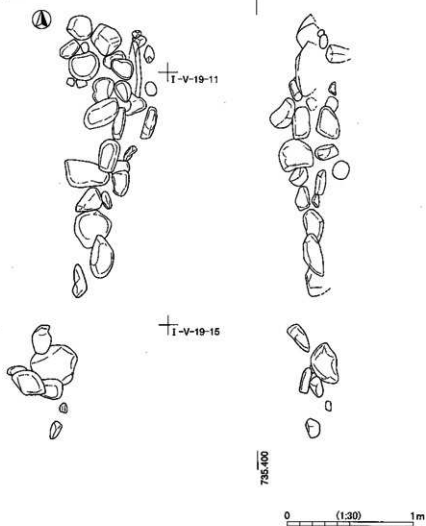
集石・石列SH32 (遺構第82図) **位置**: I-V-14・19 **検出**: 検出面レベルを土層観察用トレンチ4に対比すると、IIIb層上面に対応する。掘り込みの覆土が土壌化していることを勘案すると検出段階②-2か。**構造**: 集石は径0.9mの円形、掘り込み1.2×0.9mの長円形、深さ0.5m。礫は拳大が中心。**土層**: 黒褐色シルト質砂。**遺物**: 石器は花崗岩製特殊磨石(第165図36・38)、砂岩製特殊磨石(37)



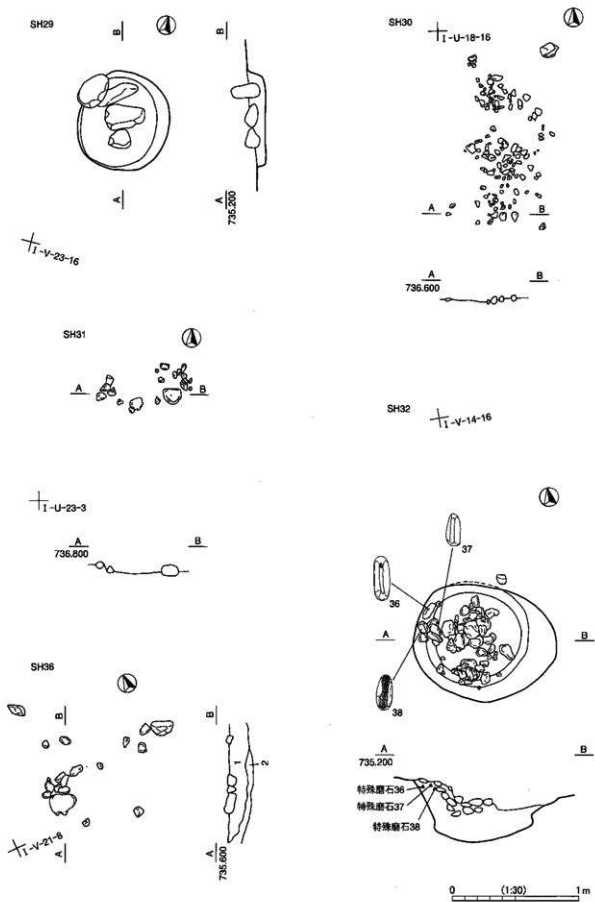
第80図 集石・石列遺構図その8



SH28 部分拡大



第81図 朱石・石列遺構図その9



第82図 集石・石列遺構図その10

が出土。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。

集石・石列SH33 (遺構第83図) 位置：I-U-15 検出：IVa層中で検出。検出段階③-1。構造：3.5×1.8mの範囲に拳大から人頭大の礫が散在する。切り合い：SK72を切る。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

集石・石列SH34 (遺構第83図) 位置：I-V-21 検出：IVb層上面で検出。検出段階③-2。構造：集石は0.7×0.6mの長円形、わずかに掘り込みがあり、深さ0.2m。拳大から20cm程度の礫の間に炭化物が含まれる。礫の多くは赤化、風化している。屋外集石炉。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

集石・石列SH35 (遺構第84図) 位置：I-V-22 検出：IVb層上面で検出。検出段階③-2。構造：集石は2.1×1.2mの不整形な長方形。人頭大から拳大の礫があるが、赤化、風化する礫はない。幅があるが石列と思われる。遺物：花崗岩製特殊磨石(第165図39)。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

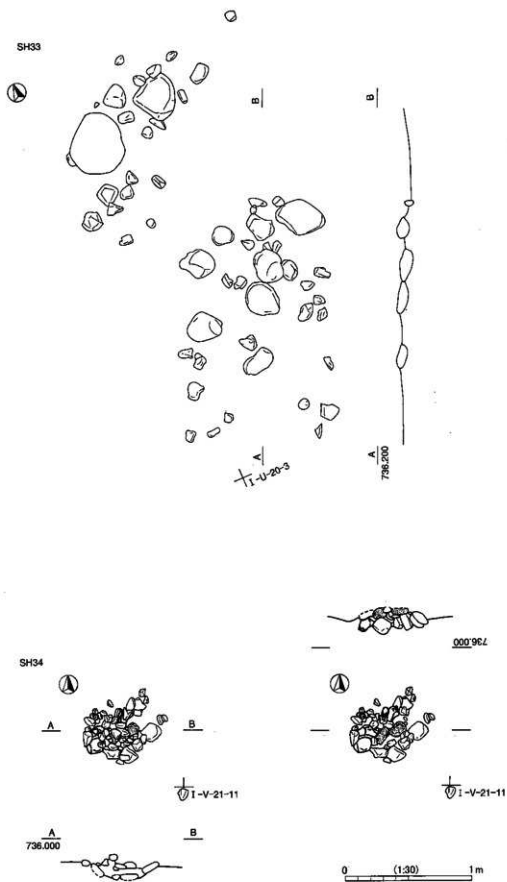
集石・石列SH36 (遺構第82図、土器第70図) 位置：I-V-21 検出：IVa層中で検出。検出段階③-1。構造：集石は1.4×1.2mの範囲の中に散在。切り合い：SK38を切る。土層：1. 黒褐色砂質シルト。IVa層相当。2. 黄褐色砂質シルト。IVb層相当。遺物：土器、1・2楕円押型文、1原体制付線右巻。3・4山形押型文、3瘤状突起貼付後、山形押型文横位回転押捺。5回転縄文R。石器は、頁岩製刃器(第148図14)が出土。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階。

集石・石列SH37 (遺構第84図) 位置：I-V-21 検出：IVb層上面で検出。検出段階③-2。構造：20cm程度の礫が1.1×0.7mの範囲に散在。隣接するSH38の集石の一部が廃棄された可能性がある。切り合い：SK37bを切る。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階。

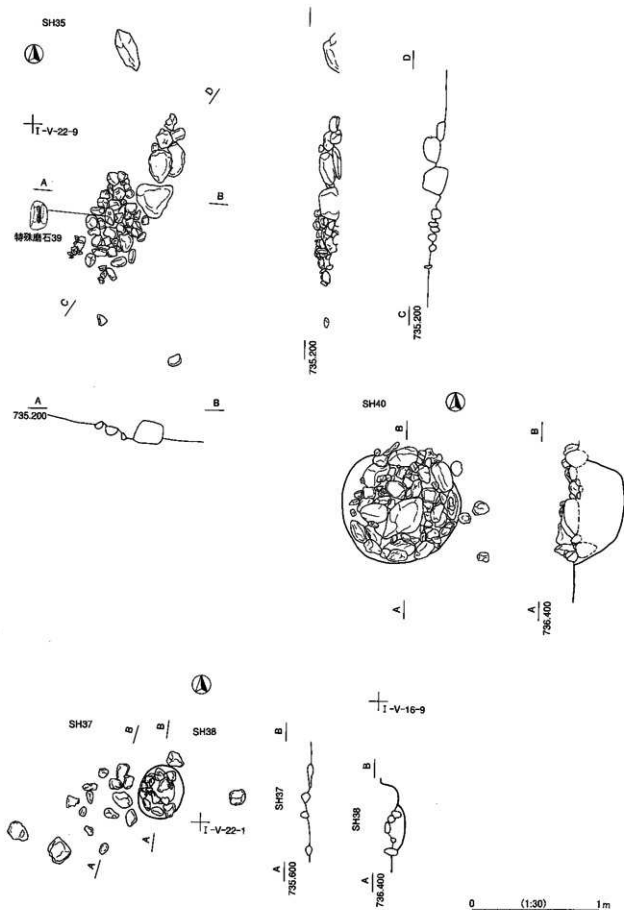
集石・石列SH38 (遺構第84図) 位置：I-V-17 検出：IVb層上面で検出。検出段階③-2。構造：集石は0.5×0.4mの長円形、掘り込みは径0.4mの深さ0.2m。赤化した拳大の礫が多い。屋外集石炉。土層：IVa層起源の土壌化した層。遺物：1原体制付線右巻の楕円押型文。2異種併用押型文、楕円押型文横位後、山形押型文横位回転押捺。3回転縄文R。時期：縄文時代早期中葉。

集石・石列SH39 (遺構第85図、土器第70図) 位置：I-V-21 検出：IVb層上面で検出。検出段階③-2。構造：集石は3.3×1.2mの範囲に人頭大の礫が9個と拳大の礫が散在する。人頭大の礫は赤化し、風化が著しい。屋外集石炉が廃棄されたものと考えられる。遺物：土器、1回転縄文LR。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

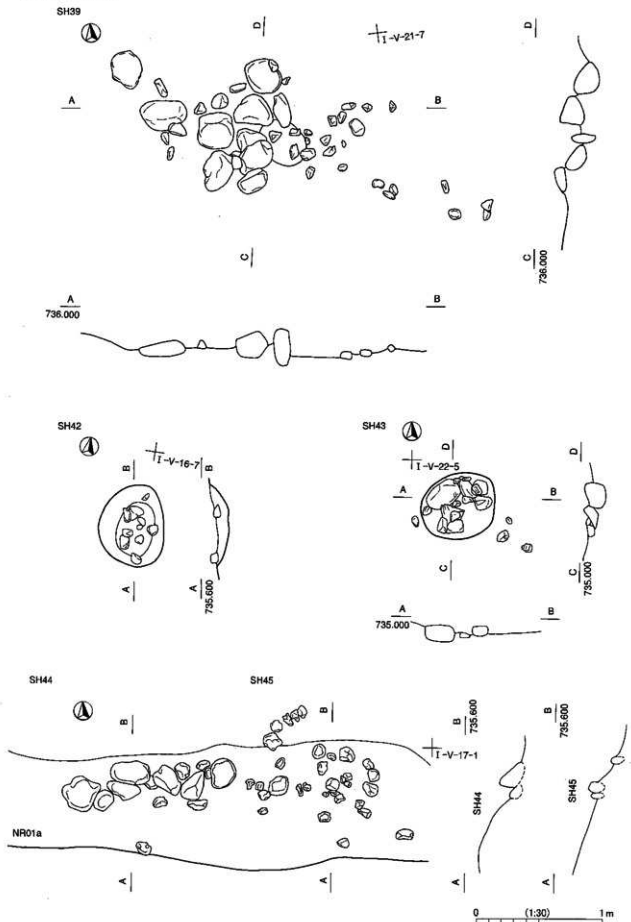
集石・石列SH40 (遺構第84図、土器第70図) 位置：I-V-16 検出：検出レベルを土層観察用トレンチに対比すると、Ⅲa層に対応。検出段階②-1。構造：集石、1.1×0.9mの長円形。掘り込みは1.0×0.9mの円形、深さ0.4m。屋外集石炉。礫は拳大か人頭大。遺物：土器、1山形押型文。2回転縄文LR。3回転縄文R。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。



第83図 集石・石列遺構図その11



第84図 集石・石列遺構図その12



第85図 集石・石列遺構図その13

集石・石列SH42 (遺構第85図) **位置**: I-V-16 **検出**: IVb層上面で検出。検出段階③-2。
構造: 集石0.5×0.3mの長円形。掘り込み0.7×0.5mの長円形、深さ0.2m。赤化し、風化した拳大の礫が多い。屋外集石炉。**土層**: 黒色細シルト質砂。**遺物**: 石器、安山岩製台石(第182図11)出土。
時期: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

集石・石列SH43 (遺構第85図) **位置**: I-V-22 **検出**: IVb層上面で、IVa層起源の褐色の落ち込みを認めた。検出段階③-2。**構造**: 集石0.6×0.5mの略円形、掘り込みほぼ同形で、深さ0.2m。礫は拳大から人頭大。**土層**: 褐色礫混シルト。**時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

集石・石列SH44 (遺構第85図) **位置**: I-V-16 **検出**: NR01aの南岸、IVb層上面で検出。検出段階③-2。**構造**: 1.4×0.4mの人頭大の礫が東西方向、直線的に配置される石列。**切り合い**: NR01aの上位にある。**遺物**: 図化しなかったが、花崗岩製特殊磨石が2点出土。**時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

集石・石列SH45 (遺構第85図) **位置**: I-V-16 **検出**: NR01aの南岸、IVb層上面で検出。検出段階③-2。**構造**: 1.4×1.1mの範囲に拳大の礫が散在する。風化、赤化したものが多い。SH44とセットで、あるいは屋外集石炉が廃棄されたものの可能性もあろう。**切り合い**: NR01aの上位にある。**時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

集石・石列SH46 (遺構第86図) **位置**: I-U-20 **検出**: NR01aの南岸、IVb層上面で検出。検出段階③-2。**構造**: 2.3×1.3mの範囲に拳大から人頭大の礫が散在する。風化、赤化したものが多い。屋外集石炉が廃棄されたものか。**切り合い**: NR01aの上位にある。**遺物**: 花崗岩製特殊磨石(第166図42)出土。**時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

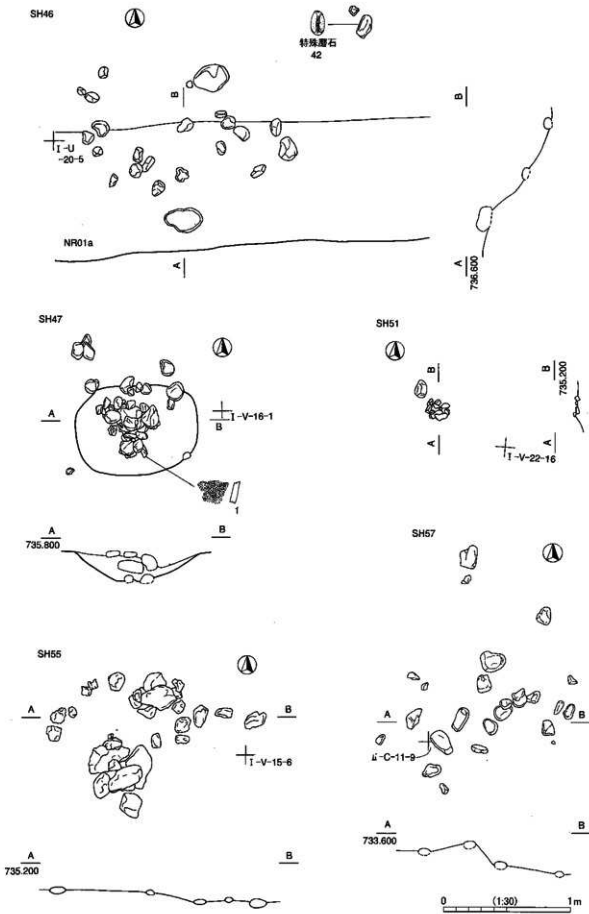
集石・石列SH47 (遺構第86図) **位置**: I-U-15・20 **検出**: IVa層下部からIVb層上面で検出。検出段階③-2。**構造**: 集石、1.1×1.0m。掘り込みは1.0×0.7mの長円形、深さ0.3m。拳大から人頭大の礫は風化、赤化している。屋外集石炉。**土層**: 黒色砂。**遺物**: 石器、1楕円押型文。石器は図化できなかつたが磨石類、台石、刃器(礫器・石核?)が出土している。**時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

集石・石列SH48 (遺構第87図) **位置**: I-U-20・25 **検出**: IVb層上面で検出。検出段階③-2。
構造: 3.4×2.2mの範囲に拳大～人頭大の礫が散在。西端に南北方向に長さ1.4mの直線的な礫の配置がある。この部分は石列。**時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

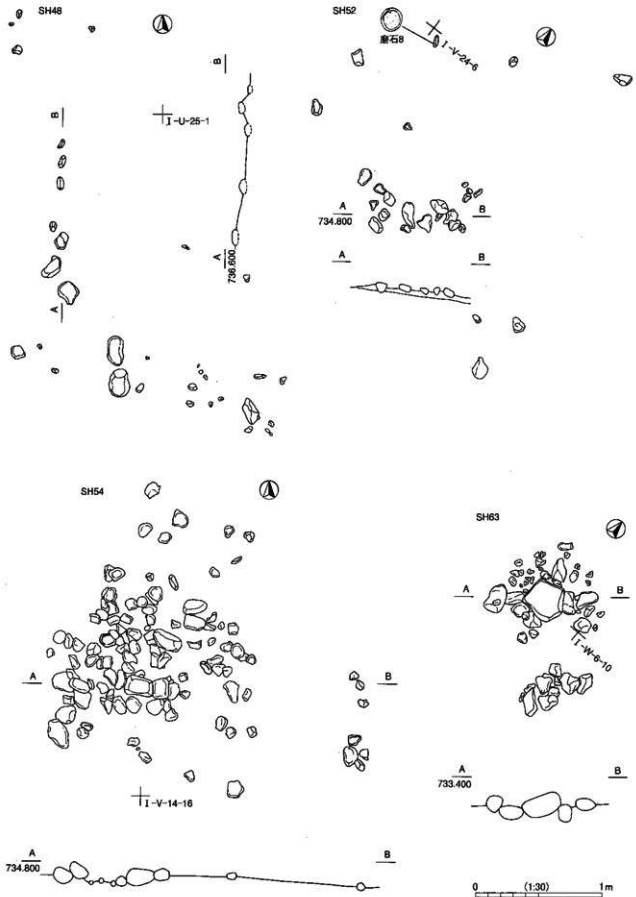
集石・石列SH51 (遺構第86図) **位置**: I-V-22 **検出**: SⅢ層中で検出。Ⅱb層とⅢa層の間に対応。検出段階②-1。**構造**: 0.4×0.2mの長方形。礫は拳大。**時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階。

集石・石列SH52 (遺構第87図) **位置**: I-V-24 **検出**: Ⅲb層～IVa層直上で検出されたという所見があり、土層観察用トレンチ4に対比するとIVa層上面にほぼ対応。検出段階③-1。**構造**: 2.7×1.6mの範囲に拳大の礫が散在するが、0.9×0.4mの範囲に石列状に北東-南西方向に直線的に配置されている部

第4章 遺構と土器



第86図 集石・石列遺構図その14



第87図 集石・石列遺構図その15

分がある。切り合い：SK64を切る。遺物：石器は花崗岩製磨石（第179図8）出土。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階。

集石・石列SH53（遺構第79図）位置：I-V-24 検出：SH25と同じくIVb層上面検出。検出段階③-2。構造：集石、0.3×0.2m、掘り込みは径0.5mの円形、深さ0.3m。礫は拳大。切り合い：SK65を切る。土層：IVa層起源の土。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階。

集石・石列SH54（遺構第87図）位置：I-V-14 検出：IVa層中で検出。検出段階③-1。構造：2.6×2.5mの範囲に拳大からやや大きい礫が集中。切り合い：SK49bを切る。遺物：土器、1・2枚楕円押型文。1外面に指頭圧痕残る。3・4山形押型文、4頸部に刺突文。5異種併用押型文、楕円押型文横位後、格子目押型文横位回転捺。6回転縄文RL。7回転縄文R。石器、花崗岩製特殊磨石（第165図40・41）出土。時期：縄文時代早期中葉。

集石・石列SH55（遺構第86図）位置：I-V-15 検出：IVb層上面で検出。検出段階③-2。構造：1.7×1.3mの範囲に拳大から人頭大の礫、集中。切り合い：SK1066を切る。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

集石・石列SH56（遺構第88図）位置：I-V-19 検出：IVa層中で検出。検出段階③-1。構造：3.1×0.6m、東北-南西方向に直線的に拳大～人頭大の礫が配置、石列。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

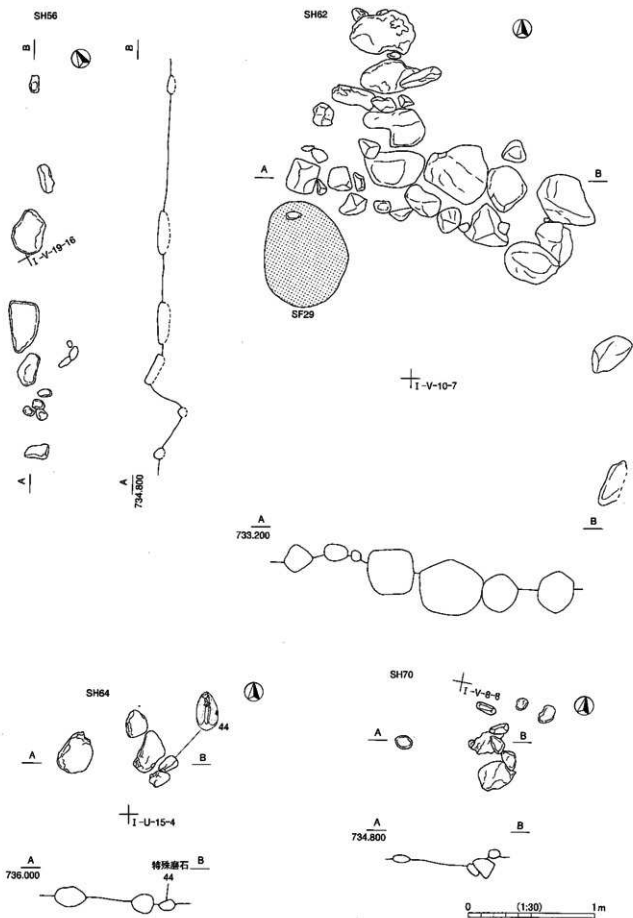
集石・石列SH57（遺構第86図）位置：II-B-15・C-11 検出：IVb層上面で検出されたが、尾根部分の東側平坦部分では、検出段階区分はない。構造：1.8×1.6mの範囲に拳大の礫、散在。遺物：石器、花崗岩製特殊磨石（第166図43）出土。時期：縄文時代早期中葉。

集石・石列SH58（遺構第89図）位置：I-V-9 検出：IVb層上面で検出。検出段階③-2。構造：5.5×3.0mの範囲に拳大から人頭大の礫、集中。切り合い：SF26を切る。遺物：土器、1～4枚楕円押型文、原体割付線1左巻、2・3右巻。4山形押型文。5回転縄文R。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階。

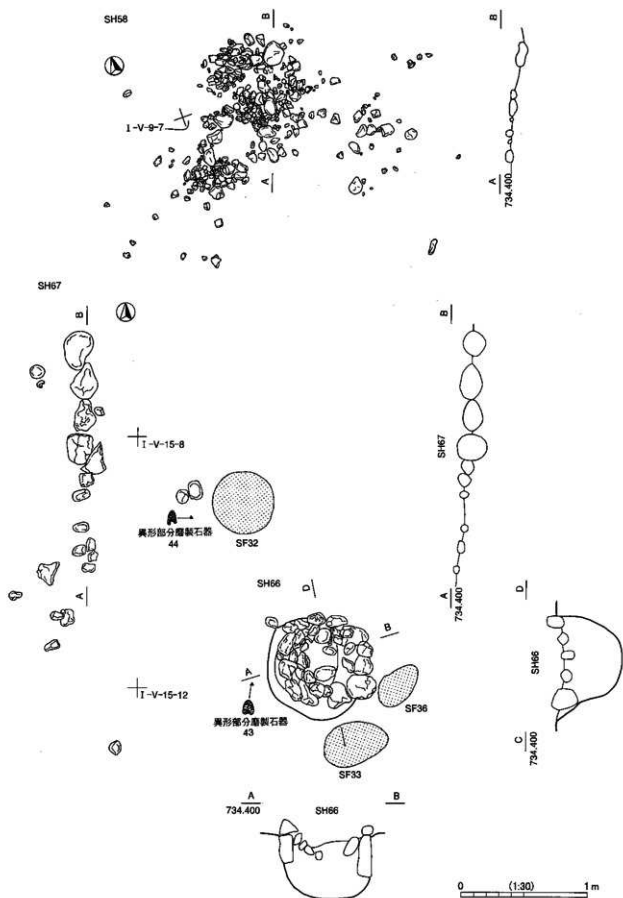
集石・石列SH61（遺構図なし。土器第72図）遺物：土器、1枚楕円押型文、原体割付線平行、17段+ α 、軸長35mm+ α 。器形は屈曲しないが、頸部にわずかに押型文が施文されない部分がある。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

集石・石列SH62（遺構図第88図）位置：I-V-5・10 検出：IVa層中で検出。検出段階③-1。構造：2.7×2.1m。人頭大の礫が「く」字状に配置。石列か。南側に焼土集中SF29があるが、関連する可能性がある。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

集石・石列SH63（遺構第87図）位置：I-W-6 検出：IVa層からIVb層にかけて検出。検出段階③。構造：1.4×0.9mの範囲に拳大から人頭大の礫が集中。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階



第88圖 集石・石列遺構四その16



第89図 集石・石列遺構図その17

か。

集石・石列SH64 (遺構第88図) **位置**: I-U-10 **検出**: IVa層からIVb層にかけて検出。検出段階③。**構造**: 1.0×0.6mの範囲に人頭大の礫が集中。**遺物**: 石器、石材不明(花崗岩か)特殊磨石(第166図44)出土。**時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

集石・石列SH66 (遺構第89図) **位置**: I-V-15 **検出**: IVa層中で検出。検出段階③-1。**構造**: 集石は1.0×0.8mの長円形。掘り込みは径0.8mの円形、深さ0.5m。掘り込みに沿った形で20~40cmの平たい石を配置し、その中側に拳大の礫が充填される。屋外集石炉。隣接して焼土集中SF33、36がある。**遺物**: 集石内からは花崗岩製特殊磨石(第166図45)、集石西側からはチャート製異形部分磨製石器類似石鏃(第129図43)が出土。**時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

集石・石列SH67 (遺構第89図) **位置**: I-V-15 **検出**: IVb層上面で検出。検出段階③-2。**構造**: 2.6×0.6mの南北方向に直線に配置された石列。礫は拳大から人頭大。東側に焼土集中SF32がある。**遺物**: SH67とSF32の間からチャート製異形部分磨製石器類似石鏃(第129図44)が出土。**時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

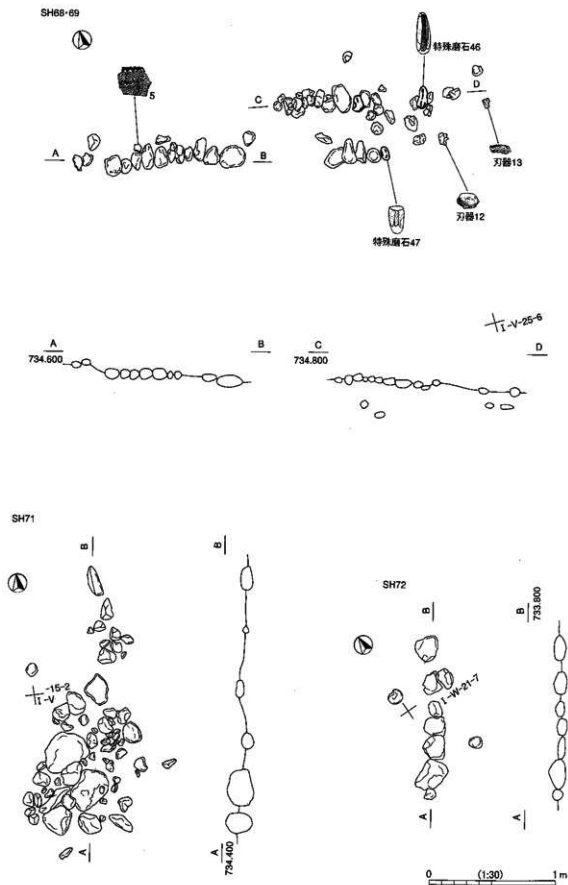
集石・石列SH68・69 (遺構第90図、土器第72図) **位置**: I-V-20・25 **検出**: IIIb層~IVa層で検出された。検出段階②-2~③-1。**構造**: 3.4×0.9mのやや北側に10度程度傾く東西方向に直線配置された石列。西側から1.5m、東側に1.5mと1.2mの計三本の石列が並行しているようにも見えるが、峻別できなかったので一つの石列として把握した。**遺物**: 土器、1・2楕円押型文。3~6山形押型文、4~6刺突文が施された頸部。7矢羽状押型文。石器は石材不明(花崗岩か)特殊磨石(第166図46)、花崗岩特殊磨石(第166図47)、頁岩製刃器(第148図12・13)、砂岩製有溝砥石(第158図4)が出土。**時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階。

集石・石列SH70 (遺構第88図) **位置**: I-V-8 **検出**: IVa層中で検出。検出段階③-1。**構造**: 1.3×0.7mの範囲に拳大から人頭大の礫が散在する。**時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

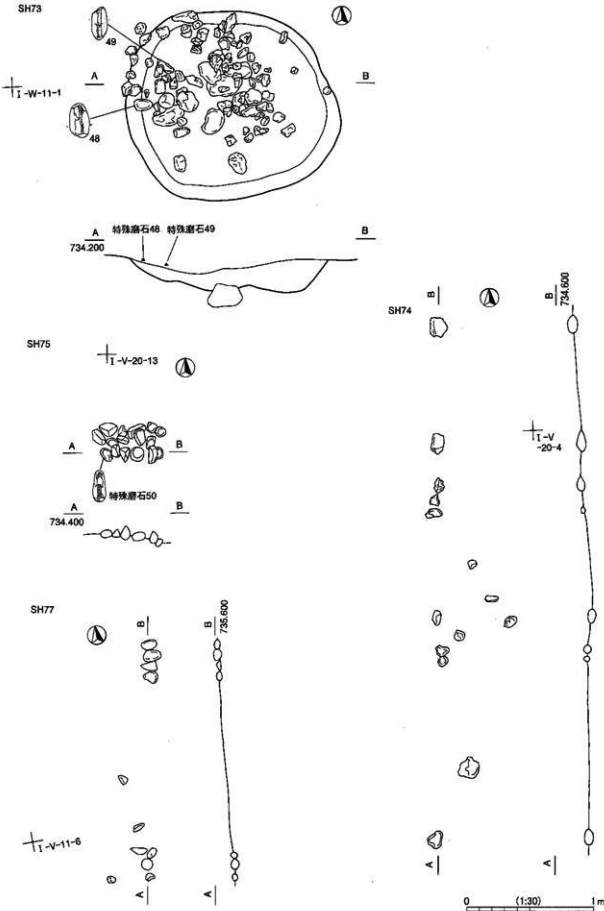
集石・石列SH71 (遺構第90図) **位置**: I-V-15 **検出**: IVa層中で検出。検出段階③-1。**構造**: 2.3×1.4mの範囲に拳大から人頭大の礫が集中。**時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

集石・石列SH72 (遺構第90図、土器第71図) **位置**: I-W-21 **検出**: IVa層中で検出。検出段階③-1。**構造**: 1.3×0.8mの範囲内に人頭大の礫が集中、北東-南西方向、直線に配置された石列。**遺物**: 1楕円押型文。2山形押型文。**時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

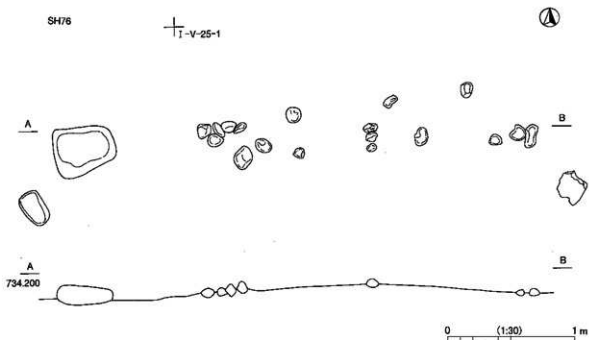
集石・石列SH73 (遺構第91図、土器第71図) **位置**: I-W-6・11 **検出**: IVa層下位で検出。検出段階③-1。**構造**: 集石1.6×1.4mに拳大の礫集中。掘り込みは1.7×1.6mの不整形な方形、深さ0.3m。**土層**: 黒褐色砂質シルト。**遺物**: 土器、1~3楕円押型文、1口縁部直下外面横位回転押捺、その下位縦位回転押捺。2縦位回転押捺。3斜位回転押捺、原体割付線左巻。4山形押型文。石器は頁岩製石鏃(第130図26)、頁岩製搔器(第139図29)、花崗岩製特殊磨石(第167図48)、石材不明(砂岩か)特殊磨



第90図 集石・石列遺構図その18



第91図 集石・石列遺構図その19



第92図 集石・石列遺構図その20

石（第167図49）出土。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

集石・石列SH74（遺構第91図）位置：I-V-15・20 検出：IVb層直上で検出か。検出段階③-2か。構造：4.2×0.7mの範囲に散在、拳大の礫による南北方向直線的な石列か。遺物：図化していないが刃器（礫器・石核？）が出土。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

集石・石列SH75（遺構第91図）位置：I-V-20 検出：SK1071の上位に位置する。IVa層中で検出。検出段階③-1。構造：0.6×0.3mの長方形、拳大の礫が集中。あるいは2列の石列と把握すべきかもしれない。切り合い：SK1071の上位に位置する。遺物：石器は花崗岩製特殊磨石（第167図50）が出土。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

集石・石列SH76（遺構第92図、土器第71図）位置：I-V-20・25 検出：IVb層上面で検出。検出段階③-2。構造：4.5×1.0mの範囲に散在、東西方向直線的に配置。1点50cm程度の平たい石があるが、大半は拳大の礫による石列。遺物：土器、1楕円押型文、原体割付線平行。2山形押型文。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

集石・石列SH77（遺構第91図）位置：I-V-11 検出：IVa層中検出のSK1086やSK1087と同じレベルで検出されている。検出段階③-1。構造：2.0×0.4mの拳大礫によるほぼ南北方向直線的な石列。途中があいているので、2基の石列と把握すべきかもしれない。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

第4節 焼土集中

山の神遺跡では、焼土集中がかなり見られたので、SF01から通し番号で記録した(ただしSF01は欠番)。ただし、明らかに堅穴住居跡や集石・石列(屋外集石炉)に伴う焼土集中は、各遺構内の施設・構造として扱ったので、個別の番号は付与せず、各々の遺構の項目で扱ったので、ここには収録されていない。廃棄された集石炉が多く、集石炉の痕跡が焼土集中として扱われている場合も少なからず存在すると思われるが、実際に複数の礫を伴わないものはすべて焼土集中とした。また焼土集中の下位に掘り込みがあり、堅穴状の遺構になるものがあるが、これらを独自の土坑SKとはせず、焼土集中SFに帰属させた。

焼土集中SF02(遺構第93図) **位置**: II-B-14 **検出**: 検出面の土層はにぶい黄褐色砂質シルトであり土壌化していない。さらに土層観察用トレンチ7に対比させるとこの付近にはⅢb層が存在せず、Ⅳb層上面の高さに対応する。検出段階③-2。 **構造**: 焼土集中自体は径15cm程度。掘り込みがあり、0.6×0.6mの不整形、深さ0.1m。中央部に径30cm程度の炭化物の集中がある。 **土層**: 炭化物が多い暗褐色砂質シルト、焼土集中部分は明赤褐色砂質シルト。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

焼土集中SF04(遺構第93図) **位置**: II-B-1 **検出**: 検出面のレベルを土層観察用トレンチ7に対比させるとⅣb層上面に対応。検出段階③-2。 **構造**: 0.5×0.4mの範囲に2ヶ所不整形な焼土集中がある。 **土層**: 赤褐色～褐色砂質シルト。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

焼土集中SF05(遺構第93図) **位置**: I-V-21 **検出**: Ⅳa層上面で検出。検出段階③-1。 **構造**: 0.5×0.5mの不整形、深さ0.2m。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

焼土集中SF06(遺構第93図) **位置**: I-V-21 **検出**: Ⅳa層上面で検出。検出段階③-1。 **構造**: 0.4×0.2mの不整形、深さ0.1m。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

焼土集中SF07(遺構第94図) **位置**: I-V-16 **検出**: SF05と検出面のレベルが同じ。検出段階③-1か。 **構造**: 0.7×0.5mの不整形、深さ0.1m。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

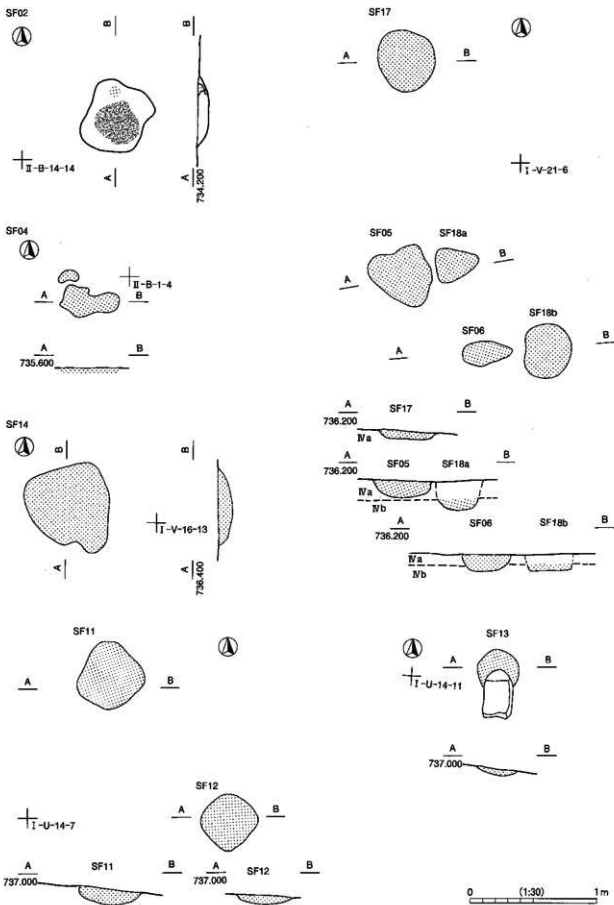
焼土集中SF08(遺構第94図) **位置**: I-V-16 **検出**: SF05と検出面のレベルが同じ。検出段階③-1か。 **構造**: 0.6×0.5mの不整形、深さ0.1m。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

焼土集中SF09(遺構第94図) **位置**: I-V-16 **検出**: SF05と検出面が同じ。検出段階③-1か。 **構造**: 0.4×0.3mの略長方形、深さ0.1m。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

焼土集中SF10(遺構第94図) **位置**: I-V-16 **検出**: SF05と検出面が同じ。検出段階③-1か。 **構造**: 0.6×0.4mの卵形、深さ0.1m。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

焼土集中SF11(遺構第93図) **位置**: I-U-14 **検出**: Ⅳa層上面で検出。検出段階③-1。 **構造**: 0.5×0.5mの不整形な方形、深さ0.2m。 **土層**: 褐色砂質シルト。しまりよく、粘性あり。 **時期**: 縄

第4章 遺構と土器



第93図 焼土集中その1

文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

焼土集中SF12(遺構第93図) **位置**: I-U-14 **検出**: IVa層上面で検出。検出段階③-1。 **構造**: 0.5×0.4mの方形、深さ0.1m。 **土層**: 褐色砂質シルト。しまりよく、粘性あり。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

焼土集中SF13(遺構第93図) **位置**: I-U-14 **検出**: IVa層上面で検出。検出段階③-1。 **構造**: 0.3×0.3mの略円形、深さ0.1m。 **土層**: 褐色砂質シルト。しまりよく、粘性あり。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

焼土集中SF14(遺構第93図) **位置**: I-U-20 **検出**: IVa層上面で検出。検出段階③-1。 **構造**: 0.7×0.7mの不整形、深さ0.1m。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

焼土集中SF15(遺構第94図) **位置**: I-U-25 **検出**: 検出面レベルを土層観察用トレンチ7に対比させるとIVb層上面に対応する。検出段階③-2か。 **構造**: 1.2×0.6mの長円形、深さ0.1m。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

焼土集中SF16a(遺構第94図) **位置**: I-U-25 **検出**: 検出面レベルを土層観察用トレンチ7に対比させるとIVb層上面に対応する。検出段階③-2か。 **構造**: 0.5×0.4mの深さ0.1m。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

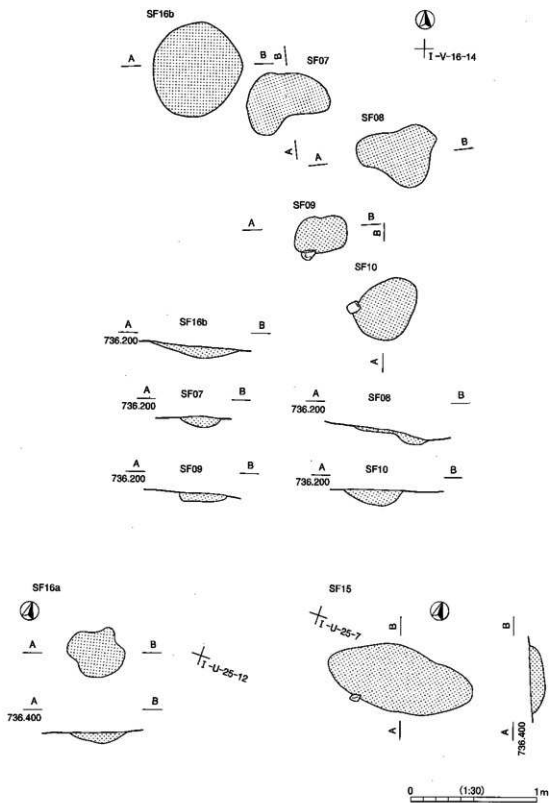
焼土集中SF16b(遺構第94図) **位置**: I-V-16 **検出**: SF05と検出面が同じ。検出段階③-1か。 **構造**: 径0.7mの円形、深さ0.1m。 **切り合い**: 溝SD01bに切られる。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

焼土集中SF17(遺構第93図) **位置**: I-V-21 **検出**: SF05と同段階で検出されているが、検出面のレベルを土層観察用トレンチ7に対比させるとIVa層の下位に対応する。検出段階③-1。 **構造**: 0.5×0.5mの不整形な円形、深さ0.1m。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

焼土集中SF18a(遺構第93図) **位置**: I-V-21 **検出**: SF05と同段階で検出されたことになっているが、検出面のレベルを土層観察用トレンチ7に対比させるとIVb層上面に対応する。検出段階③-2。 **構造**: 0.4×0.3mの略三角形、深さ0.1m。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

焼土集中SF18b(遺構第93図) **位置**: I-V-21 **検出**: SF18aと同じ検出面。検出段階③-2。 **構造**: 径0.4mの不整形な円形、深さ0.1m。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

焼土集中SF19(遺構第95図) **位置**: I-V-16 **検出**: SF05と同じ検出面。検出段階③-1か。 **構造**: 下位にしっかりした掘り込みがある調査段階では別遺構(土坑SK1105)としてとらえたが、検討の結果同一遺構とする。焼土集中0.8×0.6mの不整形、深さ0.1m。掘り込み1.0×0.6mの楕円形、深さ0.2m。 **土層**: 灰白色シルト質砂に赤褐色シルト質砂を含む。粘性はないが、しまり強い。 **時期**: 縄文時代早



第94図 焼土集中その2

期中葉山の神遺跡第2段階か。

焼土集中SF20 (遺構第95図、土器第72図) **位置**：I-V-14 **検出**：IVa層～IVb層にかけて検出された。検出面のレベルからIVa層中で検出されたと思われる。検出段階③-1か。**構造**：0.9×0.7mの菱形。**遺物**：土器、1山形押型文。石器は頁岩製搔器(第139図28)、頁岩製二次加工のある剥片(第135図8)が出土。**時期**：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

焼土集中SF21 (遺構第95図) **位置**：I-V-9・10 **検出**：IVb層上面で検出。検出段階③-2。**構造**：焼土集中径0.6mの円形、深さ0.1m。掘り込み1.3×0.9mの不整形な長円形、深さ0.2m。**土層**：1. 橙色粘土質砂。IVa層起源の土。2. 明赤褐色粘土質砂。**時期**：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

焼土集中SF22 (遺構第95図) **位置**：I-V-14 **検出**：IVa層～IVb層にかけて検出された。検出面のレベルからIVb層中で検出されたと思われる。検出段階③-2か。**構造**：径0.5mの円形、掘り込み0.5×0.4mの長円形、深さ0.1m。**土層**：明褐色粘土質砂。**時期**：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

焼土集中SF23 (遺構第95図) **位置**：I-V-9 **検出**：IVb層上面で検出。検出段階③-2。**構造**：焼土集中0.7×0.5mの長円形、深さ0.1m。掘り込み0.6×0.5mの三角形、深さ0.1m。**土層**：明赤褐色粘土質砂。**時期**：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

焼土集中SF24 (遺構第95図) **位置**：I-V-9 **検出**：IVb層上面で検出。検出段階③-2。**構造**：0.4×0.3mの不整形、深さ0.1m。**土層**：明赤褐色粘土質砂。**時期**：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

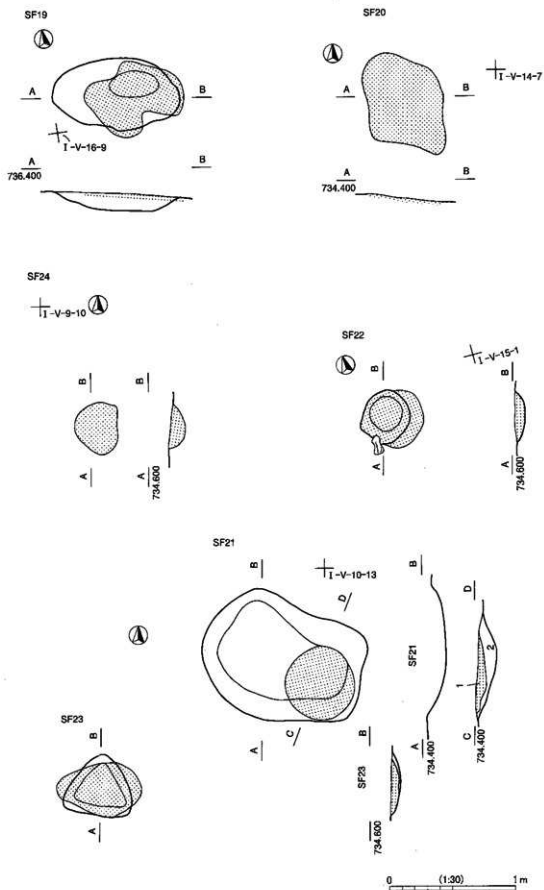
焼土集中SF25 (遺構第96図) **位置**：I-V-9 **検出**：IVb層上面で検出。検出段階③-2。**構造**：0.5×(0.5)mの長円形か。**時期**：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

焼土集中SF26 (遺構第96図) **位置**：I-V-9 **検出**：IVb層上面で検出。検出段階③-2。**構造**：0.7×0.6mの長円形、深さ0.1m。**切り合い**：SH58を切る。**土層**：1. にぶい赤褐色砂質シルト、焼土多く、炭塊も含む。2. 褐色砂質シルト。**時期**：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

焼土集中SF27 (遺構第96図) **位置**：I-W-16 **検出**：IVa層下～IVb層上で検出。検出段階③。**構造**：0.5×0.4mの長円形。**時期**：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

焼土集中SF28 (遺構第96図) **位置**：I-V-9・10 **検出**：IVa層中で検出。ただしレベルの検出面はIVa層としては低い。検出段階③。**構造**：0.6×0.6m不整形な方形。**時期**：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

焼土集中SF29 (遺構第96図) **位置**：I-V-10 **検出**：検出面のレベルからIVb層上面の検出と推定。



第95図 焼土集中その3

検出段階③-2か。構造：0.8×0.7mの卵形。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

焼土集中SF30(遺構第96図) 位置：I-V-10 検出：検出面のレベルからIVb層上面の検出と推定。検出段階③-2か。構造：0.7×0.7mの方形、深さ0.1m。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

焼土集中SF31(遺構第97図) 位置：I-V-15 検出：IVa層中で検出。検出段階③-1。構造：0.4×0.4mの円形、深さ0.1m。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

焼土集中SF32(遺構第97図) 位置：I-V-15 検出：IVa層中で検出。検出段階③-1。構造：0.5×0.5mの円形、深さ0.1m。SF31西側から異形部分磨製石器類似石鏃(第129図44)が出土。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

焼土集中SF33(遺構第97図) 位置：I-V-15 検出：IVa層中で検出。検出段階③-1。構造：0.5×0.3mの卵形。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

焼土集中SF34(遺構第97図) 位置：I-V-15 検出：IVa層中で検出。検出段階③-1。構造：(0.6×0.2)mの円形か。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

焼土集中SF35(遺構第97図) 位置：I-V-15 検出：IVa層中で検出。検出段階③-1。構造：0.6×0.5mの円形、深さ0.1m。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

焼土集中SF36(遺構第97図) 位置：I-V-15 検出：IVa層中で検出。検出段階③-1。構造：0.4×0.3mの卵形。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

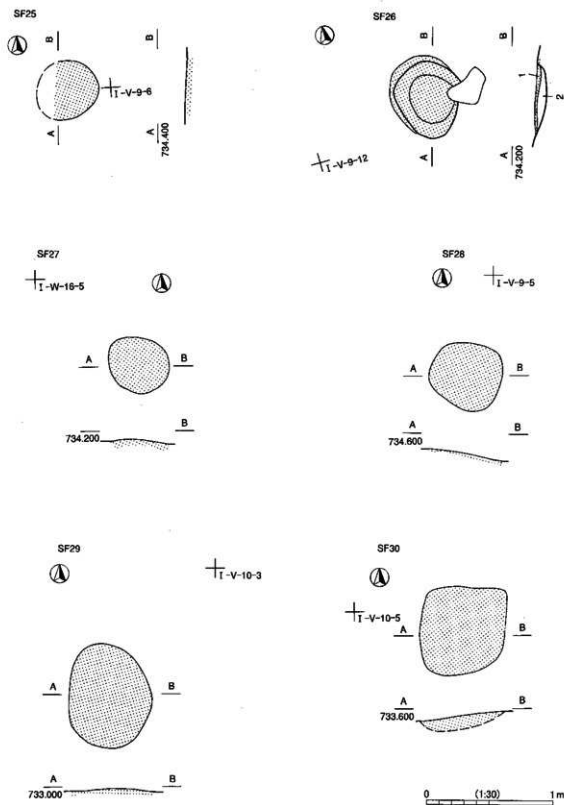
焼土集中SF37(遺構第97図) 位置：II-D-2 検出：IVb層上面で検出。尾根の東側平坦部、検出段階区分なし。構造：0.3×0.2mの卵形。時期：縄文時代早期中葉。

焼土集中SF38(遺構第98図) 位置：I-U-15 検出：IVa層中で検出。検出段階③-1。構造：0.4×0.3mの長円形、深さ0.1m。切り合い：SB12の上位に位置する。土層：灰色砂を少し含む赤褐色シルト質砂。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

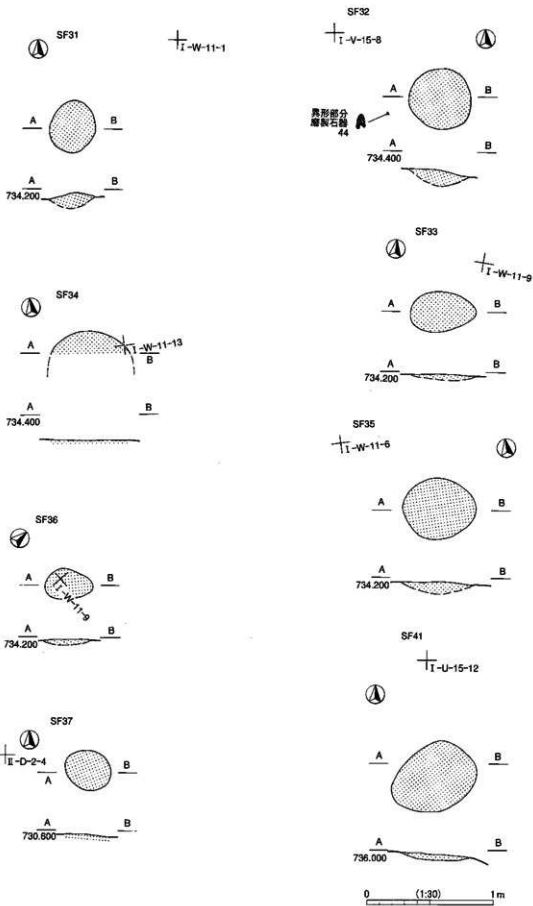
焼土集中SF39(遺構第98図) 位置：I-U-15 検出：IVa層中で検出。検出段階③-1。構造：0.4×0.3mの長円形、深さ0.1m。切り合い：SB12の上位に位置する。土層：灰色砂を少し含む赤褐色シルト質砂。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

焼土集中SF40(遺構第98図) 位置：I-U-15 検出：IVa層中で検出。検出段階③-1。構造：径0.3mの円形。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

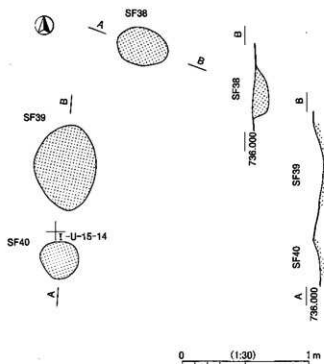
焼土集中SF41(遺構第97図) 位置：I-U-15 検出：IVa層中で検出。検出段階③-1。構造：0.4



第96図 検土集中その4



第97図 焼土集中その5



第98図 焼土集中その6

×0.3mの長円形、深さ0.1m。切り合い：SB14を切る。土層：炭や赤褐色砂を含む褐色シルト質砂。
 時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

第5節 溝・流路

人為的に掘削されている帯状の落ち込みを溝SDとし、自然の流路をNRと調査段階で設定したが、厳密にはその識別は難しい。なお、性格が不明な帯状の落ち込み性格不明遺構SX01も本節に含めた。

溝SD01a (遺構第99図、土器第72図) **位置**: II-C-6 **検出**: IVb層上面で検出。尾根東側の平坦部は検出区分なし。**構造**: 8.0×0.7m。途切れる部分がある。**遺物**: 図化できなかったが頁岩製剥片が出土。**時期**: SD02に覆土が似ており、近世もしくはそれ以降か。

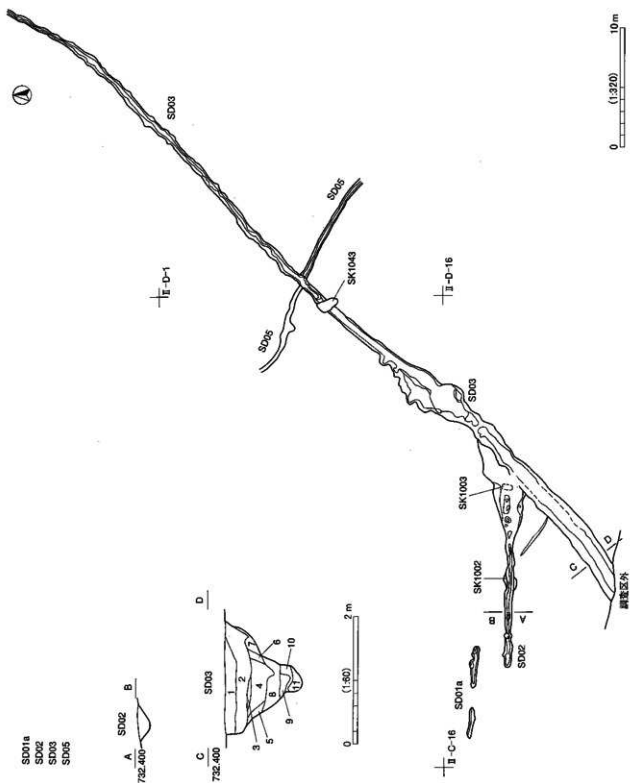
溝SD01b (遺構第100図) **位置**: I-V-16・21 **検出**: 焼土集中SF26 (②-1) に切られていて、覆土が土壌化している。また検出面のレベルを土層観察用レンチ5に対比するとIIIb層上面に対応する。よって検出段階②-2。**構造**: 6.8×0.5mの緩い円弧を描く。深さ0.1m。**切り合い**: SF16に切られる。**土層**: 黒褐色粗砂。**時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。

溝SD02 (遺構第99図、土器第72図) **位置**: II-C-17~19 **検出**: 土坑SK1002と同じIVb層上面で検出。尾根東側の平坦部は検出区分なし。**構造**: 15.5×2.3m、深さ0.2m。**切り合い**: SK1002、SK1003を切る。**土層**: 黒褐色砂混シルト。**遺物**: 1. 頸部無文部のある山形押型文。2. 格子目押型文。**時期**: 近世墓穴であるSK1003を切ることから江戸時代もしくはそれ以降。

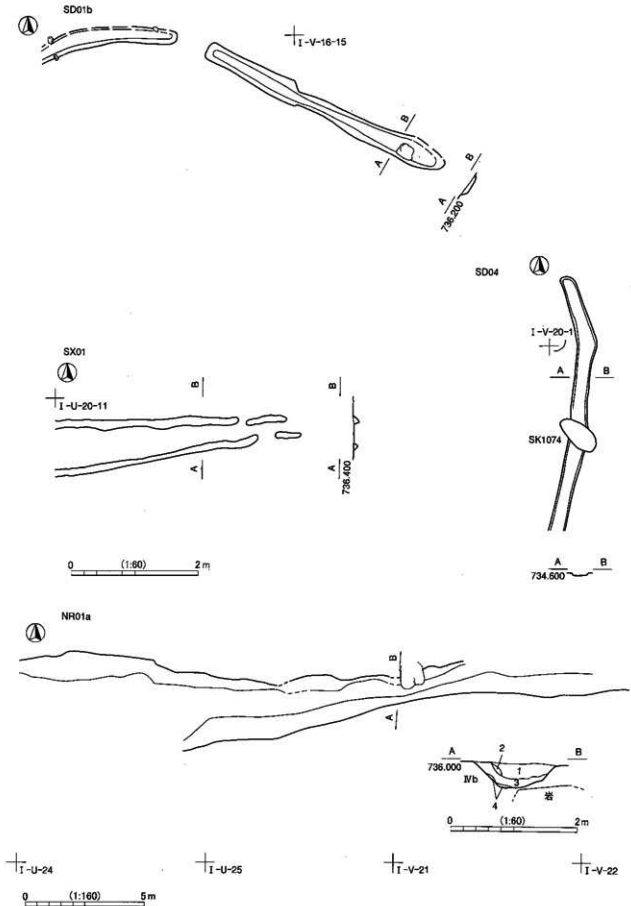
溝SD03 (遺構第99図、土器第72図) **位置**: I-X-18~20・22・23、II-C-10・14・15・18~20・22~24、D-1・2・6。**検出**: IVb層上面で検出。尾根東側平坦部は検出区分なし。**構造**: 72×3m。深さ1.2m。北東から南西に流れる流路、おそらく乳川に通じていたものと思われる。**切り合い**: SD05を切り、SK1043に切られる。**土層**: 1. 灰褐色砂礫混粘土質シルト。現在の表土。2. 黒褐色シルト質粘土。3. 灰褐色砂。4. 黒色シルト質粘土。5. におい黄褐色シルト混砂。6. 黄褐色砂礫混粘土質シルト。7. におい黄褐色シルト質粘土。8. 灰黄褐色シルト質砂。9. におい黄橙色歴混砂。10. におい黄褐色礫混砂。11. におい黄褐色礫混砂。**遺物**: 土器、1 楕円押型文。2 山形押型文。3 粗大な複合鋸歯押型文。4 貝殻腹縁刺突のある沈線文。**時期**: 遺物は縄文時代早期の土器、石器が多いが、溝SD03に隣接して土坑SK1003があり、近世もしくはそれ以降の溝と考えられるSD02と切り合い関係がよくわからなかったので、SD03も近世もしくはそれ以降の時期のものと考えられる。

溝SD04 (遺構第100図) **位置**: I-V-15・20 **検出**: IVb層上面で検出。検出段階③-2。**構造**: 4.0×0.3m少し湾曲するがほぼ東西方向。深さ0.1m弱。石列SH56、SH74、SH67と検出面が同じで、向きもほぼ一致する。時期はことなるがSH28の東辺とも平行する。SK1074も含めて石列の石が抜けた痕跡が溝状になったものかもしれない。**切り合い**: SK1074に切られる。**時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

溝SD05 (遺構第99図) **位置**: II-C-10、D-6・7・12。**検出**: IVb層上面で検出。尾根東側の平坦部は検出段階の区分なし。**構造**: 18×0.6m。検出段階では、IVb層上面で黒色の帯状の落ち込みと認められたので、溝ととらえた。しかし、部分的に非常に硬くしまった部分があり、溝としての底部や立ち上



第99図 溝・流路その1



第100図 溝・流路その2

がりがほとんどはつきりしない部分も多かったので、あるいは道の痕跡かもしれない。切り合い：SD03に切られる。時期：近世あるいはそれ以前か。

自然流路NR01a（遺構第20・21・100図）位置：I-U-20、V-16・17。検出：Ⅱb層の下位Ⅲa層でも帯状の落ち込みとしてとらえられたが、周辺の遺構を掘り下げた結果自然流路NR01a自体はⅣb層上面ですでに形成されていたものととらえられた。検出段階③-2。構造：26×1.2～3m、深さ0.4m前後。ほぼ東から西へ伸びる。切り合い：SB03を切るという所見があるが、関係ははつきりしない。SH44～47はNR01aの中に位置する。土層：1～3。炭化物を多く含む。1. 暗褐色細礫を含む粗砂。2. 黒褐色細礫を含む粗砂。3. 黒褐色細礫を含む粗砂。4. におい黄褐色粗砂。時期：縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階に形成されたが、第3段階でも多少帯状にくぼんでいたものと思われる。

自然流路NR01b（遺構第18図、土器第72図）位置：I-U、Ⅱ-A・B。検出：表土を除去した段階で谷状の落ち込みが認められた。検出段階は①。構造：44×10m、深さ0.6m～。当初は尾根を取り囲むような平面形を想定したが、単にNR01bのⅣa層起源の黒色土と尾根東端のⅣa層が区別できなくて混同しただけであり、流路のプラン自体は遺跡調査範囲北西から南東に向けて流れていたものである。

土層：黒褐色礫混シルト質砂。Ⅲa層およびⅣa層に酷似する。遺物：土器、1～9楕円押型文、1・3・5原体割付線平行。6割付線右巻。4焼成後穿孔痕あり。5外面に指頭圧痕残る。7横位後縦位回転押捺。8底部付近。縦位回転押捺。10～14山形押型文。12だけ縦位回転押捺。15縄文RL縦位回転押捺。16・17沈線文。時期：縄文時代早期中葉。

性格不明の帯状の落ち込みSX01（遺構第100図）位置：I-U-20・V-16 検出：Ⅳb層上面で検出。検出段階③-2。構造：3.9×0.9mでほぼ東西に2本筋が伸びる。断面はV字状を呈す。深さ0.1m。土層：小礫を含む黒灰～灰褐色シルト質粗砂。時期：縄文時代早期中葉第2段階か。

第6節 遺物集中

遺物集中は、元来他の遺構、土坑SKや集石・石列SHといった遺構やそれに伴った遺物の可能性があるが、調査段階で認識できず、整理でも帰属が判明しなかったものを便宜的に遺物集中SQとして扱った。

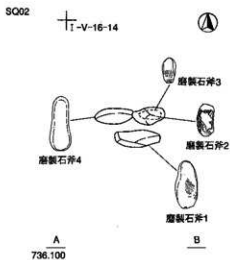
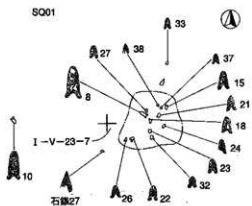
遺物集中SQ01 (遺構第101図、異形部分磨製石器第126～129図) **位置**: I-V-23 **検出**: におい赤褐色砂層から異形部分磨製石器が14点、石鏃1点が1.3×0.7mの範囲内に集中して出土したが、土坑や焼土集中などはまったく検出されなかったため、遺物集中SQ01とした。検出面のレベルを土層観察用トレンチ4に対比するとIIb層～IIIa層に対応するが、検出面付近の土層が土壌化していなかったという調査段階の所見に従い、IIb層中で検出されたものと判断した。検出段階②-1。 **構造**: 図中の一点鎖線はとくに赤みが強かった部分だが、所見によると焼土などではないという。掘り込みなどは検出されなかった。 **土層**: IIb層に対応するにおい赤褐色シルト質砂。 **遺物**: 石器、チャート製異形部分磨製石器(8、10、15、18、21、22、23、24、26、27、32、33、37、38)、チャート製石鏃(第130図27)が出土。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。

遺物集中SQ02 (遺構第101図、石器第156図) **位置**: I-V-16 **検出**: IVa層～IVb層の境界で磨製石斧など4点の石器が検出された。土坑の掘り込みなどはまったく検出されなかったため、遺物集中SQ02とした。検出段階③-2か。 **構造**: 8×4cmの範囲に集中して出土。磨製石斧などが直立した状態で出土した。磨製石斧3点、磨製石斧未製品(あるいは磨石あるいは敷石か)1点と器種が限定されていて、直立した状態で非常に限定された範囲から出土したということ考えると、アポのようなもので、しっかりした掘り込みでなかったため、立ち上がりが認識できなかったのではないかと思われる。 **遺物**: 石器、1変塩基性岩製磨製石斧、2・3透緑閃石岩(軟玉)製磨製石斧、4砂岩製磨製石斧未製品が出土。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階か。

遺物集中SQ03 (遺構第101図、土器第120図) **位置**: I-V-23 **検出**: IIb層除去後、IVa層中から土器が0.5×0.4mの範囲で集中して出土。土坑などは検出されなかったため、遺物集中SQ03とした。検出段階③-1。 **遺物**: 1. 口縁部縄文LR斜位回転押捺後、斜行沈線を施す。胴部以下は縄文LR横位、底部付近は斜位回転押捺。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第2段階。

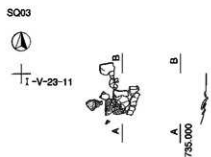
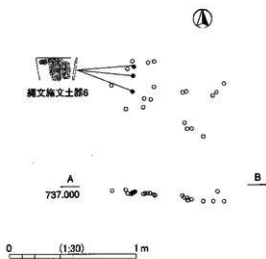
遺物集中SQ04 (遺構第101図、土器第120図) **位置**: I-U-9 **検出**: 検出面のレベルからみるとIIa層かあるいはそれより上位の層と考えられる。検出段階①か。 **構造**: 0.9×0.6mの範囲で集中して出土した。 **遺物**: 6. 縄文LR横位回転押捺。 **時期**: 縄文時代早期中葉山の神遺跡第3段階か。

第4章 遺構と土器



SQ04

I-U-9-15



第101図 遺物集中

第5章 遺構外の土器 (表11)

竅穴住居跡、土坑、集石・石列、焼土集中、溝・流路などの遺構の外から出土した土器を以下、種類別に概観する。押型文原体の属性、割付線、単位、段、条、軸長、軸周など詳細については第9章第1節を参照されたい。押型文原体の割付線など原体の属性は、回転原体の端部や繰り返しを確認できないと明確には決められないので細かい属性が判明したものを中心に記述する。

第1節 押型文土器 (第102~119図)

1 楕円押型文土器 (第102~109図)

楕円押型文原体の「文様」刻む割付線 (実際にそういう線が見えるわけではないが便宜的に命名した。)は本来回転軸に平行なものが多く、本文では、単に割付線平行としかわからないものはとくに明示していない。また、楕円押型文の回転方向に平行した楕円列の数を「段」と呼称している。

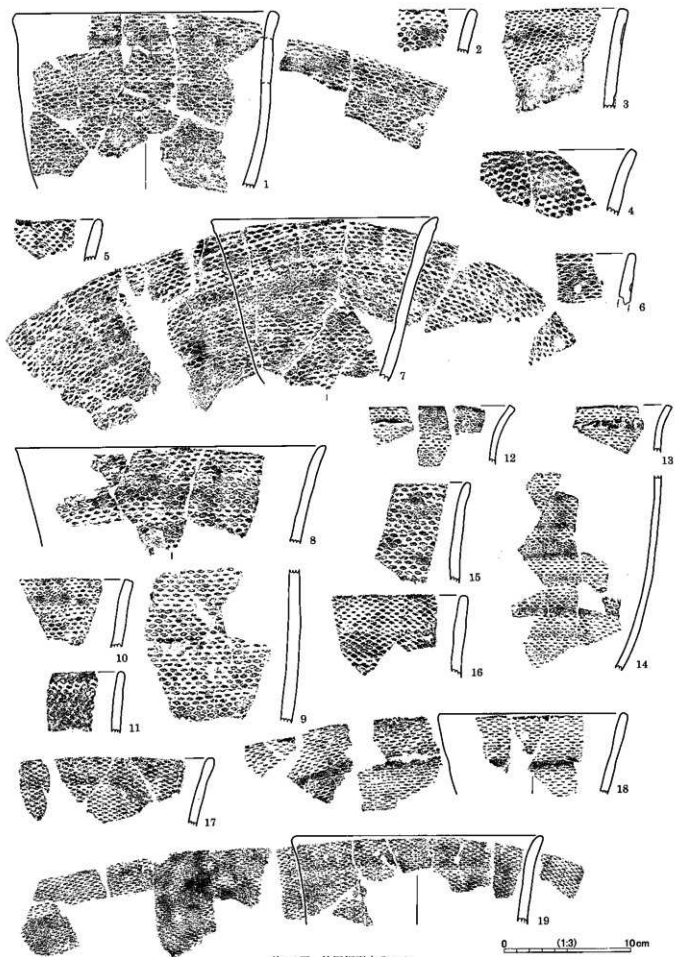
1~102横位回転押捺の楕円押型文。1~89口縁部。2・3外面に施文後の指頭圧痕あり。6焼成後の未貫通の穿孔がある。7外面に施文後の指頭圧痕あり。13割付線平行2単位7段、軸長20mm、軸周11mm。16割付線右巻、軸長30mm。17割付線平行15段+ α 、軸長32mm+ α 。18割付線平行、軸長32mm+ α 。19割付線平行。21割付線右巻3単位、軸長29mmか。軸周16mm。24口唇部に小さい瘤状突起貼付。25割付線左巻4段、軸長20mm。28割付線平行10段、軸長35mmか。外面に施文後の指頭圧痕あり。29割付線2単位15段、軸長36mm+ α 、軸周15mm。32割付線平行2単位、軸周17mm。35割付線平行7段、軸周23mm。39楕円押型文の原体が複数使用されている珍しい例。上部の原体は割付線平行10段、軸長28mm。下部の原体割付線平行14段+ α 、軸長22mm+ α 。口縁は緩い波状口縁の可能性もある。47割付線右巻9段、軸長34mm+ α 。49割付線右巻。緩い波状口縁。54未貫通穿孔あり。焼成前か。外面に指頭圧痕。55割付線平行18段+ α 、軸長58mm+ α 。56割付線右巻2単位、軸長39mm、軸周16mm。57口縁部内外面に指頭圧痕。59割付線右巻3単位か、13段、軸長34mm、軸周18mm。焼成後穿孔、補修孔か。60割付線平行2単位6段、軸長14mm。外面に指頭圧痕。63割付線右巻。68・69焼成後穿孔。73割付線平行14段、軸長35mmか。外面にスス付着。74外面指頭圧痕。76割付線右巻11段、軸長38mm。77外面指頭圧痕。79割付線右巻2単位7段、軸長31mm、軸周15mm。83口縁端部が内湾する。84・86・87口唇端部外側に連続刻み。88数珠玉状の楕円押型文か。89瘤状突起貼付。90緩い波状口縁、割付線左巻2単位18段か、90~94軸長47mm、軸周13mm。楕円押型文の刻みが割付線に対し斜めに施されている。

94~102、楕円押型文横位回転押捺の胴部。101割付線右巻3単位9段、軸長35mm。

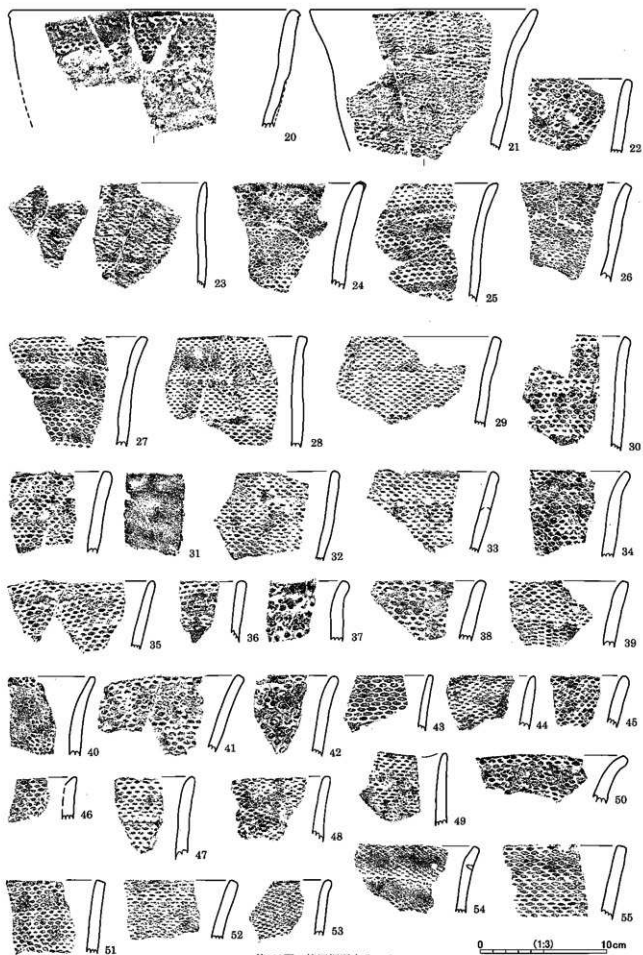
103~158縦位および斜位回転押捺が施される楕円押型文。103~154口縁部。103口唇部ヘラ状工具による連続刻み。口縁部から胴部上半縦位回転押捺、胴部下半横位回転押捺。胴部上半と下半との境に擬口縁が見える。施文方向の変化と成形上の境がほぼ一致している。104口縁部外面に指頭圧痕。105割付線左巻か。

106~119表裏楕円押型文。おそらく同一個体。外面、割付線平行3単位、軸周18mm。内面、口唇部直下の1段目楕円押型文原体、割付線右巻3単位か、軸周16mm。内面2段目楕円押型文原体、割付線平行2単位か、軸周22mm。外面は口縁部から胴部下半まで縦位回転押捺。内面は口縁部付近のみ横位回転押捺、施文順序は、2段目回転押捺後、1段目回転押捺。楕円押型文だが、内外面あわせると3つの異なった原体で施文されている。器形は口縁端部が外反し、胴部がやや膨らむ。

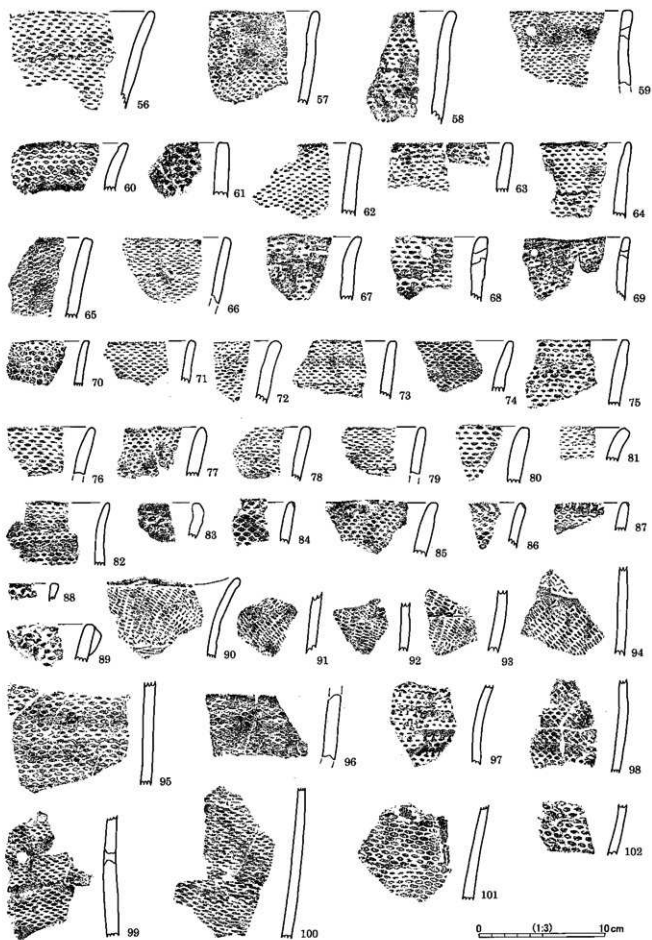
120・122斜位回転押捺。121斜位および横位回転押捺。123右上がり斜位、左上がり斜位施文後、横位回



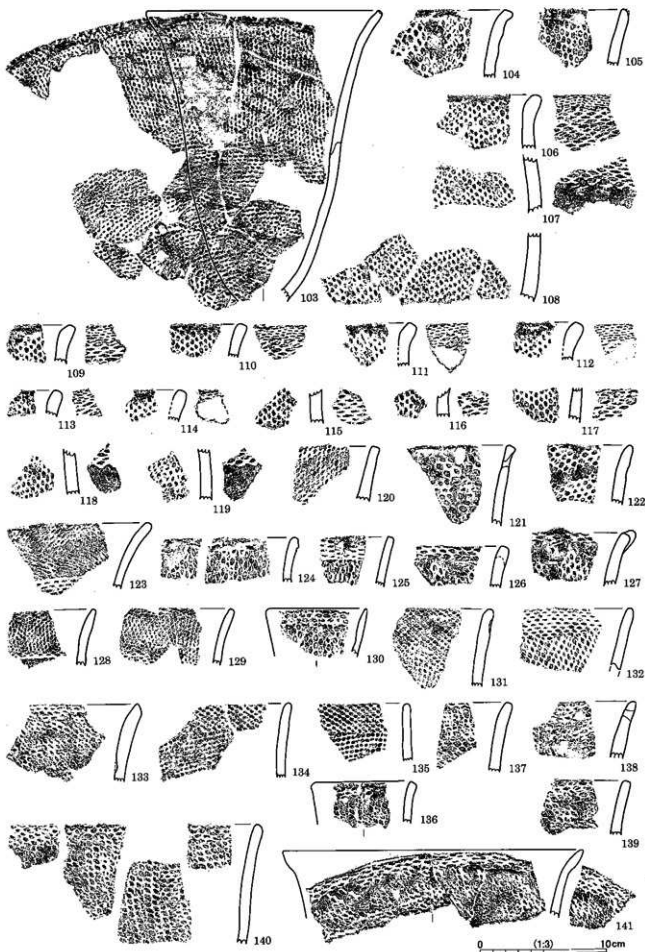
第102図 楕円押型文その1



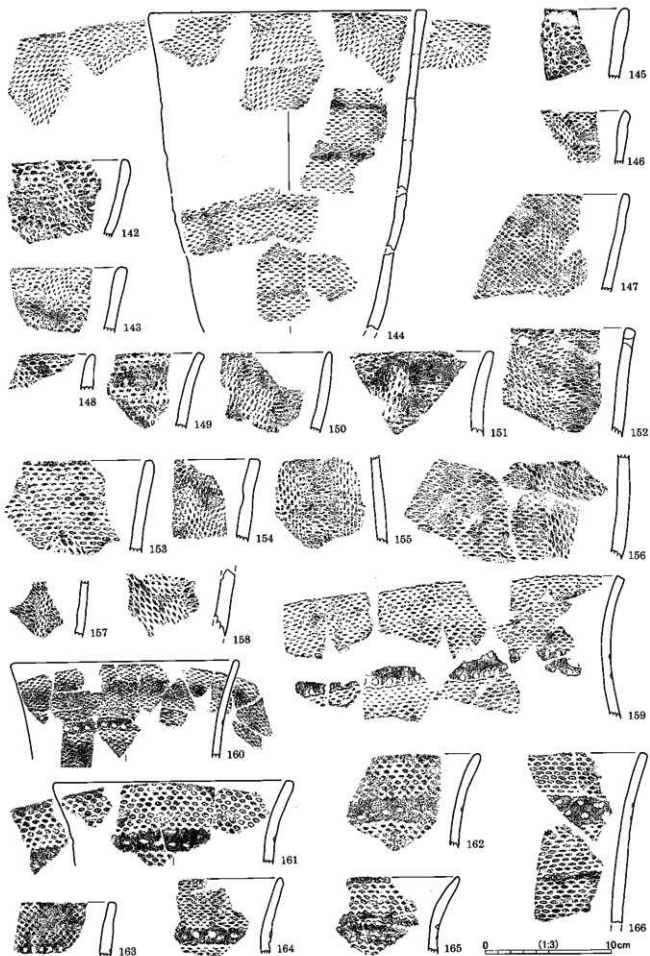
第103図 楕円押型文その2



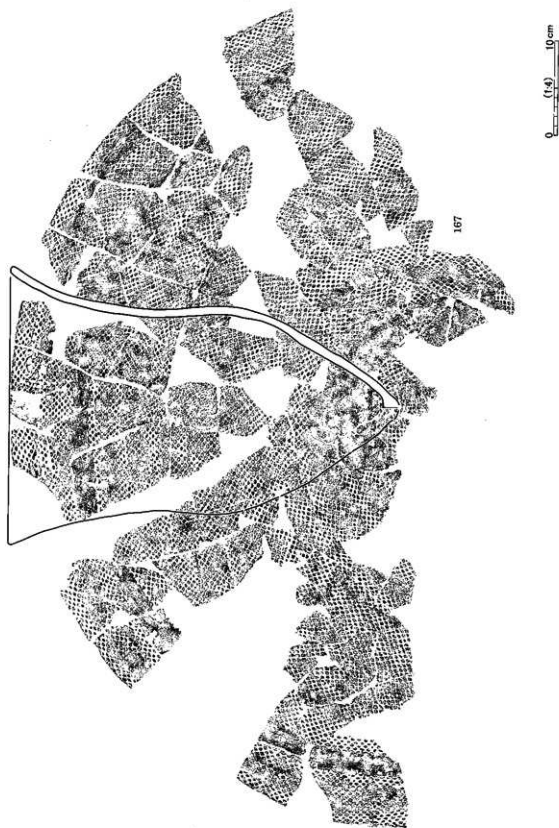
第104図 櫛形押型文その3



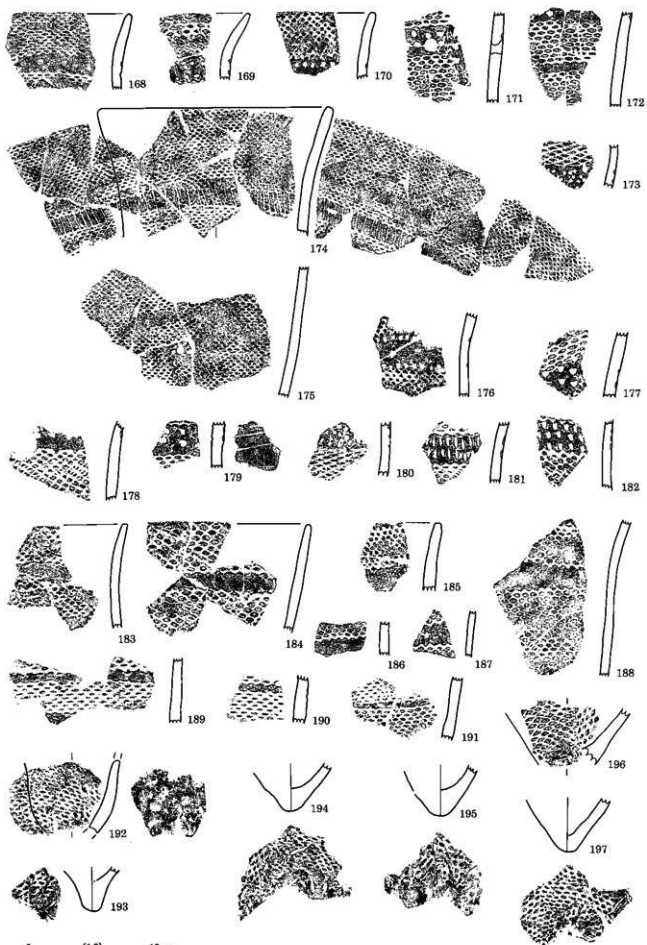
第105図 横出押型文その4



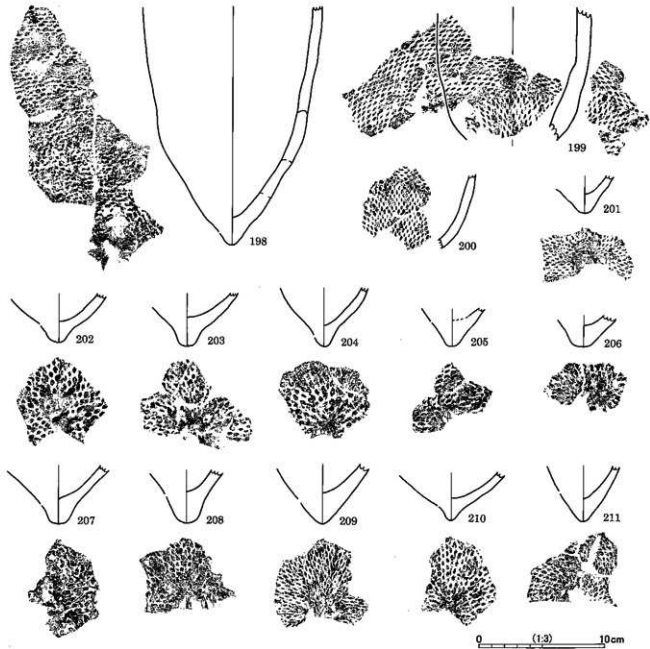
第106図 横凹押型文その5



第107図 楕円押型文その6



第108図 楕円押型文その7



第109図 槽円押型文その8

転押捺。124縦位回転押捺。

125～132、口縁上部横位回転押捺、以下胴部上半縦位回転押捺。130原体軸長11mm 2段。

133～144横位と斜位回転押捺。133・134・136・140口縁部斜位回転押捺後、口縁部直下横位回転押捺。137・138・141・142口縁部直下横位後、その下位の口縁部斜位回転押捺。143・144横位回転押捺後、口縁部だけ斜位回転押捺。143原体軸長23mm。144原体割付線平行2単位14段、軸長36mm、軸周14mm。

145～147横位密接施文後、口縁部の部分的に縦位回転押捺。148～154横位密接施文後、口縁部に部分的に斜位回転押捺。152原体軸長25mmか。焼成後穿孔。153原体割付線平行10段、軸長41mm。154横位あるいは斜位回転押捺後、縦位回転押捺。

155～157胴部。横位後、縦位回転押捺。157原体割付線平行4段、軸長9mm、軸周10mm。158斜位回転押捺。

159～182押型文が施文されない頸部に刺突文や沈線文が施されるもの。159～170・174口縁部。刺突文がほとんどだが、174のように沈線文が施されるものもある。刺突文は円形の工具が主体だが、先端が尖ったものもある。159原体割付線平行9段、軸長30mmか。161原体割付線右巻8段、軸長37mm。162割付線平行7段、軸長32mm。163原体割付線平行11段+ a 、軸長33mm+ a 。刺突文の先端は四角い。164原体割付線右巻15段、軸長37mm。166原体割付線右巻3単位9段、軸長35mm、軸周22mm。

167原体割付線平行2単位11段、軸長36mm、軸周14mm。楕円押型文原体端部に欠損があるらしく楕円文が上部とつながってしまう部分の一つ置きにある(よって2単位であることが判明した)。軸周が22mmなので軸径は4.5mm。焼成後穿孔が2カ所。補修孔か。頸部以外、全面楕円押型文の横位密接施文だが、底部から頸部まで下から上へ、口縁部から頸部までは上から下へ回転押捺される。底部に施文された楕円押型文が擦り消えている部分があるが、これは土器成形時の回転擦痕。頸部の刺突文はC字形(竹管状だが、一部が欠損)を呈す。刺突文原体の径4～5mm。これは楕円押型文原体の特徴と一致する。頸部の刺突は楕円押型文の端部を利用したものと考えられる。174頸部、ヘラ状工具による沈線文。

171～173・176～182頸部。171原体割付線右巻9段、軸長36mm。焼成後穿孔。172原体割付線右巻2単位9段、軸長36mm、軸周15mm。177刺突文、先端山形工具。178原体割付線平行2単位、軸周16mm。刺突文の軸径が5mmなので、押型文原体の軸径とほぼ一致する。167の例もあるので、あるいはこの資料も押型文原体の端部で頸部に刺突した可能性がある。

183～191押型文が施文されないが、頸部があるもの。183～185口縁部。183原体割付線平行9段、軸長30mm。184原体割付線右巻9段、軸長39mm。186～190頸部か。188原体割付線右巻4単位8段、軸長35mm、軸周26mm。

192～211底部あるいは底部付近。196横位後、縦位回転押捺。198横位回転押捺後の成形時回転擦痕が残る。内面にも外面回転擦痕に対応して回転圧痕がのこる。内面の胴部中にスス付着。199・200底部縦位回転押捺、底部より上の胴部下半横位回転押捺。201～206・208～210縦位回転押捺。207斜位回転押捺。211横位後、縦位回転押捺。

2 山形押型文土器(第110～114図)

山形押型文原体の山形に刻まれた凹状になった部分の数を条数とした(土器の器面では凸状になり、拓本で黒くなっている部分)。山形押型文は原体の端部と山形の刻み部分を峻別しにくく、条数、軸長は計測が難しかった。

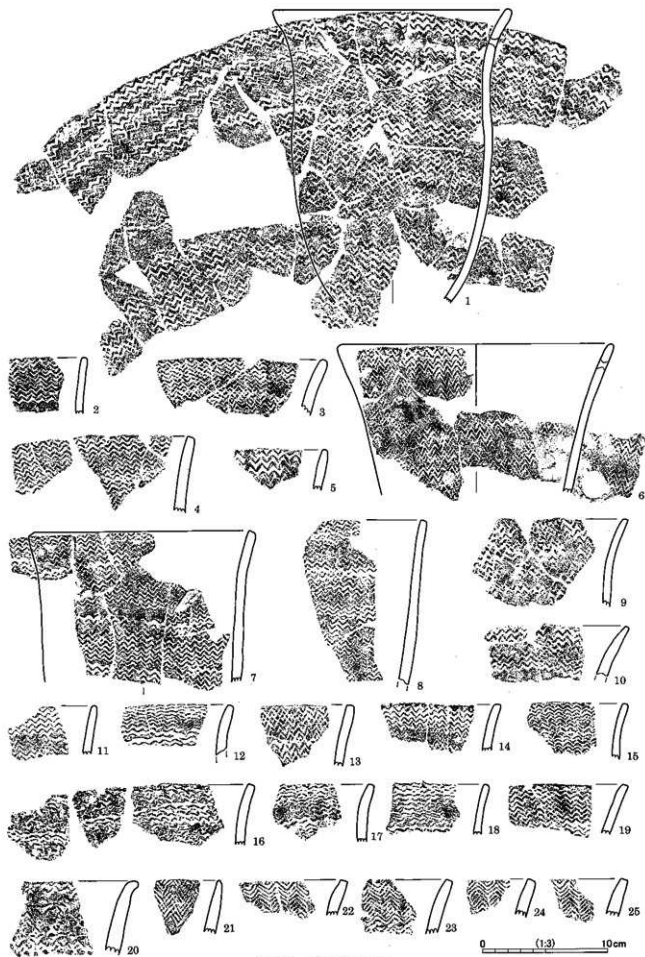
1～25横位密接山形押型文口縁部。1焼成後穿孔あり。2原体9条軸長35mm。4原体9条軸長33mm+ a 。10原体軸長36mm。22～25SB03出土第46図20の土器に酷似。山形が粗大で、胎土に1～2mm大の雲母・石英が多く含まれる。

26～34・41横位密接山形押型文胴部。26～34横位回転押捺。33は谷が深く、粗大なタイプ。

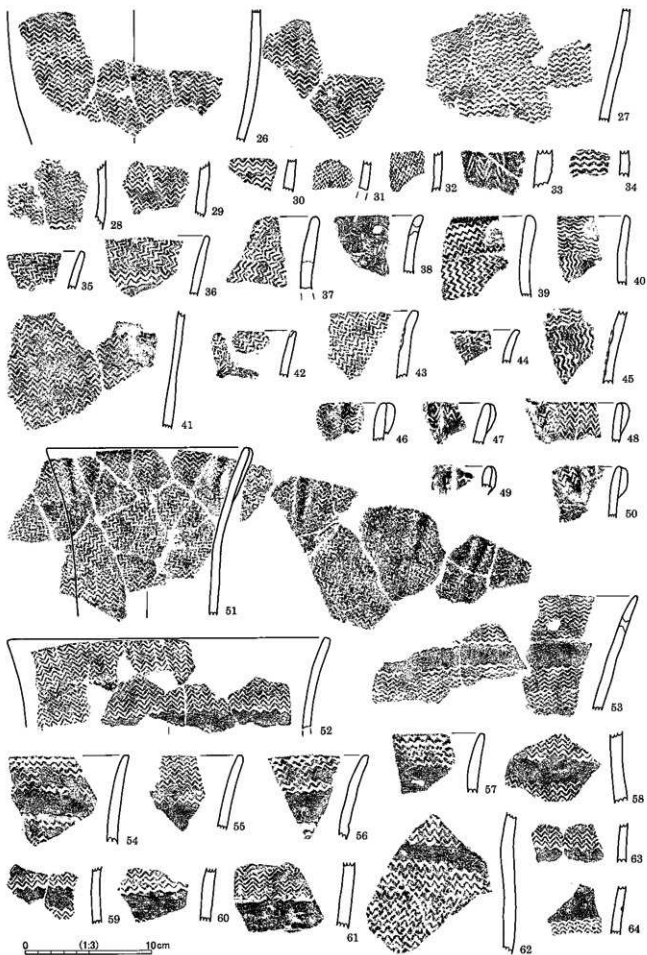
35～38・42～44密接山形押型文で斜位回転押捺が施される口縁部。35・37、42・43斜位のみ。36口縁部斜位、その下位横位。38斜位。焼成後穿孔。外面にスス付着。内面に指頭圧痕。44横位後、斜位回転押捺。

39・40口縁部横位回転押捺後、その下位縦位回転押捺。39内面に指頭圧痕。40原体10条軸長31mm。45口縁部が欠損しているが、横位後、縦位回転押捺する口縁部付近と思われる。

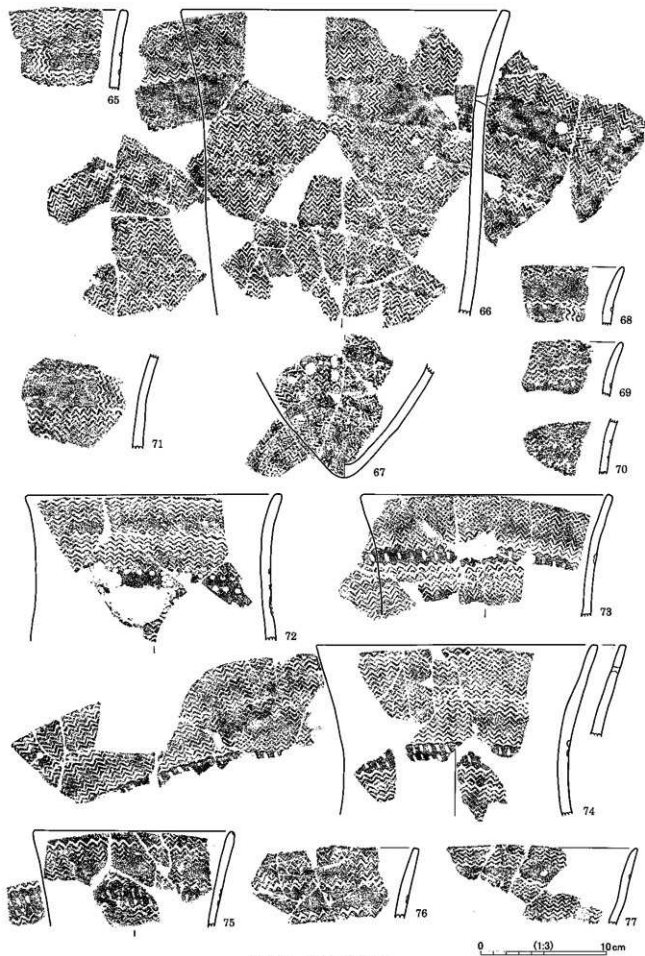
46～51瘤状突起を貼付するもの。いずれも突起貼付後、山形押型文を横位回転押捺。46口唇に指頭圧痕。51垂下する隆帯を貼付。口縁部は横位、胴部上半が斜位、さらに胴部下半が横位回転押捺。隆帯は4ないし6単位。口縁部外面に多量のススが付着。



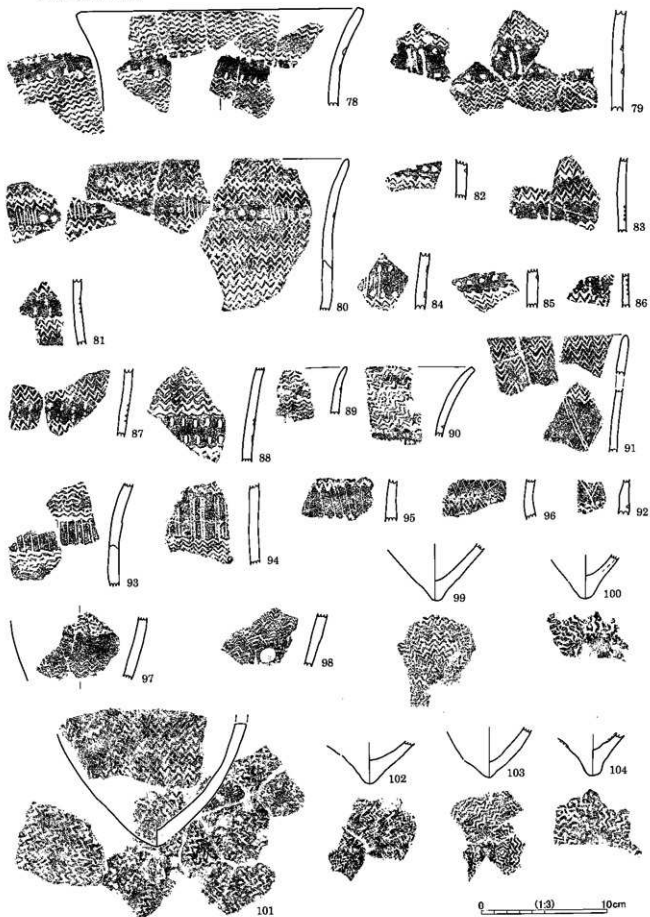
第110図 山形押附文その1



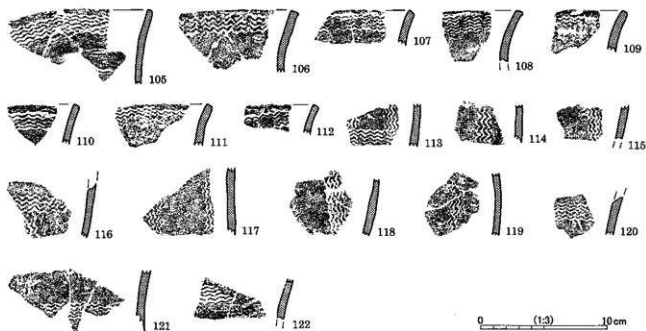
第111図 山形押型文その2



第112図 山形押型文その3



第113図 山形押型文その4



第114図 山形押型文その5

52~64山形押型文を施さない部分があるもの。52~57口縁部。口縁部は原体の端部が見にくいので、条数、軸長は多少あいまいである。53焼成後穿孔。54原体4条軸長30mmか。55原体9条軸長36mmか。58~64胴部。56原体5条軸長30mm。57原体4条軸長27mm。58~64胴部。61外面指頭圧痕あり。原体端面平坦。64刺突文あり。あるいは頸部か。

65~92山形押型文を施さない部分があり、その押型文無文部に刺突文などを施し頸部が形成されるもの。65・66口縁部ないし頸部下位の胴部横位回転押捺後、頸部に縦位回転押捺。66、条数、軸長わがりにくいが、それぞれ原体11条軸長45mm+ α 程度か。2単位とすれば軸周17mm程度となる。焼成後穿孔痕が3カ所あり、うち2カ所は割れを挟んで対称に位置する。いわゆる補修孔である。67も66と同一グリッドI-V-9から出土している。同一個体か。外面に回転擦痕、内面にススが付着する。68、横位後、縦位回転押捺。原体2単位3条、軸長14mm、軸周13mm。2段目の山形押型文の下端に円形の連続刺突文が施されるが、先端が山形で、径4mmを測る。施文に用いられた山形押型文原体の推定軸径が、4.1mmとほぼ一致することから、この刺突文は山形押型文原体の端部の可能性がある。69・70円形の連続刺突文が施される。先端が山形を呈する。山形押型文原体端部か。71横位後、無文部に縦位回転押捺。72竹管状工具による刺突文。

73・75~79、81~89先端が割れている棒状工具による刺突文が施される。74先端山形工具による刺突。77原体2単位、軸周13.5mm。先端が割れている棒状工具による刺突文。78山形で先端が割れている棒状工具による刺突。径4.5mm。山形押型文原体が2単位とすると軸周14mmで、推定軸径4.45mmでほぼ一致。山形の先端が割れている棒状工具は山形押型文原体の可能性がある。80原体2単位、軸周14mm。頸部には連続した径4mmの竹管状工具による刺突文と縦位の平行沈線文が施される。82原体2単位、軸周14mmか。推定軸径4.45mmで先端割れ工具の軸径4.5mmとほぼ一致する。84連続刺突文と平行沈線文を頸部に施す。85原体2単位軸周20mmか。先端が割れている棒状工具で連続刺突。86・87先端が割れ、尖らせた工具で刺突か。88押型文原体2単位17mmか。90先端が尖った工具を束ねたもので刺突したものか。

91~96頸部に沈線文が施されるもの。93~95平行沈線文。91原体7条、軸長38mm+ α 。頸部に平行沈線文が施される。92平行沈線文と先端山形工具による刺突文が施される。96格子状沈線文。

97～104底部。100・104縦位回転押捺。103斜位回転押捺。それ以外はすべて横位回転押捺。

105～122胎土に金属光沢をもつ比較的軟質の黒色粒子（黒鉛か）を含む土器。密接施文ではなく、異方向帯状施文を特徴とする。口唇部はしっかり面取りする。いわゆる沢式。105～112口縁部。口縁部は帯状1段で横位回転押捺。105原体4条軸長16mm。106原体3条軸長15mm。107原体2単位4条、軸長14mm、軸周12mm。108原体6条軸長15mm。110原体4条軸長16mm。

113～122胴部。113帯状縦位後、横位回転押捺。114・115・117から119縦位回転押捺。116横位後、縦位回転押捺。原体3条軸長15mm。121・122帯状横位回転押捺。121原体4条、軸長15mm。

3 格子目押型文・矢羽状押型文（第115図）

1～34格子目押型文。横位回転押捺が主体。格子状の刻みが原体回転軸に斜交しているものを「斜格子目押型文」、平行あるいは直交するものを「正格子目押型文」とする。1～13斜格子目押型文口縁部。1外面に低隆帯を貼付。4・5・13格子が丸みを帯びているいわゆる「ネガ楕円押型文」に近いタイプ。6外面に指頭圧痕。13口唇部直下横位回転押捺（あるいは連続刻みか）後、口縁部縦位回転押捺。

14～28押型文胴部。17～19密接施文だが、若干隙間があく。18・19原体軸長 $26\text{mm} + \alpha$ 、軸周17mm。21胴部上半横位、下半斜位回転押捺。22・27ネガ楕円押型文。28縦位回転押捺か。内面にスス付着。底部付近か。

29～31同押型文底部。横位回転押捺。31ミニチュア土器。

32・33正格子目押型文。縦位回転押捺か。34細長い斜格子目押型文か。

35～40矢羽状押型文、密接横位回転押捺、胴部。35原体軸長 $21\text{mm} + \alpha$ 。37原体軸長20mm。39・40原体軸長21mm。

4 橋状押型文・その他の押型文（第116図）

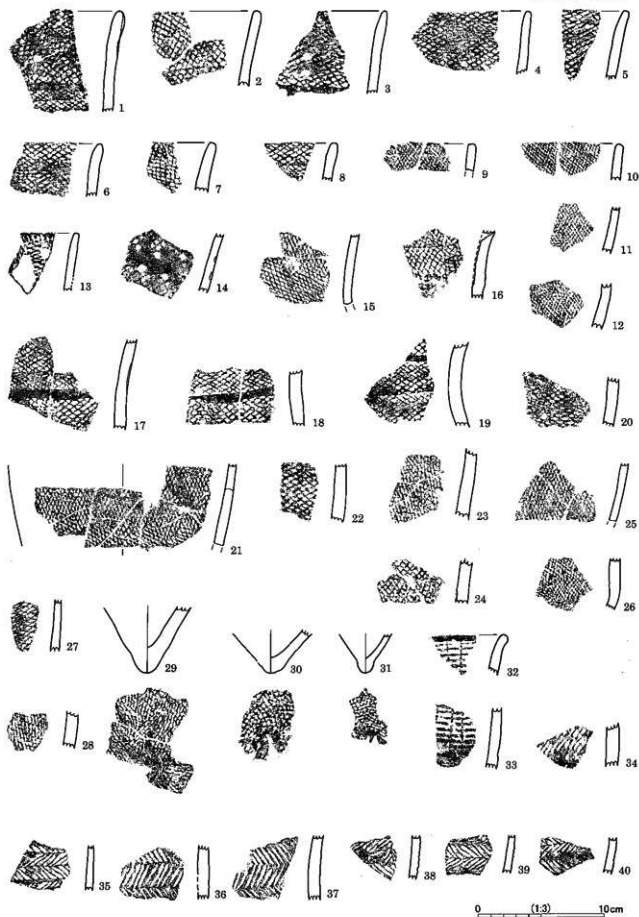
1～19橋状押型文。回転軸に平行あるいは斜交した平行溝状の刻みが施された原体を回転押捺したものと。密接横位回転押捺が主体。1～5口縁部。3原体軸長26mm。6～16胴部。9原体軸長21mm。12原体軸長22mm。17～19底部。18縦位あるいは斜位回転押捺。19横位、底部先端は縦位回転押捺。

20～32単一種類の原体でこれまでの分類に入らない押型文を一括した。25～31単位はおそらく1単位で複合鋸歯、入れ子状格子目、縦矢羽など複雑な構成の押型文を細密な押型文と便宜上一括した。横位回転押捺が主体。これらはほとんどが部分的な破片なので、こうした分類にいられたが、実際は後述する異種併用押型文に使われることが多く、本来はそちらに分類すべきかもしれない。20～22・31・32口縁部。20入れ子状格子目押型文横位か。21～25複合鋸歯押型文横位。26入れ子状格子目押型文。27縦位に区画線（文様割付線か）のある山形押型文。28縦矢羽状押型文。29縦矢羽状押型文か。30楕円押型文と縦矢羽状押型文が合成された原体。31回転軸に直交した平行刻みによる押型文と縦矢羽状押型文が合成されたもの。斜位回転押捺。32山形押型文か楕円押型文か。

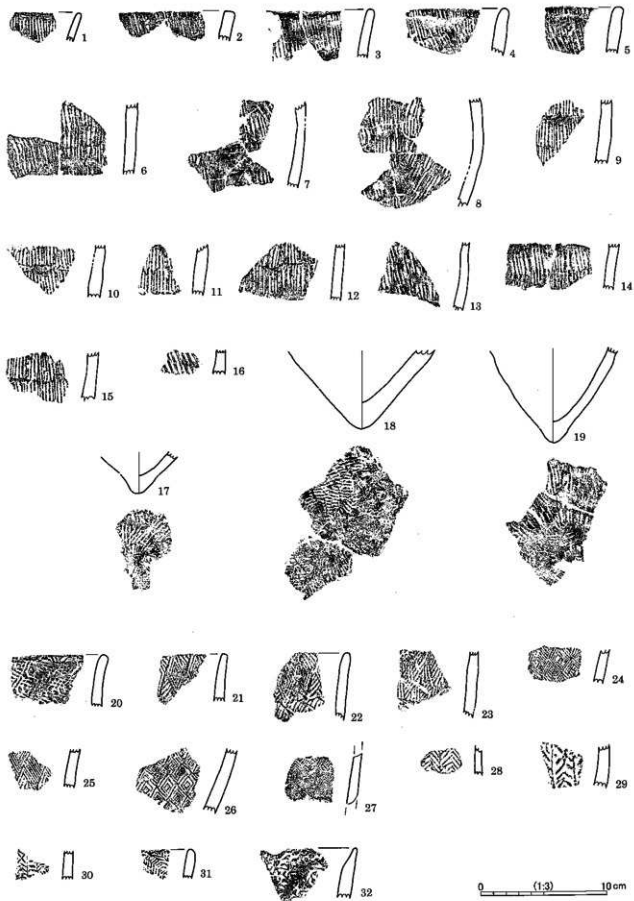
5 異種併用押型文（第117～119図）

複数の押型文原体を併用しているものと押型文と回転縄文・撚糸文を併用しているものを異種併用押型文として一括した。楕円押型文や山形押型文の頸部に刺突文や沈線文が施されているものは、それぞれ楕円押型文や山形押型文に分類しここには含めなかった。密接の横位回転押捺が主体で器形の変化にも乏しい。

1～17楕円押型文と山形押型文を併用するもの。1胴部に山形押型文横位後、口縁部楕円押型文横位回

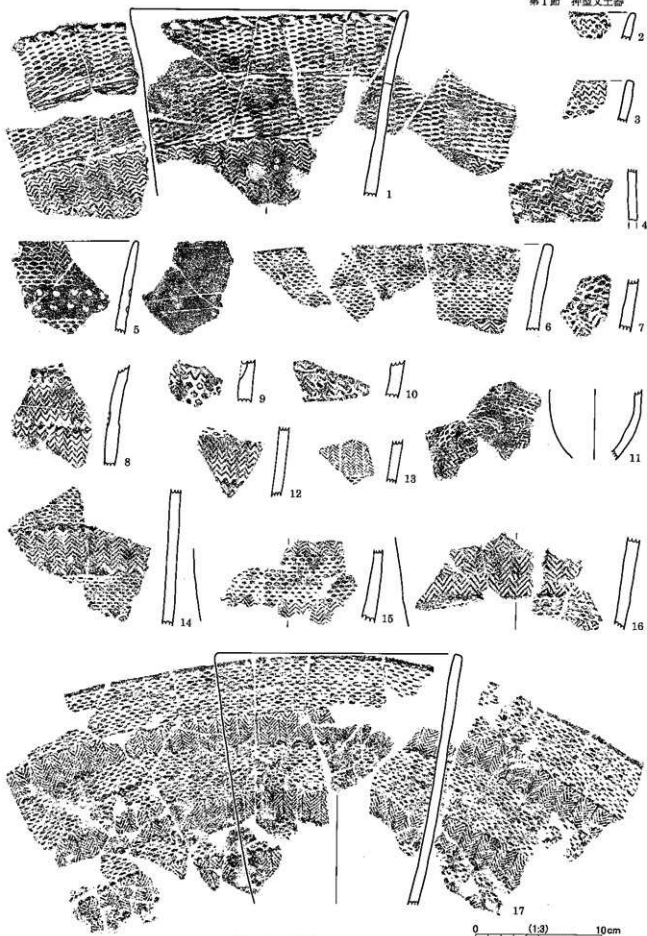


第115圖 格子目・矢羽状押型文

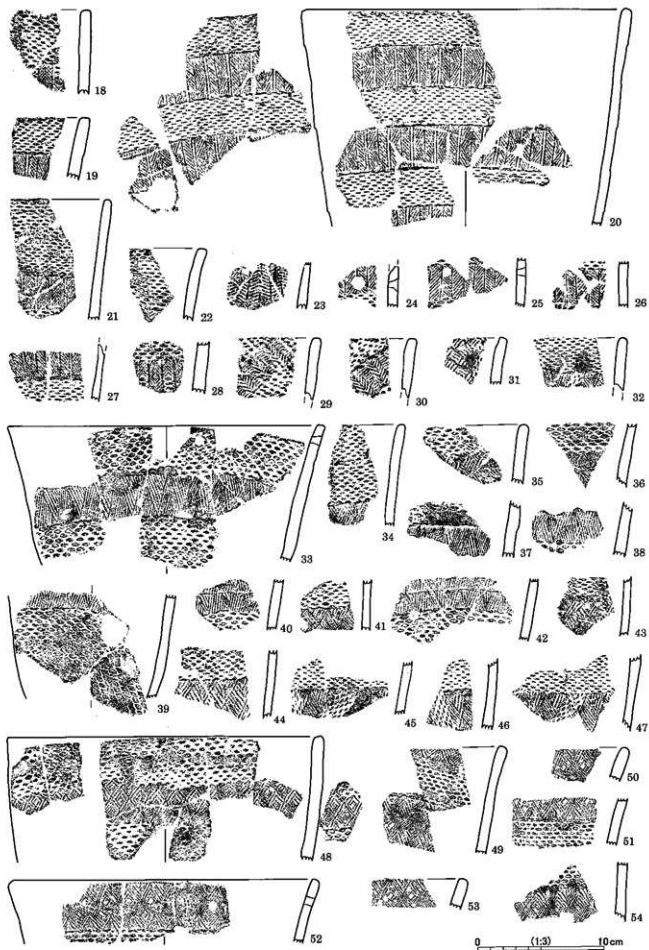


第116図 櫛状・その他の押型文

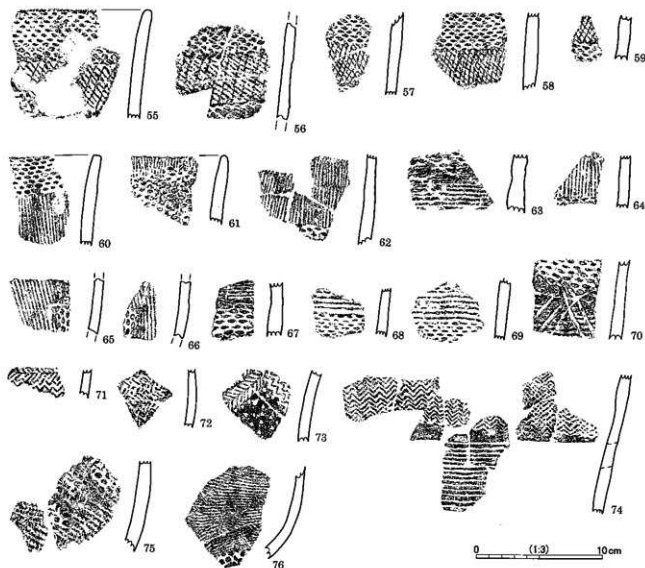
第1節 押型文土器



第117図 異種併用押型文その1



第118図 異種併用押型文その2



第119図 異種併用押型文その3

転押捺。口唇部を少し湾曲したヘラ状工具で連続して刻む。楕円押型文原体は割付線右巻3単位、10段、軸長43mm、軸周21mm。楕円の刻みが回転軸に対して左上がり。山形押型文原体は13条、軸長40mm+a。2楕円押型文押捺後、山形押型文を口唇部直下に横位回転押捺。5口縁部に楕円押型文施文後、山形押型文を横位回転押捺。頸部に連続刺突文が2列施される。6楕円押型文原体11段+a、軸長32mm+a。山形押型文端部平坦。8山形押型文施文後、楕円押型文横位回転押捺。山形押型文原体7条、軸長39mmか。11胴部下半は楕円押型文横位回転押捺、底部付近は山形押型文横位回転押捺。復元体径7.2cmと比較的小型なタイプ。13山形押型文は軸長30mm+aで12条以上の細密な押型文に類する。14~16原体端部が平坦で、細密な押型文に類する山形押型文。14楕円押型文で間隔をあけて横位回転押捺し、山形押型文をその間に横位回転押捺したもの。原体9条、軸長37mm。15・16も楕円押型文施文後、山形押型文を横位回転押捺する。17楕円押型文で間隔をあけて2段横位回転押捺後、細密な押型文、割付線のある縦矢羽状押型文1段を横位回転押捺する。楕円押型文原体は割付線平行、9段軸長21mm。縦矢羽状押型文原体は9条軸長27mm、軸周17mm。

18~54楕円押型文と細密な押型文を併用するもの。横位密接回転押捺。楕円押型文が間隔をあけて横位

回転押捺した後、細密な押型文を横位回転押捺し、間を充填している。18～28楕円押型文と矢羽状あるいは区画のある山形押型文などを併用したもの。18～22口縁部。18楕円押型文と矢羽状押型文を合成した原体、軸周22mm。19斜行と横矢羽状押型文を合成した原体、軸長20mm、軸周20mm。20楕円押型文原体割付線右巻13段、軸長29mm、軸周18mm。斜行と矢羽状押型文を合成した原体、軸長29mm、軸周18mm。21楕円押型文は2段横位回転押捺し、割付線のある山形押型文を横位回転押捺する。山形押型文原体軸長27mm。22楕円押型文と山形押型文の併用。23～28胴部。24・25焼成後穿孔あり。28楕円と縦矢羽状押型文。原体軸周19mm。29・30楕円押型文横位密接回転押捺後、細密な押型文を斜位回転押捺。細密な押型文は平行と矢羽状押型文を合成したものの。原体軸長25mm、軸周15mm。

31～47楕円押型文と複合鋸歯押型文を併用したもの。31～35口縁部。31複合鋸歯押型文横位回転押捺後、楕円押型文縦位回転押捺。32楕円押型文、複合鋸歯押型文横位後、楕円押型文縦位回転押捺。33楕円押型文が間隔をあけて横位回転押捺後、複合鋸歯押型文を充填横位回転押捺。楕円押型文原体、割付線平行11段、軸長40mm+ α 。複合鋸歯押型文、軸長32mm、軸周20mm。内面に指頭圧痕。焼成後穿孔2ヵ所あり。36～47胴部。45～47楕円押型文、複合鋸歯押型文横位後、楕円押型文斜位回転押捺。

48～54楕円押型文と入れ子状押型文を併用したもの。48～50・52・53口縁部。51・54胴部。

55～59楕円押型文と格子目押型文を併用するもの。楕円押型文横位回転押捺後、格子目押型文回転押捺。55口縁部、楕円押型文原体割付線右巻、軸長40mm。格子目押型文軸長40mm。56～59胴部。

60～70楕円押型文と平行押型文あるいは櫛状押型文を併用するもの。回転軸に対して直交した条線の繰り返しを呈するものを便宜的に平行押型文、回転軸に平行した条線の繰り返しを呈するものを櫛状押型文と呼称する。60～62・64櫛状押型文、それ以外は平行押型文。65・66楕円押型文縦位後、櫛状押型文横位回転押捺。櫛状押型文割付線右巻か。70楕円押型文、平行押型文横位回転押捺後、斜行した平行沈線文。71～74山形押型文と楕円押型文以外の押型文を併用するもの。71～73矢羽状押型文と山形押型文併用。71横位回転押捺。73斜位回転押捺。刺突文。74原体の端部平坦な山形押型文と平行押型文を併用。

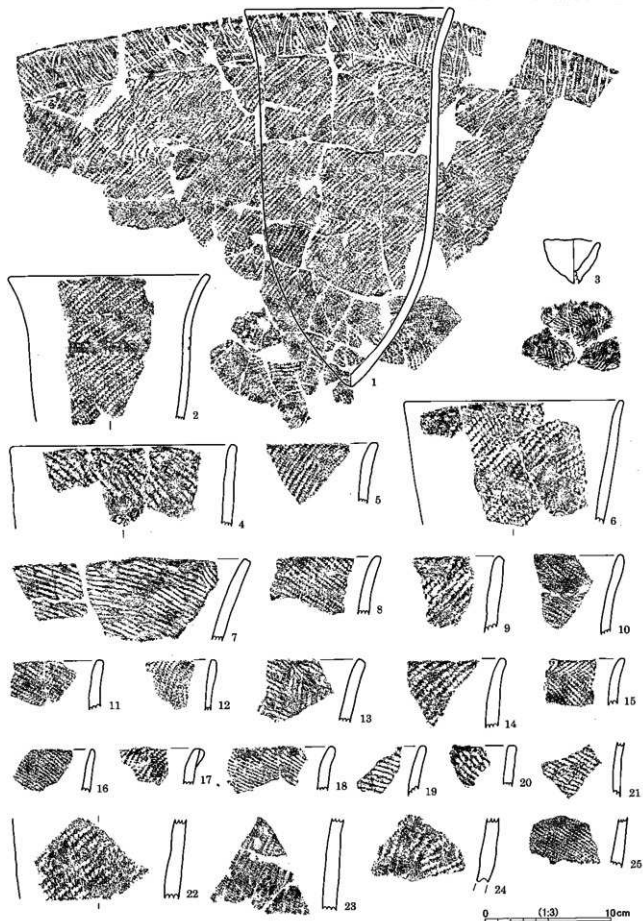
75・76楕円押型文と縄文を併用。75縄文RL横位回転押捺後、楕円押型文施文。76縄文R斜位か。

第2節 押型文土器以外の早期中葉の土器

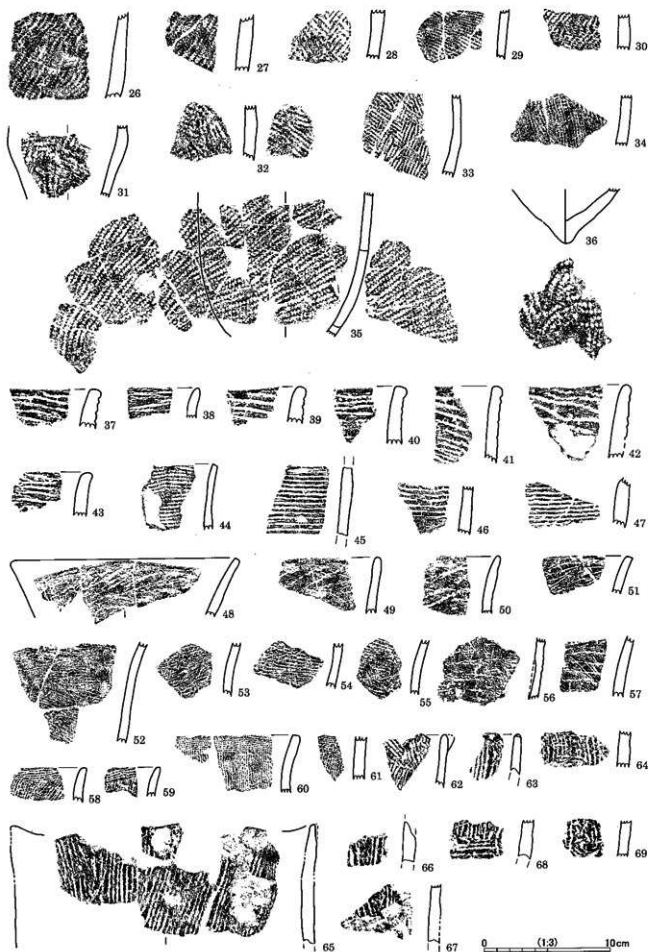
1 縄文・燃糸文(第120・121図)

1～36回転縄文。1～19口縁部。1口縁、縄文LR斜位回転押捺後、斜行沈線文施文。胴部縄文LR横位回転押捺。底部縄文LR斜位回転押捺。2縄文LR横位回転押捺。頸部に竹管状工具連続刺突。3・4・8・11・13・16・20縄文RL横位。5・6・9・10・12・14・17縄文LR横位。7・18・19縄文R横位。13縄文RL横位、縦位。15縄文LR・RL横位。17瘤状突起貼付。21～35胴部。21・25・29縄文RL横位。22～24・26・27・30・35縄文LR横位。28縄文L横位後、縦位。31縄文LR横位ないし縦位。32外面縄文RL斜位。内面縄文RL横位。表裏縄文だが、草創期末のものではないと思われる。33縄文LR横位ないし縦位。34縄文LRにLの縄文。36底部。縄文LR斜位および横位。

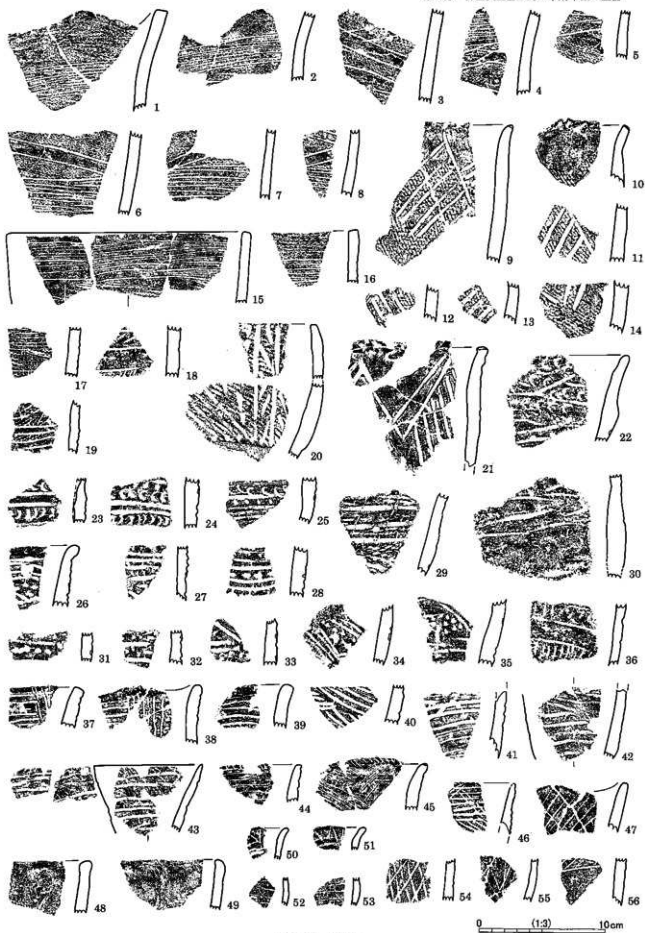
37～67燃糸文。37～44口縁部。37～43縄R。44縄Lか。45～47胴部。48～51網目状燃糸文口縁部。52～57木目状燃糸文胴部。58～61細かい縄の燃糸文。縄L。口縁端部直下横位後、縦位回転押捺。62～67やや粗い縄の燃糸文。胎土がにぶい黄褐色を呈し、混和材に粒径1mm前後の石英および白色粒子を多く含む。62瘤状突起貼付。縄Lか。63～67縄R。ゆるい波状口縁を呈す。縦位回転押捺が主体。あるいは同一個体か。63口唇部に刺突状の刻みがある。63しっかり面取りする。68縦位・横位回転押捺。



第120図 縄文その1



第121圖 繩文・撚糸文



第122図 沈線文

2 沈線文 (第122図)

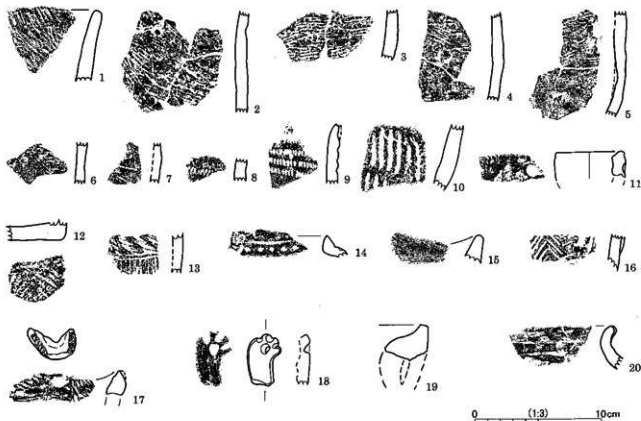
1～56沈線文や刺突文が施される土器。1～19沈線文と殻肋の発達した二枚貝殻状の工具を原体とする刺突（以下貝殻腹縁状工具による刺突）が施文される土器。1～8・15～19貝殻腹縁状工具を器面に垂直に刺突する。9～14貝殻腹縁状工具をやや押し引いて刺突する。9・10口唇部に貝殻腹縁状工具による刺突。16緩い波状口縁。11～14・17～19胴部。20縄文RL横位回転押捺後、沈線文を施す。21口唇部刻みと口縁部沈線文。刻み、沈線ともに先端が角張った原体。

22～25沈線文と爪形文が刺突されるもの。24径3mmの半截竹管状工具による刺突文と径7mmの爪形文が施される。26～56刺突文と沈線文が施されるもの。41・43増部断面が角張った工具による沈線文。43口唇部に刻み。口径8.6cmの小形な土器。44～56細沈線あるいは条線が施されるもの。44・45へら状工具による刻みと沈線文。48～53細沈線文。55先端するどく尖った工具による沈線文。

第3節 その他の土器

1 条痕文およびその他 (第123図)

1～7条痕文。1緩い波状口縁。8・9絡条体圧痕文。9縄R。早期末か。10縄文R原体圧痕。11内外面指頭圧痕のある小形土器。12底部外面単節羽状縄文。前期前葉か。13縄文地文か。半截竹管状工具による沈線文。前期末か。14沈線および刺突を施す。胴部が膨らむ土器の口縁の浅鉢か。16矢羽状沈線文、隆帯貼付。17口唇部に刻みがある受口状の突起か。18口縁突起か。未貫通の穿孔あり。19土師質土器、内耳鍋の把手。中世後期。20口唇に低い瘤状突起貼付。粗い条痕文。



第123図 条痕文・その他

第6章 石器・石製品 (表12・13)

異形部分磨製石器以外の石器は完形品を中心に限定して図化した。よってここで取り上げた石器の属性(石材の割合など)は傾向を示しているが、完全な器種ごとのデータではない。また、基本的に遺構内出土で取り上げられた石器を遺構ごとに記述し、遺構外の石器は、分類、量量あるいは出土グリッドの順に説明した。

第1節 異形部分磨製石器 (第124～129図)

一見平面形は石鏃に似るが、先端が丸くは全面に摩滅しているといった特徴は一般の石鏃には見られないことから異形部分磨製石器として分類した。「トロトロ石器」とも呼ばれる。摩滅の程度には多少差があり、8のようにほとんど剥離の単位すら見えなくなっていて、平坦なものもあるが、大半は剥離の単位は見える。図中2分の1スケール実測図のベタ部分は剥離内リングが見えないほど摩滅している。網部分はリングが見えるが明らかに摩滅している部分である。

摩滅の部位は、先端がとくに摩滅しているもの(1・2・4など)があるが、石器の中央が摩滅しているもの(6・13・14・17・18など)や全面一様に摩滅している(3・5・7・11・24・25など)もある。摩滅していない部分に多少共通性があり、全体的に基部の挟り部分と両脚の付け根の挟りが摩滅していない傾向がある。

石材は青白いチャート製が大半。石鏃や搔器、削器に用いられる比較的均質なチャートと異なり、黒い脈がはいる。一部29・30玉髓(石英)製がある。

量量は、長さ9.2～1.8cm、幅4.45～1.25cm、厚さ1.3～0.25cm、重さ49.2～0.51gを測る。

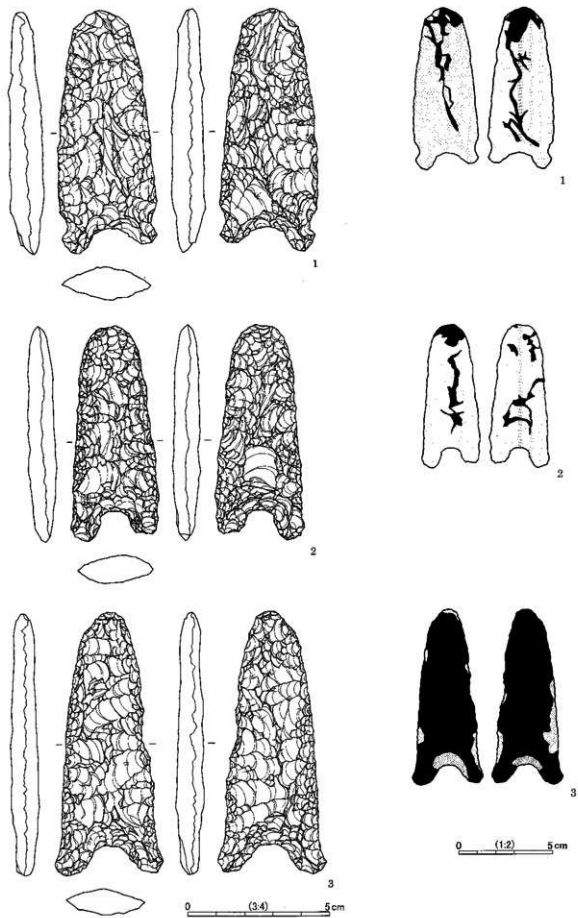
出土位置には明らかに偏りがある。土坑から出土した資料はSK02出土1・2だけだが、今回異形部分磨製石器とした41点のうち、遺物集中SQ01から14点とSQ01も位置するグリッドI-V-23で13点、まとまって出土している。同様にSK02から2点とSK02が位置するグリッドI-V-18で3点出土している。この隣接するI-V-18と23から計32点が出土している。このほかI-U-15から4点出土する。

先端がまるく、脚が張り出し(さらに脚の上端に挟りが入るものも多い)、基部にも深い挟りがはいるといった形態や石材やその色調まで共通する一方で量量にはかなりの差が見られる。石鏃にも類似するが、先端が丸いこと、3cmを越えるような石鏃は山の神遺跡には存在しないこと、石鏃に多用される頁岩や黒曜石は1点もないことや同じチャートでも石鏃や搔器、削器などに用いられるものとは色調などの材質が異なり明確に峻別できることから、異形部分磨製石器特有の用途があったものと考えられる。

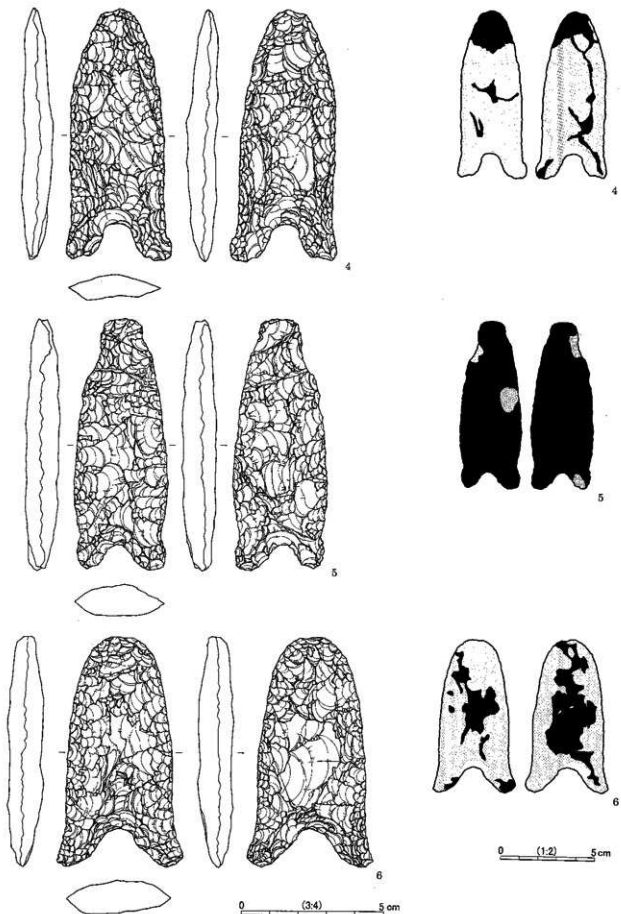
なお、42～44は、異形部分磨製石器類似石鏃。42石鏃にしては先端が丸い。チャート製。但し基部が破損し、摩滅はあまりしていない。チャートも脈は入らない均質なものの。43裏面中央が摩滅するが、基部の挟りは浅く、脚ははっきりしない。42に似たチャート製。43は42・43に似たチャート製。先端が丸いが、摩滅はしていない。43と同じI-V-15-8から出土。

第2節 石鏃 (第130～133図)

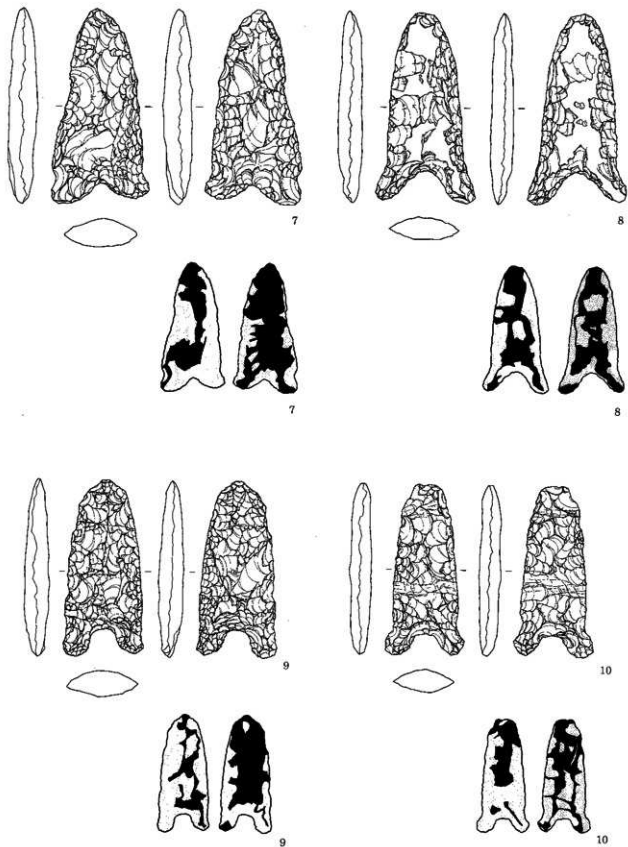
石鏃は、まず遺構から出土したものを取り上げ、次にグリッド、トレンチなど遺構外として取り上げたものは分類別に概観する。



第124図 異形部分磨製石器その1



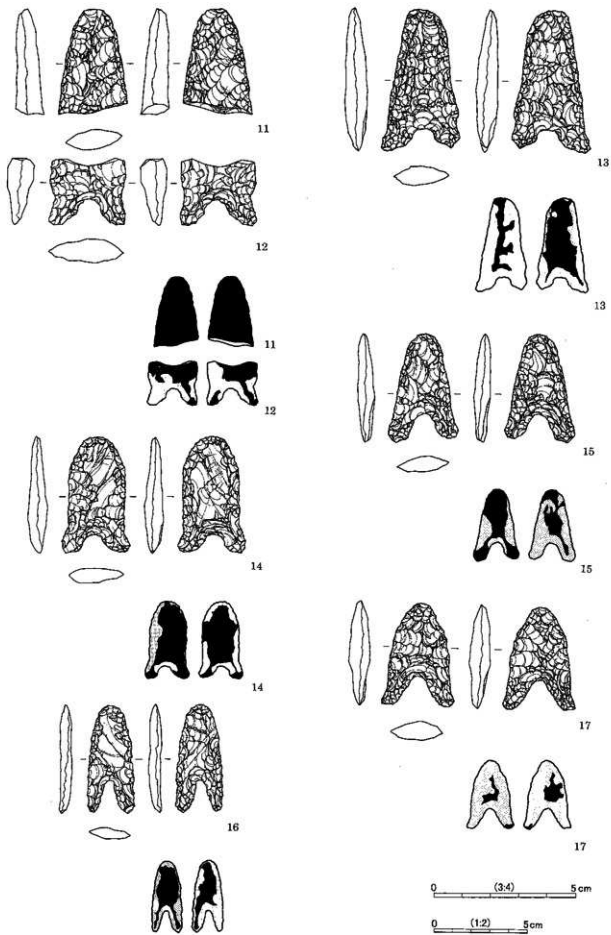
第125図 異形部分磨製石器その2



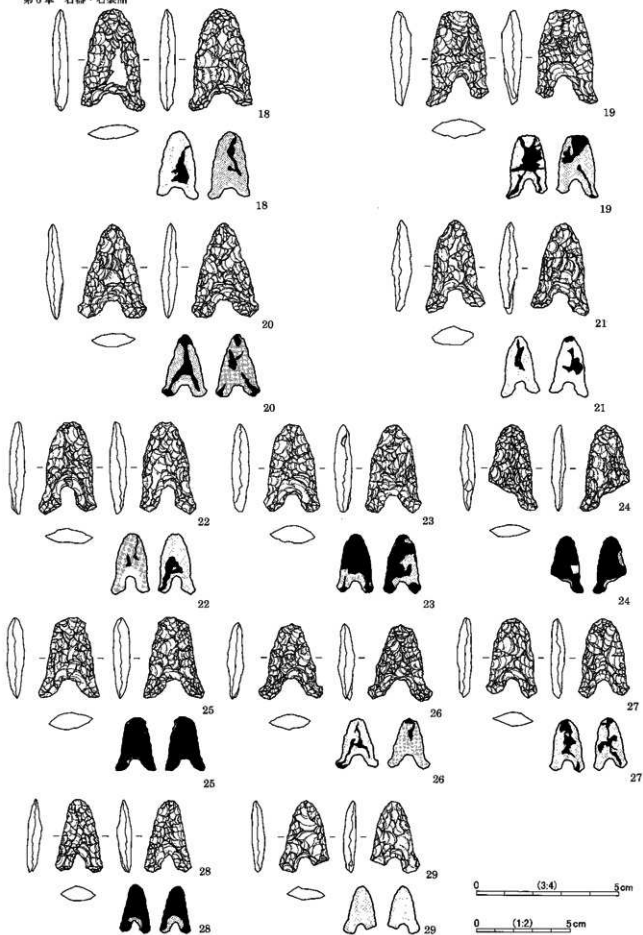
0 (3.4) 5 cm

0 (1.2) 5 cm

第126図 異形部分磨製石器その3

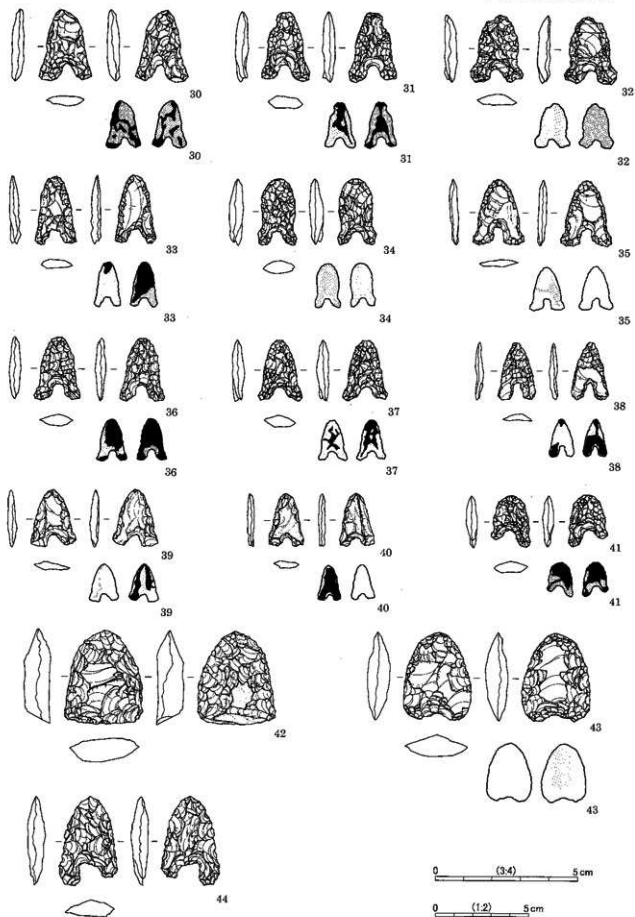


第127図 異形部分磨製石器その4



第128図 異形部分磨製石器その5

第1節 異形部分磨製石器



第129図 異形部分磨製石器その6

石鏃の分類の基準は基部と先端の形態とする。まず基部は中央がU字形に挟られているものをA類(いわゆる鉄形鏃)、緩やかな弧を描くように挟られているものをB類、基部の挟りが浅く不明瞭なものをC類、基部が平坦なものをD類、基部が丸みを帯びて突出するものをE類、基部に基部をもつものをF類とした。A～C類は凹基鏃、D類が平基鏃、E類が円基鏃、F類が有基鏃にあたる。

さらに先端部が鋭角のもの1類、先端部が鋭角で長さが幅の2倍以上のものを2類、先端部が鈍角のものを3類、先端部が丸いもの4類とした。この先端部と基部の分類を組み合わせ、石鏃の分類とする。

1～27遺構内出土。1SB01出土A1類、頁岩製。2～4SB02出土、チャート製。2先端が少し先細りになっているA1類。3先端欠損のA1類。4両脚が欠損。A1類か。5・6SB03出土、頁岩製。5左脚欠損、やや歪な形状を呈す。A1類。6左脚欠損、側辺が少し内湾するA1類。7SB05出土、左端が少し欠損、黒曜石製。D1類。8・9SB06出土、8先端が鈍角で側辺が少し外湾するA3類、頁岩製。9左脚欠損、A1類、チャート製。10・11SB11出土、10右脚欠損、A1類、頁岩製。11右脚欠損、側辺が少し内湾するA1類、チャート製。12～15SB12出土、片脚欠損のA1類。12・14チャート製。13・15頁岩製。16SB16出土。先端と左脚欠損、A1類か、頁岩製。17SK02出土右脚、左脚先端欠損、A1類、頁岩製。18～20SK15出土、18側辺がやや内湾するA1類、チャート製。19頁岩製。20左脚欠損、A3類、チャート製。21SK49b出土。先端が僅かに欠損A1類、頁岩製。22SK52b出土。側辺がわずかに内湾するA1類、チャート製。23SK67出土。E1類、チャート製。24SK1072出土。A1類、頁岩製。25SK1069出土、左脚欠損A1類、チャート製。26SH73出土。先端欠損A1類、頁岩製。27SQ01出土。左脚欠損A1類、チャート製。

以下、グリッド、トレンチなど遺構外として取り上げたものは、分類ごとに概観する。

28～170遺構外出土。基部にU字状の深い挟りがある先端鋭角の石鏃A1類(28～144)。さらに側辺の形状で区分し、レイアウトしてある。側辺が外湾する(膨らむ)もの(28～53)。直線的なもの(54～118)。内湾する(凹む)もの(119～144)。

28～53側辺が外湾するA1類。28先端がやや丸みを帯びている。異形部分磨製石器類似石鏃(第129図43)に似る。40挟りがとくに深く、V字状を呈す。52先端部だけ尖らせてある。54自然の風化面を大きく残す。先端が尖るが全体に異形部分磨製石器に似る。石材は、29・34・37～39・46・47・49・50・52チャート製、35・40・44黒曜石製、これ以外頁岩製。

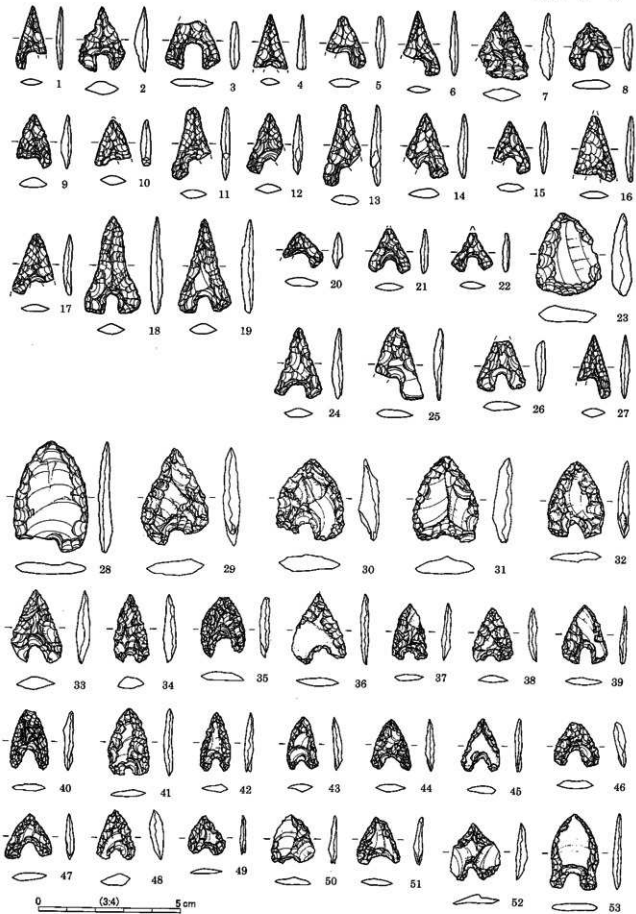
54～118側辺が直線的なA1類。長さに対し挟りが3分の1以下のものが多いが、92・95・96・103・104・109・113・115・118は挟りが深く、長さの3分の1前後ある。石材は55～58、60・61・67・69・72～76・78・82・84・85・90・91・96・99・101～104・108～111・115チャート製、63・70・79・83・98・107・112・116黒曜石製、これ以外頁岩製。

119～144側辺が内湾するA1類。119部分的に挟れている。120左脚欠損。121右脚欠損。128大きく内湾する。119・121・122・124・127～129・131・133・134・136・137・141～143チャート製、120玉髄(石英)製。138黒曜石製、これ以外頁岩製。

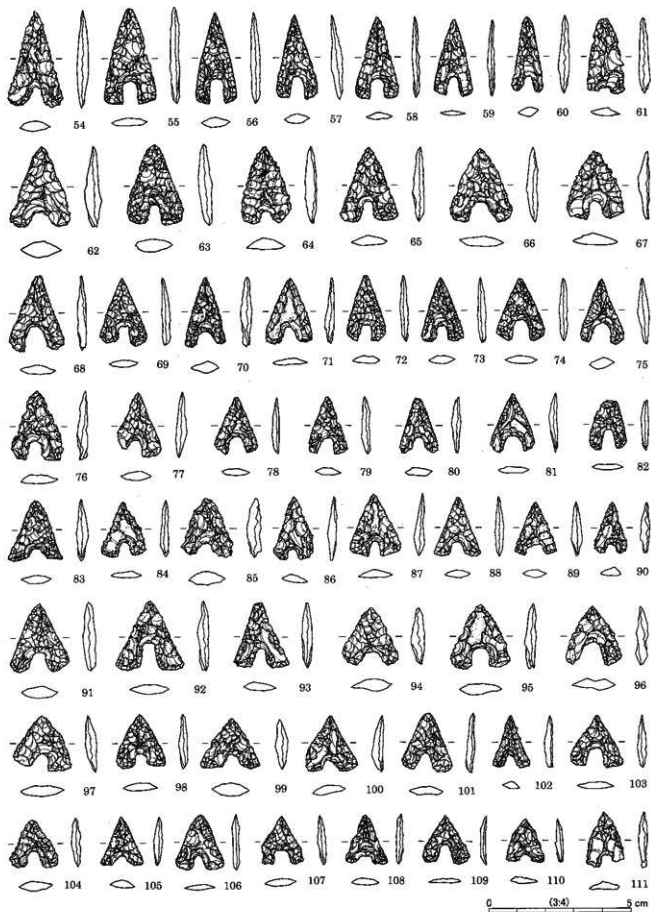
145～148基部にU字状の挟りがある先端が丸いあるいは鈍角の石鏃A4類。145先端が丸い。異形部分磨製石器に似る。チャート製。146・147先端は丸い。頁岩製。148先端は尖る。幅が長さより大きい。チャート製。A4類はチャート製2点、頁岩製2点。計4点。

149～154弧を描くように挟られている基部で先端鋭角の石鏃B1類。149～152側辺が外湾(膨らむ)。153～154側辺が直線的。149～151頁岩製。152・153チャート製。153先端欠損。154幅が長さより長い黒曜石製。

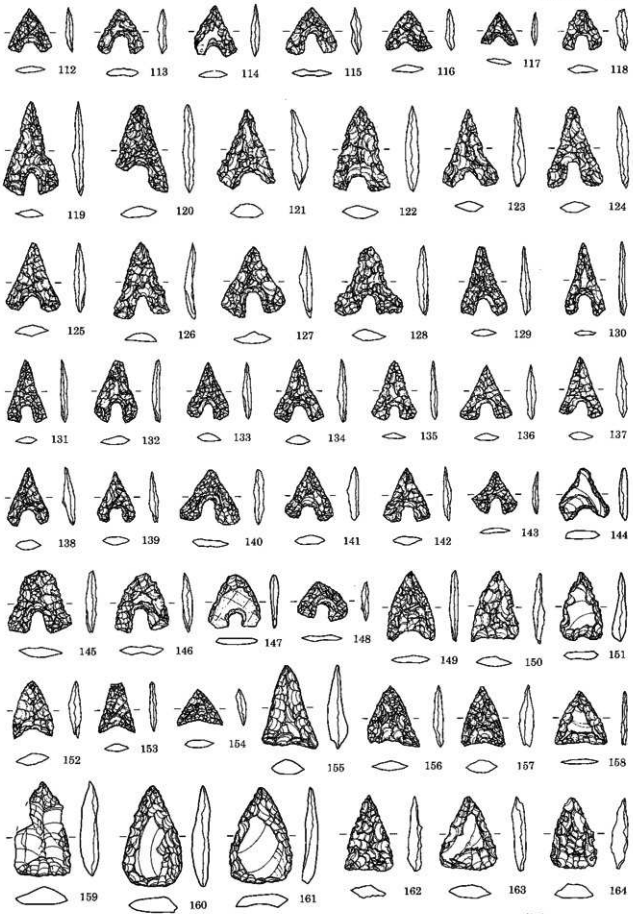
155～158わずかに凹む基部で先端鋭角の石鏃C1類。基部平坦なD類と峻別は難しいものもある。155・156側辺はほぼ直線的。157・158わずかに膨らむ。158はほぼ正三角形。155・158頁岩製。156黒曜石製。157チャート製。



第130図 石器その1



第131図 石鏃その2



第132図 石鏃その3

159～167平坦な基部で先端鋭角の石鏃D1類。159～161側辺がやや外湾。159は左側辺一部欠損。162～167側辺はほぼ直線的。159・165・166チャート製。160～164・167頁岩製。

168・169丸みを帯びて突出する基部で先端鋭角の石鏃E1類。168側辺が少し内湾する。頁岩製。169側辺が少し外湾する。チャート製。

170以上の石鏃分類に入らないもの。170先端と基部が欠損し、当初石錐に分類したが、石器実測委託の段階で石鏃ではないと分類されたので、石鏃に分類した。頁岩製。

以上図化した石鏃は計171点、チャート78点(46%)、玉髄(石英)1点(1%)、黒曜石15点(9%)、頁岩77点(45%)。

第3節 尖頭器(第133図)

1・2押型文土器には少数ながらこうした4cmを越えるようなものが知られており、尖頭器として分類した。1頁岩製。2基部欠損、黒曜石製。3長さ3.4cmというのは山の神遺跡最大の石鏃160(第132図)が長さ3.56cmなので、石鏃の長さの範疇にもはいる。石鏃とすればF1類。チャート製。

第4節 石錐(第133～134図)

石錐も石鏃同様まず遺構内から出土したものを取り上げ、グリッドやトレンチなど遺構外として取り上げたものを概観する。

1～5遺構内出土。1SB04出土、頁岩製。2SB06出土、チャート製。3SB13出土、頁岩製。4SK15出土、頁岩製。5SK49b出土、チャート製。遺構内石錐総点数5点、チャート製2点、頁岩製3点。

6～30遺構外出土。11・12・27・28チャート製。それ以外はすべて頁岩製。
図化した石錐総点数30点、チャート製6点(20%)、頁岩製24点(80%)。

第5節 楔形石器・二次加工のある剥片・微細な剥離のある剥片(第135～136図)

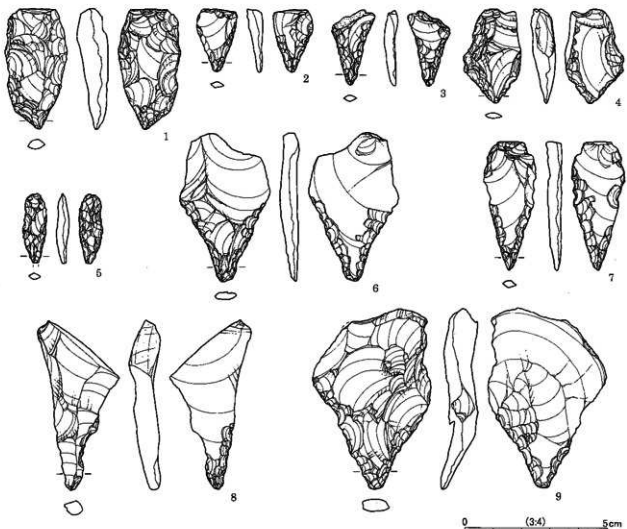
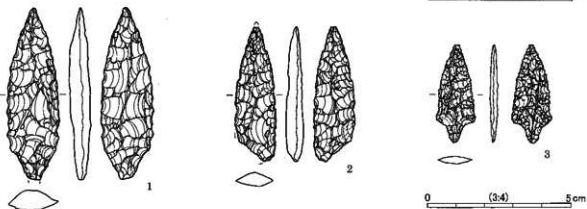
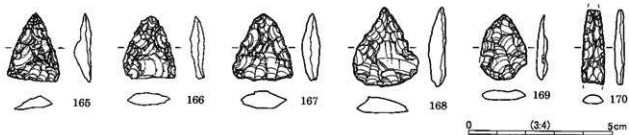
1 楔形石器

アルカ分類では両極石器。遺構から出土したものはない。3～5チャート製。8黒曜石製。1・2・6・7頁岩製。

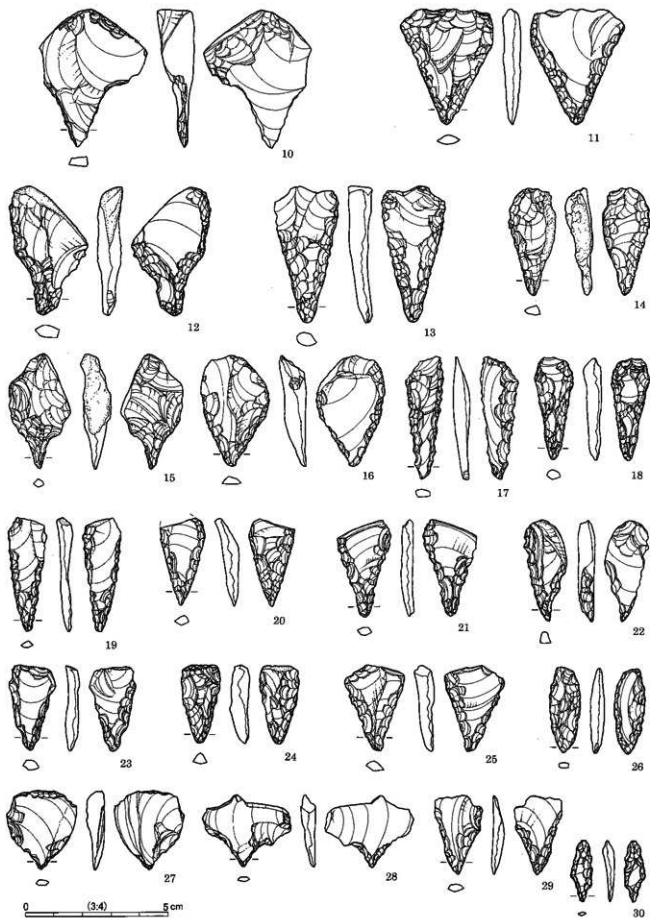
2 二次加工のある剥片

連続した二次加工のある剥片。いわゆる未製品や搔器や削器などに分類できなかった剥片素材の石器1～8遺構内出土。1・2SB02出土、チャート製。3SB11出土、チャート製石鏃未製品。4・5SB12および隣接する土坑SK49a、SK50、SK71、SK72出土。4頁岩製石鏃未製品。5黒曜石製。6SB15出土頁岩製石鏃未製品か。7SK09出土、頁岩製。8SF20出土、頁岩製。

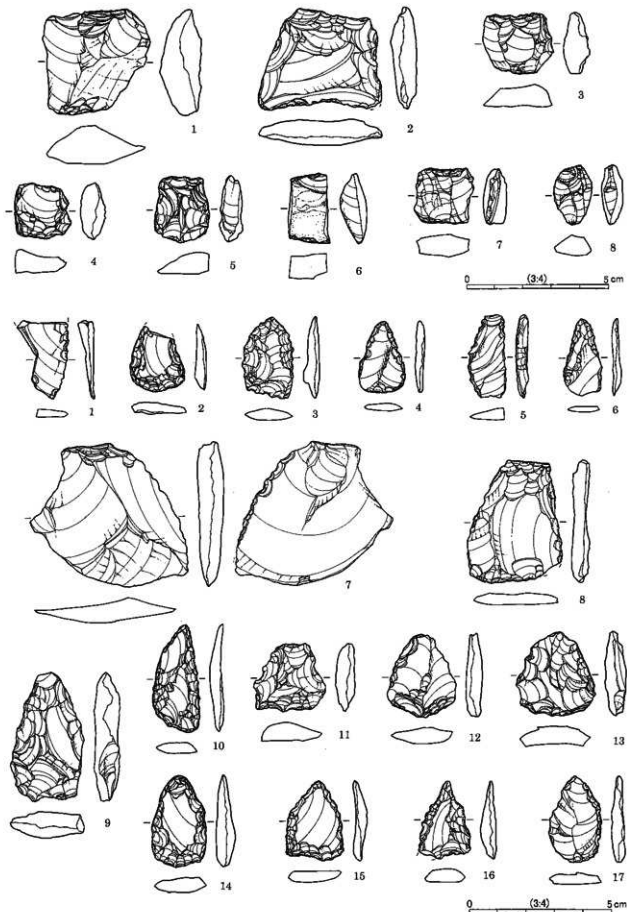
9～28遺構外出土。10器種不明。あるいは石鏃未製品か。チャート製。11～28石鏃未製品。11・19・23・24チャート製。28黒曜石製。それ以外頁岩製。



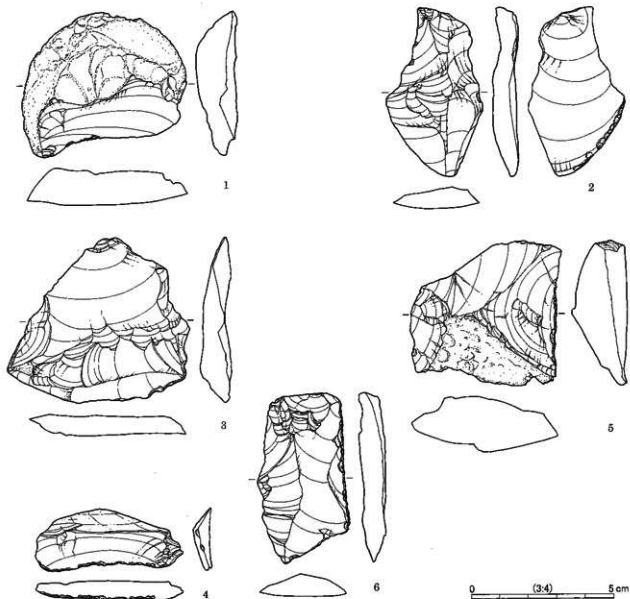
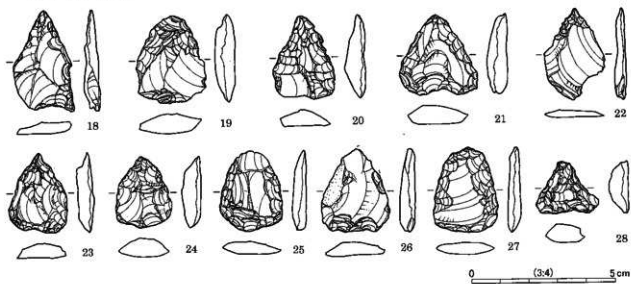
第133圖 石鏃その4・尖頭器・石鏃その1



第134図 石鎌その2



第135図 楔形石器・二次加工のある剥片その1



第136図 二次加工のある剥片その2・微細な剥離のある剥片

3 微細な剥離のある剥片

1~2・4・5遺構内出土。すべて頁岩製。1SB12および隣接するSK49a・SK50・SK71・SK72出土。2SB15出土。4SB14・SK51a出土。5SK45a出土。頁岩製。3・6遺構外出土。3SB12取り上げだが実際はI-U-15出土。頁岩製。6チャート製。

第6節 掻 器 (第137~144図)

以下頁岩製が大半なので、それ以外のものだけ石材を明示する。また石器整理段階の当初はスクレイパーや二次加工剥片としていたが、アルカによる石器実測および分析の結果掻器に分類された。

ただし、当初の整理台帳などはスクレイパーのままとなっている。詳細は表12・13を参照されたい。

1~10・12・15~26・28~31遺構内出土。1~10・12・15~26・28・29長さとし幅が10cm未満の掻器。1SB02出土。2SB03出土。3SB04出土、黒曜石製。4SB06出土。5・6SB07出土。7~10・12SB12および隣接するSK49a・SK50・SK71・SK72出土。15・16SB13出土。17・18SB14・SK51a出土。18チャート製。19SB16出土、チャート製。20・23SK16出土。21・22SK14出土。24SK15出土。25SK49a出土。26SK1069出土。28SF20出土。29SH73出土。

30・31長さあるいは幅が10cm以上の掻器。2点すべて頁岩製。30SB13出土。31SB14あるいはSK51a出土。欠損しているので現存10cm以下だが、本来10cmを越える大きさであったことが想定されるので、ここに含めた。

11・13・14・27・32~84遺構外出土。11・13・14・27・34~37・39~74・80・83・第150図36長さとし幅が10cm未満の掻器。11・13・14当初SB12で取り上げたが、出土状況を検討した結果グリッドI-U-15で出土とする。27当初SK1009で取り上げたが、検討の結果SK1009がロームマウンドであったので、グリッドII-B-5出土とする。38当初アルカ分類で掻器だったが、削器に変更。74拇指状ラウンドスクレイパー。第150図36当初アルカ分類で刃器だったが、最終的に掻器に変更。13・45・48・53・54・65・67・73チャート製。70・74黒曜石製。

32・33・75~79・81・82・84長さあるいは幅が10cm以上の掻器。32当初SK1009で取り上げたが、検討の結果SK1009がロームマウンドであったので、グリッドII-B-5出土とする。78上半部欠損。84上半部欠損。79砂岩製か。

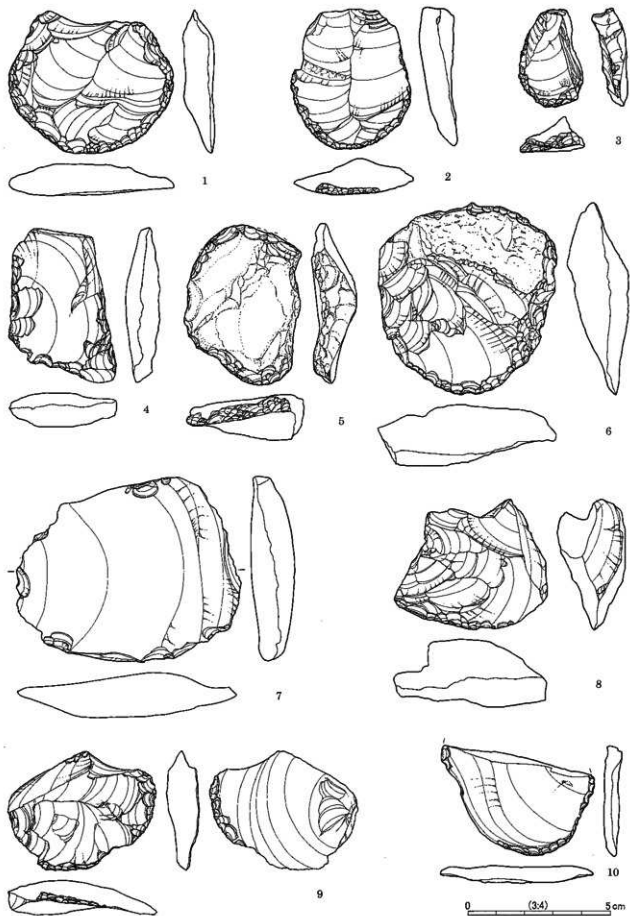
図化した掻器84点中チャート10点(12%)、黒曜石3点(4%)、砂岩か1点(1%)、頁岩70点(83%)。

第7節 削 器 (第145~146図)

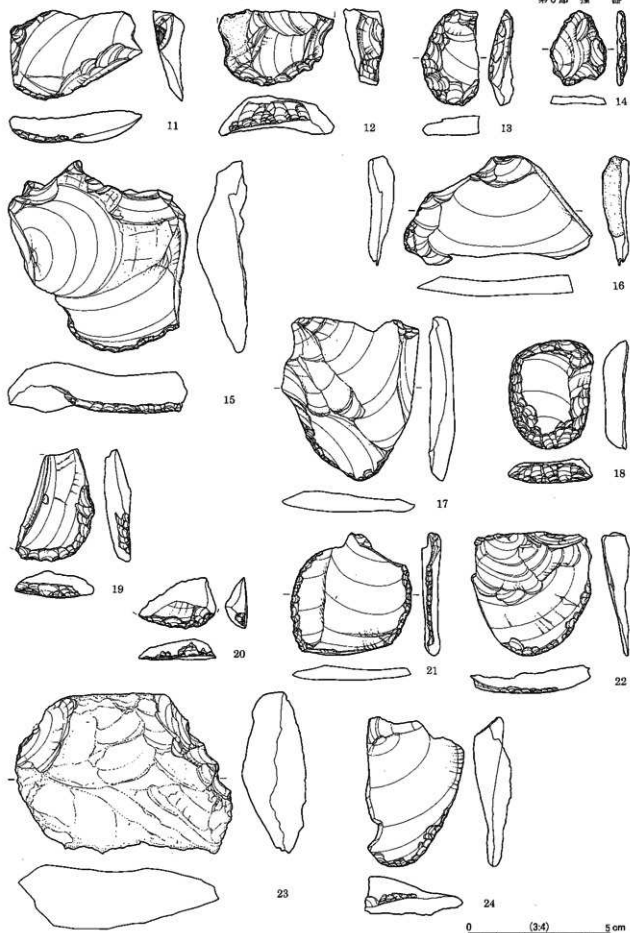
以下頁岩製が大半なので、それ以外のものだけ石材を明示する。掻器同様削器も当初、スクレイパーあるいは二次加工剥片などとされて分類されていたが、アルカによる石器実測および分析によって削器に分類された。遺跡全体の石器整理台帳との関係は表12・13を参照されたい。

1~13遺構内出土。1SB03ないしSK52a出土。2SB03出土。3・4SB11出土。3上半部および左下端欠損。チャート製。5SB12あるいは隣接するSK49a・SK50・SK71・SK72出土。6SB12出土。7SB14あるいはSK51a出土、下半部欠損。チャート製。8・9SK02出土、チャート製。10SK04出土。11SK16出土。12当初SK1001出土として取り上げたが、出土状況の検討の結果ロームマウンド出土と判明し、グリッドII-B-5・10出土とした。13SK1022出土。

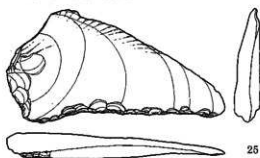
14~24・第140図38遺構外出土。15刃部が外湾する。24下端欠損。第140図38当初アルカ分類で掻器だっ



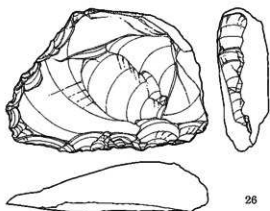
第137図 掻器その1



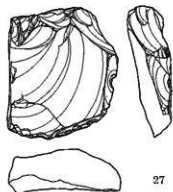
第138図 播器その2



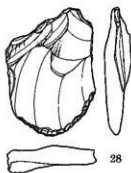
25



26



27

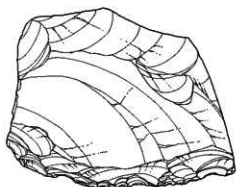


28

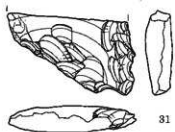


29

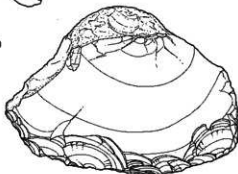
0 (3.4) 5 cm



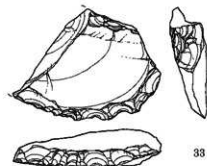
30



31



32

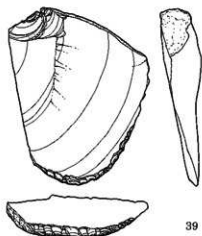
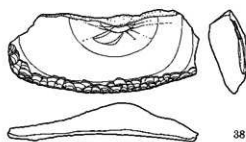
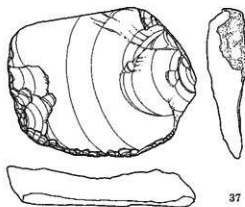
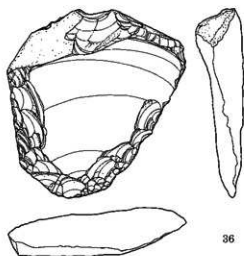
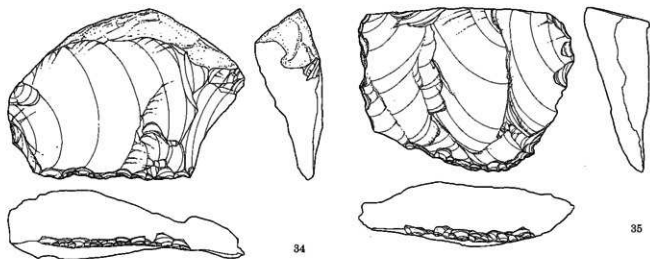


33



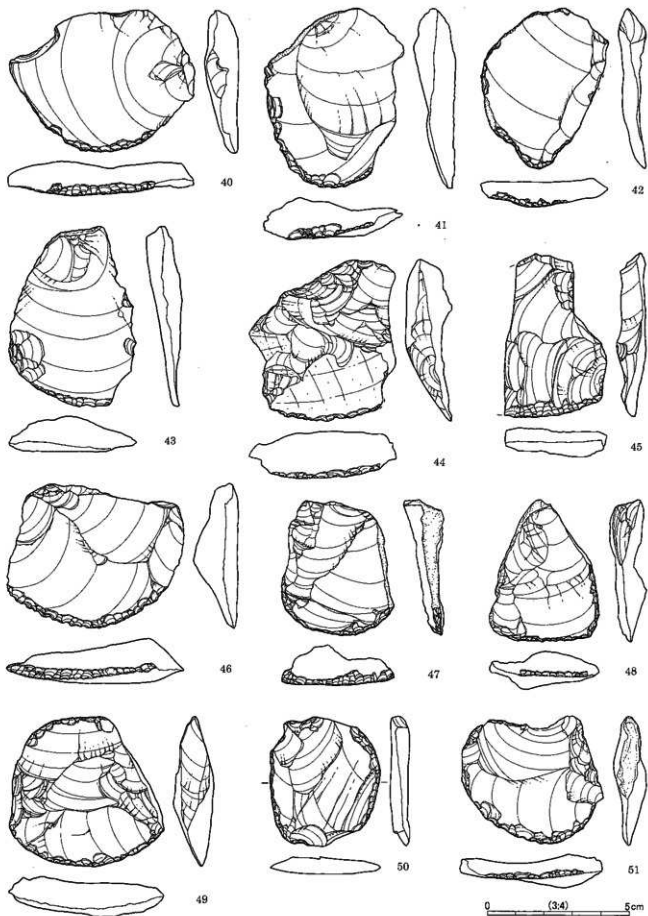
0 (1.2) 5 cm

第139図 掻器その3

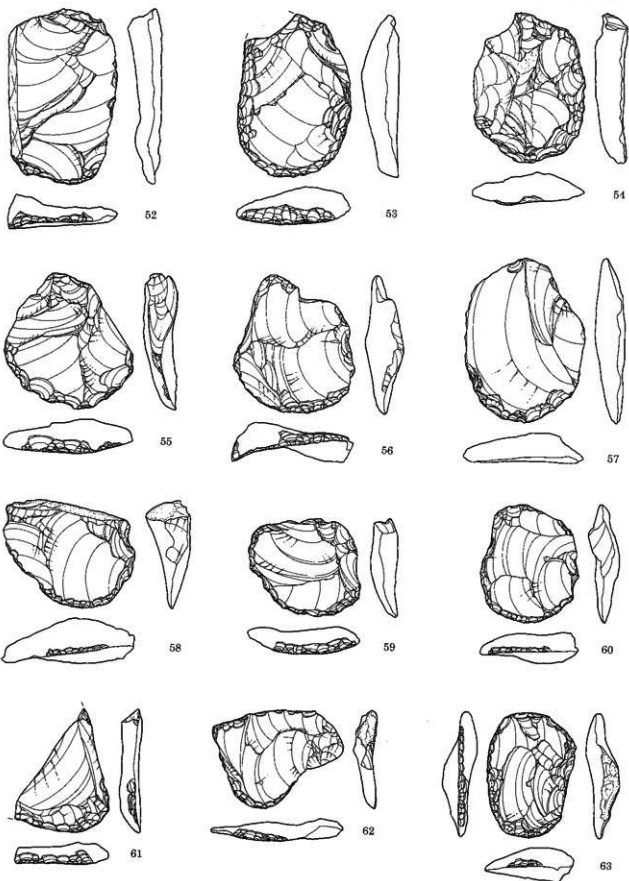


0 (3.4) 5 cm

第140図 搔器その4

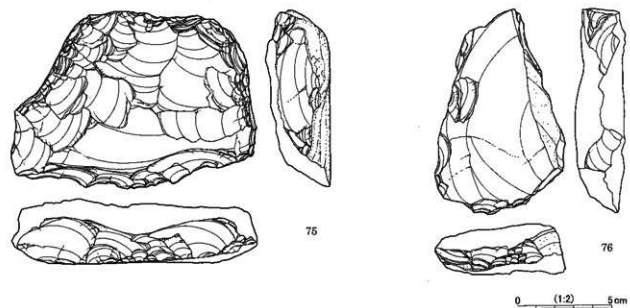
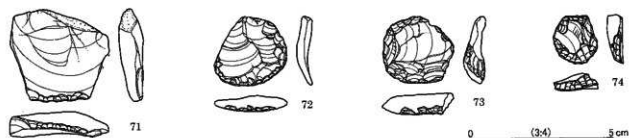
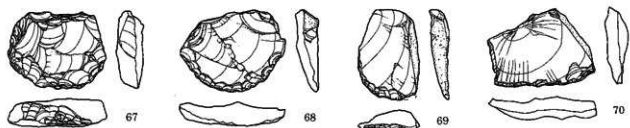
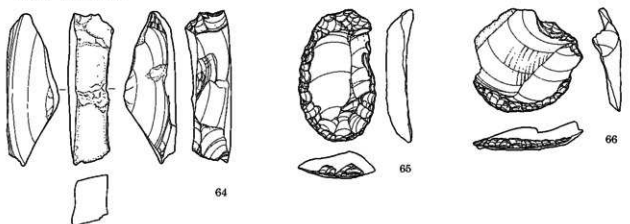


第141図 掻器その5

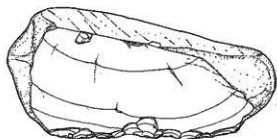


第142図 雑器その6

第6章 石器・石製品



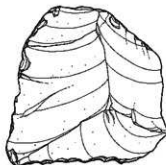
第143図 挿器その7



77



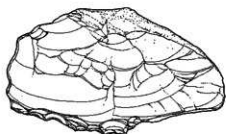
78



79



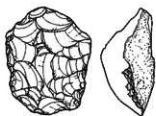
80



81



82



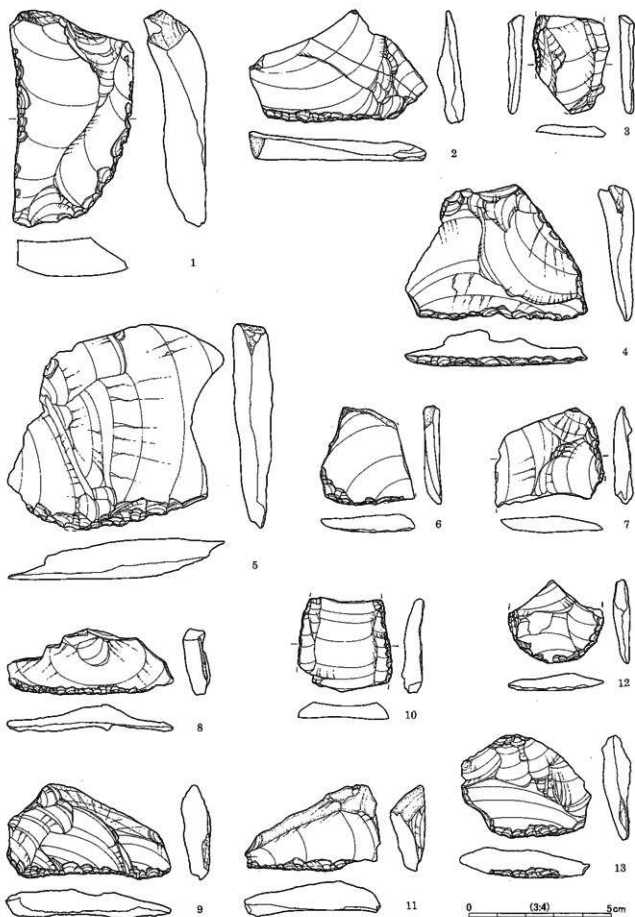
83



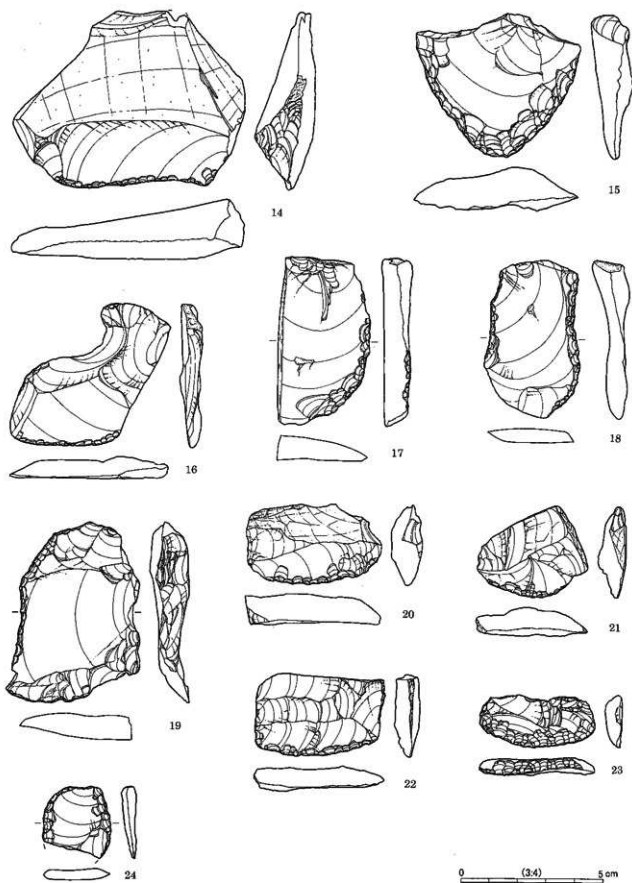
84

0 (1:2) 5cm

第144図 掻器その8



第145図 削器その1



第146図 石器その2

だが、最終的に削器に変更。16・20・22～24チャート製。

図化した削器25点中、チャート9点（36%）、頁岩16点。（64%）。

第8節 刃 器（第147～154図）

以下頁岩製が大半なので、それ以外のものだけ石材を明示する。刃器も当初、石核あるいは礫器（最終的には石核・礫器として整理台帳には記入）などとされて分類されていたが、アルカによる石器実測および分析によって刃器に分類された。なお以下文中の小形の刃器、中形の刃器などは法量で便宜的に分類したものでアルカ分類の小形刃器、中形刃部、大形刃器とは一致しない。遺跡全体の石器整理台帳との関係は表12・13を参照されたい。

1～14遺構内出土。1 SB11出土。2 SB13出土。3～5 SB14・SK51a出土。4 長さ、幅が6 cmを若干越える程度。中形の刃器。6～8 SK49b出土。7 あるいは未製品か。9 SK1004出土。10 SK1007出土。9・10長さ、幅が6 cm以下で小形の刃器。11 SK1067出土。12・13 SH69出土。14 SH36出土。長さ、幅が6 cmを若干越える程度。中形の刃器。すべて頁岩製。

15～35・37～58遺構外出土。15～20長さ、幅ともに6 cm以下、小形の刃器。16チャート製。21上半部が欠損。22～25・27～33・35・38・40長さ、幅が6 cmを若干越える程度の中形の刃器。33変成岩製。詳細な石材不明。36当初アルカ分類で刃器だったが、最終的に搔器へ変更。57安山岩製。58長さ14.5 cm、幅16.0 cm、厚さ7.4 cmと最も大きい。未製品か。

図化した刃器57点、チャート1点、変成岩1点、安山岩1点、頁岩54点。

第9節 筥状石器・打製石斧ほか（第154・155図）

打製石斧とアルカによる実測・分析後、器種不明、石器未製品、二次加工剥片とされたもののうち両面加工の大形剥片石器を一括した。

器種不明（第154図59・第155図1・5・6）

59グリッドII-C-5出土。整理台帳には礫器・石核として分類。頁岩製。1 SB12あるいはSK49a出土。整理台帳にはスクレイパーとして分類。チャート製。5・6整理台帳には礫器・石核として分類。5グリッドI-U-9出土。頁岩製。6 I-V-3出土。頁岩製。

筥状石器（第155図）

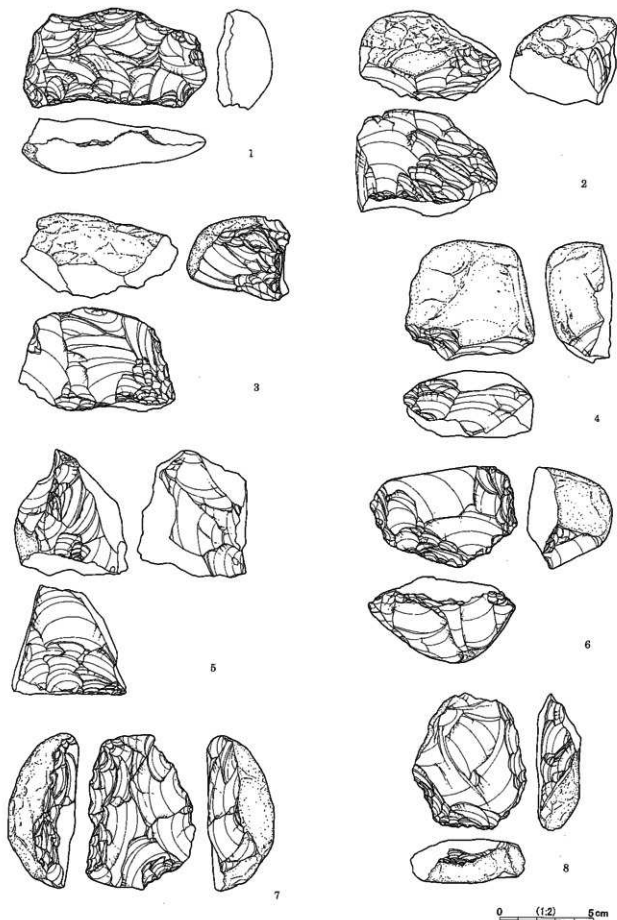
2・3整理台帳ではスクレイパーとして分類。2 SK1062出土。頁岩製。3グリッドI-W-22出土。頁岩製。4整理台帳では礫器・石核として分類。ロームマウンド・グリッドI-V-21出土。頁岩製。

打製石斧（第155図）

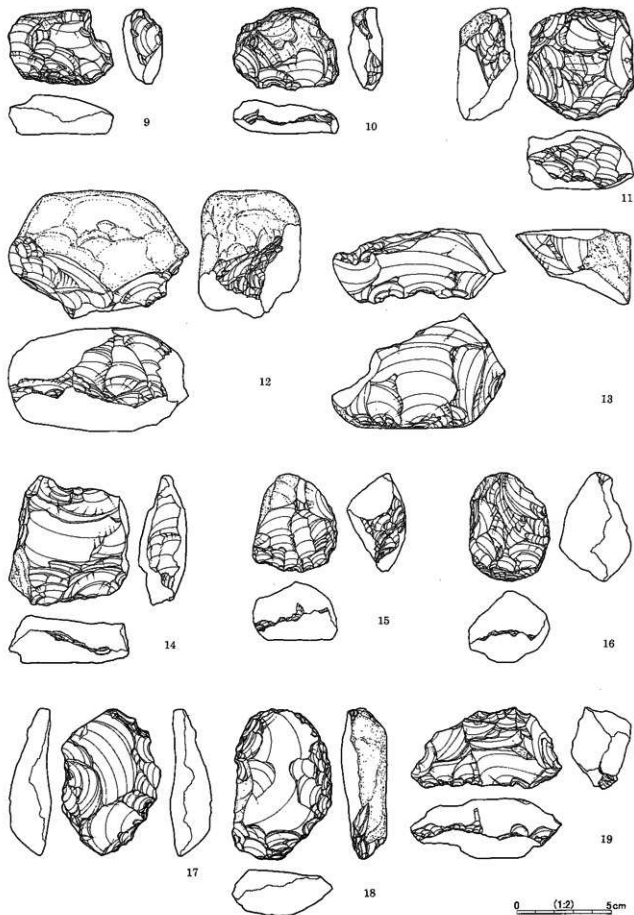
1結晶片岩製。2～5粘板岩製。4上端欠損。遺構外から出土。前期以降の土器に伴うものと思われる。

第10節 磨製石斧・玉類（第156～157図）

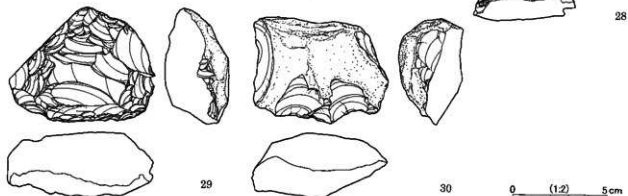
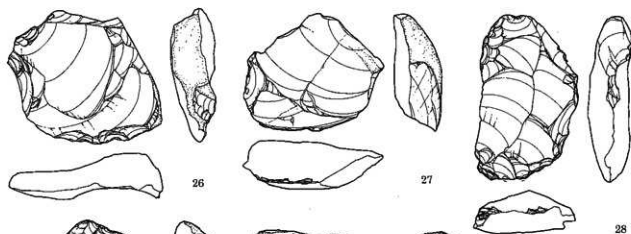
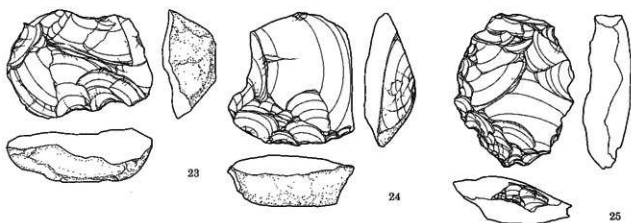
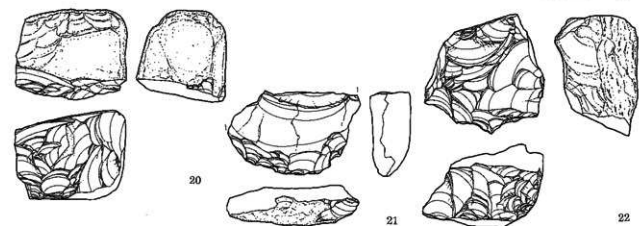
磨製石斧および石材や形態が類似するもの、さらに玉類をまとめた。



第147図 刃器その1

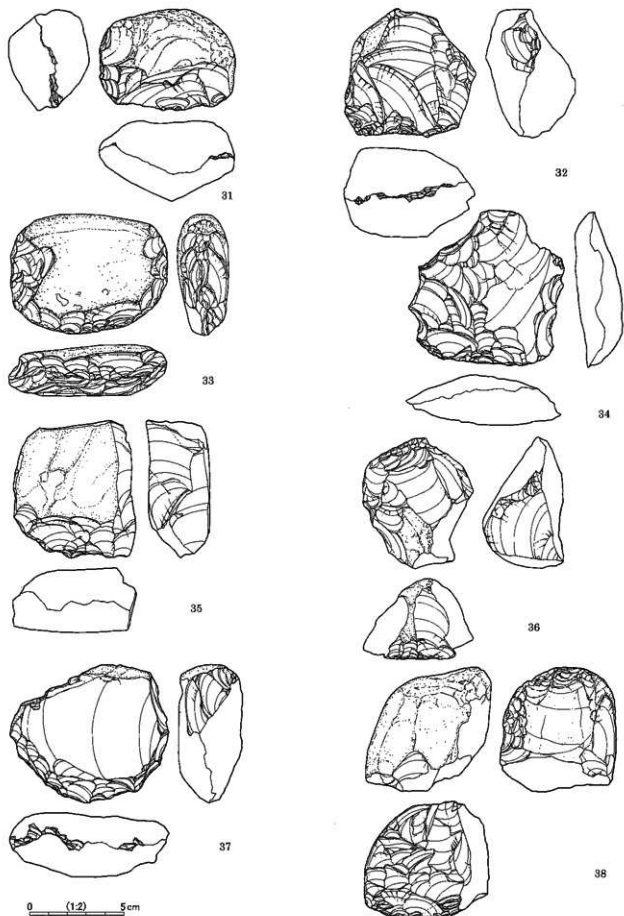


第148図 刃器その2

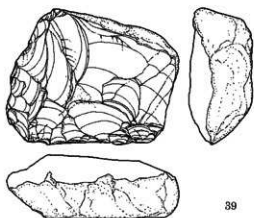


0 (12) 5cm

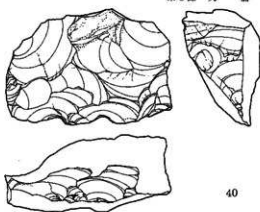
第149図 刃器その3



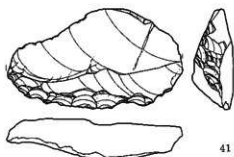
第150図 刃器その4



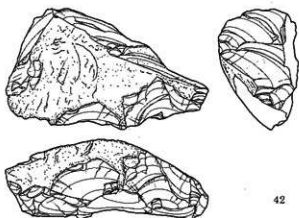
39



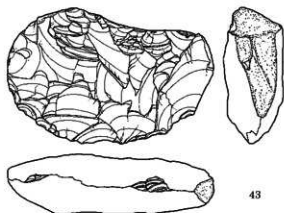
40



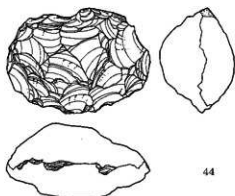
41



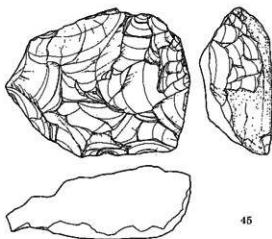
42



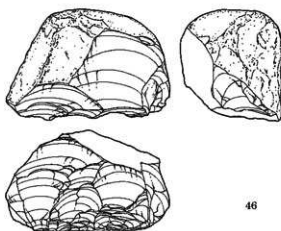
43



44



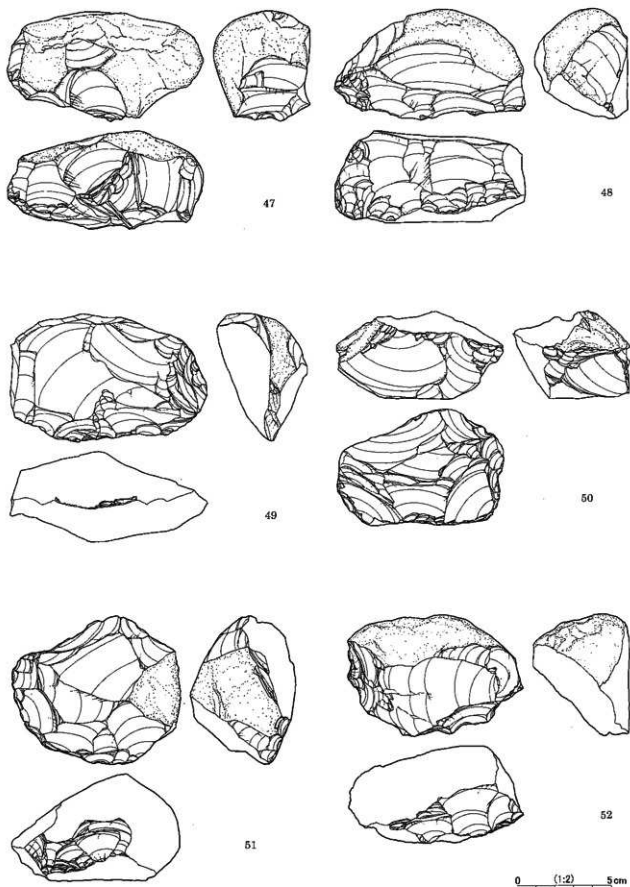
45



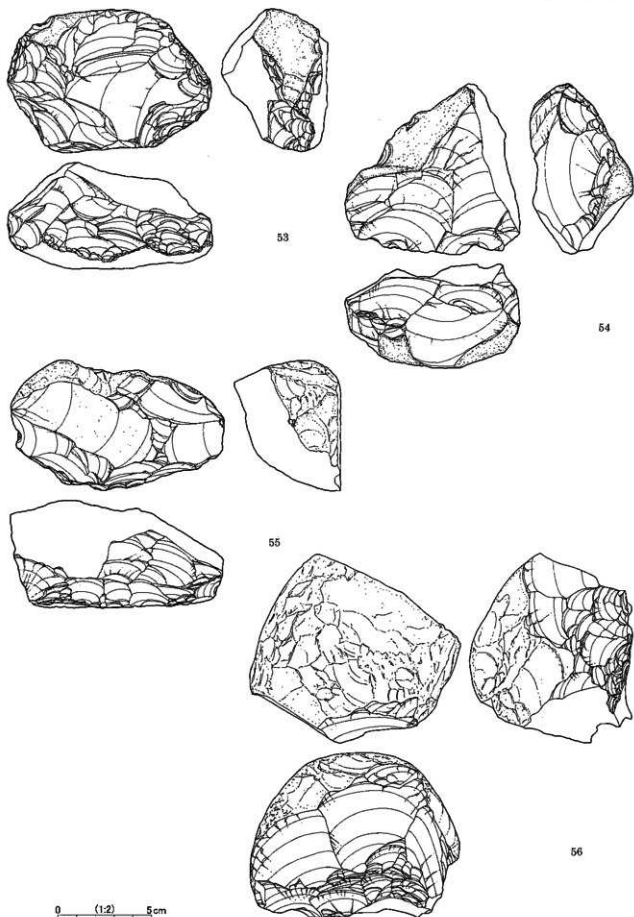
46

0 (1:2) 5cm

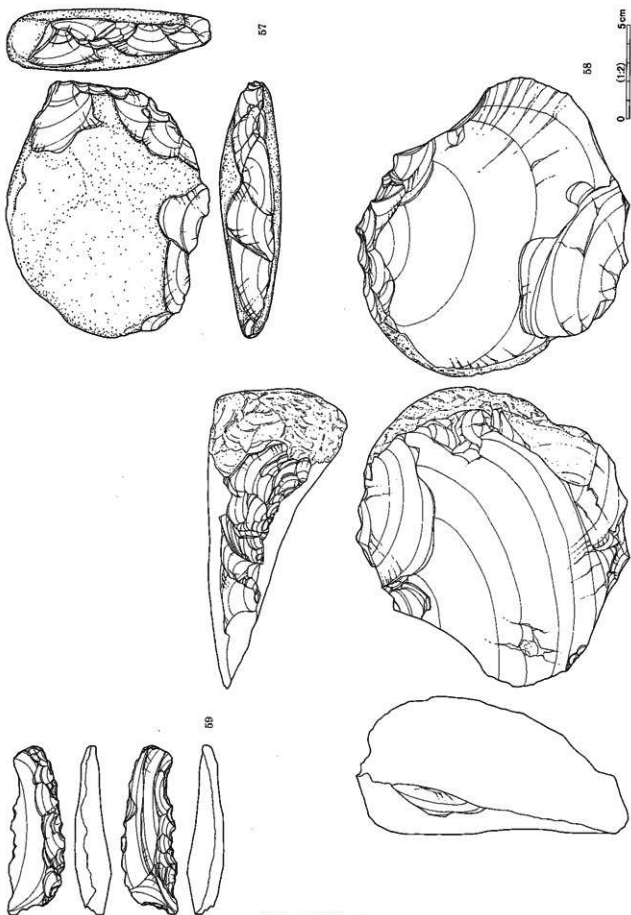
第151図 刃器その5



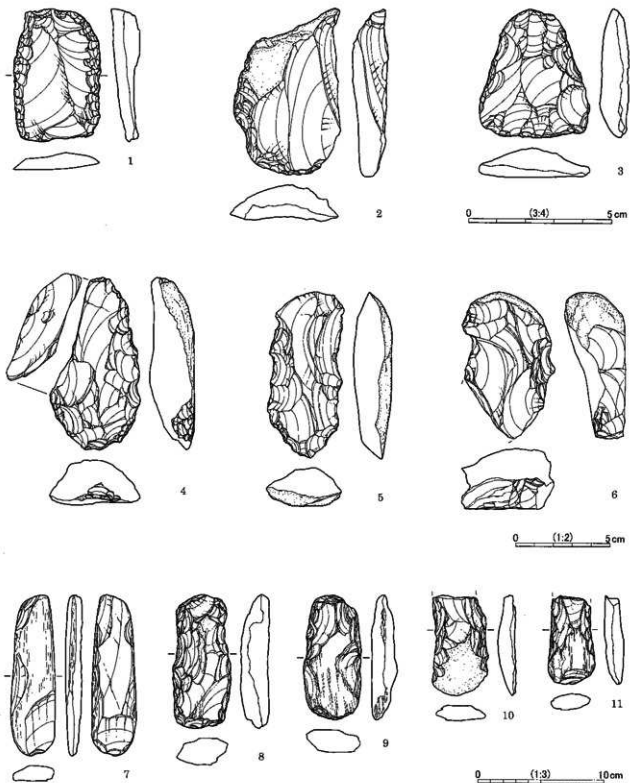
第152図 刃器その6



第153図 刃器その7



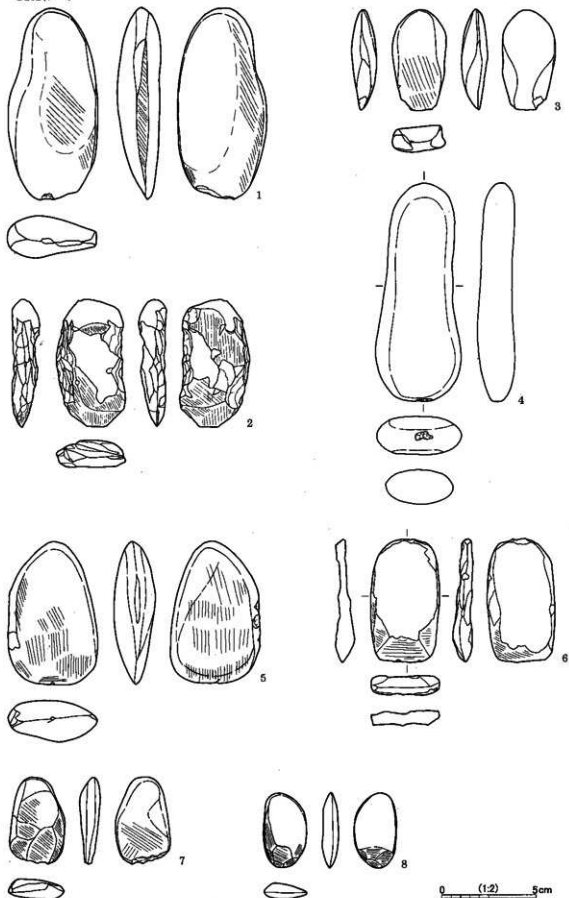
第154図 刃器その8



第155図 筒状石器・打製石斧・器種不明

第6章 石器・石製品

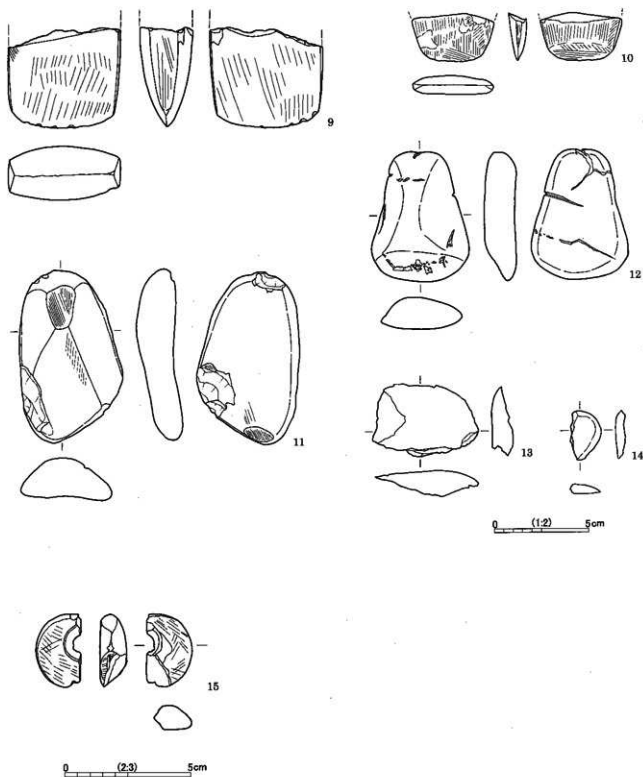
8Q02(1~4)



第156図 磨製石斧・玉頰その1

1～4 遺物集中SQ02出土。1～3 転石利用の磨製石斧。1 右側面、表裏面に研磨による平坦面が見える。刃部の剥離は使用によるものか。変塩基性岩。2・3 透緑閃石岩（軟玉）製。4 先端に敲打痕。1～3とともに出土した。刃部はない。磨製石斧の未製品かあるいは磨石・敲石か。砂岩製。

5～14 遺構外出土。5・7・8 転石利用の磨製石斧。刃部を作り出しているだけで、側面や基部は加工しない。透緑閃石岩（軟玉）製。6 表裏面ともに表面が剥落している。側面も研磨しているようだが、はっ



第157図 磨製石斧・玉類その2

きりしない。珪化アイサイト製。9・10側面に平坦面をもつ磨製石斧。ともに基部欠損。9透緑閃石岩(軟玉)製。10緑泥石片岩製。

11~14透緑閃石岩(軟玉)製。部分的に研磨痕や加工された平坦面があるが、刃部などの機能面は見当たらない。材質がいずれも緻密で光沢があるので、玉類とした。12平坦面や研磨痕もとくにない。13・14破片。

15球状耳飾。左半分とスリットが一部欠損。裏面は平坦で、表面は丸い。蛇紋岩製。縄文時代前期前半か。

第11節 砥石類 (第158図)

1~4遺構内出土。すべて砂岩製。1・2・4有溝砥石。1SB02出土、上半部欠損、表裏に溝あり。2SB03出土、右側と上半部欠損。3SB12および隣接するSK49a・50a・71・72出土。中央が浅く帯状に凹む。4SH68・69付近出土、下半部欠損、表裏に溝あり。

5~11遺構外出土。5軽石製、11凝灰岩製でこれ以外はすべて砂岩製。5~8有溝砥石。5下半部欠損、表裏に溝あり。6右側と下半部欠損、表裏に溝あり。7上半部欠損、表裏と両側面に溝あり。8表裏に溝あり。9表面の中央が浅く帯状に凹む。置き砥か。10剥離が著しいが、本来全体に研磨面があったものと思われる。トーンは研磨面が現存している部分。9・10磨製石斧の刃部を研ぐ砥石か。以上1~10縄文時代早期に伴うものだろう。11六面全面に条線の発達した研磨痕が見られる。古代か。

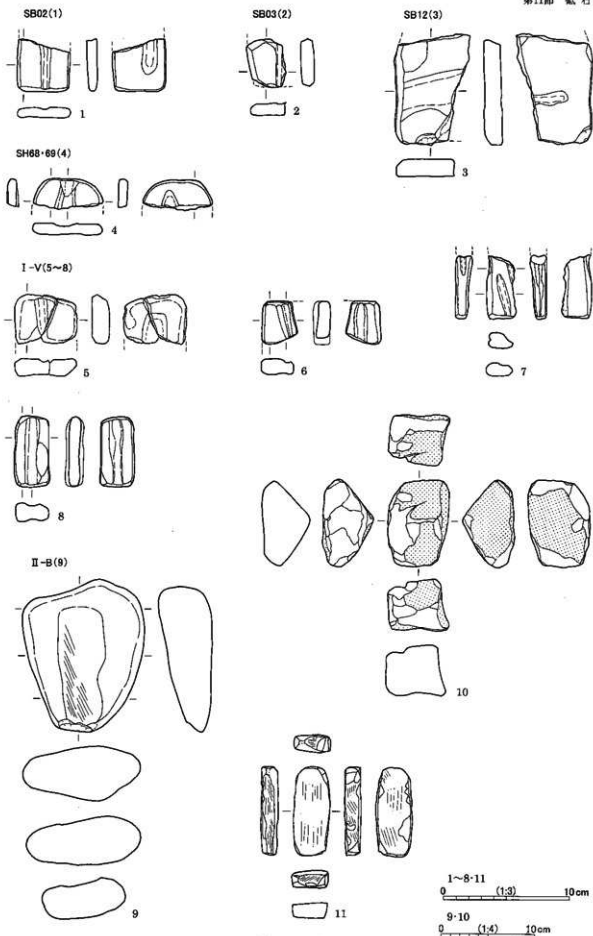
第12節 特殊磨石 (第159~178図)

断面が三角形あるいは菱形の手に持てるくらいの自然礫をもち、礫の後縁を敲打などによって細長い平坦面(文中以下断らない限り平坦面はこのことを指す)を作出したもの、細長い礫の後縁部分に礫の長軸にはほぼ平行な細長い平坦面を作り出した石器を「特殊磨石」とする。この細長い人為的に作出された平坦面の有無を必要条件とした。

礫の上端と下端に敲打痕が見られることが多い。凸凹があり面的に広がる敲打痕、凹凸はほとんどないがザラザラした感触がある平坦面、ツルツルしている面(便宜的に以下磨面とす)をトーンで図示している。とくに磨面は人為的なものか自然の水磨によって形成されたかを鑑別することはむずかしいが、平坦面とならんのかかわりがあることが想定されている(八木光則1976「いわゆる『特殊磨石』について」【信濃】28-4)ので、記録に留めた。また以下特殊磨石の石材には花崗岩が多いので、花崗岩以外の石材のみを明示する。

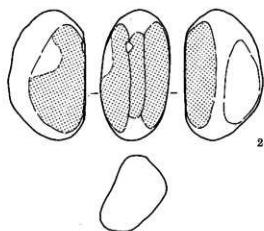
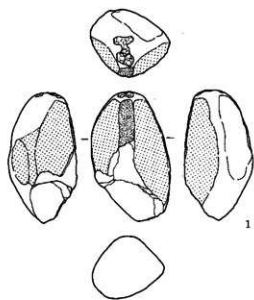
また、以下正面、表裏面、右側、左側、上下端といった用語はすべて実測図の説明のために便宜的に用いているのであり、機能用途を想定してのものではない。

1~50遺構内出土。1~13堅穴住居跡出土。1~3SB03出土。1平坦面1。上端に敲打痕あり。平坦面を挟んだ両側面などが磨面。2平坦面1。平坦面とその両側面が磨面。3ザラザラした平坦面1。平坦面を挟んで両側面が磨面。右側面中央に敲打痕あり。2・3安山岩製。4~6SB06出土。4平坦面1。両側および裏側面が磨面。5平坦面1。磨面ははっきりしない。6平坦面1。両側に磨面。下半部欠損。7SB05出土。平坦面1。平坦面と両側面が磨面。8~12SB11出土。8平坦面1。平坦面と両側面が磨面。9平坦面1。平坦面はザラザラ。上端に敲打痕発達。両側、裏、下面に磨面。10平坦面1。平坦面はザラザラ。両側面に磨面。11平坦面1。両側、裏、下面に磨面。12平坦面1。平坦面はザラザラ。左側面に磨面。

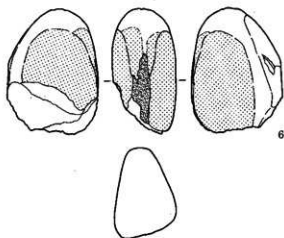
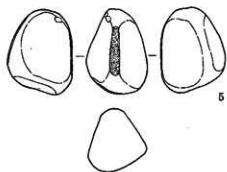
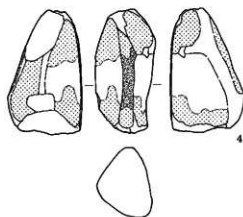
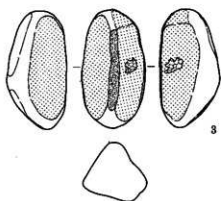


第158図 砥石類

SB03(1~3)



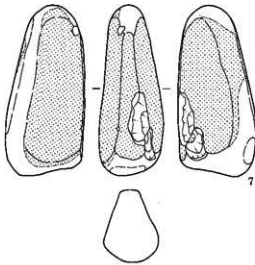
SB06(4~6)



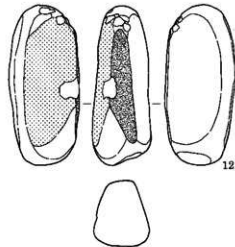
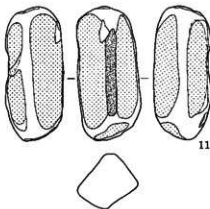
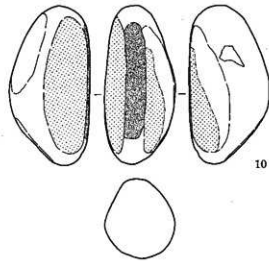
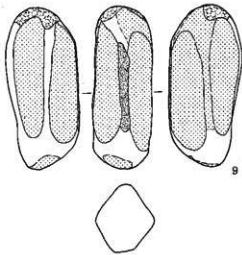
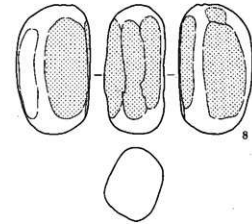
0 (1:4) 10cm

第159図 特殊磨石その1

SB05(7)



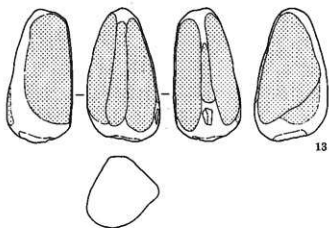
SB11(8~12)



0 (1:4) 10cm

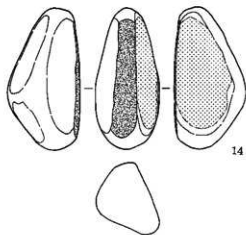
第160図 特殊磨石その2

SB12(13)

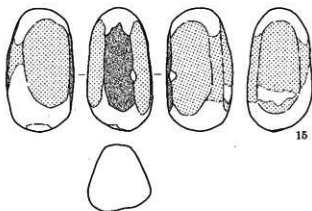


13

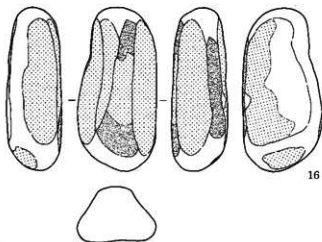
SKS1a(14~18)



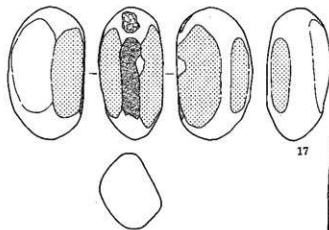
14



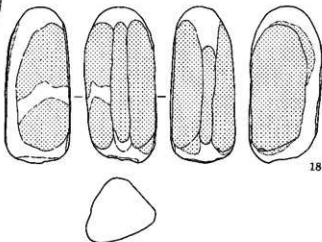
15



16



17

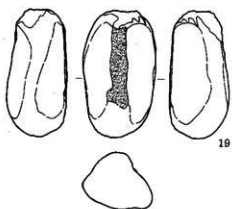


18

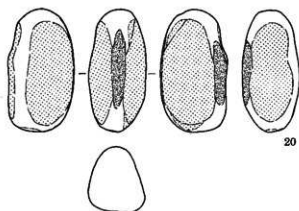
0 (1/4) 10 cm

第161図 特殊磨石その3

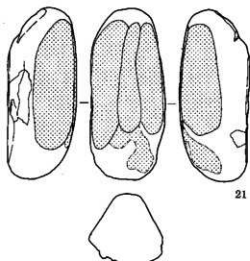
SK51a(19)



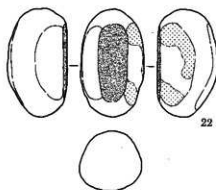
SK38(20)



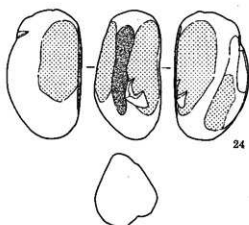
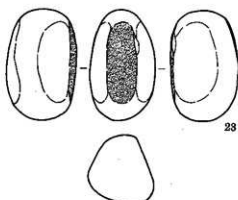
SK43a(21)



SK1069(22)



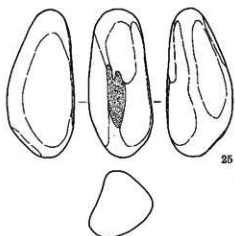
SK1072(23-24)



0 (1.4) 10cm

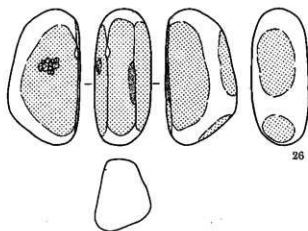
第162図 特殊磨石その4

SH01 (25)

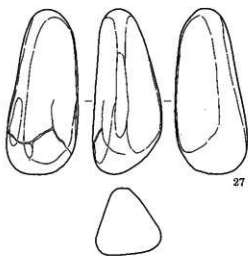


25

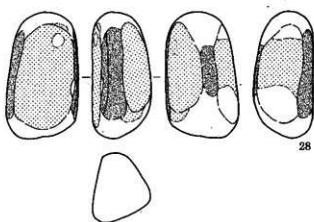
SH05 (26~28)



26

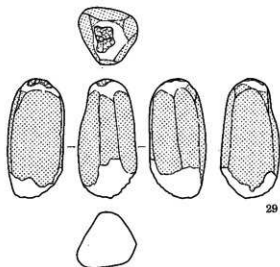


27

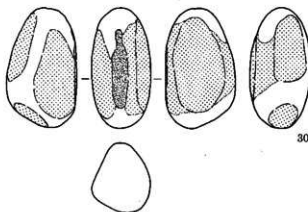


28

SH09 (29-30)



29

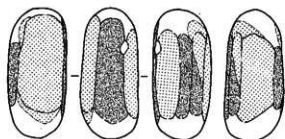


30

0 (1.4) 10cm

第163図 特殊磨石その5

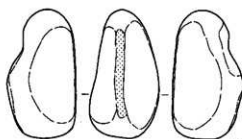
SH06(31)



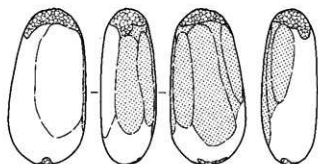
31



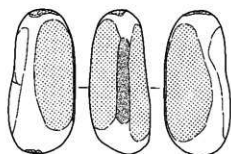
SH21 (32~35)



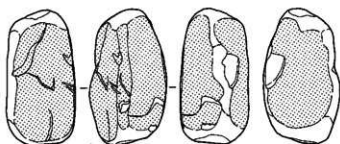
32



33



34



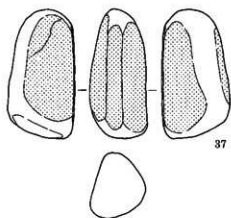
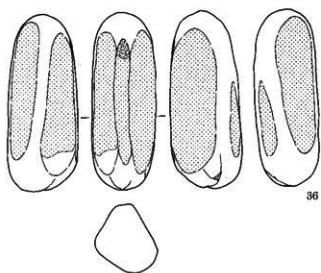
35



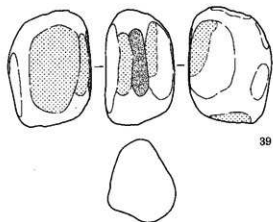
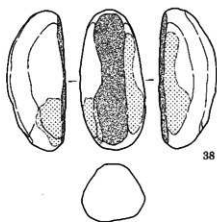
0 (1.4) 10cm

第164図 特殊磨石その6

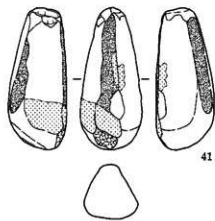
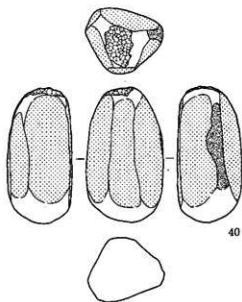
SH32(36~38)



SH35(39)



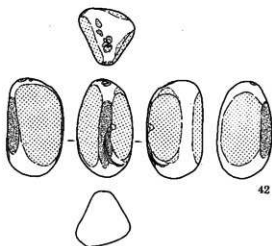
SH54(40-41)



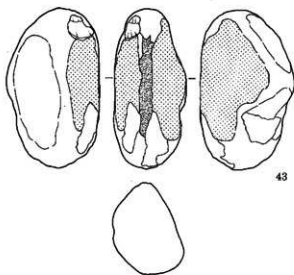
0 (14) 10cm

第165図 特殊磨石その7

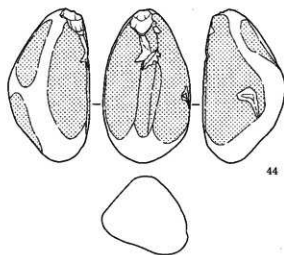
SH46 (42)



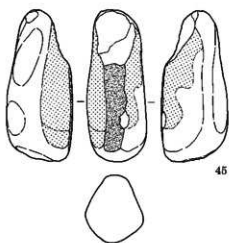
SH57 (43)



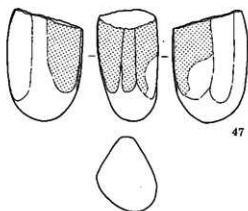
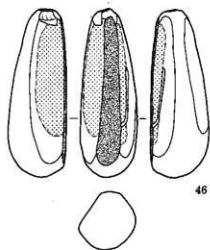
SH64 (44)



SH66 (45)



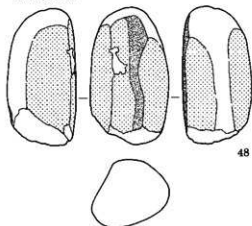
SH68-69 (46-47)



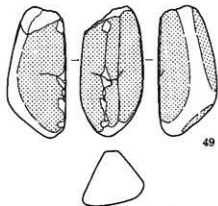
0 (1:4) 10cm

第166図 特殊磨石その8

SH73(48-49)

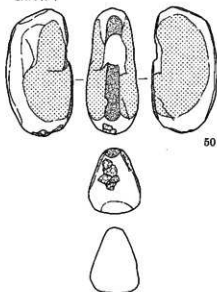


48



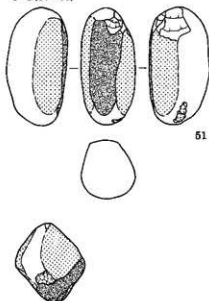
49

SH75(50)

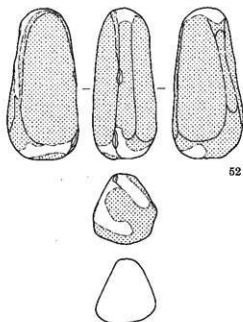


50

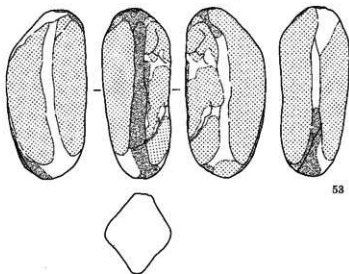
I-U(51~53)



51



52

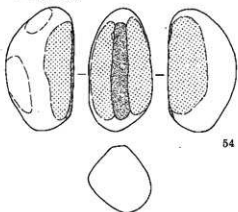


58

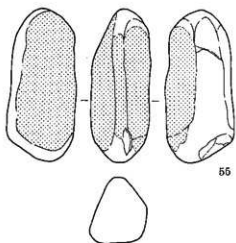
0 (1:4) 10 cm

第167図 特殊磨石その9

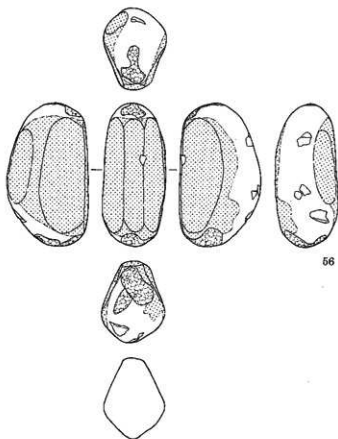
I-U(54~57)



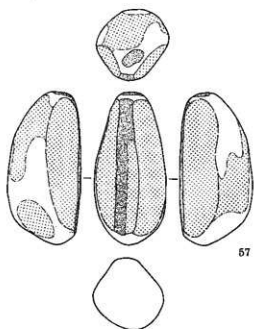
54



56

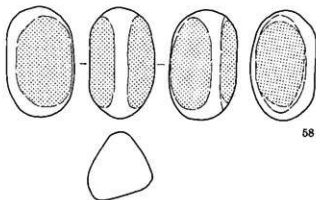


57

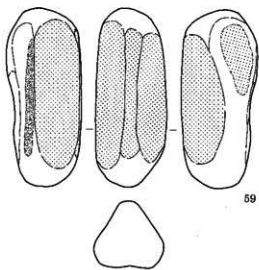


58

I-V(58-59)



59



55

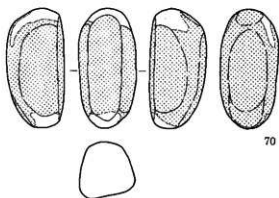
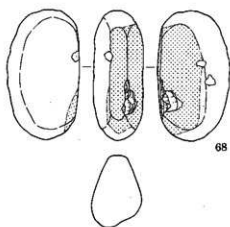
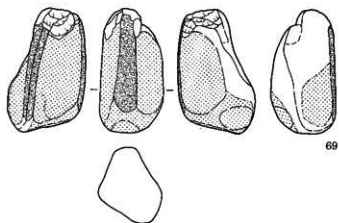
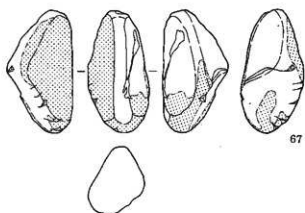
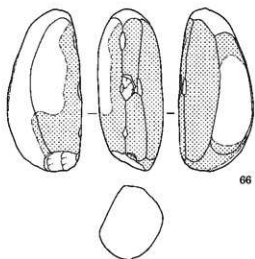
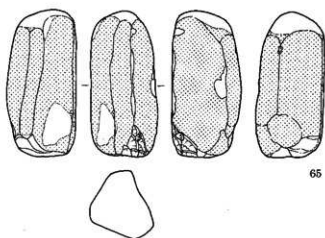
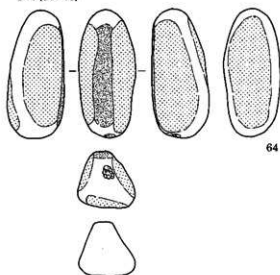
0 (1:4) 10cm

第168図 特殊磨石その10



第169図 特殊磨石その11

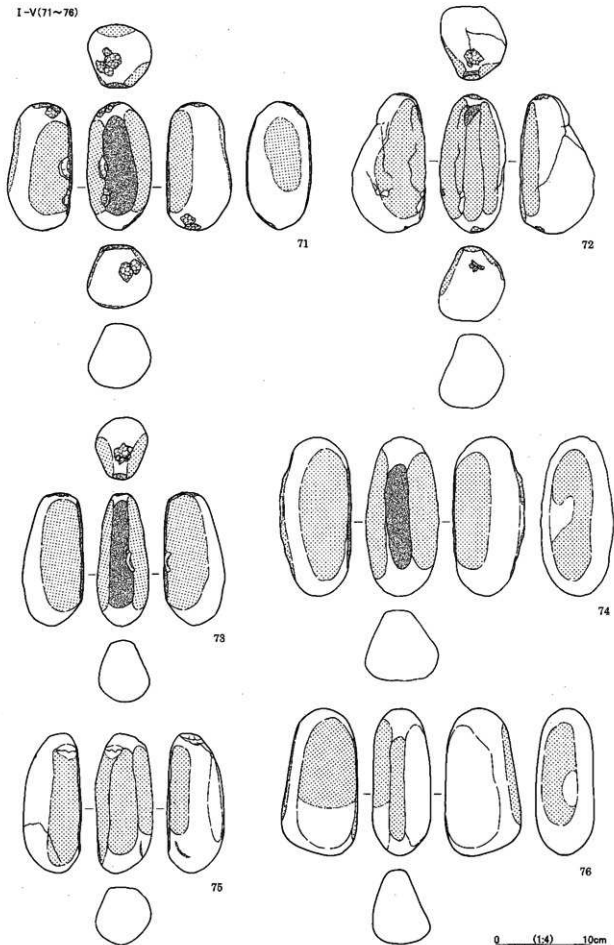
I-V(64~70)



0 (1:4) 10cm

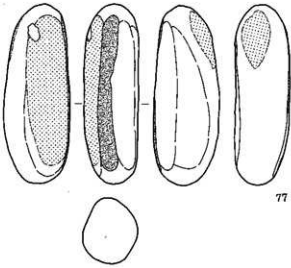
第170図 特殊磨石その12

I-V(71~76)

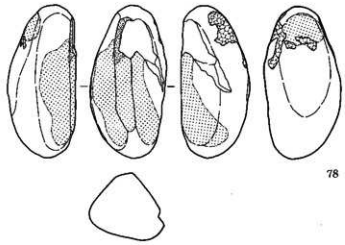


第171図 特殊磨石その13

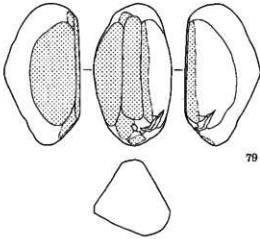
I-V(77~82)



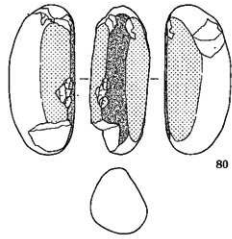
77



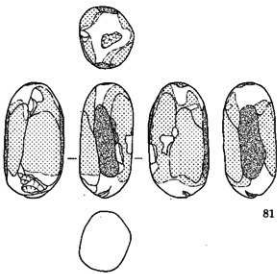
78



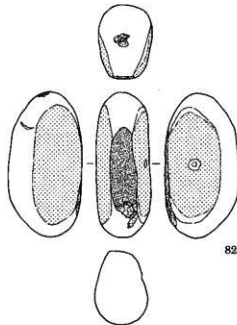
79



80



81



82

0 (1:4) 10cm

第172図 特殊磨石その14